

平成 29 事業年度 業務実績報告書

第 15 期（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）

平成 30 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

平成 29 事業年度業務実績報告書

目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
伝統芸能の公開	16
現代舞台芸術の公演	72
青少年等を対象とした公演	91
快適な観劇環境の形成	104
広報・営業活動の充実	121
劇場施設の使用効率の向上等	136
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
伝統芸能の伝承者の養成	140
現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	153
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	161
現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	179
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	189
III 財務内容の改善に関する事項	204
IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項	208

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

文化芸術活動に対する援助

文化芸術活動に対する援助 p.1

- 助成金の交付 p.3
- 助成に関する情報等の収集・提供 p.12
- 基金の管理運用 p.14

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成金の交付

イ 助成金交付事務の効率化等

- ①審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ②助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③助成対象活動の実施状況の調査
- ④助成対象分野の現状等の調査
- ⑤地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

エ 多様な資金の確保

オ プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等を活用した新たな審査・評価の仕組みについて随時検証

文化庁と連携して国際芸術交流支援事業の一元化を含む芸術文化振興のための助成事業の在り方を検討

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動に関する情報収集

データベース化やホームページを通じた提供等の推進、内容の充実化

ホームページのアクセス件数について前中期目標期間実績以上

《年度計画の概要》

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対して助成金を交付

①芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動

(a)芸術文化振興基金による助成

- i. 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動
- ii. 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動
- iii. 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

(b)文化芸術振興費補助金による助成

- i. 我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動
- ii. 優れた日本映画の製作活動

②文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの

(a)文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動

(b)伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

上記に加え、地域の劇場・音楽堂等の活性化と水準向上を図る助成事業について、助成対象活動の募集、審査及び交付内定等の手続きを推進

③その他、文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

(a)アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

(b)文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 助成金交付事務の効率化等

①基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表

②専門委員及び専門調査員並びにPD・PO等による公演等調査を実施

補助金による助成対象活動のうち、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について調査結果を踏まえて事後評価を実施、評価結果を次年度の助成対象活動採択のための審査等に活用

・公演等調査:500件以上(助成対象活動数)

③職員による会計調査を実施、助成対象団体との意見交換を実施

・会計調査:90件以上(団体数)

④助成対象分野の現状等について調査分析、助成によって生じた定性的・定量的な波及効果等について調査研究を実施、その成果をホームページに掲載

⑤地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付に係る業務等の効率化のため地方公共団体と連携・協力

⑥応募書類の電子データによる受付の実施について引き続き検討

・基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間:35日以下

ウ 基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、資金内容及び経済情勢の把握に努め、資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施

エ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知、基金の受入拡充

オ PD・PO等を活用した審査・評価等の仕組みについて、文化庁と連携し、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討

事後評価について、助成対象団体に評価結果を書面で通知する。

芸術文化振興のための助成事業の在り方に関して、地域の劇場・音楽堂等の活性化と水準向上を図る助成事業について文化庁と連携しつつ、具体的な制度について検討し構築

カ 芸術文化復興支援基金による助成事業について、助成対象活動の実施状況とその活動成果のフォローアップを実施

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集、ホームページ等を通じて提供

・基金ホームページ目標アクセス件数:140,000件

イ 振興会が実施する文化芸術活動に対する助成事業について、ホームページでの情報提供を充実、助成対象活動の事例集を作成・配布するとともにホームページに掲載

ウ 助成対象活動の募集に当たり、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布

エ 応募相談会を、東京及び大阪のほか、各地域の主要都市で開催

1-(1) 助成金の交付

《主要な業務実績》

1. 助成金の交付

- 基金による助成金：交付件数 694 件、助成金交付額 1,007,358 千円
補助金による助成金：交付件数 314 件、助成金交付額 3,561,931 千円

2. 助成金交付事務の効率化等

- 基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準を事前公表
- 年度により審査基準の解釈に大きなずれを生じないようにするため、審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」に一部修正を加え、引き続き審査に活用
- 助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、審査基準に基づくより客観的な審査を行うため、引き続き審査基準ごとに評価する方式で行ったことに加えて、活動全体に対する総合的な評価をしやすいようにするため、採択の可否に関する項目を新設
- 「舞台芸術創造活動活性化事業」のうち音楽分野(オーケストラ及びオペラ)・年間活動支援の助成対象団体に適用される「入場料収入連動型」助成について、助成金算定の際に入場料収入に乗じる「係数」の具体的な数値について検討し、専門委員会に対して情報提供を実施
- 公演等調査 530 件(助成対象活動数。延べ調査回数は 1,247 回。不採択その他の活動の調査を含めると 547 件、延べ 1,264 回)、会計調査 92 件(団体数)を実施
- 「舞台芸術創造活動活性化事業」の 28 年度のすべての助成対象活動について、芸術文化振興基金運営委員会(以下、「運営委員会」という。)による事後評価を実施し、事後評価の結果通知については、助成対象団体に正確かつ確実に伝達し、評価結果を踏まえた活動の企画立案や運営の改善等を促進するため、従来の口頭による伝達から書面による通知に変更
- PD・PO が助成対象団体との間で助成対象活動や団体の運営に対する助言や意見交換を行うとともに、助成対象分野の状況を把握
- 文化庁から振興会に移管された「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」(旧「劇場・音楽堂等活性化事業」)について、①劇場・音楽堂等におけるミッションの確認(再設定)、②トップレベルの劇場・音楽堂等に対する助成スキームの変更、③バリアフリー・多言語対応に対する助成スキームの新設、④事後評価システムの導入等、事業内容の見直しを図った上で、募集・審査・採択等を実施
- 「映画製作への支援」事業について、平成 30 年度募集に係る劇映画(特別、A)、記録映画(特別)、アニメーション映画(長編)の助成対象活動において、2 か年度にわたる助成制度を導入したほか、劇映画(B)の助成対象活動において、新たに 500 万円の助成枠を設定
- 「国内映画祭等の活動」について、「国内映画祭」の活動区分を助成対象経費が 1,000 万円以上を「映画祭 A」、1,000 万円未満を「映画祭 B」に分けて募集を実施

《業務実績詳細》

<1> 助成金の交付

1. 29年度助成金の交付実績

(1) 基金による助成金

助成対象分野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	299	527,144
	音楽	(63)	(157,647)
	舞踊	(43)	(57,060)
	演劇	(193)	(312,437)
	伝統芸能の公開活動	30	50,312
	美術の創造普及活動	7	14,088
	多分野共同等芸術創造活動	20	16,737
小計		356	608,281

映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	39	83,459
	国内映画祭	(29)	(76,462)
	日本映画上映活動	(10)	(6,997)
	小 計	39	83,459
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	172	210,610
	文化会館公演	(101)	(101,947)
	美術館等展示	(71)	(108,663)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	7	5,871
	民俗文化財の保存活用活動	14	8,530
小 計	193	225,011	
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	96	73,111
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	10	17,496
	小 計	106	90,607
合 計	694	1,007,358	

(2) 補助金による助成金

助 成 対 象 分 野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	音 楽	109	1,728,364
	舞 踊	37	559,063
	演 劇	96	699,014
	伝統芸能	25	77,371
	大衆芸能	8	130,637
	小 計	275	3,194,449
映画製作への支援	劇映画	17	257,900
	記録映画	15	59,582
	アニメーション映画	7	50,000
	小 計	39	367,482
合 計	314	3,561,931	

2. 30年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

(1) 審査の実施

- ・ 運営委員会、4部会及び14専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

① 運営委員会

第45回：9月15日、第46回：1月26日、第47回：3月23日

② 舞台芸術等部会(1回開催・3月)

- ・ 音楽専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・ 舞踊専門委員会(2回開催・12月、1月)
- ・ 演劇専門委員会(3回開催・12月、2月(第1分科会1回、第2分科会1回))
- ・ 伝統芸能・大衆芸能専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・ 美術専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・ 多分野共同等専門委員会(2回開催・12月、2月)

③ 映像芸術部会(2回開催・8月、3月)

- ・ 劇映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・ 記録映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・ アニメーション映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・ 映画祭等専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)

- ④ 地域文化・文化団体活動部会(1回開催・3月)
 - ・文化施設公演活動等専門委員会(3回開催・12月、2月(第2分科会1回)、3月(第1分科会1回))
 - ・文化施設展示活動専門委員会(2回開催・12月、2月)
 - ・文化団体活動専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ⑤ 文化財部会(1回開催・3月)
 - ・文化財保存活用専門委員会(2回開催・12月、2月)

○審査経過概要

9月15日	第45回運営委員会において、30年度の助成対象活動募集案内の内容等を了承。
12月上旬～12月中旬	各専門委員会において、書面審査及び合議審査に先立ち、専門委員会における審査の方法等について、審議・決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月26日	第46回運営委員会において、応募状況についての報告を行うとともに、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～3月上旬	各専門委員会において、書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3月上旬～3月中旬	各部会において助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月23日	第47回運営委員会において、助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

(2) 助成スキームの見直し

- ・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」(旧「劇場・音楽堂等活性化事業」)については、文化庁からの事業移管に伴い、事業内容を主に以下のとおり見直した上で、平成30年度助成対象活動の募集を行った。
 - ①劇場・音楽堂等におけるミッションの確認(再設定)[劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業]

助成対象とする事業計画の立案に当たっては、各劇場・音楽堂等に対し、自らの社会的役割(ミッション)の確認(必要に応じて再設定)と、それに基づくトップレベルの劇場・音楽堂等としての高い目標の設定(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)又は地域の中核劇場・音楽堂等としての目標の設定(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)を求めるよう見直し。
 - ②トップレベルの劇場・音楽堂等に対する助成スキームの変更[劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業]

我が国トップレベルの劇場・音楽堂等について、年間の活動(公演事業、人材養成、普及啓発)に対し総合的に助成するスキーム(旧「劇場・音楽堂等活性化事業(特別支援事業)」)から、我が国の実演芸術の水準向上、並びに地域コミュニティの創造及び再生をはじめとする様々な社会的課題の解決を目指す、戦略的な事業計画(5年間)に対し助成するスキームへ転換。
 - ③バリアフリー・多言語対応に対する助成スキームの新設[劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業、共同制作支援事業]

劇場・音楽堂等におけるバリアフリー・多言語対応の取組に対して、公演事業等の活動とは別枠で定額助成を行う制度を新設。
 - ④事後評価システムの導入[劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業、共同制作支援事業]

各劇場・音楽堂等による自己点検、現地調査等の結果を踏まえ、評価を行う事後評価の仕組みを導入。経営基盤を含む持続的な組織活動の観点から、OECD開発援助委員会で提唱された国際的評価基準を踏まえた事前評価(採択審査)項目(4～5項目)を設定し、事後評価もそれらを踏まえて実施。
- ・「映画製作への支援」事業については、映画製作には複数年を要することから、平成30年度募集に係る劇映画(特別、A)、記録映画(特別)、アニメーション映画(長編)の助成対象分野において、2か年度にわたる助成制度を導入した。また、劇映画(B)の助成対象分野において、新進映画作家の育成等の支援に対応するため、500万円の助成枠を新設した。
- ・基金による助成金「国内映画祭等の活動」について、予算規模の大きい国際映画祭と予算規模の小

さい地域の映画祭を精緻に審査する観点から、「国内映画祭」の活動区分を「映画祭 A」（助成対象経費が1,000万円以上）と「映画祭 B」（助成対象経費が1,000万円未満）に分けて募集を実施した。

3. 30年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- 30年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、HP等において30年3月30日付けで公表した。助成対象分野別の応募件数、採択件数及び助成金交付予定額については以下のとおり。

(1) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	546	264	504,703
	音楽	(115)	(61)	(152,208)
	舞踊	(89)	(38)	(59,467)
	演劇	(342)	(165)	(293,028)
	伝統芸能の公開活動	64	28	47,797
	美術の創造普及活動	16	8	9,587
	多分野共同等芸術創造活動	54	15	19,371
	国内映画祭等の活動(※)	42	24	49,029
小計		722	339	630,487
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	280	161	217,951
	文化会館公演	(145)	(90)	(101,724)
	美術館等展示	(135)	(71)	(116,227)
	歴史的集落・町並み、文化的 景観保存活用活動	8	8	5,797
	民俗文化財の保存活用活動	19	18	15,458
	小計	307	187	239,206
文化振興普及団体 活動	アマチュア等の文化団体活動	157	97	75,217
	伝統工芸技術・文化財保存技 術の保存伝承等活動	12	8	17,228
	小計	169	105	92,445
合計		1,198	631	962,138

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(2) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	音楽	136	111	1,792,398
	舞踊	38	35	557,809
	演劇	161	90	706,393
	伝統芸能	32	29	80,133
	大衆芸能	13	12	131,533
	小計	380	277	3,268,266
劇場・音楽堂等 機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合 支援事業	19	16	900,000
	地域の中核劇場・音楽堂等活 性化事業	303	202	1,348,292
	共同制作支援事業	3	3	143,000
	劇場・音楽堂等間ネットワ ーク強化事業	66	46	325,000
	小計	391	267	2,716,292

映画製作への支援 (※)	劇映画	34	8	107,300
	記録映画	14	4	20,400
	アニメーション映画	8	5	7,370
	小 計	56	17	135,070
合 計		827	561	6,119,628

※映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

<2> 助成金交付事務の効率化等

1. 審査に関する基準の策定と公表

- ・ 30年度助成対象活動の募集に先立ち、基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準をHP等で事前公表した。

2. 助成対象活動の調査及び評価

(1) 助成対象活動に対する調査

区 分	実 績
公演等調査 (助成対象活動数)	530 件 (延べ調査回数 1,247 回) (目標：500 件以上) ※不採択その他の活動の調査を含めると 547 件、延べ 1,264 回
会計調査 (団体数)	92 件 (助成対象活動数 284 活動) (目標：90 件以上)

- ・ 助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO 及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施した。特に「舞台芸術創造活動活性化事業」においては、29 年度のすべての助成対象活動について調査を実施した。
- ・ 助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため、職員による会計調査を実施した。
- ・ PD・PO が助成対象団体との間で助成対象活動や団体の運営に対する助言や意見交換を行うとともに、助成対象分野の状況の把握を行った。

(2) 専門委員会に対する情報提供

- ・ 30 年度助成対象活動の採択に係る審査において、PD・PO から専門委員会に対し、助成対象活動に対する調査を踏まえた情報提供を行った。

(3) 助成対象活動に対する評価

- ・ 「舞台芸術創造活動活性化事業」の28年度のすべての助成対象活動について、運営委員会、舞台芸術等部会及び4専門委員会において、以下のとおり事後評価を実施した。

① 運営委員会

第45回：9月15日

② 舞台芸術等部会(1回開催・8月)

- ・ 音楽専門委員会(2回開催・5月、6月)
- ・ 舞踊専門委員会(2回開催・5月)
- ・ 演劇専門委員会(2回開催・5月、6月)
- ・ 伝統芸能・大衆芸能専門委員会(2回開催・5月、6月)

○ 審議等経過概要

5月上旬～中旬	各専門委員会において、事後評価の方法及び評価基準等について審議・決定。PD・POにおいて、評価コメントの素案を作成。
5月中旬～6月中旬	各専門委員において、評価コメントの素案等により書面評価を実施。

5月下旬～6月下旬	各専門委員会において、評価コメントの素案を基に合議により評価を実施。
8月2日	舞台芸術等部会において、各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月15日	第45回運営委員会において、事後評価の結果を報告。

- ・ 評価の結果通知については、助成対象団体に正確かつ確実に伝達し、評価結果を踏まえた活動の企画立案や運営の改善等を促進するため、従来の口頭による伝達から書面による通知に変更した。また、団体の活動や運営に関する団体とPD・POとの意見交換を実施し、必要に応じて助言を行った。
- ・ 専門委員会に対して事後評価結果に関する情報提供を行い、30年度の助成対象活動の採択に係る審査に活用した。

3. 芸術文化活動に対する助成に関する調査分析

(1) 助成事業全般に共通する調査

- ・ 効果的な助成事業の在り方について検討するため、「文化芸術活動への助成による波及効果に関する調査研究」を行い、国内外の先例文献等の調査や、行われてきた助成制度の整理、助成団体からの実績報告書の分析、有識者へのヒアリング等により、助成による波及効果の仮説の導出、アンケート・ヒアリング項目の設計構築及び調査手法の設計を進めた。
- ・ 助成システムの充実及び文化政策の企画・立案に資するため、「イングランド及びスコットランドにおける文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査」を開始し、アーツカウンシル・イングランド、クリエイティブ・スコットランド等に関する既存の文献等の調査、翻訳及び分析を進めるとともに、関係者に対するヒアリング調査を行う上での重点項目を整理した。
- ・ 国による舞台芸術に係る主な公的助成の普及状況を把握し、鑑賞機会の充実の有効な助成の在り方を検討するため、助成を受けた活動の件数・実施場所・分野等について、25～27年度のデータの検証・分析を行い、報告書を取りまとめた。
- ・ 鑑賞者の動向と公的助成金の相関関係を把握するため、四分野(音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能)においては、公的助成事業の鑑賞者の動向に関する調査を行い、鑑賞者の伸長度について分析し、24～27年度の分析結果における報告書を取りまとめた。
また、演劇分野においては、28年度に実施したアンケート調査を集計・分析し、報告書を取りまとめた。
- ・ 専門委員会による審査や、「舞台芸術創造活動活性化事業」の事後評価に係る助成団体とのヒアリングの際の基礎データ等として活用するため、助成対象団体の助成金交付要望書・実績報告書等に記載の公演内容、収入・支出その他関連データのデータベース化を進めた。
- ・ 30年度の助成対象活動の応募団体に対し、文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート調査を実施した。

(2) 特定の分野に関する調査

- ・ 「美術の創造普及活動」における効果的な支援方法を検討するため、主な美術の創造普及活動の主催団体を対象としたアンケート調査の結果を分析するとともに、美術団体等の関係者にヒアリングを行い、問題点・課題や、改善に向けた意見等を抽出し、有識者による検討を経た上で、「美術の創造普及活動」の助成制度の在り方に関する提案について、報告書を取りまとめた。
- ・ メディア芸術分野に関する効果的な助成制度を検討するため、インターネットや文献等を通じて国内外の催事等の調査や、関係者へのヒアリングを行った。

4. 地方公共団体との協力

- ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成業務に関し、都道府県・指定都市担当者向けの説明会を7月に東京で1回実施した。

5. 事務手続きの簡素化・合理化

- ・ 助成金の交付申請書受理から交付決定までの期間の短縮

区 分	実 績	目 標
基金による助成金	21.7 日	35 日
補助金による助成金	21.8 日	35 日
全 体	21.8 日	35 日

6. PD・PO等を活用した新たな審査・評価の仕組みの構築

PD・POの意見を踏まえ、以下の取組を行った。

- ・ 助成対象活動に対する事後評価を行うに当たり、28年度に引き続き、PD・POが評価コメントの素案を作成し、当該素案を基に専門委員会においてコメント案を審議した。
- ・ 28年度助成対象団体に対する事後評価の結果通知について、従来の口頭による伝達から、書面による通知に変更することにより、評価結果を正確かつ確実に伝達して評価結果を踏まえた活動の企画立案や運営の改善等の促進を図った。
- ・ 募集案内について、応募する芸術団体が読みやすく、かつ理解しやすいように、様式や記入要領の見直しなどの改善を図った。特に、「舞台芸術創造活動活性化事業」の募集案内においては、団体が記入すべき内容が明確になるよう様式の見直しを行った。
- ・ 年度により審査基準の解釈に大きなずれを生じないようにするため、審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」に一部修正を加え、引き続き審査に活用した。
- ・ 「舞台芸術創造活動活性化事業」のうち音楽分野(オーケストラ及びオペラ)・年間活動支援の助成対象団体に適用される「入場料収入連動型」助成について、助成金算定の際に入場料収入に乗じる「係数」の具体的な数値について検討し、専門委員会に対して情報提供を行った。
- ・ 助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、審査基準に基づくより客観的な審査を行うため、引き続き審査基準ごとに評価する方式で行ったことに加えて、活動全体に対する総合的な評価をしやすいするため、採択の可否に関する項目を新たに設け、改善を図った。
- ・ 「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、文化庁からの事業移管に伴う事業内容の見直しに際し、以下のとおり、事後評価システムの導入を図った。

①劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業

目標・指標を設定した事業計画(5年間)に対して、事前評価として採択審査を行うとともに、劇場・音楽堂等による自己点検や現地調査等を踏まえて、進捗確認を行うための中間評価(2年目)、最終年度評価(5年目)を段階的に行う。事業終了後には、劇場・音楽堂等からの成果報告書を基にして事後評価を行い、評価結果を公表する。

②地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業

目標・指標を設定した事業に対して、事前評価として採択審査を行うとともに、劇場・音楽堂等による自己点検や現地調査等を踏まえて事業の効果検証を行う。事業終了後には、劇場・音楽堂等からの成果報告書を基にして事後評価(PD・POとの意見交換)を行う。

③共同制作支援事業

目標・指標を設定した事業に対して、事前評価として採択審査を行うとともに、劇場・音楽堂等による自己点検や公演調査等を踏まえて事業の効果検証を行う。事業終了後には、劇場・音楽堂等からの成果報告書を基にして事後評価を行い、評価結果を公表する。

7. 芸術文化振興のための助成事業の在り方に関する検討

第3期中期計画に基づき、文化庁と連携して芸術文化振興のための助成事業の在り方について検討し、以下のとおり、28年度に移管が決定した「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」の事業内容の見直しや募集・審査・採択等を実施するとともに、新たに「国際芸術交流支援事業」の移管を決定し、その準備に着手した。

(1) 「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」の事業内容の見直し等

「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」について、「<1>2. (2)助成スキームの見直し」に記載のとおり、文化庁からの事業の移管に伴い、①劇場・音楽堂等におけるミッションの確認(再設定)、②トップレベルの劇場・音楽堂等に対する助成スキームの変更、③バリアフリー・多言語対応に対する助成スキームの新設、④事後評価システムの導入等、事業内容の見直しを図った上で、募集・審査・採択等を実施した。

(2) 「国際芸術交流支援事業」の移管

31年度の募集・審査から振興会が事務事業を実施することが29年7月に決定し、9月には運営委員会へ報告を行った。さらに、30年度予算には、本事業の移管に伴う経費が運営費交付金に計上され、31年度助成対象活動の募集・審査・採択に向けて、文化庁と連携しつつ、その準備に着手した。

《数値目標の達成状況》

【公演等調査及び会計調査の実施状況】

公演等調査：実績530件／目標500件以上(達成度106.0%)

会計調査：実績92件／目標90件以上(達成度102.2%)

【交付決定に係る期間の効率化の達成状況】 実績21.8日／目標35日以下(達成度160.6%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 公演等調査の件数、会計調査の件数及び交付決定に係る期間については計画を上回り、数値目標を達成できた。
- ・ 基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準の事前公表、「舞台芸術創造活動活性化事業」の29年度の全助成対象活動に対する公演調査及び28年度の全助成対象活動に対する事後評価の実施、新たなテーマの調査研究の実施等、積極的な取組を行った。
- ・ 「舞台芸術創造活動活性化事業」の事後評価の結果については、従来の口頭による伝達から、評価結果を正確かつ確実に伝達して評価結果を踏まえた活動の企画立案や運営の改善等を促進するため、書面で通知した。
- ・ 芸術文化振興のための助成事業の在り方については、文化庁と協議を行い、振興会で実施している助成事業との一体的な運用の観点から文化庁「国際芸術交流支援事業」の移管が決定し、準備に着手した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 基金及び補助金による助成の全分野について審査基準を事前公表し、助成対象活動の採択に係る審査の透明性を向上させることができた。
- ・ 審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」に一部修正を加えた上で審査に活用し、年度による審査基準の解釈のずれを防止した。
- ・ 助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、審査基準に基づくより客観的な審査を行うため、引き続き審査基準ごとに評価する方式で行ったことに加えて、活動全体に対する総合的な評価をしやすいするため、採択の可否に関する項目を新たに設け、改善を図った。
- ・ 文化芸術活動に対する助成に関する調査研究を開始・継続することにより、適切で効果的な助成事業を検討する基礎資料とすることができた。
- ・ 芸術文化振興のための助成事業の在り方については、文化庁との連携・協力のもと、文化庁「国際芸術交流支援事業」の移管を決定したことにより、移管事業の実施に必要な予算の確保等の具体的な準備を進めることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 事後評価については、30年度助成対象活動から、「舞台芸術創造活動活性化事業」に加えて「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」においても実施することとなるため、助成対象活動に対する調査を効率的・効果的に実施するとともに、一層、有効で適切な事後評価について検討を進める。また、助成事業の成果に係る国民全体に対する説明責任を果たすため、助成対象活動の評価結果の公表について検討を進める。
- ・ 30年度助成対象活動の審査に際し、運営委員会から提議された助成スキームや募集案内、審査の在り方等に係る改善要望事項等については、検討の上、必要に応じて見直しを行う。
- ・ 調査分析については、助成事業への有効な活用に加え、政策提言機能も強化できるよう、適宜内容を

見直すとともに、新たな調査研究テーマの検討も必要である。また、実施する調査研究の連携や相乗効果に十分配慮するなど、中期的な調査研究を立案・実行する人員体制(調査分析 PD・PO の配置)の強化にも取り組む必要がある。

1-(2) 助成に関する情報等の収集・提供

《主要な業務実績》

1. ホームページの利便性の向上

- ・ 29年度アクセス件数：215,064件(目標140,000件)

2. 助成事業の周知

- ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能(専門的な助言、審査、事後評価及び調査研究等)強化についてHPで紹介するとともに、広報用のリーフレットを配布
- ・ パンフレット、ポスター、チラシ等により事業を周知
- ・ 助成対象活動の事例集を作成

3. 助成対象活動の募集

- ・ 助成事業の内容や応募手続について説明する動画をHP上で公開
- ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト、検索エンジン等のHPにおいて、助成対象活動募集のバナー広告を掲載(9月下旬～10月下旬)

4. 助成事業に関する応募相談会等の開催

- ・ 団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を全国4会場で実施した。映画製作への支援については、平成30年度に助成システムが大きく変更になることから、「応募説明会」を東京及び大阪で実施した。
- ・ 採択団体の事務手続を円滑に進めるための「事務手続個別相談会」を全国2会場で実施

《業務実績詳細》

1. ホームページの利便性の向上

- ・ 29年度アクセス件数：215,064件(目標140,000件)
- ・ 助成事業の内容等が分かりやすく伝わるよう、記述内容について随時見直しを行った。

2. 助成事業の周知

- ・ 基金の概要を紹介したパンフレットを配布した。
- ・ 助成事業に関する次のポスター・チラシを作成・配布した。
 - ・ 助成団体に活動時に配布・掲示してもらう広報用ポスター、チラシ(基金によるすべての助成対象団体に配布依頼を行い、ポスター541枚、チラシ237,270枚を配布)
 - ・ 芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレット
 - ・ 地域の文化振興等の活動の助成事業を紹介するリーフレット
- ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関するリーフレットを作成、配布した。
- ・ 助成対象活動の事例集を作成し、HP上でも公開した。
- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した(毎月)。

3. 助成対象活動の募集

- ・ 30年度助成対象活動の募集に関する特設ページを開設するとともに、募集案内や助成金交付要望書の書式等をダウンロードできるように、常設のHP上に掲載した。
- ・ 助成対象活動の募集に当たり、場所や時間を問わず芸術団体等が基本的な情報を得られるよう、助成事業や応募手続について説明した動画を作成し、HP上で公開した。
- ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト等において、30年度助成対象活動募集のバナー広告を掲載した(9月下旬～10月下旬)。
- ・ 30年度助成対象活動の募集に関するチラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、地域文化施設(文化会館、美術館、博物館等)等3,270か所に送付し、広報協力を依頼した。
- ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成について、関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を行うとともに、都道府県、政令指定都市及びその他の市町村にも募集案内を送付した。

4. 助成事業に関する応募相談会等の開催

- ・ 助成事業の基本的な事項はHP上の動画により解説することとし、具体的な要望書の作成方法や提出資料の内容等、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を10月に全国4会場(東京、大阪、福岡、愛知)で開催した(参加団体201団体)。映画製作への支援については、平成30年度に助成システムが大きく変更になることから、より多くの団体に周知するため、10月に「応募説明会」を全国2会場(東京、大阪)で実施した(参加団体60団体)。
- ・ 具体的な申請書の作成方法や活動の実施に向けた留意点等に関し、採択後の手続を円滑に進めるための「事務手続個別相談会」を4～5月にかけて全国2会場(東京、大阪)で開催した(参加団体38団体)。
- ・ 文化庁から移管される「劇場・音楽堂等機能強化推進事業(旧 劇場・音楽堂等活性化事業)」の応募手続を円滑に進めるため、11月に東京において「劇場・音楽堂等担当者説明会」を開催した(参加者数323人)。

《数値目標の達成状況》

【芸術文化振興基金ホームページへのアクセス件数】実績215,064件／目標140,000件(達成度153.6%)

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 事業の周知に広く取り組んだほか、ホームページへのアクセス件数については数値目標を大きく上回る実績を達成できた。
- ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関し、HP及びリーフレットにより、積極的に周知を図った。
- ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を公開し、基本的な情報を容易に得られる環境を提供した。さらに、応募相談会等を実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。
- ・ 文化庁事業「劇場・音楽堂等機能強化推進事業(旧 劇場・音楽堂等活性化事業)」の募集に当たり「劇場・音楽堂等担当者説明会」を開催することにより、応募団体の問合せ等にきめ細かく対応することができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について周知を図ることにより、文化芸術への公的支援に関する考え方の変化を文化芸術団体に理解してもらい、意識改革を促すことができた。
- ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を公開することにより、場所や時間を問わず文化芸術団体に基本的な情報を提供することができた。
- ・ 応募相談会を多くの会場で実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。また、具体的な申請書の作成方法や活動の実施に向けた留意点等に関し、採択後の手続を円滑に進めるための事務手続個別相談会を実施した。
- ・ 文化庁事業「劇場・音楽堂等機能強化推進事業(旧 劇場・音楽堂等活性化事業)」の円滑な移管に向け、関係者に混乱を来すことなく、必要な対応を図ることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 30年度には「国際芸術交流支援事業」が文化庁から移管され、当振興会がその募集・審査を実施することとなるため、文化庁とも連携の上、同事業の助成を希望する団体、その他関係者に混乱を来すことがないよう、当該事業に関し適切な情報発信を行うほか、既存の助成事業その他関連の情報についてもさらに情報提供の充実に努める必要がある。

1-(3) 基金の管理運用

《主要な業務実績》

1. 基金の管理運用

- ・ 基金運用益：1,129,343千円、利回り 1.64%

2. 資金の受入拡充

- ・ 基金への寄附：29年度実績9件809,146,679円
(28年度実績600,438,000円、208,708,679円の増)

《業務実績詳細》

<1> 基金の管理運用

- (1) 運用益 1,129,343千円
- (2) 利回り 1.64%

- ・ 基金の管理運用については、安全性を重視するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金の状況及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・ 20年4月に設置した資金管理委員会において、運用の基本的考え方を定めるとともに金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

<2> 資金の受入拡充

1. 資金の受入拡充

- (1) 寄附先への感謝状の贈呈並びにHP等での広報
 - ・ 原則10万円を超える寄附者(団体)については、通常の礼状に加え感謝状を贈呈したほか、承諾を得た寄附者(団体)については、寄附者(団体)名をHPで広報するなどの顕彰により、寄附金の増額に向けて取り組んだ。
 - ・ 基金への寄附：9件809,146,679円
(賛助会員1件5,000円含む)
(28年度実績600,438,000円、208,708,679円の増)
- (2) 「芸術文化復興基金賛助会制度」「社会貢献信託制度」による寄附受入
 - ・ 「芸術文化復興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄附受入に向け広報活動を行った。
 - ・ 三井住友信託銀行の「社会貢献寄付信託」の文化芸術分野の寄附先として、寄附受入に向け関係金融機関と連携し広報活動を行った。

2. 芸術文化復興支援基金による助成

- ・ 平成28年度に助成金を交付した「公益財団法人岩手県文化復興事業団」、「公益財団法人宮城県文化復興財団」及び「特定非営利活動法人民俗芸能を継承するふくしまの会」に対して、同基金の残額(1,156千円)を29年度に3団体へ均等に追加配分した。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 基金への寄附の受入拡充及び広報等の取組を実施した。
- ・ 芸術文化復興支援基金については、岩手県、宮城県及び福島県の3団体に対し助成金の残額を均等に追加配分し、文化芸術による復興支援に寄与した。

○ **良かった点・特色ある点**

- ・ 基金の原資が増えたことにより、今後の助成の充実に繋げることができた。
- ・ 芸術文化復興支援基金については、「公益財団法人岩手県文化振興事業団」、「公益財団法人宮城県文化振興財団」及び「特定非営利活動法人民俗芸能を継承するふくしまの会」の3団体に対し助成金の残額を均等に追加配分したことにより、助成対象活動の充実に寄与することができた。

○ **見直し又は改善を要する点**

- ・ 基金の管理運用については、安定性・安全性を重視しつつ有利な運用に努めているところであるが、引き続き金利が低い局面が常態化していることから、今後も資金の受入拡充等に努力しつつ、基金運用収入の長期的な見込みに基づいた最適な助成事業の在り方について検討を進める必要がある。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

伝統芸能の公開

伝統芸能の公開 p.16

- 歌舞伎 p.18
- 文楽 p.23
- 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか p.29
 - 舞踊 p.32
 - 邦楽 p.33
 - 雅楽 p.34
 - 声明 p.35
 - 民俗芸能 p.36
 - 琉球芸能 p.36
 - 特別企画 p.37
- 大衆芸能 p.39
 - 定席公演（上席・中席） p.43
 - 若手新人公演（花形演芸会） p.44
 - 新春国立名人会／国立名人会 p.45
 - 特別企画公演 p.46
 - 浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会 p.47
- 能楽 p.49
 - 定例公演 p.52
 - 普及公演 p.53
 - 企画公演 p.54
- 組踊等沖縄伝統芸能 p.56
- 演目の拡充 p.62

伝統芸能の公開に際しての留意事項等 p.66

2-1(1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて古典伝承のままの姿で公開

- ア 歌舞伎公演 筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間 7 公演程度
- イ 文楽公演 「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態で上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間 10 公演程度
- ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演 質の高い芸芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性が高い公演等の実施、年間 21 公演程度
- エ 大衆芸能公演 寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施、年間 64 公演程度
- オ 能楽公演 伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施、年間 51 公演程度
- カ 組踊等沖縄伝統芸能公演 上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施、年間 30 公演程度

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項等

- ア 適切な鑑賞者数の目標設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

- ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施
- イ 演目の拡充
 - ①(歌舞伎)未翻刻作品の翻刻を含めた 2 作品の補綴を行い、上演用準備台本を作成
「国立劇場文芸研究会」における上演候補台本準備稿の作成作業
歌舞伎の新作脚本募集要項の見直し、周知及び応募受付
 - ②(文楽)新作の上演に向けて上演台本作成作業を実施
廃絶演目の復曲作業及び上演に向けた準備作業
 - ③(大衆芸能)「浪曲」の新作脚本募集要項の見直し、応募受付、選考及び表彰
 - ④(能楽)新作狂言の委嘱制作による上演
国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演
 - ⑤(組踊等沖縄伝統芸能)上演機会が少ない優れた演目の上演
古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

- ア 外部専門家等の意見の聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施
- イ 我が国における伝統芸能の保存振興の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施
 - ①共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施

2-(1)-① 伝統芸能の公開

《業務実績詳細》

1. 公演実績

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	7 公演 本館大劇場	実績	213 回	166 日	237,125 人	(73.2%)	323,760 人
		計画	212 回	167 日	224,000 人	(69.5%)	322,240 人
文楽	10 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	372 回	176 日	182,074 人	(74.6%)	244,008 人
		計画	372 回	176 日	174,770 人	(71.3%)	245,088 人
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	22 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	33 回	23 日	17,836 人	(81.3%)	21,950 人
		計画	32 回	23 日	15,635 人	(73.6%)	21,232 人
舞踊	5 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	8 回	5 日	4,287 人	(74.5%)	5,756 人
		計画	8 回	5 日	3,970 人	(70.6%)	5,620 人
邦楽	6 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	7 回	7 日	3,615 人	(84.2%)	4,293 人
		計画	7 回	7 日	3,230 人	(75.2%)	4,293 人
雅楽	2 公演 本館小劇場	実績	3 回	2 日	1,685 人	(95.2%)	1,770 人
		計画	2 回	2 日	945 人	(80.1%)	1,180 人
声明	1 公演 本館大劇場	実績	1 回	1 日	1,394 人	(86.6%)	1,610 人
		計画	1 回	1 日	1,270 人	(86.6%)	1,466 人
民俗芸能	2 公演 本館小劇場	実績	4 回	2 日	2,198 人	(93.1%)	2,360 人
		計画	4 回	2 日	1,710 人	(72.5%)	2,360 人
琉球芸能	1 公演 文楽劇場	実績	2 回	1 日	1,272 人	(93.9%)	1,354 人
		計画	2 回	1 日	1,000 人	(66.4%)	1,506 人
特別企画	5 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	8 回	5 日	3,385 人	(70.4%)	4,807 人
		計画	8 回	5 日	3,510 人	(73.0%)	4,807 人
大衆芸能	64 公演 演芸場、文楽劇場、文楽劇場 小ホール	実績	313 回	288 日	58,441 人	(64.4%)	90,687 人
		計画	313 回	288 日	53,330 人	(58.8%)	90,687 人
能楽	51 公演 能楽堂	実績	66 回	57 日	41,030 人	(99.1%)	41,382 人
		計画	66 回	57 日	38,980 人	(94.2%)	41,382 人
小計	154 公演	実績	997 回	710 日	536,506 人	(74.3%)	721,787 人
		計画	995 回	711 日	506,715 人	(70.3%)	720,629 人
組踊等沖縄伝統芸能	30 公演 国立劇場おきなわ大小劇場	実績	40 回	37 日	16,771 人	(72.3%)	23,193 人
		計画	40 回	37 日	16,175 人	(69.8%)	23,166 人
総合計	184 公演	実績	1,037 回	747 日	553,277 人	(74.3%)	744,980 人
		計画	1,035 回	748 日	522,890 人	(70.3%)	743,795 人

※3月歌舞伎公演「増補忠臣蔵」「梅雨小袖昔八丈」は、政府主催「東日本大震災七周年追悼式」開催のため、3/10・11を休演とした。

※組踊等沖縄伝統芸能 10月定期公演 組踊「大川敵討」は、台風22号接近のため、公演を中止した。

※組踊等沖縄伝統芸能 11月企画公演「比嘉聡人間国宝認定記念 人間国宝・至芸の宴」を追加実施した。

<1> 歌舞伎

《制作方針》

10月から3月の公演については、これまでの上演方針に則した「通し狂言」の上演を基本とし、上演の稀な場面や作品の復活を企図する。また、過去に復活した演目を見直して再演することにより演目の定着を目指す。

6、7月には解説を付した公演を行う。

6月に、伝統芸能の海外発信と位置付ける、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う文化プログラムの実施に向け、27年度から引き続き外国人向け公演を実施する。

配役の工夫により、歌舞伎俳優にとっての芸の継承にも配慮する。

以上により、歌舞伎の保存と振興を図る。

○

10月歌舞伎公演は、平成14年に70年ぶりの復活場面を中心に上演して好評を博した通し狂言「靈驗亀山鉾―亀山の仇討―」を、台本、演出を練り上げて上演する。11月歌舞伎公演は、名作でありながら昭和50年代を最後に上演が途絶えていた新歌舞伎の作品「坂崎出羽守」「杳掛時次郎」を取り上げ、歌舞伎のレパートリーの拡充と次代への継承を目指す。12月歌舞伎公演は、女方の珍しい舞踊「今様三番三」を幕開けに、並木五瓶の傑作「隅田春妓女容性―御存梅の由兵衛―」を通し狂言として上演する。「隅田春妓女容性」では、初代中村吉右衛門が練り上げた演出を57年ぶりに復活し、当代中村吉右衛門による芸の継承を図る。初春歌舞伎公演は、平成12年に復活した「姫競双葉絵草紙」を、新たに台本を補綴して「世界花小栗判官」と題して、通し狂言として上演する。10月の「靈驗亀山鉾」と併せて、復活狂言の再演により、台本、演出を見直して完成度を高め、レパートリーの定着を目指す。3月歌舞伎公演は、明治150年を記念し、上方歌舞伎の中村鴈治郎家と江戸歌舞伎の尾上菊五郎家で明治期から伝承されてきた演目「増補忠臣蔵」「梅雨小袖昔八丈」を上演し、家の芸の新しい世代への継承を目指す。

青少年等を対象とした公演として歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は歌舞伎ならではの様式美と推理劇の要素を備えた分かりやすい作品「歌舞伎十八番の内 毛抜」を、7月は義太夫狂言の名作「鬼一法眼三略巻 一條大蔵譚」を取り上げ、解説を付して上演することにより歌舞伎の普及振興、技芸の継承を図る。6月には、「Discover KABUKI―外国人のための歌舞伎鑑賞教室―」を28年度に続いて2回公演で実施するとともに、その翌日から「Multilingual Week」も実施する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 歌舞伎5公演、歌舞伎鑑賞教室2公演を計画どおり実施
- ・ 復活通し狂言の台本、演出を見直しての再演(10月「靈驗亀山鉾」、初春「世界花小栗判官」)
- ・ 昭和50年代を最後に上演されていなかった新歌舞伎の名作の上演(11月「坂崎出羽守」「杳掛時次郎」)
- ・ 「隅田春妓女容性」における初代中村吉右衛門が練り上げた演出の復活と通し上演(12月)
- ・ 上方歌舞伎と江戸歌舞伎における家の芸の新しい世代への継承(3月「増補忠臣蔵」「梅雨小袖昔八丈」)
- ・ 全体で目標を上回る入場者数を達成
- ・ 28年度に続き、外国人向けの公演「Discover KABUKI―外国人のための歌舞伎鑑賞教室―」を2回公演で実施(6月)

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供やDMの定期的な送付等、多様な取組による誘客
- ・ 新たにTwitterアカウント、Instagramアカウントを開設し、写真を掲載するなど、SNSを利用した広報活動
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKI―外国人のための歌舞伎鑑賞教室―」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催

4. アンケート調査

- ・ 全7公演で実施(9回)、満足回答率85.8%
- ・ 「Discover KABUKI」で上記のうち2回を実施、満足回答率82.4%(外国籍の満足回答率84.3%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
10月歌舞伎公演 通し狂言「靈験亀山鉾-亀山の仇討-」	本館 大劇場	10/3(火) ~27(金)	実績	25回	25日	31,294人	(82.4%)	38,000人
			計画	25回	25日	24,000人	(63.2%)	38,000人
11月歌舞伎公演 山本有三生誕百三十年「坂崎出羽守」 「沓掛時次郎」		11/3(金・祝) ~26(日)	実績	24回	24日	14,999人	(41.1%)	36,480人
			計画	24回	24日	17,000人	(46.6%)	36,480人
12月歌舞伎公演 「今様三番三」 通し狂言「隅田春妓女容性」		12/3(日) ~26(火)	実績	24回	24日	20,145人	(55.2%)	36,480人
			計画	24回	24日	22,500人	(61.7%)	36,480人
初春歌舞伎公演 通し狂言「世界花小栗判官」		1/3(水) ~27(土)	実績	25回	25日	26,291人	(69.2%)	38,000人
			計画	25回	25日	26,800人	(70.5%)	38,000人
3月歌舞伎公演 明治150年記念「増補忠臣蔵」 「梅雨小袖昔八丈」		3/3(土) ~27(火)	実績	25回	23日	20,210人	(53.2%)	38,000人
			計画	24回	24日	16,000人	(43.9%)	36,480人
【歌舞伎公演 小計】 5公演 (計画:5公演)			実績	123回	121日	112,939人	(60.4%)	186,960人
			計画	122回	122日	106,300人	(57.3%)	185,440人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「歌舞伎十八番の内毛抜」	本館 大劇場	6/2(金) ~24(土)	実績	46回	23日	58,901人	(84.2%)	69,920人
			計画	46回	23日	54,300人	(77.7%)	69,920人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「鬼一法眼三略巻 一條大蔵譚」		7/3(月) ~24(月)	実績	44回	22日	65,285人	(97.6%)	66,880人
			計画	44回	22日	63,400人	(94.8%)	66,880人
【歌舞伎鑑賞教室 小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	90回	45日	124,186人	(90.8%)	136,800人
			計画	90回	45日	117,700人	(86.0%)	136,800人
【歌舞伎合計】 7公演 (計画:7公演)			実績	213回	166日	237,125人	(73.2%)	323,760人
			計画	212回	167日	224,000人	(69.5%)	322,240人

※3月歌舞伎公演「増補忠臣蔵」「梅雨小袖昔八丈」は、政府主催「東日本大震災七周年追悼式」開催のため、3/10・11を休演とした。

2. 営業・広報

- ・ ポスター、チラシ、HP、メール、あぜくら会報、振興会ニュース等での広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。6/1、Twitterアカウント、6/2、Instagramアカウントを開設し、写真を掲載するなど、SNSを利用した広報に取り組んだ。
- ・ 出演者による取材会(記者会見)を実施し(歌舞伎5公演、歌舞伎鑑賞教室2公演)、公演の趣旨や出演者の意気込み等について取材する機会を設けた。また、舞台稽古の取材、出演者による稽古前の囲み取材を実施し(歌舞伎1公演)、公演直前の様子取材する機会を設け、報道各社を通じて公演PRを行った。
- ・ 各公演の特設サイトを作成した(歌舞伎5公演)。見所や取材会(記者会見)の様子等を掲載し、インターネットを積極的に利用して公演のPRを行った。
- ・ 演目ゆかりの地において、出演者による成功祈願を行った(11月歌舞伎公演「沓掛時次郎」の作者・

長谷川伸の墓所・高福院(東京都品川区)において実施、出席：中村梅玉、尾上松緑)。

- ・ 11月歌舞伎公演及び3月歌舞伎公演では、読売新聞社と協力関係を結び、取材の展開、公演案内の掲載等において便宜協力を受けた。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」では、広告を英字新聞、英文雑誌、英文Webサイト等に出稿し、外国人に対するアピールを強化した。
- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントを実施したほか、観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「公演プログラム付きプラン」「イヤホンガイド付きプラン」や付加価値のある「舞台見学付きプラン」「レクチャー付きプラン」「季節のお弁当付きプラン」「季節の和菓子付きプラン」等の観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。
- ・ 歌舞伎公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体並びに主要なホテル、旅行代理店等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付した(年15回、のべ18,230通)。
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方中学・高等学校、首都圏専門学校を中心にDMを送付した(年3回、のべ22,094通)。
- ・ 30年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した(6月・7月歌舞伎鑑賞教室期間中に6回、参加者数68校115名)。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Multilingual Week」の集客のため、1都3県の旅行代理店・観光案内所・ホテルにDMを送付し(260件)、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。また、29年度より追加されたスペイン語による音声ガイドを利用する観客の集客のため、スペイン語圏各国協会・スペイン語教室等を個別訪問した。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Multilingual Week」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布したほか、6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Multilingual Week」並びに3月歌舞伎公演において、旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招待を実施した。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を6月と3月の2回開催した。

4. アンケート調査

全7公演で実施(9回)した。

回答数5,917人(配布数8,646人、回収率68.4%)。回答者の85.8%が概ね満足と答えた(5,077人)。

うち2回を「Discover KABUKI」で実施した。

回答数1,736人(配布数2,511人、回収率69.1%)。回答者(国籍問わず)の82.4%(1,430人)が満足と答え、外国人は84.3%(1,007人中849人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(10月)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(11月)
- ・ 明治150年記念(3月)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした(7月鑑賞教室)。
- ・ 11月歌舞伎公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数283名)。
- ・ 3月歌舞伎公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数322名)。
- ・ 27年度から引き続き、外国人向けの公演「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」(6/16)及び「Multilingual Week」(6/17~24)を実施した。
- ・ 政府主催「東日本大震災七周年追悼式」開催のため、3/10・11を休演とした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 237,125 人／目標 224,000 人(達成度 105.9%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ “通し狂言” “復活狂言の再演” という制作方針に従い、平成 14 年 10 月に続き 3 回目の上演となった「靈験亀山鉾」と、平成 12 年 10 月に復活した「姫競双葉絵草紙」を原作とする「世界花小栗判官」は、今回の再演で新たに台本・演出を見直し、充実した舞台を制作したという外部専門家等の高い評価を受けた。
- ・ “上演が途絶えていた演目・場面の復活” については、昭和 50 年代を最後に上演が途絶えていた新歌舞伎の名作「坂崎出羽守」「杢掛時次郎」の上演と、初代中村吉右衛門が練り上げた演出を 57 年ぶりに復活した「隅田春妓女容性」の上演により、レパートリーの拡充と次代への継承を果たした。
- ・ 上方歌舞伎と江戸歌舞伎の家の芸を新しい世代に継承させた「増補忠臣蔵」「梅雨小袖昔八丈」の上演は、作品や芸の伝承に寄与したと高く評価された。
- ・ 歌舞伎公演全体で目標入場者数を上回った。特に 10 月歌舞伎公演は、今中期目標期間中最高の入場者数となった。
- ・ 文化プログラムへの参画を見据えた「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を 27・28 年度に引き続き企画上演し、英語字幕表示、28年度の日本語・英語・中国語・韓国語に、スペイン語を加えた5か国語による音声ガイド及びパンフレット配布を行った。観客や外部専門家等から企画及び取組状況について高く評価された。
- ・ 営業・広報に関し、公演を周知する各種の取組により順調に事業を実施した。また、学校団体や外国人向けの営業活動を展開した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「靈験亀山鉾」では、平成 14 年所演でも好評だった場面が、俳優陣の優れた演技や演出の改良によって効果を高め、悪役の活躍が見せ場の中心である本作の面白さを今まで以上に引き出し、復活狂言の再演で完成度の高い舞台を創ったことが評価され、本作がレパートリーとして定着する可能性を高めた。また、場面のカットや加筆等、台本を見直し、上演時間を平成 14 年所演より約 25 分短縮したことで、物語の展開や舞台の内容を緊密にしたと、専門家等の意見や劇評で評価された。
- ・ 久しく上演されなかった新歌舞伎の名作を取り上げた 11 月公演は、「国立劇場ならではの名作発掘の好企画」という評価が寄せられ、歌舞伎の継承とレパートリーの拡充に寄与することができた。「坂崎出羽守」では、尾上松緑の坂崎は、気迫に満ちた演技により、内向する激情を持って余す過程を丹念に表現し、今後の持ち役になる可能性を示したとして、高く評価された。祖父の二代目尾上松緑、父の初代尾上辰之助からの芸の継承を実現できたことは成果となった。「杢掛時次郎」では、中村梅玉の時次郎がクールで自制的な佇まいの中に熱情を秘めた人物像を新たに造形し、「決して粹がらず、飾り気の無い素敵な役づくり」「梅玉に世話物代表作が生まれた」という評価を得た。
- ・ 「隅田春妓女容性」の上演は、好評を博した「伊賀越道中双六」の唐木政右衛門に続き、初代中村吉右衛門の当たり役を当代が初役で挑む企画であった。今回の梅の由兵衛も、旧主を助けようとする苦心や義弟を殺害した苦悩等を秘めた江戸の侠客を、貫禄のある風情と巧みな台詞回しで表現したと高く評価され、初代の芸の継承を実現することができた。また、次代への伝承に期待を持たせる内容であったとの評価も受け、「今様三番三」とともにレパートリーの拡充に寄与した。
- ・ 「世界花小栗判官」では、今回の補綴で登場人物や物語の設定を整理し、風間八郎と細川政元・小栗判官との対決の場面を大幅に書き替えて対立軸を簡潔にしたことで、物語の流れを分かりやすく構成し、上演時間を平成 12 年所演より約 55 分短縮し、テンポの良い舞台づくりを実現できた。発端の幕開きの音楽、小栗の曲馬乗りにおける竹本の演奏や“碁盤乗り”、「江の島沖」の風間の引込みにおけるストロボライトの使用、浪七の立廻りで漁網を使うタテの考案等、新たな趣向を工夫し、舞台効果を高めた。さらに、四季の移ろいに沿って物語が展開する設定にしたことで、舞台美術など視覚面でも変化に富んで楽しめることと評価された。「小栗判官譚」や「當世流小栗判官」とも異なり、華やかで楽しい趣向に溢

れた“小栗物”の通し狂言が生まれたとの評価を受け、レパートリーの定着に寄与することができた。

- ・ 上方歌舞伎と江戸歌舞伎の担い手が家の芸に初役で挑んだ3月歌舞伎公演は、技芸の伝承を図る国立劇場ならではの面白い企画であると評価された。上方の中村鴈治郎家に所縁の深い「増補忠臣蔵」では、当代中村鴈治郎の若狭之助の演技から家の芸に臨む真摯な姿勢が感じられ、江戸の尾上菊五郎家に所縁の深い「梅雨小袖昔八丈」では、尾上菊之助の新三が今後の持ち役になる期待を持たせたと、劇評・新聞評で高く評価された。また、両演目ともに、次代を見据えた配役で周囲を固め、各優が役どころを的確に表現して舞台を支えた。鴈治郎や菊之助による家の芸の継承に加えて、脇役の芸の伝承にも大きく貢献した。
- ・ 各公演とも、適材適所の配役を実現させると同時に、中堅・若手を大役に抜擢することで芸の伝承を着実に行うことができた。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」では、多言語対応の言語を1言語(スペイン語)加えるとともに、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の翌日以降には、多言語対応の音声ガイドを提供する「Multilingual Week」を実施し、外国人が気軽に鑑賞できる機会を増やした。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」及び「Multilingual Week」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化した。
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供やDMの定期的な送付等、多様な取組による誘客を行った。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 11月、12月、初春公演で、入場者数が目標を下回った。それぞれの公演の特色や魅力を広く伝えることができるよう、今後も、企画内容、広報宣伝等の効果的な施策を十分検討していきたい。

<2>文 楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場면을積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリー拡充に繋がるように努める。

上演に当たっては、古典的演出とともに、迫り、廻り舞台や宙乗り等、劇場の舞台機構を活かした演出も試み、観客層の拡大を図る。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムを想定した外国人向け文楽公演を行い、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

○

本館5月公演では、第一部を豊竹英太夫改め六代豊竹呂太夫襲名披露狂言「菅原伝授手習鑑」を中心とした演目とし、第二部は「加賀見山旧錦絵」の通し上演を行う。9月公演は、納涼公演の企画として第一部を「生写朝顔話」、第二部を「玉藻前囃袂」を通し上演形態とする。12月公演は従来どおり、普及啓蒙のための文楽鑑賞教室公演と中堅若手の技芸向上を目的とした若手公演とする。12月鑑賞教室公演は学生の団体鑑賞のための昼公演ばかりでなく、社会人を対象とした社会人のための文楽鑑賞教室を夜公演で3回、文化プログラムを想定した外国人向けの「Discover BUNRAKU」公演を1回上演する。2月公演は三部制とし、八代目竹本綱太夫50回忌追善／豊竹咲甫太夫改め六代目竹本織太夫襲名披露を中心とした第二部とともに、八代目綱太夫ゆかりの近松門左衛門の作品を第一部に「心中宵庚申」、第三部に「女殺油地獄」を配し、八代目綱太夫の功績を顕彰する公演とする。

文楽劇場4月公演では、六代豊竹呂太夫襲名披露公演として、豊竹英太夫が祖父十代豊竹若太夫の前名でもある呂太夫を襲名する披露狂言「菅原伝授手習鑑」を中心に上演する。夏休み文楽特別公演は、好評の三部制を29年度も継続し、それぞれ親子劇場、名作劇場、サマーレイトショーと銘打ち、親子、文楽ファン、社会人を観客ターゲットとする公演を行う。親子劇場では新作文楽の再演、名作劇場では上演の途絶えた場面の復活により、レパートリー拡充に努める。11月公演では、平成28年に発生した熊本地震からの復興を祈念し、熊本の英雄加藤清正を描いた時代物の大作「八陣守護城」を上演する。初春公演では、八代目竹本綱太夫五十回忌追善と同時に豊竹咲甫太夫が六代目竹本織太夫を襲名し、追善・襲名披露狂言として「摂州合邦辻」から「合邦住家の段」を上演、次代を担う太夫の襲名を祝う公演とする。6月鑑賞教室公演では引き続き仕事帰りにも観劇しやすい一般向けの「社会人のための文楽鑑賞教室」、外国人向けの公演「Discover BUNRAKU」を実施し、案内役による分かりやすい解説を付け、文楽の一層の普及振興に努める。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本館文楽4公演・文楽鑑賞教室1公演、文楽劇場文楽4公演・文楽鑑賞教室1公演を計画どおり実施
- ・ 通し狂言に準じる場割での上演(本館5月「加賀見山旧錦絵」、本館9月「生写朝顔話」「玉藻前囃袂」)
- ・ 上演機会の少ない場面の上演等(本館5月「加賀見山旧錦絵」(筑摩川・又助住家)、本館9月「生写朝顔話」(浜松小屋)、「玉藻前囃袂」(神泉苑～化粧殺生石)、文楽劇場夏休み文楽特別公演「源平布引滝」(義賢館の段)
- ・ 全体で目標を上回る入場者数を達成
- ・ 外国人のための文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU」を本館及び文楽劇場にて継続して実施

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼の積極的な働きかけ、動画を用いたHPの有効活用、地元の関係団体との協力、祭礼行事やイベントへの参加や協力により、効果的に公演を広報
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施のほか、DMの定期的な送付等、多様な取組による誘客
- ・ 本館12月「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」及び文楽劇場6月「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化

- ・ 文楽劇場では、公演ごとに2か国語(日本語・英語)によるリーフレットを作成し、ホテル、関西空港、ターミナル駅観光案内所等へ配布

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館・文楽劇場で各2回開催

4. アンケート調査

- ・ (本館)5月、2月及び12月鑑賞教室で実施(3回)、満足回答率 86.9%
- ・ (文楽劇場)全5公演で実施(6回)、満足回答率 94.4%
- ・ 「Discover BUNRAKU」で上記のうち2回実施、満足回答率 85.6%(外国籍の満足回答率 89.7%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
5月文楽公演 「寿柱立万歳」「菅原伝授手習鑑」/ 「加賀見山田錦絵」	本館 小劇場	5/13(土) ~29(月)	実績	34回	17日	16,652人	(87.5%)	19,040人	
			計画	34回	17日	17,000人	(89.3%)	19,040人	
9月文楽公演 「生写朝顔話」/「玉藻前囃袂」		9/2(土) ~18(月・祝)	実績	34回	17日	18,626人	(97.8%)	19,040人	
			計画	34回	17日	16,500人	(86.7%)	19,040人	
12月文楽公演 「ひらかな盛衰記」		12/7(木) ~19(火)	実績	13回	13日	7,075人	(97.2%)	7,280人	
			計画	13回	13日	6,770人	(93.0%)	7,280人	
2月文楽公演 「心中宵庚申」/「花競四季寿」/「摂 州合邦辻」/「女殺油地獄」		2/10(土) ~26(月)	実績	51回	17日	24,046人	(84.2%)	28,560人	
			計画	51回	17日	21,400人	(74.9%)	28,560人	
【文楽(本館)小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	132回	64日	66,399人	(89.8%)	73,920人	
			計画	132回	64日	61,670人	(83.4%)	73,920人	
12月文楽鑑賞教室 「日高川入相花王」解説「文楽の魅 力」/「傾城恋飛脚」		本館 小劇場	12/7(木) ~19(火)	実績	24回	13日	13,184人	(99.3%)	13,272人
				計画	24回	13日	12,800人	(96.4%)	13,272人
【文楽鑑賞教室(本館)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	24回	13日	13,184人	(99.3%)	13,272人	
			計画	24回	13日	12,800人	(96.4%)	13,272人	
【文楽(本館)合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	156回	77日	79,583人	(91.3%)	87,192人	
			計画	156回	77日	74,470人	(85.4%)	87,192人	
4月文楽公演 「寿柱立万歳」「菅原伝授手習鑑」/ 「楠昔噺」/「曾根崎心中」	文楽 劇場	4/8(土) ~30(日)	実績	44回	22日	20,979人	(65.2%)	32,164人	
			計画	44回	22日	19,300人	(60.0%)	32,164人	
夏休み文楽特別公演 「金太郎の大ぐも退治」/「赤い陣羽 織」/「源平布引滝」/「夏祭浪花 鑑」		7/22(土) ~8/8(火)	実績	54回	18日	20,876人	(54.4%)	38,394人	
			計画	54回	18日	21,500人	(54.5%)	39,474人	
11月文楽公演 「八陣守護城」/「鍵の権三重帷子」/ 「心中宵庚申」/「紅葉狩」		11/3(金・祝) ~26(日)	実績	46回	23日	18,541人	(55.1%)	33,626人	
			計画	46回	23日	19,900人	(59.2%)	33,626人	
初春文楽公演 「花競四季寿」/「平家女護島」/「摂 州合邦辻」/「良杉村由来」/「傾城恋飛 脚」		1/3(水) ~25(木)	実績	44回	22日	22,771人	(70.8%)	32,164人	
			計画	44回	22日	21,100人	(65.6%)	32,164人	
【文楽(文楽劇場)小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	188回	85日	83,167人	(61.0%)	136,348人	
			計画	188回	85日	81,800人	(59.5%)	137,428人	

6月文楽鑑賞教室 「二人禿」解説「文楽へようこそ」「仮 名手本忠臣蔵」	文楽 劇場	6/9(金) ～22(木)	実績	28回	14日	19,324人	(94.4%)	20,468人
			計画	28回	14日	18,500人	(90.4%)	20,468人
【文楽鑑賞教室(文楽劇場)小 計】 1公演 (計画:1公演)			実績	28回	14日	19,324人	(94.4%)	20,468人
			計画	28回	14日	18,500人	(90.4%)	20,468人
【文楽(文楽劇場)合 計】 5公演 (計画:5公演)			実績	216回	99日	102,491人	(65.4%)	156,816人
			計画	216回	99日	100,300人	(63.5%)	157,896人
【文楽 総合計】 10公演 (計画:10公演)			実績	372回	176日	182,074人	(74.6%)	244,008人
			計画	372回	176日	174,770人	(71.3%)	245,088人

2. 営業・広報

(本館)

- ・ ポスター、チラシ、HP、メール、SNS(Twitter、Instagram)、あぜくら会報、振興会ニュース等での広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ テレビ放送局、新聞社、雑誌社等に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れ公演のPRを行った。
- ・ 演目ゆかりの地において、出演者による成功祈願及び取材会を行った(9月文楽公演で、「玉藻前囃袂」ゆかりの地、那須温泉神社、殺生石(栃木県)において実施、出席：桐竹勘十郎)。
- ・ 技芸員のインタビュー動画や、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を作成し、HPで公開した。
- ・ 各公演の特設サイトを作成した(文楽3公演)。見所や動画等を掲載し、インターネットを積極的に利用して公演のPRを行った。
- ・ 襲名披露公演、追善公演を控えた技芸員による取材会(記者会見)を実施し(5月文楽公演：豊竹英太夫(六代豊竹呂太夫)、2月文楽公演：豊竹咲太夫、豊竹咲甫太夫(六代目竹本織太夫))、公演の趣旨や技芸員の意気込み等について取材する機会を設けた。
- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントを実施して、団体客の増加に努めた。
- ・ 文楽公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付した(年12回、のべ17,152通)。
- ・ 12月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。また、29年度より追加されたスペイン語による音声ガイドを利用する観客の集客のため、スペイン語圏各国協会・スペイン語教室等を個別訪問した。
- ・ 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施した。

(文楽劇場)

- ・ 技芸員のインタビュー動画や、公演記録映像を活用し筋立てを説明するダイジェスト動画を作成し、ともにHPで公開した。
- ・ 観劇の雰囲気盛り上げるために、正面玄関の柱に写真ポスターを装飾し、ロビー大階段周辺に大型懸垂幕ポスターを飾り付けた。
- ・ 二度目となる外国人向けの公演として開催した6月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。
- ・ 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に、英語版リーフレットを配布した。
- ・ 地下鉄・JRほかの交通機関の駅構内や車内吊りのポスターを掲示したほか、巨大壁面広告やデジタルサイネージ(電子ポスター)による公演宣伝を行った。
- ・ 在阪テレビ及びラジオ放送局に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れることにより、

ニュース番組、情報番組を通じて公演のPRを行った。

- ・ 地元で行われる祭礼行事等で出演者と一般の参加者との交流の機会を設け、広く一般への普及活動を行った。
- ・ 大阪市中央図書館の協力により、館所蔵の各種資料で文楽公演に因む展示が行われるとともに、文楽書籍コーナー等ではポスター及び団体観劇チラシを掲示・配架し、また、市内24区の図書館にもポスター・チラシを配布し、公演周知・観劇勧誘を行った。
- ・ 夏休み文楽特別公演において、大阪近隣の各市に依頼し、第一部「親子劇場」子供向けチラシの配布を拡充した。
- ・ 夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」において、日時限定の3日間、株式会社ロッテの協力を得て、「ビックリマン×文楽 2017 夏休みプロジェクト!」を実施した。国立文楽劇場オリジナルのビックリマン×文楽コラボレーションカードを3種作成し、全来場者に配布した。
- ・ 法善寺横丁まつりにおいて、芸芸員(豊松清十郎)が文楽奉納を行い、文楽と11月文楽公演のPRに努めた(8/10)。
- ・ 夏休み文楽特別公演、11月文楽公演に向けて、若者で賑わう繁華街(アメリカ村)にある阪神高速道路株式会社(株)の阪神高速ミナミ交流プラザ(愛称 LoopA)での展示を実施し、文楽と文楽公演のPRに努めた。
- ・ 梅田にある商業施設「グランフロント」北館1階のメルセデスベンツショールーム“Mercedes me”にて、うめだ文楽×Mercedes me×国立文楽劇場がコラボレーションしたラッピングカーの除幕式を行い、初春文楽公演と在阪民放各社が主催する「うめだ文楽 2018」公演との共通の演目「傾城恋飛脚」のPRを行った(12/26)。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館・文楽劇場で各2回開催した。

4. アンケート調査

(本館)

5月公演、2月公演及び12月鑑賞教室で実施(3回)した。

回答数1,001人(配布数1,377人、回収率72.7%)。回答者の86.9%が概ね満足と答えた(870人)。

うち1回を「Discover BUNRAKU」で実施した。

回答数325人(配布数484人、回収率67.1%)。回答者(国籍問わず)の81.8%(266人)が満足と答え、外国人は85.0%(173人中147人)が満足と答えた。

(文楽劇場)

4月公演、夏休み文楽特別公演、11月公演、初春公演及び6月鑑賞教室で実施(6回)した。

回答数1,543人(配布数2,846人、回収率54.2%)。回答者の94.4%が概ね満足と答えた(1,457人)。

うち1回を「Discover BUNRAKU」で実施した。

回答数243人(配布数576人、回収率42.2%)。回答者(国籍問わず)の90.5%(220人)が満足と答え、外国人は95.6%(137人中131人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場11月公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 各公演とも字幕表示装置により、演奏に合わせて義太夫の詞章を表示し鑑賞の助けとした。
- ・ 本館12月「Discover BUNRAKU」公演のために横書字幕用スクリーンを新設した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績182,074人／目標174,770人(達成度104.2%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 制作方針に従い、通し上演、上演機会の少ない優れた場面の復活、新作の上演等を含め、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。
- ・ 本館では、過去、周年の次年度は入場率が落ち込む傾向があったが、9月、12月(28年度の5月に相当)は28年度の入場率を上回った。
- ・ 例年本館2月の三部制公演の第三部は入場率が横ばいであるが、今回の第三部は近松門左衛門の話題作「女殺油地獄」を上演し、28年度と同じく近松作「冥途の飛脚」の入場率を上回った。
- ・ 文楽劇場4月公演・本館5月公演での六代目豊竹呂太夫襲名、文楽劇場初春公演・本館2月公演での六代目竹本織太夫襲名等、ベテランと中堅による太夫の名跡の復活という慶事が続き、マスコミ等の話題を集め、宣伝効果を発揮し、結果として集客へと繋がった。
- ・ 本館12月鑑賞教室では、外国人のための文楽鑑賞教室として「Discover BUNRAKU」を行い、日本文化に造詣の深いダニエル・カールを起用し、英語を中心にした解説、本編「傾城恋飛脚」では英語字幕表示、5か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語)によるオーディオガイド及びパンフレットの配布により、公演内容の理解が進むよう配慮した。
- ・ 文楽劇場6月鑑賞教室では、外国人のための文楽鑑賞教室として「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」を行い、6か国語7言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による無料パンフレットを作成したほか、外国人向け英語版(28年度作成)文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)の中国語版(29年度作成)を作成、これらを劇場オリジナル文楽トートバッグに入れて無料配布した。
- ・ 営業・広報に関し、公演を周知する各種の取組により順調に事業を実施した。また、学校団体や外国人向けの営業活動を展開した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 制作方針に従い、通しでの上演、上演機会の少ない優れた場面の復活等を実施した。
- ・ 本館5月は、豊竹呂太夫の名跡を豊竹英太夫が六代目として17年ぶりに復活し、襲名披露口上を含む第一部の入場率は27年度の二代目吉田玉男襲名披露公演のそれと同等の成績であった。
- ・ 通し狂言に準じる場割による演目立ての上演を積極的に行った結果として、出演者にとっては芸芸継承、観客にとっては演目理解を助ける成果を挙げることができた。
- ・ 本館5月文楽公演では「加賀見山旧錦絵」を上演し、見取りでの上演ではなかなか取り上げられない「筑摩川」「又助住家」を上演して、作品理解の一助となる演目立てを行った。
- ・ 本館9月文楽公演「生写朝顔話」「玉藻前囃子」の上演は、各専門委員からも作品理解や芸芸継承の好機として高く評価され、また有料入場率も97.8%の成績を挙げた。
- ・ 本館12月文楽公演での外国人向けの公演「Discover BUNRAKU」は、「傾城恋飛脚」上演中に英文の横書字幕を投影、イヤホンガイドも日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語の5か国語を用意した。
- ・ 本館2月公演では三部制の各部で八代目竹本綱太夫ゆかりの演目を配し、綱太夫追善の意図で統一した企画を実現できた。
- ・ 文楽劇場4月文楽公演で六代豊竹呂太夫襲名、初春文楽公演で八代目竹本綱太夫五十回忌追善と竹本織太夫襲名で、それぞれの公演を盛り上げることができ、多くの観客を動員できた。
- ・ 人形役割において、4月の「楠昔噺」では和生の小仙、玉男の徳太夫、初春の「良弁杉由来」での、人間国宝となった和生の渚の方、玉男の良弁僧正と、それぞれの師匠の持ち役を受け持ち、芸芸伝承の一端を担った。
- ・ 文楽劇場夏休み文楽特別公演の「親子劇場」に関して、文楽座芸員及びボランティアの「文楽応援団」の協力を得て、1階資料展示室内に、第一部開演前の時間帯に来場した子供たちが体験できる模擬舞台及び床を設け、日替わりで文楽の体験ワークショップを行った。太夫・三味線は床に座り肩衣を着け、声を出したり三味線を弾いたり、人形は舞台上でツメ人形を遣ったりといった体験型の展示で、文楽に親しんでいただいた。
- ・ 文楽劇場11月公演の「八陣守護城」では、熊本・加藤神社での成功祈願や特別チラシの作成、劇場1階エントランスホールに熊本コーナーブースを設置するなど、復興支援に繋がる活動を行った。大船や天守閣、橋等大がかりな装置を使った演目が並び、視覚的・演出的にも来場者に満足いただける内容となった。また、「鍮の権三重帷子」「心中宵庚申」の二つの近松作品を取り上げたことについても、観客から好評を得た。
- ・ 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」の広報・営業活動を通して、外国人に対するア

ピールを強化した。

- ・ 公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供や DM の定期的な送付等、多様な取組による誘客を行った。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数に達しなかった公演については、個々の演目の魅力を一層多角的に紹介するなど、引き続き工夫に努める。

<3> 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 舞踊公演5公演、邦楽公演6公演、雅楽公演2公演、声明公演1公演、民俗芸能公演2公演、琉球芸能公演1公演、特別企画公演5公演を計画どおり実施
- ・ 本館では、歌舞伎舞踊の大曲「積恋雪関扉」に実力のある舞踊家が挑む舞踊公演、生誕150年を迎える夏目漱石を特集した邦楽公演、宮中儀式で奏されるために演奏機会の少ない国風歌舞を取り上げた雅楽公演、国立劇場の民俗芸能公演で初めて特集する「番楽」公演等、芸能の特性を活かした企画性の高い公演を実施
- ・ 文楽劇場では、ベテランから実力ある若手までを揃え、組踊と琉球舞踊で構成した、大阪では開場年度以来となる本格的な琉球芸能公演を実施
- ・ 本館・文楽劇場とも、全体で目標を上回る入場者数を達成

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館各ジャンル及び文楽劇場で各2回開催

4. アンケート調査

- ・ 舞踊公演1回、邦楽公演1回、雅楽公演1回、声明公演1回、民俗芸能公演1回、琉球芸能公演1回、特別企画公演5回(計11回)実施、満足回答率89.3%

《実績》

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【舞踊】	5 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	8 回	5 日	4,287 人	(74.5%)	5,756 人
		計画	8 回	5 日	3,970 人	(70.6%)	5,620 人
【邦楽】	6 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	7 回	7 日	3,615 人	(84.2%)	4,293 人
		計画	7 回	7 日	3,230 人	(75.2%)	4,293 人
【雅楽】	2 公演 本館小劇場	実績	3 回	2 日	1,685 人	(95.2%)	1,770 人
		計画	2 回	2 日	945 人	(80.1%)	1,180 人
【声明】	1 公演 本館大劇場	実績	1 回	1 日	1,394 人	(86.6%)	1,610 人
		計画	1 回	1 日	1,270 人	(86.6%)	1,466 人
【民俗芸能】	2 公演 本館小劇場	実績	4 回	2 日	2,198 人	(93.1%)	2,360 人
		計画	4 回	2 日	1,710 人	(72.5%)	2,360 人
【琉球芸能】	1 公演 文楽劇場	実績	2 回	1 日	1,272 人	(93.9%)	1,354 人
		計画	2 回	1 日	1,000 人	(66.4%)	1,506 人
【特別企画】	5 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	8 回	5 日	3,385 人	(70.4%)	4,807 人
		計画	8 回	5 日	3,510 人	(73.0%)	4,807 人
【合計】	22 公演 (計画:22 公演)	実績	33 回	23 日	17,836 人	(81.3%)	21,950 人
		計画	32 回	23 日	15,635 人	(73.6%)	21,232 人

2. 営業・広報

- ・ ポスター、チラシ、HP、メール、SNS(Twitter、Instagram)、あぜくら会報、振興会ニュース等での

広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。

- ・ 新聞社等に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れ公演のPRを行った。
- ・ NHK E テレ「ピタゴラスイッチ」のコーナー「アルゴリズムこうしん」の日本舞踊版「国立劇場で日本舞踊のみなさんといっしょ」を収録し、3月舞踊公演と関連づけて広報した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館各ジャンル及び文楽劇場で各2回開催した。

4. アンケート調査

舞踊公演1回、邦楽公演1回、雅楽公演1回、声明公演1回、民俗芸能公演1回、琉球芸能公演1回、特別企画公演5回(計11回)実施した。

回答者数4,218人(配布数6,059人、回収率69.6%)、回答者の89.3%が概ね満足と答えた(3,765人)。

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場10月舞踊)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月邦楽2公演・11月雅楽・11月舞踊)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績17,836人/目標15,635人(達成度114.1%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 本館では、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家による流派にとられない国立劇場独自の舞踊公演、邦楽と文学・美術等異なる芸術分野間の交流や関連性に着目した公演、雅楽唯一の女性の舞である「五節舞」の上演、雅楽を取り入れた伝統的な法要である「法勝寺落慶供養次第」をもとにした声明公演、国立劇場では初となる秋田の「番楽」を特集した民俗芸能公演、各ジャンルの特性を活かした企画性の高い公演を実施した。
- ・ 文楽劇場では、10月「東西名流舞踊鑑賞会」や、8月「文楽素浄瑠璃の会」での質の高い技芸の公開、5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」での若い実演家の育成を行った。3月琉球芸能公演では、ベテランから若手まで現在の琉球舞踊の実力者を結集し、大阪では開場年度以来となる組踊と琉球舞踊で構成した本格的な琉球芸能公演を実施した。また出演者が講師となって事前にワークショップ・講座を行い、久しぶりの公演をアピールできた。いずれも企画性の高い公演を制作方針どおり実施した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館では、29年度は開場50周年記念事業の翌年度にあたり、出演者確保の問題や入場者数の減少等が懸念されたが、全18公演中14公演で目標入場者数を達成することができ、特に11公演で90%を超える高い入場率を達成した。29年度で4年目となる7月「伝統芸能の魅力」は雅楽及び声明を大人向けの入門公演、舞踊及び邦楽を親子で楽しめる入門公演として実施、開演前の劇場ロビーだけでなく舞台にも設置した体験コーナーは大変好評で多くの来場者が楽器・衣裳等の体験を楽しんだ。
- ・ 文楽劇場の「東西名流舞踊鑑賞会」では、上方四流に伝承される舞や踊りの幅広い魅力を発信するとともに、東京の舞踊家による江戸前の歌舞伎舞踊の名曲等も加えて、バラエティーに富んだ構成とした。「文楽素浄瑠璃の会」の字幕表示については、詞章をより分かりやすく、見やすく表示するため、引き続き字幕表示装置を舞台上の上手・下手に配置した。また、3月琉球芸能公演では、ベテランから若手

まで現在の琉球舞踊の実力者を結集し、大阪では開場年度以来となる組踊と琉球舞踊で構成した本格的な琉球芸能公演を実施し、目標入場者数を上回ることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数に達しなかった公演については、企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行うとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、一層工夫を図りたい。

《舞踊・邦楽等公演詳細表》

舞 踊

【制作方針】

本館では、各公演の企画意図に即しつつ、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を制作することを根幹とし、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪とする。また、公演の狙いや曲の性格に適した中堅や若手舞踊家の起用を積極的に行う。

文楽劇場では、京阪四流(井上、榎茂都、山村、吉村)の代表者及び東西の第一線で活躍する舞踊家が共演し、演奏においては各ジャンルの一流の演奏家を迎え、極めて高質で格調の高い舞台を提供し、広範な観客層への普及を図り、芸能の特性を踏まえた企画性のある番組構成とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月舞踊公演 「名作歌舞伎舞踊」	本館 大劇場	5/27(土)	実績	1回	1日	1,003人	(66.0%)	1,520人
			計画	1回	1日	1,100人	(72.4%)	1,520人
8月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館 小劇場	8/26(土)	実績	1回	1日	487人	(93.3%)	522人
			計画	1回	1日	340人	(65.1%)	522人
11月舞踊公演 「舞の会－京阪の座敷舞－」	本館 小劇場	11/23(木・祝)	実績	2回	1日	1,103人	(93.5%)	1,180人
			計画	2回	1日	1,000人	(84.7%)	1,180人
3月舞踊公演 「素踊りの会」	本館 小劇場	3/17(土)	実績	2回	1日	878人	(74.4%)	1,180人
			計画	2回	1日	680人	(65.1%)	1,044人
【舞踊(本館)小計】	4公演	(計画:4公演)	実績	6回	4日	3,471人	(78.9%)	4,402人
			計画	6回	4日	3,120人	(73.1%)	4,266人
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/14(土)	実績	2回	1日	816人	(60.3%)	1,354人
			計画	2回	1日	850人	(62.8%)	1,354人
【舞踊(文楽劇場)小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	2回	1日	816人	(60.3%)	1,354人
			計画	2回	1日	850人	(62.8%)	1,354人
【舞踊合計】	5公演	(計画:5公演)	実績	8回	5日	4,287人	(74.5%)	5,756人
			計画	8回	5日	3,970人	(70.6%)	5,620人

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場10月)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(本館11月)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場10月)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(本館4公演)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 歌舞伎舞踊の名作に正面から挑み、その魅力を引き出した本館5月「名作歌舞伎舞踊」、上演の機会に恵まれない難易度の高い作品も含めて花形舞踊家が充実した活躍を見せた本館8月「花形・名作舞踊鑑賞会」、28年度に引き続き舞台成果及び目標入場者数の両面で高い水準を示した本館11月「舞の会－京阪の座敷舞－」、斯界の第一線で活躍する日本舞踊家や各流の家元・重鎮らの出演により素踊りの

真髓を余すところなく示した本館 3 月「素踊りの会」と、いずれも公演の企画意図を十分に実現することができ、水準の高い公演として観客にアピールできた。

- ・ 文楽劇場 10 月「東西名流舞踊鑑賞会」では、京阪四流と東京からの各流派を代表する出演者により、幅広い魅力を発信し、“東西名流”としての色合いを強調することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数に達しなかった公演については、今後とも演目や出演者に関するアピールの工夫をはじめ、企画内容等の一層の充実を図る。

邦 楽

【制作方針】

邦楽の各ジャンルの特徴やレパートリーの多彩さを踏まえ、国立劇場ならではの高い水準の舞台を目指す。出演者には各界の第一人者や実力者をはじめ、公演の趣意や曲の性格に応じた演奏家を適宜起用する。29 年度は、開場 50 周年記念事業の翌年度にあたり、出演交渉の難航や入場者数の減少等が懸念されたため、定例公演として実績を重ねている 10 月公演「文楽素浄瑠璃の会」並びに 1 月公演「邦楽鑑賞会－長唄の会・三曲の会－」を除き、6 月・10 月・12 月公演では例年よりも企画性の高い公演を実施し、公演内容の充実を図るとともに新しい観客層の開拓をねらう。

本館 6 月公演「日本音楽の流れⅠ－箏－」では、楽器の歴史に着目し“音楽”としての魅力を強調した公演として実施する。本館 10 月公演「浄瑠璃鑑賞会－浮世絵の情景－」では、浄瑠璃と浮世絵の関連性から“美術”に焦点を当てた企画として上演する。本館 12 月公演「演奏と朗読でたどる 漱石と邦楽」では、生誕 150 年を迎える夏目漱石を特集し“文学”的な関心から邦楽の魅力を提供できるよう図る。それぞれ異なる芸術分野に関連した企画を立案することで観客層の拡大を図る。

文楽劇場 8 月公演「文楽素浄瑠璃の会」は、国宝クラスの技芸員が相次いで引退するなどを受け、公演形態を再検討しつつある。素浄瑠璃を堪能できる稀有な公演であることから、復曲作業の成果や稀曲を披露する場としての性格も付与し、初心者へのアピールも視野に入れた制作を行う。今回は名曲に加え、三味線の特殊な奏法がある「源平布引滝」から「松波琵琶の段」を上演する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6 月邦楽公演 「日本音楽の流れⅠ－箏－」	本館 小劇場	6/10(土)	実績	1 回	1 日	542 人	(91.9%)	590 人
			計画	1 回	1 日	370 人	(62.7%)	590 人
10 月邦楽公演 「浄瑠璃鑑賞会－浮世絵の情景－」		10/7(土)	実績	1 回	1 日	552 人	(93.6%)	590 人
			計画	1 回	1 日	400 人	(67.8%)	590 人
10 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」		10/21(土)	実績	1 回	1 日	569 人	(96.4%)	590 人
			計画	1 回	1 日	570 人	(96.6%)	590 人
12 月邦楽公演 夏目漱石生誕 150 年記念「演奏と朗読でたどる 漱石と邦楽」		12/2(土)	実績	1 回	1 日	559 人	(94.7%)	590 人
			計画	1 回	1 日	440 人	(74.6%)	590 人
1 月邦楽公演 「邦楽鑑賞会－長唄の会－、 －三曲の会－」		1/13(土) ～14(日)	実績	2 回	2 日	979 人	(83.0%)	1,180 人
			計画	2 回	2 日	1,000 人	(84.7%)	1,180 人
【邦楽(本館) 小 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	6 回	6 日	3,201 人	(90.4%)	3,540 人
			計画	6 回	6 日	2,780 人	(78.5%)	3,540 人
8 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8/19(土)	実績	1 回	1 日	414 人	(55.0%)	753 人
			計画	1 回	1 日	450 人	(59.8%)	753 人

【邦楽(文楽劇場) 小計】 1公演 (計画:1公演)	実績	1回	1日	414人	(55.0%)	753人
	計画	1回	1日	450人	(59.8%)	753人
【邦楽合計】 6公演 (計画:6公演)	実績	7回	7日	3,615人	(84.2%)	4,293人
	計画	7回	7日	3,230人	(75.2%)	4,293人

【特記事項】

- ・平成28年度(第71回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月2公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場8月)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(全公演)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・本館6月公演では、「箏」の歴史や特色を紹介することができた。各分野の実力者による演奏は、それぞれの魅力を十分に示す舞台となった。また、伝承者の少ない箏曲の上演は技芸の継承に寄与し、カメラを用いた演奏手法の拡大投影は各流派の技芸の理解に繋がった。復元楽器を用いた委嘱新作の上演により、現代曲の可能性を拓くことができた。
- ・本館10月公演では、浄瑠璃の鑑賞とともに同一主題の浮世絵を解説することで、視覚と聴覚の双方から演目の魅力を伝えることができた。また、複数分野の浄瑠璃を上演することで、新内・常磐津・一中・清元それぞれの特徴を比較しながら楽しんでいただくことができた。演奏頻度の少ない稀曲の上演はレパートリーの拡充にも寄与した。
- ・本館12月公演では、夏目漱石に関連した多彩な邦楽作品を上演することで邦楽の新しい魅力を提供することができた。文学の愛好家には小説等に登場する邦楽の実演を堪能する機会を、邦楽の愛好家には文学者の観点から作品を鑑賞する機会を提供できた。中堅若手の起用や伝承者の少ない芸能の上演によって、技芸の継承にも寄与した。また、文学館等、多方面からの協力を得ることもでき、広報の拡大に繋がった。
- ・本館6月・10月・12月邦楽公演は“音楽”“美術”“文学”それぞれに関心の高い客層からの支持を得ることができ、目標入場者数を達することができた。
- ・本館10月公演「文楽素浄瑠璃の会」、1月公演「邦楽鑑賞会ー長唄の会・三曲の会ー」においても、斯界の第一人者による競演で名演の数々を披露することができた。各演目とも作品の趣意を的確に捉えた演奏で、国立劇場の公演ならではの質の高い舞台であった。
- ・文楽劇場では、素浄瑠璃の魅力をさらに楽しんでいただくために催した伝統芸能講座で、文楽の詞章がいかに大阪の町と密接に繋がっているかを鼎談の中で聞くことができ、素浄瑠璃を聴く楽しみ方と文楽の味わい方が広がった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・目標入場者数に達しなかった公演については、企画性を重視しつつ、企画立案時において構成や演目の選定等の検討を綿密に行い、内容、時期、効果的な広報宣伝媒体等について担当部署が連携の上、工夫を図る。

雅 楽

【制作方針】

千年以上の長い歴史をもつ雅楽の古典作品を、宮内庁式部職楽部ほかにより上演する。11月公演は雅楽曲の中でも名曲として知られる『青海波』を10年ぶりに垣代・管絃舞楽の次第で上演、また解説を設けることで鑑賞の一助とする。3月公演では上演機会の少ない国風歌舞より「東遊一具」「五節舞」「久米舞」を上演する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
11月雅楽公演 「管絃 青海波を聴く」	本館 小劇場	11/11(土)	実績	1回	1日	538人	(91.2%)	590人
			計画	1回	1日	395人	(66.9%)	590人
3月雅楽公演 「国風歌舞」		3/3(土)	実績	2回	1日	1,147人	(97.2%)	1,180人
			計画	1回	1日	550人	(93.2%)	590人
【雅楽 合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	3回	2日	1,685人	(95.2%)	1,770人
			計画	2回	2日	945人	(80.1%)	1,180人

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(11月)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(3月)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 11月公演では「お話」の後に、古式に則った次第で上演したことで本来の曲の魅力を堪能できる構成となった。また3月公演は宮内庁式部職楽部の出演により、宮中儀式で奏されるために演奏機会の少ない国風歌舞を上演した。特に雅楽唯一の女性の舞である「五節舞」を楽部の出演でご覧いただく貴重な機会となることから、計画より回数を増やして公演を行った。その結果、97.2%という高い入場率となり、多くの方に鑑賞機会を提供できた。

声 明

【制作方針】

日本音楽の源流と言われ、仏教儀式音楽として各宗派で受け継がれる声明に雅楽を取り入れた舞楽法会を上演する。今回は「法勝寺落慶供養次第」をもとに舞楽法会を構成し、仏国土を美しく飾る「荘厳」の響きを届ける。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
9月声明公演 「声明と雅楽 荘厳の調べ 法勝寺供養次第による舞楽法会」	本館 大劇場	9/9(土)	実績	1回	1日	1,394人	(86.6%)	1,610人	
			計画	1回	1日	1,270人	(86.6%)	1,466人	
【声明 合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	1,394人	(86.6%)	1,610人	
			計画	1回	1日	1,270人	(86.6%)	1,466人	

【特記事項】

- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて式次第と経文を表示して鑑賞の助けとした。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 声明や雅楽といった歴史ある音楽によって、当時の法要の雰囲気を感じられるものとなった。また稚児舞や師子の登場、舞台天井から散華を撒く散華行道等、視覚的にも楽しんでいただけた。

民俗芸能

【制作方針】

全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

6月公演では、天岩戸神話に基づく宮崎県の「高千穂の夜神楽」を取り上げ、夜を徹して奉納される神楽を舞台上に展開する。1月公演では、国立劇場の民俗芸能公演で初めて「番楽」に焦点を当て、秋田県に伝わる本海獅子舞番楽と根子番楽の2種類の番楽を紹介する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月民俗芸能公演 「高千穂の夜神楽」	本館 小劇場	6/24(土)	実績	2回	1日	1,109人	(94.0%)	1,180人
			計画	2回	1日	960人	(81.4%)	1,180人
1月民俗芸能公演 「番楽」		1/27(土)	実績	2回	1日	1,089人	(92.3%)	1,180人
			計画	2回	1日	750人	(63.6%)	1,180人
【民俗芸能 合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	4回	2日	2,198人	(93.1%)	2,360人
			計画	4回	2日	1,710人	(72.5%)	2,360人

【特記事項】

- ・ ロビーにチラシコーナー等を設置し、芸能の行われる地域の観光情報等を提供した(本館6月、1月)。
- ・ ロビーで秋田県の特産物の販売を行った(本館1月)。
- ・ 字幕表示装置により解説等を表示し、鑑賞の助けとした(全公演)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 6月公演は、公演として「高千穂の夜神楽」を披露する際に取り上げられることの少ない演目も含めた構成により神楽の多様性を紹介したほか、神楽の神事としての一面も舞台上で表現した。
- ・ 1月公演では、2種類の番楽を取り上げたため両方を鑑賞した方に、それぞれの地域で伝承している番楽の差異を明瞭に伝えることができた。

琉球芸能

【制作方針】

国立劇場おきなわとの共同制作で、文楽劇場では昭和60年以来約30年ぶりとなる、組踊を加えた琉球芸能公演を上演する。琉球舞踊は古典から新作まで幅広く演目を揃えた内容とし、組踊は組踊の創始者・玉城朝薫の作った朝薫5番のうち「二童敵討」を上演し、久しぶりの大阪公演に相応しい番組とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
3月琉球芸能公演 「琉球舞踊と組踊」	文楽 劇場	3/10(土)	実績	2回	1日	1,272人	(93.9%)	1,354人
			計画	2回	1日	1,000人	(66.4%)	1,506人
【琉球芸能 合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	1,272人	(93.9%)	1,354人
			計画	2回	1日	1,000人	(66.4%)	1,506人

【特記事項】

- ・ 関西元気文化圏共催事業
- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて意識した詞章等を表示して鑑賞の助けとした。
- ・ 公演関連プレ講座として「組踊をたのしむ(ワークショップ・講座)」を開催し、出演者等を講師とした実技を通して、組踊の魅力や見方を紹介した(2/3、第7研修室・文楽劇場小ホール、参加人数 ワークショップ：17名・講座：90名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 文楽劇場で開場年度以来となる本格的な琉球芸能公演を実施し、目標入場者数を上回ることができた。

特別企画

【制作方針】

本館 4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、将来の日本舞踊界・邦楽界を担う新進気鋭の演者が主役や大曲に挑む舞踊と邦楽の合同公演とする。29年度で4年目となる7月「伝統芸能の魅力」は、雅楽及び声明を大人向けの入門公演として、舞踊及び邦楽を親子で楽しめる入門公演として企画する。9月公演「映像と語り芸」は、国外より輸入された映像技術と日本古来の話芸が結びついて成立した芸能を上演する。

文楽劇場 5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、現在躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光をあてて舞踊・邦楽界の将来を展望する公演とする。国内外を問わず積極的な舞台・演奏活動を展開する、主に関西在住の新進・花形実演家を厳選し、長唄舞踊二番、地歌舞、邦楽三曲(筑前琵琶、現代箏曲、地歌)と様々なジャンルにわたる幅広い番組構成とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/22(土)	実績	1回	1日	476人	(80.7%)	590人
			計画	1回	1日	390人	(66.1%)	590人
7月 第7回伝統芸能の魅力 「大人のための雅楽入門」 「大人のための声明入門」		7/22(土)	実績	2回	1日	1,136人	(96.3%)	1,180人
			計画	2回	1日	1,050人	(89.0%)	1,180人
7月 第8回伝統芸能の魅力 「親子で楽しむ日本舞踊」 「親子で楽しむ邦楽」		7/23(日)	実績	2回	1日	730人	(61.9%)	1,180人
			計画	2回	1日	730人	(61.9%)	1,180人
9月特別企画公演 「映像と語り芸 幻燈機が生んだ芸能」		9/23(土・祝)	実績	2回	1日	683人	(57.9%)	1,180人
			計画	2回	1日	940人	(79.7%)	1,180人
【特別企画(本館) 小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	7回	4日	3,025人	(73.2%)	4,130人
			計画	7回	4日	3,110人	(75.3%)	4,130人
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5/13(土)	実績	1回	1日	360人	(53.2%)	677人
			計画	1回	1日	400人	(59.1%)	677人
【特別企画(文楽劇場) 小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	360人	(53.2%)	677人
			計画	1回	1日	400人	(59.1%)	677人
【特別企画 合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	8回	5日	3,385人	(70.4%)	4,807人
			計画	8回	5日	3,510人	(73.0%)	4,807人

【特記事項】

- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5月)
- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした(本館 4月舞踊・邦楽、7月〈伝統芸能の魅力〉「大人のための雅楽入門」「大人のための声明入門」「親子で楽しむ日本舞踊」「親子で楽しむ邦楽」)。
- ・ 本館 7月〈伝統芸能の魅力〉では、開演前の劇場ロビーに体験コーナーを設置した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館 4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」では、出演者の個性や特質に適った作品を揃えた構成により、本公演らしい清新かつ充実した舞台成果を得ることができた。
- ・ 本館 7月「大人のための雅楽入門」「大人のための声明入門」では、これまで興味がありながら芸能に触れる機会がなかった大人世代を対象に公演を行った。子供を対象にした初の舞踊公演となった「親子で楽しむ日本舞踊」では、親しみやすいご案内と舞台の成り立ちを交えて舞踊を紹介し、劇場の特性を活かした入門公演を制作することができた。「邦楽を楽しむ」では長唄を特集し、スクリーンへの映像投影を交えた演奏により、入門者にも広く親しんでいただくことができた。開演前に舞台やロビーでの体験コーナーを設けたことで、より充実した鑑賞の機会を提供することができた。
- ・ 本館 9月「映像と語り芸」では、マジックランタンを起点に発展していった映像文化と日本の語り芸が結びつくことで生まれた日本独自の芸能を、江戸から明治、昭和へと時代の流れを追いながら紹介することができた。
- ・ 文楽劇場 5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、全体的に実力のある出演者が揃い、充実した内容の番組となった。その中でも、山路みほの箏曲「鳥のように」は質の高い演奏となり、今回の公演を高めた。29年度も、演者の自己紹介や意気込み等のコメントを、各演目の上演前に客席へアナウンスし、実演家と客席との距離感を近づけ好評を得た。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数に達しなかった公演については、宣伝広報も一層の工夫を凝らすとともに、チケット販売でも出演者等との連携強化を図っていきたい。

<4> 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・浪曲・講談のほか、太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・奇術・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、「定席公演」を中心に大衆芸能公演を実施する。寄席の根幹ともいえるべき「定席公演」では、落語協会及び落語芸術協会と協力して、様々な分野の大衆芸能を幅広く取り入れた公演を企画・立案し、その多彩な魅力を伝えながら、普及・振興を図る。また、「若手新人公演」では、若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競うことで技芸向上を目指す。出演する若手演芸家は、落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野から選定する。「新春国立名人会」では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。「特別企画公演」では、現代の噺家が各自の切り口で圓朝作品に挑む会や上方落語会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定するなど、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。浪曲公演においては、斯界を代表する実力者を揃えた「浪曲名人会」、若手中心で技芸の向上も狙いとする「浪曲錬声会」と定期的に公演を実施し、関西浪曲界の発展に尽力していく。また、「上方演芸特選会」においては、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ (演芸場)定席公演 22 公演、若手新人公演 12 公演、新春国立名人会 1 公演、国立名人会 11 公演、特別企画公演 10 公演を実施
- ・ (文楽劇場)浪曲 2 公演、上方演芸特選会 6 公演を実施
- ・ 全体で目標を上回る入場者数を達成
- ・ 若手新人公演の出演者を対象に、平成 29 年度花形演芸大賞の審査を実施、受賞者を公表

2. 営業・広報

- ・ チラシ、ポスター、HP 等による広報、新聞や「東京かわら版」等への広告掲載により公演情報を周知
- ・ 出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目ゆかりの地域と連携した情報発信
- ・ 報道各社へ定期的に公演情報を配信
- ・ インターネットテレビ局に働きかけ、番組内で公演を紹介

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を演芸場及び文楽劇場で各 2 回開催

4. アンケート調査

- ・ (演芸場)13 公演で実施(13 回)、満足回答率 92.7%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定席】	22 公演 演芸場	実績	241 回	219 日	40,936 人	(56.6%)	72,300 人
		計画	241 回	219 日	36,300 人	(50.2%)	72,300 人

【花形演芸会】	12 公演 演芸場	実績	12 回	12 日	3,470 人	(96.4%)	3,600 人
		計画	12 回	12 日	3,320 人	(92.2%)	3,600 人
【新春国立名人会】	1 公演 演芸場	実績	8 回	6 日	2,377 人	(99.0%)	2,400 人
		計画	8 回	6 日	2,360 人	(98.3%)	2,400 人
【国立名人会】	11 公演 演芸場	実績	11 回	11 日	3,212 人	(97.3%)	3,300 人
		計画	11 回	11 日	3,160 人	(95.8%)	3,300 人
【特別企画】	10 公演 演芸場	実績	14 回	14 日	3,885 人	(92.5%)	4,200 人
		計画	14 回	14 日	3,930 人	(93.6%)	4,200 人
【大衆芸能(演芸場)合計】	56 公演	実績	286 回	262 日	53,880 人	(62.8%)	85,800 人
		計画	286 回	262 日	49,070 人	(57.2%)	85,800 人
【浪曲名人会】	1 公演 文楽劇場	実績	1 回	1 日	604 人	(80.2%)	753 人
		計画	1 回	1 日	670 人	(89.0%)	753 人
【浪曲錬声会】	1 公演 文楽劇場小ホール	実績	2 回	1 日	292 人	(91.8%)	318 人
		計画	2 回	1 日	290 人	(91.2%)	318 人
【上方演芸特選会】	6 公演 文楽劇場小ホール	実績	24 回	24 日	3,665 人	(96.0%)	3,816 人
		計画	24 回	24 日	3,300 人	(86.5%)	3,816 人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】	8 公演	実績	27 回	26 日	4,561 人	(93.3%)	4,887 人
		計画	27 回	26 日	4,260 人	(87.2%)	4,887 人
【大衆芸能公演 総合計】	64 公演 (計画:64 公演)	実績	313 回	288 日	58,441 人	(64.4%)	90,687 人
		計画	313 回	288 日	53,330 人	(58.8%)	90,687 人

2. 営業・広報

- ・ 演芸場では、国立演芸場公演ガイド(月刊)・チラシ・ポスター・新聞等マスコミへの取材依頼・「東京かわら版」や新聞等への広告掲載・振興会 HP・NTJ メンバー等へのメール配信を通じて公演の周知に努めた。
- ・ 振興会 HP に公演関連トピックスを掲載した。
- ・ 定席公演ではスタンプラリーを引き続き実施し、粗品の種類を増やし、リピーターによる継続的な鑑賞が行われるよう努めた(1 回の鑑賞でスタンプを 1 回押し、スタンプ 5 回で粗品進呈)。また夜公演の鑑賞者にはスタンプを 2 回押しして販売促進に努めた。
- ・ インターネットテレビ局に働きかけ、番組内で公演紹介を行った(5 月)。
- ・ 前年に引き続き「寄席の日」(6 月の第 1 月曜日)に落語協会、落語芸術協会及び都内の 4 演芸場と提携し、当日券の割引を実施した(6/5)。
- ・ 8 月特別企画「太神楽曲芸 妙技の数々」では、チラシ裏面を英文で作成、英文ポスターも用意して留学生を中心に外国人に向けて公演を周知した。また、同日ワークショップを開催して海外の方も参加し太神楽の理解を進めた。
- ・ 2 月上旬の節分の日には、舞台から出演者による豆撒きを行い、また 3 月上旬の雛祭には入場者全員に雛あられを配布して、観客に対するサービスの向上に努めた。
- ・ 文楽劇場では、広報としてチラシ・ポスター・インターネット・国立文楽劇場友の会会報・振興会ニュースの配布等で公演の周知に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 演芸場及び文楽劇場において公演専門委員会を各 2 回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

4. アンケート調査

(演芸場)

13 公演で実施(13 回)した。

回答数 2,127 人(配布数 3,435 人、回収率 61.9%)。回答者の 92.7%が概ね満足と答えた(1,971 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭主催公演(演芸場 10 月特別企画)

- ・平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場10月・11月実施の7公演、文楽劇場11月上旬演芸特選会)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)
- ・演芸場12月中席公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数153名)。
- ・若手新人公演の出演者を対象に平成29年度花形演芸大賞の審査を実施し、受賞者を公表した。
 - 大賞：笑福亭たま(上方落語)
 - 金賞：江戸家小猫(ものまね)、三遊亭萬橘(落語)、ストレート松浦(ジャグリング)、菊地まどか(浪曲)
 - 銀賞：桂福丸(上方落語)、桂佐ん吉(上方落語)、鈴々舎馬るこ(落語)、雷門小助六(落語)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 58,441人 / 目標 53,330人 (達成度 109.6%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・目標入場者数を達成できた。伝統的な寄席の形式を踏襲して、様々な分野の演芸家が出演し、大衆芸能の多様な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめる公演を制作するという方針を反映した効果が具体的に現れてきた。
- ・民間の寄席に比べて一人(組)当たりの高座時間を長く確保し、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の保存・伝承にも配慮した公演制作を実施することができた。「若手新人公演」、「浪曲錬声会」を実施し、若手演芸家の技芸向上の方策を積極的に進めることができた。
- ・演芸場では、落語協会・落語芸術協会をはじめ、関係各団体と緊密な連携をとり、公演制作に多大なる協力を得ることができた。結果、それぞれの幹部の出演、圓朝作品に挑む会や上方落語会等国立演芸場ならではの企画性の高い公演を制作することができた。
- ・演芸場8月特別企画公演「太神楽曲芸 妙技の数々」では2か国語(日本語・英語)対応のチラシ・ポスターを作成するとともに、開演前に外国人・初心者向けにワークショップを開催し、太神楽曲芸の普及・振興に努めた。
- ・文楽劇場の「上方演芸特選会」では、上方演芸4団体と協力し、それぞれの団体から多彩なジャンルの若手・ベテラン出演者が競う、今や上方では貴重となった昔懐かしい本格的な寄席形式の定席公演としてバラエティーに富んだ番組構成を実現し、全6公演で目標入場者数を達成することができた。

○ 良かった点・特色ある点

(演芸場)

- ・公演単位では、全56公演中43公演で入場者数が目標を上回った。そのうち、定席公演では、落語芸術協会会長桂歌丸がトリで「中村仲蔵」を口演した4月中席、三代目桂小南襲名披露の11月中席、二代立花家橘之助襲名披露の12月中席、落語芸術協会副会長三遊亭小遊三がトリをつとめた2月中席等で目標を大きく上回る入場者数を記録するなど、全22公演中16公演で目標を達成することができた。

8月特別企画公演「太神楽曲芸 妙技の数々」では演芸場では初となる2か国語対応(日本語・英語)のチラシ・ポスターを作成し、外国人の勧誘に努めるとともに、開演前に外国人・初心者向けにワークショップを開催し、太神楽曲芸の普及・振興に努めた。

(文楽劇場)

- ・上方演芸特選会は落語、漫才、浪曲、諸芸と特色ある顔ぶれによる文楽劇場ならではの充実した番組を構成できた。特に団体・会員以外の一般個人に集客の伸びが見られるため、各公演の入場者数も安定しており、全6公演とも目標を上回る結果となった。

○ 見直し又は改善を要する点

(演芸場)

- ・入場者数が目標に達しなかった定席公演については、より魅力ある番組作りに努めるとともに、近隣

施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。また、定席以外の公演においては、当日の予約キャンセルや意見聴取のための外部専門家等の座席確保を考慮すると、目標値を見直す必要がある。

《大衆芸能詳細表》

定席公演(上席・中席)

【制作方針】

一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、漫才、コント、奇術、太神楽曲芸、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月上席	演芸場	4/1(土) ~10(月)	実績	11 回	10 日	1,483 人	(44.9%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人
4 月中席		4/11(火) ~20(木)	実績	11 回	10 日	3,150 人	(95.5%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,300 人	(69.7%)	3,300 人
5 月中席		5/11(木) ~20(土)	実績	11 回	10 日	2,325 人	(70.5%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人
6 月上席		6/1(木) ~10(土)	実績	11 回	10 日	1,685 人	(51.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,500 人	(45.5%)	3,300 人
6 月中席		6/11(日) ~20(火)	実績	11 回	10 日	1,127 人	(34.2%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人
7 月上席		7/2(日) ~10(月)	実績	10 回	9 日	1,300 人	(43.3%)	3,000 人
			計画	10 回	9 日	1,300 人	(43.3%)	3,000 人
7 月中席		7/11(火) ~20(木)	実績	11 回	10 日	1,343 人	(40.7%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
8 月上席		8/1(火) ~10(木)	実績	11 回	10 日	1,555 人	(47.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,600 人	(48.5%)	3,300 人
8 月中席		8/11(金・祝) ~20(日)	実績	11 回	10 日	3,149 人	(95.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	3,200 人	(97.0%)	3,300 人
9 月上席		9/1(金) ~10(日)	実績	11 回	10 日	1,101 人	(33.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,000 人	(30.3%)	3,300 人
9 月中席	9/11(月) ~20(水)	実績	11 回	10 日	1,461 人	(44.3%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,000 人	(30.3%)	3,300 人	
10 月上席	10/1(日) ~10(火)	実績	11 回	10 日	786 人	(23.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,000 人	(30.3%)	3,300 人	
10 月中席	10/11(水) ~20(金)	実績	11 回	10 日	1,662 人	(50.4%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,100 人	(33.3%)	3,300 人	
11 月上席	11/1(水) ~10(金)	実績	11 回	10 日	1,990 人	(60.3%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,900 人	(57.6%)	3,300 人	
11 月中席	11/11(土) ~20(月)	実績	11 回	10 日	2,185 人	(66.2%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,500 人	(45.5%)	3,300 人	
12 月上席	12/1(金) ~10(日)	実績	11 回	10 日	971 人	(29.4%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,000 人	(30.3%)	3,300 人	
12 月中席	12/11(月) ~20(水)	実績	11 回	10 日	2,442 人	(74.0%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,800 人	(54.5%)	3,300 人	
1 月中席	1/11(木) ~20(土)	実績	11 回	10 日	2,694 人	(81.6%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	2,500 人	(75.8%)	3,300 人	

2 月上席	演芸場	2/1(木) ～10(土)	実績	11 回	10 日	2,875 人	(87.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,200 人	(66.7%)	3,300 人
2 月中席		2/11(日・祝) ～20(火)	実績	11 回	10 日	3,033 人	(91.9%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	3,100 人	(93.9%)	3,300 人
3 月上席		3/1(木) ～10(土)	実績	11 回	10 日	1,353 人	(41.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
3 月中席		3/11(日) ～20(火)	実績	11 回	10 日	1,266 人	(38.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,100 人	(33.3%)	3,300 人
【定席】		22 公演 (計画:22 公演)	実績	241 回	219 日	40,936 人	(56.6%)	72,300 人
			計画	241 回	219 日	36,300 人	(50.2%)	72,300 人

【特記事項】

- ・ 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月定席)
- ・ 12 月中席公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数 153 名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 定席公演 22 公演中 16 公演で目標を上回る入場者数を達成できた。そのうち、定席公演では落語芸術協会会長桂歌丸がトリで「中村仲蔵」を口演した 4 月中席、三代目桂小南襲名披露の 11 月中席、二代立花家橘之助襲名披露の 12 月中席、落語芸術協会副会長三遊亭小遊三がトリをつとめた 2 月上席等で目標を大きく上回る入場者数を記録した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 8 月上席・中席、12 月上席、及び 2 月中席では、あと一息で目標に達することができなかった。ことに 2 月中席は 3,000 人を超える入場者数を記録しても目標を達成できなかった。より魅力ある番組作りに努めるとともに、近隣施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。

若手新人公演(花形演芸会)

【制作方針】

各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月花形演芸会(第 455 回)	演芸場	4/22(土)	実績	1 回	1 日	251 人	(83.7%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
5 月花形演芸会(第 456 回)		5/21(日)	実績	1 回	1 日	295 人	(98.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	260 人	(86.7%)	300 人
6 月花形演芸会(第 457 回)		6/24(土)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
7 月花形演芸会(第 458 回)		7/22(土)	実績	1 回	1 日	291 人	(97.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
8 月花形演芸会(第 459 回)		8/5(土)	実績	1 回	1 日	292 人	(97.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
9 月花形演芸会(第 460 回)	9/23(土・祝)	実績	1 回	1 日	292 人	(97.3%)	300 人	
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人	
10 月花形演芸会(第 461 回)	10/21(土)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人	
		計画	1 回	1 日	290 人	(96.7%)	300 人	

11 月花形演芸会(第 462 回)	演芸場	11/18(土)	実績	1 回	1 日	292 人	(97.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	290 人	(96.7%)	300 人
12 月花形演芸会(第 463 回)		12/16(土)	実績	1 回	1 日	292 人	(97.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	290 人	(96.7%)	300 人
1 月花形演芸会(第 464 回)		1/21(日)	実績	1 回	1 日	291 人	(97.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
2 月花形演芸会(第 465 回)		2/3(土)	実績	1 回	1 日	292 人	(97.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
3 月花形演芸会(第 466 回)		3/3(土)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
【花形演芸会】 12 公演 (計画:12 公演)		実績	12 回	12 日	3,470 人	(96.4%)	3,600 人	
		計画	12 回	12 日	3,320 人	(92.2%)	3,600 人	

【特記事項】

- 平成 29 年度レギュラー出演者(50 音順)
江戸家小猫(ものまね)、翁家和助(曲芸)、桂吉坊(上方落語)、桂宮治(落語)、神田松之丞(講談)、菊地まどか(浪曲)、古今亭志ん陽(落語)、古今亭文菊(落語)、坂本頼光(活動写真弁士)、三遊亭夢丸(落語)、三遊亭萬橘(落語)、笑福亭たま(上方落語)、ストレート松浦(ジャグリング)、瀧川鯉橋(落語)、立川志ら乃(落語)、母心(漫才)、ホンキートンク(漫才)、宮田陽・昇(漫才)
- 平成 29 年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。
大賞：笑福亭たま(上方落語)
金賞：江戸家小猫(ものまね)、三遊亭萬橘(落語)、ストレート松浦(ジャグリング)、菊地まどか(浪曲)
銀賞：桂福丸(上方落語)、桂佐ん吉(上方落語)、鈴々舎馬るこ(落語)、雷門小助六(落語)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- 若手新人公演では、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する 18 組のレギュラーを中心に公演を企画した。花形演芸大賞の受賞歴のある OB らをゲストに招き、若手の熟演とともにベテランの至芸を堪能できる公演として大いに人気を博した。

○ 見直し又は改善を要する点

- 当日の予約キャンセルや意見聴取のための外部専門家等の座席確保を考慮すると、目標値を見直す必要がある。

新春国立名人会／国立名人会

【制作方針】

新春国立名人会では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくり味わえる公演を実施する。

【実績】

1. 公演実績

(新春国立名人会)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
新春国立名人会	演芸場	1/2(火) ～7(日)	実績	8 回	6 日	2,377 人	(99.0%)	2,400 人
			計画	8 回	6 日	2,360 人	(98.3%)	2,400 人

(国立名人会) ※目標入場者数：1公演当り 290人(96.7%) 9月～11月は280人(93.3%)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月国立名人会(第406回)	演芸場	4/23(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
5月国立名人会(第407回)		5/13(土)	実績	1回	1日	288人	(96.0%)	300人
6月国立名人会(第408回)		6/25(日)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
7月国立名人会(第409回)		7/29(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
8月国立名人会(第410回)		8/27(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
9月国立名人会(第411回)		9/30(土)	実績	1回	1日	296人	(98.7%)	300人
10月国立名人会(第412回)		10/22(日)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
11月国立名人会(第413回)		11/26(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
12月国立名人会(第414回)		12/24(日)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
2月国立名人会(第415回)		2/25(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
3月国立名人会(第416回)		3/21(水・祝)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
【国立名人会】 11公演 (計画:11公演)			実績	11回	11日	3,212人	(97.3%)	3,300人
			計画	11回	11日	3,160人	(95.8%)	3,300人

【特記事項】

- ・平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・新春国立名人会の初日(1/2)には、吉例となった鏡開きを行い、観客に樽酒を振る舞った。

《自己点検評価》

○良かった点・特色ある点

- ・新春国立名人会は、各分野の重鎮が一堂に会し、日替りで公演するという豪華な内容で、新年を寿ぐ寿獅子も含めて正月らしい華やかな公演を実施することができた。
- ・国立名人会は、落語を中心に、講談、浪曲、漫才等、各分野を代表する演芸家によって番組を構成した。また、一人(組)当たりの出演時間も定席より長めに設定し、得意のネタをたっぷり演じてもらうことによって、大いに客席を楽しませる公演が実施できた。

○見直し又は改善を要する点

- ・当日の予約キャンセルや意見聴取のための外部専門家等の座席確保を考慮すると、目標値を見直す必要がある。

特別企画公演

【制作方針】

圓朝作品に挑む会や上方落語会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定し、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。夏休み期間中には、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能(落語、講談、マジック、コント、ものまね等)を子供たちに知ってもらうため、解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月特別企画 立川流落語会	演芸場	5/26(金) ～28(日)	実績	3回	3日	843人	(93.7%)	900人
			計画	3回	3日	850人	(94.4%)	900人
6月特別企画 花形演芸会スペシャル～受賞者の会～		6/2(金)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
			計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
7月特別企画 親子で楽しむ演芸会		7/23(日)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
			計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人

8月特別企画 太神楽曲芸協会創立80周年記念 太神楽曲芸 妙技の数々	演芸場	8/26(土)	実績	1回	1日	287人	(95.7%)	300人	
			計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人	
9月特別企画 上方落語会～桂米朝一門会～		9/24(日)	実績	1回	1日	288人	(96.0%)	300人	
			計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人	
10月特別企画 芸術祭寄席		10/28(土)	実績	1回	1日	283人	(94.3%)	300人	
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人	
11月特別企画 五代目圓楽一門会		11/23(木・祝) ～25(土)	実績	3回	3日	724人	(80.4%)	900人	
			計画	3回	3日	800人	(88.9%)	900人	
12月特別企画 「復活円丈 文七元結」を聴く会		12/23(土・祝)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人	
			計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人	
2月特別企画 圓朝に挑む！		2/24(土)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人	
			計画	1回	1回	280人	(93.3%)	300人	
3月特別企画 正蔵 正蔵を語る		3/24(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人	
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人	
【特別企画公演】		10公演(計画:10公演)		実績	14回	14日	3,885人	(92.5%)	4,200人
				計画	14回	14日	3,930人	(93.6%)	4,200人

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(10月特別企画)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(11月特別企画)
- ・ 太神楽体験ワークショップ(8月特別企画 公演前に実施)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 創立80周年を迎えた太神楽曲芸協会会員が総出演し、太神楽の4つの要素である「舞」、「曲芸」、「話芸」、「鳴物」を紹介し、太神楽の魅力を伝える公演を、漫才のナイツをゲストに迎え実施した。
また、かっぱれの総踊りや中喜利等、趣向を凝らした「五代目圓楽一門会」をはじめ、「立川流落語会」、「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」、「親子で楽しむ演芸会」、「上方落語会」、「正蔵、正蔵を語る」、「復活円丈 文七元結 を聴く会」及び「圓朝に挑む！」といった恒例の公演を実施した。いずれの公演も国立演芸場らしい企画性の高い公演として実施することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 4公演の入場者数が目標に達しなかった。より魅力ある番組作りに努めるとともに、企画性の高い公演に興味を示す団体を発掘するなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。
- ・ 当日の予約キャンセルや意見聴取のための外部専門家等の座席確保を考慮すると、目標値を見直す必要がある。

浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

【制作方針】

浪曲名人会は、関西を代表する浪曲師全員が顔を揃える恒例の浪曲公演として、それぞれが得意とする3演目から1曲を観客が選ぶ番組構成で、幅広い浪曲の魅力を引き出す公演を目指す。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを向上させる」ことを目的に、若手を中心とした番組構成で今後の飛躍に繋がる公演とし、浪曲の魅力を若い世代にも普及・振興する。

上方演芸特選会は、上方演芸4団体の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談等、多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した温かみのある寄席づくりを目指す。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
浪曲名人会	文楽劇場	2/24(土)	実績	1回	1日	604人	(80.2%)	753人
			計画	1回	1日	670人	(89.0%)	753人
【浪曲名人会 小計】		1公演 (計画:1公演)	実績	1回	1日	604人	(80.2%)	753人
			計画	1回	1日	670人	(89.0%)	753人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5/27(土)	実績	2回	1日	292人	(91.8%)	318人
			計画	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
【浪曲錬声会 小計】		1公演 (計画:1公演)	実績	2回	1日	292人	(91.8%)	318人
			計画	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
5月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/17(水) ~20(土)	実績	4回	4日	622人	(97.8%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
7月上方演芸特選会		7/26(水) ~29(土)	実績	4回	4日	607人	(95.4%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
9月上方演芸特選会		9/20(水) ~23(土・祝)	実績	4回	4日	618人	(97.2%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
11月上方演芸特選会		11/22(水) ~25(土)	実績	4回	4日	611人	(96.1%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
1月上方演芸特選会		1/17(水) ~20(土)	実績	4回	4日	614人	(96.5%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
3月上方演芸特選会		3/7(水) ~10(土)	実績	4回	4日	593人	(93.2%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
【上方演芸特選会 小計】		6公演 (計画:6公演)	実績	24回	24日	3,665人	(96.0%)	3,816人
			計画	24回	24日	3,300人	(86.5%)	3,816人
【大衆芸能(文楽劇場) 合計】		8公演 (計画:8公演)	実績	27回	26日	4,561人	(93.3%)	4,887人
			計画	27回	26日	4,260人	(87.2%)	4,887人

【特記事項】

- ・ 関西元気文化圏共催事業(全公演)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(11月上方演芸特選会)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「浪曲名人会」では、3曲のうちから1曲を選ぶに際し、客席からどの曲が選ばれるのか分かりやすいように、デジタルカウンターのついた音量測定器を使用したことで、会場も大いに盛り上がった。
- ・ 28年度も出演した若手3人が、29年度もまた新たな演目に取り組み、錬声会に相応しい鍛錬の場となった。また、春野恵子の出演によって公演全体が引き締められ、バランスの取れた構成となった。
- ・ 「上方演芸特選会」は全6回で目標を達成することができた。出演者の選定や企画等に工夫を重ね、この好調を引き続き維持したい。

<5> 能 楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を、8月と11月には仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、新たな観客層を開拓する。特に「特別企画公演」としては、11月に18年ぶりに黒川能を招聘して本格公演を行うほか、12月には国立能楽堂として10年ぶりとなる新作狂言を制作・初演する。さらに、国立能楽堂や他の能楽堂等で制作された復曲能、復曲狂言、新作狂言の再演や、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演等を行う。

鑑賞教室は、鑑賞者育成のために、中・高校生を中心とした初心者向けに名作を選んで分かりやすい形で上演する。29年度は、狂言「附子」、能「黒塚」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に体験参加型の解説を付ける。また、28年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 能楽 51 公演(定例公演 22 公演、普及公演 10 公演、企画公演 18 公演、鑑賞教室 1 公演)を計画どおり実施し、すべての公演で目標入場者数を達成(達成度 105.3%)
- ・ 国立能楽堂や他の能楽堂が制作した復曲能、復曲狂言、新作狂言を再演し、演目の拡充に貢献
- ・ 「月間特集」や「演出の様々な形」等、企画性のある公演を実施
- ・ 18年ぶりに黒川能の本格公演を実施(11月、2日3回)
- ・ 10年ぶりに新作狂言を制作・初演し、新たなレパートリーを創出(12月、2日4回)
- ・ 能楽鑑賞教室で全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献
- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施【継続】
- ・ 外国人のためのミニ公演「National Noh Theatre Showcase」を実施(2~3月、3日3回)【新規】
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕を表示(50公演)
- ・ 「Discover NOH & KYOGEN」では中国語・韓国語の字幕も加え、多言語化に対応

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、HP等による公演周知
- ・ 団体観劇の誘致へ向けての営業活動の活性化

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用
- ・ 高い入場率と公演内容の充実を評価

4. アンケート調査

- ・ 10公演にて実施(10回)、満足回答率 87.6%
- ・ 「Discover NOH & KYOGEN」で上記のうち1回を実施、満足回答率 89.4%(外国籍の満足回答率 92.9%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定例公演】	22 公演	実績	22 回	22 日	13,611 人	(98.7%)	13,794 人
		計画	22 回	22 日	12,760 人	(92.5%)	13,794 人
【普及公演】	10 公演	実績	10 回	10 日	6,239 人	(99.5%)	6,270 人
		計画	10 回	10 日	6,100 人	(97.3%)	6,270 人
【企画公演】	18 公演	実績	23 回	20 日	14,283 人	(99.0%)	14,421 人
		計画	23 回	20 日	13,570 人	(94.1%)	14,421 人
【鑑賞教室】	1 公演	実績	11 回	5 日	6,897 人	(100.0%)	6,897 人
		計画	11 回	5 日	6,550 人	(95.0%)	6,897 人
【能楽 合計】	51 公演 (計画:51 公演)	実績	66 回	57 日	41,030 人	(99.1%)	41,382 人
		計画	66 回	57 日	38,980 人	(94.2%)	41,382 人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、HP、あぜくら会会報、振興会ニュース、雑誌広告等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月ごとのポスター、チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター、特別チラシを作成・配布し、HP にトピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 「Discover NOH & KYOGEN」では、外国人向けに3か国語(英語・中国語・韓国語)によるチラシ及び6か国語(前記3か国語に加え、日本語・フランス語・スペイン語)による解説書を作成した。
- ・ 能楽堂2階研修能舞台にて、池澤夏樹(作)、野村萬斎(演出・補綴)による新作狂言「鮎」の制作発表記者会見を実施し、新聞社等28社が出席した(9/22)。
- ・ 11月特別企画公演「黒川能」に因み、ロビーで山形県鶴岡市の黒川能保存会による観光案内と名産品の販売を行った。
- ・ 3月企画公演「女性能楽師による」に因み、着物で来場した女性のお客様にオリジナルスウェットポーチをプレゼントする企画を実施し、チラシ、HP等で告知し集客を図った。
- ・ 様々な機会を利用して団体観劇を誘致する活動を行い、また観劇当日のレクチャーやワークショップ等の実施により、入場者数の増加に貢献した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。
 - ・ 制作部門と営業部門の努力と工夫があって全ての公演で目標入場者数を達成していることは素晴らしい。
 - ・ 公演内容も印象的な舞台が多く、全体的に充実していた。
 - ・ 新作狂言「鮎」は異能の人・野村萬斎を起用して成功したと言える。
 - ・ 黒川能の本格上演は、五流の能との違いも見られて意義深かった。

4. アンケート調査

10公演にて実施(10回)した。

回答数3,024人(配布数5,202人、回収率58.1%)。回答者の87.6%が概ね満足と答えた(2,648人)。

うち1回を「Discover NOH & KYOGEN」で実施した。回答数339人(配布数627人、回収率54.1%)。回答者(国籍問わず)の89.4%(303人)が満足と答え、外国人は92.9%(196人中182人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(11月特別企画)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月実施の7公演)
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、6月企画公演(蠟燭能)を除く50公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・ 外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」
2/9、3/9、3/23、3回、能楽堂研修能舞台

入場者数：258人(入場率 86.0%)

アンケートの実施：満足回答率 95.1%(外国籍の満足回答率 96.5%)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 41,030人／目標 38,980人(達成度 105.3%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 国立能楽堂の果たすべき役割に基づいた上演方針に従い、伝統的な能・狂言の形式による公演のほか、新作狂言を10年ぶりに制作・初演するなど、着実かつ先鋭的な取組も行い、外部専門家からもその企画内容が高く評価された。
- ・ 入場率が28年度に引き続き99%台(99.1%)を記録するとともに、すべての公演で目標入場者数を達成した。
- ・ 池澤夏樹に台本執筆を委嘱し、演出・主演に野村萬斎を起用した新作狂言「鮎」が斯界で大きな話題となるとともに、全4回公演を完売、演目の拡充と観客層の拡大に寄与した。
- ・ 平成11年以来18年ぶりに黒川能を招聘して本格上演することで、地方に残る能楽文化を紹介することができた。
- ・ 伝統的な能・狂言の形式による公演のほか、国立能楽堂が制作した復曲能「名取ノ老女」、他の能楽堂等が制作した復曲能「鶴羽」、新作狂言「ふるしき」を取り上げて再演し、能楽界の演目の拡充に貢献した。
- ・ 2月企画公演「近代絵画と能—水底の彼方から—」では平成11年に国立能楽堂で復曲・初演した復曲狂言「浦島」と能「玉井」の演出を再検討して上演、作品の可能性を広げる試みを行った。
- ・ 能楽鑑賞教室で全席を完売し、次世代の鑑賞者育成に大きく貢献した。
- ・ 28年度に引き続き「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施し、充実した番組によって外国人観客に能楽を強く印象付けた。4か国語(日本語・英語・中国語・韓国語)による字幕表示と6か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書(無料配布)を提供し、理解促進に大いに役立った。さらに外国人向けのミニ公演「National Noh Theatre Showcase」を新規に実施して、能楽普及活動を強化した。
- ・ 「月間特集」や「演出の様々な形」によって公演に連続性や関連性を持たせるなど、国立能楽堂独自の切り口で特色ある公演を実施した。
- ・ 定例公演・普及公演・企画公演・狂言の会・特別公演等の各種公演で、名曲・人気曲を上演するのみならず、稀曲や大曲といった作品も含めて多様な能・狂言を、企画性のある番組の中で紹介できた。
- ・ 国立能楽堂が過去に制作した復曲能「名取ノ老女」を作品の舞台である宮城県名取市で受託公演により再演したほか、同じく過去に制作した新作能「紅天女」の東京・京都での再演に際して制作協力した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、51公演すべてで目標入場者数を達成し、極めて高い入場率を達成した。
- ・ 10年ぶりに制作した新作狂言「鮎」が大好評を博し、アンケートの満足度も90%を越えた(90.9%)。
- ・ 国立能楽堂や他の能楽堂等が制作した復曲作品や新作を積極的に取り上げて再演し、能楽界のレパートリーの拡充に貢献した。
- ・ 28年度に引き続き「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施したほか、新規に外国人向けのミニ公演「National Noh Theatre Showcase」を実施して、日本文化発信に貢献した。
- ・ 能と舞楽、狂言と落語・講談等の異種芸能を積極的に併演し、能楽鑑賞の新たな視点を提示した。
- ・ 定例公演内の企画「演出の様々な形」により、同一の曲を異流で2か月にわたって上演することで関心を高め、観客動員に苦勞していた夜公演の入場者数の底上げに繋げることができた。

《能楽詳細表》

定例公演

【制作方針】

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり580人(92.5%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言「子盗人」、能「采女」	4/12(水)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「苞山伏」、能「雲林院」	4/21(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
狂言「隠狸」、能「藤」	5/10(水)	実績	1回	1日	592人	(94.4%)	627人
狂言「大般若」、能「賀茂 素働」	5/19(金)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「蝸牛」、能「雷電」	6/7(水)	実績	1回	1日	588人	(93.8%)	627人
狂言「伯養」、能「班女」	6/16(金)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
月間特集・音阿弥-没後550年- 狂言「八幡前」、能「善知鳥」	7/5(水)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
月間特集・音阿弥-没後550年- 狂言「隠笠」、能「山姥」	7/19(水)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
狂言「狐塚」、能「大江山」	9/6(水)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
狂言「月見座頭」、能「小督」	9/15(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「仁王」、能「龍田 移神楽」	10/4(水)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
演出の様々な形・養老改元1300年 狂言「御茶の水」、能「養老 水波之伝」	10/20(金)	実績	1回	1日	584人	(93.1%)	627人
狂言「鈍根草」、能「実盛」	11/1(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
演出の様々な形・養老改元1300年 狂言「水汲」、能「養老 薬水」	11/17(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
月間特集・夏目漱石と能-生誕150年記念- 一調「土蜘蛛」、狂言「悪太郎」、能「七騎落」	12/6(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
月間特集・夏目漱石と能-生誕150年記念- 狂言「因幡堂」、能「景清」	12/15(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
能「難波」、狂言「松樫」	1/6(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「鬼継子」、能「忠度」	1/19(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
月間特集・近代絵画と能 狂言「無布施経」、能「頼政」	2/7(水)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
月間特集・近代絵画と能 狂言「瘦松」、能「熊野 花之留」	2/16(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「音曲智」、能「千手」	3/7(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言「太刀奪」、能「求塚」	3/16(金)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
【定例公演 小計】 22公演 (計画:22公演)	実績	22回	22日	13,611人	(98.7%)	13,794人	
	計画	22回	22日	12,760人	(92.5%)	13,794人	

【特記事項】

- ・平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(10月2公演、11月2公演)

- ・ 座席字幕表示装置を活用して、全公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ すべての公演で目標入場者数を達成、全体で98.7%という高い入場率とすることができた。7月「善知鳥」、「山姥」、11月「実盛」、3月「求塚」等、観客にとって魅力ある演目を上演できたことが成果に繋がった。
- ・ 10～11月「演出の様々な形」では、能・狂言の同一曲目を異なる流儀や家により上演し、多様な演出を比較して楽しむという国立能楽堂ならではの企画を実施し、観客数の落ち込みが危惧された秋期の夜公演の目標入場者数を達成した。
- ・ 7月の〈月間特集・音阿弥―没後550年―〉、12月の〈特集・夏目漱石と能―生誕150年記念―〉、2月の〈月間特集・近代絵画と能〉等、効果的に「特集」を組むことで公演の連続性や関連性を持たせて、観客の注目を集めた。
- ・ 〈特集・夏目漱石と能―生誕150年記念―〉に合わせて珍しいワキ方と太鼓方による一調「土蜘蛛」を上演したほか、11月「鈍根草」、3月「音曲翳」等、積極的に稀曲の上演に取り組んだ。
- ・ 6月公演の狂言「伯養」は、台本の見直しを行った上で上演した。

普及公演

【制作方針】

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで上演する。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり610人(97.3%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
解説、狂言「膏薬煉」、能「野守 白頭」	4/8(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「呼声」、能「清経 替之型」	5/13(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「舟渡翳」、能「半蔀」	6/10(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説、狂言「入間川」、能「二人静」	7/8(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
解説、狂言「蟹山伏」、能「天鼓」	9/9(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「泣尼」、能「枕慈童」	10/14(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
解説、狂言「文荷」、能「隅田川」	12/9(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説、狂言「伯母ヶ酒」、能「土蜘蛛」	1/13(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
解説、狂言「棒縛」、能「花筐 筐之伝」	2/10(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「墨塗」、能「船橋」	3/10(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
【普及公演 小計】 10公演 (計画:10公演)	実績	10回	10日	6,239人	(99.5%)	6,270人	
	計画	10回	10日	6,100人	(97.3%)	6,270人	

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(10月公演)
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、全公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 全公演で目標入場者数を達成し、99.5%という高い入場率を記録した。解説では、鑑賞の際に必要な知識を事前に伝えることだけでなく、馴染みのある演目でも従来とは異なる観点から解説し、初心者から常連の鑑賞者まで満足できる内容の解説を提供することができた。

企画公演

【制作方針】

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を、8月と11月には仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、新たな観客層を開拓する。特に「特別企画公演」としては、11月に18年ぶりに黒川能を招聘して本格公演を行うほか、12月には国立能楽堂として10年ぶりとなる新作狂言を制作・初演する。さらに、国立能楽堂や他の能楽堂等で制作された復曲能、復曲狂言、新作狂言の再演や、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演等を行う。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり590人(94.1%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言の会 家・世代を越えて 狂言「二人袴」、狂言「咲嘩」、狂言「首引」	4/29(土・祝)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
新作から古典-男心の内側へ- 新作狂言「ふろしき」、能「綾鼓」	5/25(木)	実績	1回	1日	593人	(94.6%)	627人
蠟燭の灯りによる 狂言「蜘蛛人」、能「融 思立之出・笏之舞」	6/29(木)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
復曲再演の会Ⅰ 狂言「髭櫓」、復曲能「名取ノ老女」	7/28(金)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
復曲再演の会Ⅱ 狂言「靱猿」、復曲能「鶺鴒羽」	7/30(日)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
働く貴方に贈る 対談、狂言「雁磔」、能「鶴」	8/3(木)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「舍利」	8/5(土)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言と落語・講談-特集・相撲- 講談「谷風情相撲」、落語「花筏」、狂言「鼻取相撲」	8/24(木)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「昆布売」、狂言「清水」	8/26(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
能「楊貴妃」、狂言「宗八」、能「烏帽子折」	9/30(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
寺社と能 <四天王寺> 天王寺舞楽、能「弱法師」	10/28(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
黒川能	11/10(金) ~11(土)	実績	3回	2日	1,865人	(99.1%)	1,881人
働く貴方に贈る 狂言「薩摩守」、実演解説装束付け、能「紅葉狩 鬼揃」	11/30(木)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人

新作狂言「鮎」	12/22(金) ~23(土・祝)	実績	4回	2日	2,479人	(98.8%)	2,508人
仕舞「花月」、狂言「宗論」、能「鉢木」	1/25(木)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言の会 狂言「鍋八撥」、狂言「蛸吐墨」、狂言「千切木」	1/31(水)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
復曲狂言「浦島」、能「玉井 龍宮城」	2/28(水)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
女性能楽師による 仕舞「野守」、仕舞「百万」、仕舞「藤戸」、能「高砂」	3/24(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
【企画公演 小 計】 18 公演 (計画:18 公演)		実績	23回	20日	14,283人	(99.0%)	14,421人
		計画	23回	20日	13,570人	(94.1%)	14,421人

(能楽鑑賞教室)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「附子」、能「黒塚」	6/19(月) ~23(金)	実績	11回	5日	6,897人	(100.0%)	6,897人
		計画	11回	5日	6,550人	(95.0%)	6,897人

【特記事項】

- ・ 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭主催公演(11 月 1 公演)
- ・ 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月 1 公演、11 月 1 公演)
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、6 月公演(蛸燭能)を除く 18 公演で、日本語・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子供向けチャンネルを追加して 3 チャンネル方式とした。
- ・ 6 月能楽鑑賞教室の中で実施した「Discover NOH & KYOGEN」では、字幕表示を 4 チャンネル方式(日本語・英語・中国語・韓国語)により実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ すべての公演で目標入場者数を達成した。
- ・ 12 月特別企画公演で国立能楽堂として平成 19 年以来 10 年ぶりに新作狂言「鮎」を制作・初演した。作家の池澤夏樹に台本執筆を依頼し、野村萬斎を演出・主演に起用、2 日間で 4 回公演すべてを売り切り好評を博した。見巧者ばかりでなく、多くの初心者が来場し、アンケートでは高い満足度を記録するとともに、専門委員からは公演の成功を高く評価された。
- ・ 11 月特別企画公演で、平成 11 年以来 18 年ぶりに黒川能の本格公演を行った。地方に残る能楽の中でも最も大きな規模を誇るもので、大曲・稀曲を含む 2 日間 3 回公演を東京で提示できたことは大きな成果と評価された。
- ・ 「狂言と落語・講談」(8 月企画公演)、「寺社と能(四天王寺)」(10 月企画公演)において、落語、講談、舞楽といった異種芸能との比較上演により能楽鑑賞の新たな視点を提示した。
- ・ 2 月企画公演「近代絵画と能—水底の彼方から—」で、能「玉井」を物語に則した形で演出を再検討、「龍宮城」という小書をつけて試演することで、作品の可能性を追求する試みを行った。
- ・ 国立能楽堂で制作された復曲能「名取ノ老女」(7 月企画公演)、復曲狂言「浦島」(2 月企画公演)を再演したほか、他の能楽堂等で制作された新作狂言「ふろしき」(5 月企画公演)、復曲能「鶴羽」(7 月企画公演)を積極的に取り上げて再演し、能楽界の演目の拡充に貢献した。
- ・ 狂言「鼻取相撲」(8 月企画公演)、能「烏帽子折」(9 月特別公演)、狂言「蛸吐墨」(1 月狂言の会)等の稀曲を積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。
- ・ 能楽鑑賞教室では全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献した。
- ・ 3 月企画公演「女性能楽師による」を実施し、女性能楽師の現在を提示した。

<6> 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

29年度は、定期公演、企画公演、研究公演及び普及公演を年間30公演公開する。

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、「手水の縁」、「二童敵討」、「大川敵討」、「微行の巻」、「二山和睦の巻」、「花売の縁」等、朝薫五番をはじめ長年レパートリーとして親しまれてきた作品を中心に、上演機会の少ない作品や伝統組踊保存会にて復曲した作品を取り上げる。琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」「琉球舞踊特選会」や男女打組舞踊に着目した「琉球舞踊鑑賞会」、新たに認定された沖縄県指定無形文化財保持者を加えた「八重山舞踊」等幅広く琉球舞踊の魅力を発信する。三線音楽公演では、本土復帰45年の節目に合わせ歌で沖縄をふり返る「島唄の響き」を、沖縄芝居公演では、史劇「護佐丸と阿麻和利」を上演する。また民俗芸能公演では、南城市のヌーバレーを題材とした「沖縄本島民俗芸能祭」と、読谷村喜名に伝承される「組踊『忠臣護佐丸』」を上演する。

企画公演では、アジア・太平洋地域の芸能として沖縄、大和、中国、韓国の吹きものに焦点を当て「吹く」を上演する。そのほか新作組踊「初桜」、「創作舞踊と新作組踊『太鼓の縁』」、「喜劇『ペーちゃんの恋人』」、琉球芸能の俳優祭「ゆらていく遊ば」や、毎年秋に実施し定着している「国立劇場寄席」等を上演する。

研究公演では、「山内盛彬・音楽の世界」と題し、現在の沖縄音楽に大きな功績を残した山内盛彬の作品を取り上げるほか、上演の途絶えている演目の復曲と舞台化を図る「御冠船踊と琉狂言」を上演する。

普及公演では、親子のための組踊鑑賞教室において「女物狂」と共に新作組踊「組踊版・シンデレラ」を上演する。また、社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」と、主に小学生から高校生等を対象とした組踊鑑賞教室「二童敵討」では、解説を付して上演することで、組踊の理解を深める工夫を行う。あわせて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムとして、28年度に引き続き外国人向けの公演「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を実施する。沖縄芝居、琉球舞踊の鑑賞教室も、引き続き実施する。

なお、平成31(2019)年の「組踊300年」に向け、朝薫五番の中から「二童敵討」を29年度のテーマ作品に選び、護佐丸・阿麻和利に関する演目を集める。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 組踊等沖縄伝統芸能30公演(定期公演15公演、企画公演8公演、研究公演2公演、普及公演5公演)を実施。組踊「大川敵討」(定期公演1公演)は、台風のため中止となったが、比嘉聰氏の「組踊音楽太鼓」の人間国宝認定を記念して「人間国宝至芸の宴」(企画公演1公演)を企画し、追加して上演した。
- ・ 新作組踊の上演(7月「初桜」、12月「太鼓の縁」)
- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演(5月組踊「二山和睦の巻」、8月組踊「微行の巻」、2月沖縄芝居 史劇「護佐丸と阿麻和利」)
- ・ 上演の途絶えている演目の復曲上演(2月「御冠船踊と琉狂言」)
- ・ 解説付き公演の上演(6月・8月・11月組踊鑑賞教室、7月琉球舞踊鑑賞教室、9月沖縄芝居鑑賞教室)
- ・ アジア・太平洋地域の芸能「吹く」を、解説を付して上演
- ・ 外国語オーディオガイドを導入した、外国人向け公演「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を上演
- ・ 「組踊300年」に向けたテーマ作品として「二童敵討」を取り上げ、関連する作品を連続して上演(11月組踊鑑賞教室、1月組踊公演「二童敵討」、2月「史劇『護佐丸と阿麻和利』」、3月民俗芸能公演「忠臣護佐丸」)

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、国立劇場おきなわ友の会会報等により公演を周知

- ・ 県内約 800 か所の教育機関、主要企業等、県内約 690 か所の公民館等、県内約 230 か所の老人会等へのチラシ配布、県内 8 か所の観光施設への当劇場専用ラックの設置等により公演情報等を周知
- ・ 公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体等、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開
- ・ 旅行者等と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを企画
- ・ チケット購入者限定で組踊公演前に組踊ワークショップやしまくとうば講座を開催
- ・ 劇場共通ロビーに公演案内パネルを特設し、公演周知を強化
- ・ 県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、団体客を誘致
- ・ 国立劇場おきなわ公式 Facebook やメールマガジンで公演情報を発信

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演事業委員会を 8 月と 3 月に 2 回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

4. アンケート調査

- ・ 全 30 公演にて実施(34 回)、満足回答率 92.1%
- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」で上記のうち 1 回を実施、満足回答率 89.8%(外国籍の満足回答率 82.4%)

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
組踊「手水の縁」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/15(土)	実績	1 回	1 日	250 人	(44.4%)	563 人
			計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		4/22(土)	実績	1 回	1 日	554 人	(89.2%)	621 人
			計画	1 回	1 日	495 人	(80.0%)	619 人
三線音楽 「島唄の響き～世替りや沖縄～」		5/13(土)	実績	1 回	1 日	514 人	(82.8%)	621 人
			計画	1 回	1 日	402 人	(64.9%)	619 人
組踊「二山和睦の巻」		5/27(土)	実績	1 回	1 日	348 人	(61.8%)	563 人
			計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人
琉球舞踊「八重山舞踊」		6/10(土)	実績	1 回	1 日	509 人	(82.0%)	621 人
			計画	1 回	1 日	464 人	(75.0%)	619 人
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」		7/8(土)	実績	1 回	1 日	571 人	(91.9%)	621 人
			計画	1 回	1 日	464 人	(75.0%)	619 人
組踊「微行の巻」		8/26(土)	実績	1 回	1 日	303 人	(53.4%)	567 人
			計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		9/9(土)	実績	1 回	1 日	459 人	(73.9%)	621 人
			計画	1 回	1 日	495 人	(80.0%)	619 人
民俗芸能 沖縄本島民俗芸能祭 「南城市に伝わるヌーパレー」		9/30(土)	実績	1 回	1 日	524 人	(92.3%)	568 人
			計画	1 回	1 日	402 人	(64.9%)	619 人
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		10/7(土)	実績	1 回	1 日	515 人	(82.9%)	621 人
			計画	1 回	1 日	495 人	(80.0%)	619 人
組踊「大川敵討」	10/28(土)	実績	—	—	—	—	—	
		計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人	
組踊「花売の縁」	12/16(土)	実績	1 回	1 日	245 人	(43.5%)	563 人	
		計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人	
琉球舞踊「新春琉舞名人選」	1/13(土) ～14(日)	実績	2 回	2 日	788 人	(63.4%)	1,242 人	
		計画	2 回	2 日	804 人	(64.9%)	1,238 人	
組踊「二童敵討」	1/27(土)	実績	1 回	1 日	358 人	(63.6%)	563 人	
		計画	1 回	1 日	339 人	(60.0%)	565 人	
沖縄芝居 史劇「護佐丸と阿麻和利」	2/24(土) ～25(日)	実績	2 回	2 日	1,040 人	(90.7%)	1,147 人	
		計画	2 回	2 日	801 人	(70.0%)	1,145 人	

民俗芸能 組踊「忠臣護佐丸」 (読谷村喜名)		3/3(土)	実績	1回	1日	440人	(70.9%)	621人
			計画	1回	1日	402人	(64.9%)	619人
【定期公演 小 計】 15 公演 (計画:16公演)			実績	17回	17日	7,418人	(73.3%)	10,123人
			計画	18回	18日	7,258人	(67.7%)	10,725人
新作組踊「初桜」	国立劇場 おきなわ 大劇場	7/15(土)	実績	1回	1日	507人	(81.6%)	621人
			計画	1回	1日	464人	(75.0%)	619人
ゆらていく遊ば		10/14(土)	実績	1回	1日	495人	(87.1%)	568人
			計画	1回	1日	396人	(70.0%)	566人
比嘉聴人間国宝認定記念 人間国宝・至芸の宴		11/1(水)	実績	1回	1日	405人	(65.6%)	617人
			計画	—	—	—	—	—
国立劇場寄席		11/11(土)	実績	1回	1日	550人	(88.6%)	621人
			計画	1回	1日	464人	(75.0%)	619人
アジア・太平洋地域の芸能「吹く」		11/25(土)	実績	1回	1日	200人	(35.2%)	568人
		計画	1回	1日	371人	(65.5%)	566人	
創作舞踊と新作組踊「太鼓の縁」	12/9(土)	実績	1回	1日	378人	(60.9%)	621人	
		計画	1回	1日	402人	(64.9%)	619人	
石見神楽	1/21(日)	実績	1回	1日	367人	(59.1%)	621人	
		計画	1回	1日	371人	(59.9%)	619人	
喜劇「ペーちゃんの恋人」	3/24(土)	実績	1回	1日	512人	(90.1%)	568人	
		計画	1回	1日	396人	(70.0%)	566人	
【企画公演 小 計】 8 公演 (計画:7公演)			実績	8回	8日	3,414人	(71.1%)	4,805人
			計画	7回	7日	2,864人	(68.6%)	4,174人
山内盛彬・音楽の世界	国立劇場 おきなわ 小劇場	6/17(土)	実績	1回	1日	212人	(87.2%)	243人
			計画	1回	1日	149人	(59.8%)	249人
御冠船踊と琉狂言	国立劇場 おきなわ 大劇場	2/10(土)	実績	1回	1日	380人	(67.0%)	567人
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人
【研究公演 小 計】 2 公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	592人	(73.1%)	810人
			計画	2回	2日	488人	(60.0%)	814人
社会人のための組踊鑑賞教室 「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/24(土)	実績	1回	1日	271人	(48.1%)	563人
			計画	1回	1日	396人	(70.1%)	565人
琉球舞踊鑑賞教室		7/29(土)	実績	1回	1日	504人	(88.7%)	568人
			計画	1回	1日	396人	(70.0%)	566人
親子のための組踊鑑賞教室 「女物狂」		8/12(土)	実績	1回	1日	513人	(90.5%)	567人
			計画	1回	1日	396人	(70.1%)	565人
沖縄芝居鑑賞教室	9/14(木) ～16(土)	実績	3回	3日	1,091人	(63.4%)	1,722人	
		計画	3回	3日	1,263人	(73.3%)	1,724人	
組踊鑑賞教室 「二童敵討」	11/15(水) ～18(土)	実績	7回	4日	2,968人	(73.6%)	4,035人	
		計画	7回	4日	3,114人	(77.2%)	4,033人	
【普及公演 小 計】 5 公演 (計画:5公演)			実績	13回	10日	5,347人	(71.7%)	7,455人
			計画	13回	10日	5,565人	(74.7%)	7,453人
【組踊等沖縄伝統芸能 合 計】 30 公演 (計画:30公演)			実績	40回	37日	16,771人	(72.3%)	23,193人
			計画	40回	37日	16,175人	(69.8%)	23,166人

※10月定期公演 組踊「大川敵討」は、台風22号接近のため、公演を中止した。

※11月企画公演「比嘉聴人間国宝認定記念 人間国宝・至芸の宴」を追加実施した。

2. 営業・広報

- ・ 国立劇場おきなわ友の会会報誌やメールマガジン等により公演の周知を図った。
- ・ 県内約 800 か所の教育機関、主要企業等、県内約 690 か所の公民館等にチラシや年間リーフレットを配布し、また、県内約 230 か所の老人会に公演情報や劇場取組を周知することで、団体客の誘致に努め

た。

- ・ 各公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体へ訪問や資料送付等を行い、団体客の誘致に努めた。
- ・ 県内8か所の観光施設に当劇場の専用ラックを設置し、劇場及び公演の周知を図った。
- ・ 6月公演から、県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行い、団体客の誘致に努めた。
- ・ 国立劇場おきなわ公式Facebookにおいて、劇場、琉球芸能、公演等に関する情報を発信したほか、ファンとの交流を図った。
- ・ 1月定期公演 琉球舞踊「新春琉舞名人選」では、公演2日間計約200名に近隣の高校の茶道部による恒例の呈茶を実施し、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント(カレンダー、劇場グッズ等の詰め合わせ)を行い、初春公演の雰囲気盛り上げた。
- ・ 多言語表示(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)による自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内のほか空港及び観光案内所等に配布した。
- ・ 旅行業者等と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを企画し、集客を図った。
- ・ チケット購入者限定で公演前に組踊ワークショップやしまくとぅば講座を開催し、集客を図った。
- ・ 劇場共通ロビーに公演案内パネルを特設し、公演周知に努めた。
- ・ 各公演の特性にあわせ、外国関係団体、近隣ホテル、芸能団体、三線販売店、児童館等に対し営業を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演事業委員会を8月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

4. アンケート調査

30公演にて実施(34回)した。

回答数4,784人(配布数7,731人、回収率61.9%)。回答者の92.1%が概ね満足と答えた(4,404人)。

うち1回を「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」で実施した。

回答数108人(配布数160人、回収率67.5%)。回答者(国籍問わず)の89.8%(97人)が満足と答え、外国人は82.4%(34人中28人)が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(11月企画「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(10・11月実施の5公演)
- ・ 「国立劇場寄席」「比嘉聰人間国宝認定記念 人間国宝・至芸の宴」を除く全公演に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績16,771人/目標16,175人(達成度103.7%)

《自己点検評価》

○ 自己評価

A

(根拠)

- ・ 制作方針・計画のとおり、上演機会が少ない優れた組踊及び沖縄芝居の上演、再演を待望する声の高かった新作組踊「初桜」、「喜劇『ペーちゃんの恋人』」の再演、アジア太平洋地域の芸能等海外交流を目的とした公演を継続的に実施した。
- ・ 青少年を対象にした組踊鑑賞教室や、琉球舞踊、沖縄芝居等多様な鑑賞教室の上演に加え、さらに親子・社会人・外国人向けの入門企画の実施により、沖縄伝統芸能の普及を図った。
- ・ 「組踊300年」に向けて、29年度は朝薫五番から「二童敵討」をテーマ作品に掲げ、一つの作品を通

して沖縄伝統芸能を横断的に捉えて組踊、沖縄芝居、民俗芸能の公演を連続して実施し、企画について好評を得た。

- ・ 7月企画公演では、平成28年1月に初演し好評を得た嘉数道彦芸術監督作・演出の新作組踊「初桜」を、練り直しを図り、上演した。時代に翻弄される人間の儚さをテーマに、古典本来の様式を踏まえつつ、組踊の新たな可能性を探る作品として、好評を得た。
- ・ 10月企画公演「ゆらていく遊ば」は、「琉球芸能の俳優祭」として引き続き実施し、幕間を含めて出演者と観客が身近に交流する活気溢れる公演となった。
- ・ 2月企画公演「御冠船踊と琉狂言」では、上演機会の途絶えた琉狂言を復曲したほか、上演記録だけが残っている御冠船踊については、国立劇場おきなわ創作舞踊大賞入賞者に振付を委嘱して作品化を図り、いずれも好評を得た。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 組踊公演では、上演機会の少ない優れた演目について、5月に「二山和睦の巻」を平成20年以来9年ぶりに、8月に「微行の巻」を平成17年以来12年ぶりに上演した。上演にあたっては、両作品とも、これまで時間的な制約により割愛してきた音楽や台詞を復活させ、全編上演に挑み、復曲作品の技能継承と研鑽に努め、充実した内容の舞台を制作することができた。
- ・ 上演回数の多い組踊についても、適材適所の配役を実現させて取り組んだほか、公演第一部の舞踊には季節に因んだ演目を組み込み、女性地謡を起用するなど、多様な工夫を施した。
- ・ 琉球舞踊公演では、上演機会の少ない演目も取り上げ、他の公演では見られない流派を超えた配役による打組舞踊の企画等により、新たな魅力を紹介することができた。
- ・ 沖縄芝居公演においても、2月に史劇「護佐丸と阿麻和利」を国立劇場おきなわで初めて上演した。多数の出演者を揃え、国立劇場の舞台機構を最大限に活用した華やかな舞台となったほか、中堅・若手を大役に抜擢することで、技芸の継承を着実に行うことができた。
- ・ 11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能『吹く』」は、吹きものに焦点を当て、沖縄・大和・中国・韓国の音楽を紹介した。それぞれに解説を加えることで観客の理解も促され、楽器・音楽の特性やアジア圏内における類似性を照らし出すことができ、好評を得た。
- ・ 29年度のテーマ作品「二童敵討」について、11月鑑賞教室では学校団体等を対象に解説を付して分かりやすく上演したほか、1月定期公演では、立方を主役から脇役まで人気と実力を兼ね備えたメンバーで固め、地謡にも重要無形文化財(各個認定)を配し、質の高い舞台が実現した。なお、その後、国立文楽劇場における3月琉球芸能公演でも、同じ配役で「二童敵討」を上演した。さらに同じテーマで2月沖縄芝居公演「史劇『護佐丸と阿麻和利』」と3月民俗芸能公演「忠臣護佐丸」を続けて上演し、琉球芸能の奥深さと広がりを実感できる特集とすることができた。
- ・ 3年目を迎え定着してきた普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」については、29年度から外部演出を起用し、充実した企画を目指して上演したほか、親子・社会人・外国人をそれぞれ対象とした「組踊鑑賞教室」を上演し、沖縄伝統芸能の普及を図った。
- ・ 沖縄県の補助事業、文化プログラム等を活用して貸切バス費用助成事業や組踊ワークショップを実施したことで、多くの団体客等を勧誘することができた。
- ・ 外国人や海外からの来沖者を誘客するにあたり、「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、沖縄県、沖縄県教育委員会、近隣ホテル、外国関係団体等に公演周知及び誘客を図ることにより、計画的に営業活動に取り組むことができた。
- ・ 年度の目標入場者数を達成し、また、26年度に次ぐ過去2番目に高い入場率となった。友の会会員に対する公演チラシ送付サービスを毎月実施したこと、沖縄県の補助事業等を活用して貸切バス費用助成事業を実施したこと、毎年好評の8月実施の劇場バックステージツアーの参加条件である購入対象公演に、今回初めて7月「琉球舞踊鑑賞教室」と8月「親子のための組踊鑑賞教室『女物狂』」の普及公演2公演を対象とし、夏休み期間中の親子連れ等の取り込みに成功したこと等により、入場率85%を超える公演が10公演と過去最高を記録したことが、全体として目標を達成した要因となった。
- ・ 29年度について、目標入場者数16,331人に対する入場者数は実績で16,771人であり、数値的には2.7%の増にとどまるものだが、28年度の実績と比較すると、入場者数15,573人(28年度実績)に対し7.7%増加しているほか、入場率64.1%(28年度実績)が72.3%(29年度実績)で8.2ポイント上回っている。従前より、アンケート結果において満足度は非常に高い傾向を示し、伸ばす余地が非常に少ないものであるが、91.6%(H28)から92.1%(29年度)へとさらに向上している。集客に苦戦する年度初め(4、5月)に、パネル展や写真展を開催する等、来場者の満足度をあげる企画に取り組んでおり、制作面における創意工

夫に加え、満足度の向上及び入場者数の確保に取り組んだことに対し、一定の効果があつたことを示している。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 11月の「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」や「アジア太平洋地域の芸能『吹く』」は厳しい集客状況となった。今後も、公演と併せて実施している組踊ワークショップ、組踊鑑賞ツアー、友の会バスツアー、国立劇場おきなわ友の会公演会等の集客に繋がる各種イベントを継続しつつ、新たな顧客層の掘り起こしを行うために友の会入会キャンペーン等の新たな取組を検討し、また、公演内容に即した広報宣伝・営業を各課連携して実施する必要がある。

<7> 演目の拡充

《主要な業務実績》

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業

- ・ 復活上演用準備台本「曾我祭俠競」「鳴響御未刻太鼓」の作成
- ・ 上演用準備台本「升鯉滝白旗」の作成
- ・ 「七重咲浪花土産」の台本の補綴

2. 歌舞伎の新作脚本募集

- ・ 募集要項を見直し、応募規定の一部を変更の上、29年10月より30年3月末まで応募を受付

3. 歌舞伎における復活等の上演

- ・ 復活通し狂言の再演(10月歌舞伎公演「靈験亀山鉾」、初春歌舞伎公演「世界花小栗判官」)
- ・ 昭和50年代を最後に上演が途絶えていた新歌舞伎の名作「坂崎出羽守」「沓掛時次郎」の上演(11月歌舞伎公演)
- ・ 初代中村吉右衛門が練り上げた「隅田春妓女容性」の演出の復活(12月歌舞伎公演)

4. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業

- ・ 「花魁荅八総」滝田城の段の上演(文楽劇場10月「復曲試演会」)

5. 大衆芸能の新作脚本募集

- ・ 平成29年度(第19回)大衆芸能脚本募集浪曲部門の新作脚本を募集し、佳作3篇、奨励賞2篇を決定

6. 能楽における新作及び復曲の上演

- ・ 新作狂言「鮎」を委嘱初演(12月特別企画公演)
- ・ 復曲及び新作の再演(4公演4演目)
- ・ 台本及び演出の見直しによる上演(2公演3演目)

7. 組踊等沖繩伝統芸能における新作組踊等の上演と創作舞踊大賞の作品募集

- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演(6公演)
- ・ 新作の上演・再演(5公演)
- ・ 第8回国立劇場おきなわ創作舞踊大賞を募集し、奨励賞1作品、佳作1作品を決定

8. 創作委嘱作品の上演等

- ・ 邦楽「箏、唐箏、瑟、二十五絃箏のための過現反射音形調子」の新作委嘱初演(本館6月邦楽公演)
- ・ 新作狂言「鮎」の委嘱初演(12月企画公演・再掲)
- ・ 二才踊「青雲」の新作委嘱初演(作舞：田口博章、国立劇場おきなわ2月企画公演)
- ・ 女踊「思羽」の新作委嘱初演(作舞：比嘉いずみ、国立劇場おきなわ2月企画公演)

《業務実績詳細》

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業

- ・ 17年度作成の「復活上演候補演目一覧」の見直しの一環として、四世鶴屋南北の未翻刻作品「曾我祭俠競」「鳴響御未刻太鼓」の補綴原稿の提出を受け、復活上演用準備台本を作成した。
- ・ 舞踊の候補演目「月雪花鈍画掛額」「命懸色の二番目」については、補綴原稿の内容を再検討し、30年度中に作成する。また、「七重咲浪花土産」については、30年5月舞踊公演での上演に向けて補綴台本を作成した。
- ・ 国立劇場文芸研究会の補綴作品につき、「升鯉滝白旗」は、補綴原稿の検討を終え、上演用準備台本を作成した。「當種八幡祭」は、補綴案の内容を引き続き検討し、30年度以降の完成を目指す。

2. 歌舞伎の新作脚本募集

- ・ 上演の可能性を広げるため応募要項を見直し、上演時間が1時間強になることを想定して、原稿の制限字数を「400字詰原稿用紙30枚以上100枚以内」から「400字詰原稿用紙60枚以内」に変更した。また、制限字数の短縮に応じて、賞金の金額も、優秀作を200万円から100万円に、佳作を50万円から30万円に変更した。

- ・ 29年10月から30年3月末まで応募を受け付けた。ポスター・チラシの掲示・配布のための協力団体の選定やネットメディアの利用、興行会社との協力方法を検討し、募集の周知に努めた。応募総数は124篇。30年度に選考及び贈賞式を実施する。

3. 歌舞伎における復活等の上演

- ・ 10月歌舞伎公演で取り上げた「霊験亀山鉾」は、平成14年に70年ぶりの復活場面を中心に上演して好評を博した作品であるが、台本や演出を練り上げて上演した。また、初春歌舞伎公演「世界花小栗判官」は、平成12年に復活した「姫競双葉絵草紙」を原作にした作品であるが、今回は新たに台本を補綴して上演した。復活狂言の再演にあたって台本・演出を見直したことにより、舞台の完成度を高め、作品のレパートリー化を図った。
- ・ 11月歌舞伎公演は、名作でありながら昭和50年代を最後に上演が途絶えていた新歌舞伎の作品「坂崎出羽守」「沓掛時次郎」を取り上げ、歌舞伎のレパートリーの幅の広さを示すとともに、次世代への継承に寄与した。
- ・ 12月歌舞伎公演で取り上げた「隅田春妓女女性」は、昭和53年に原作に即して上演したが、今回は、初代中村吉右衛門の芸が当代に継承されることを意図して、初代が練り上げてきた演出を57年ぶりに復活するとともに、通し狂言として上演した。

4. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業

- ・ 文楽劇場では、滝沢馬琴「里見八犬伝」を題材とした「花魁蒼八総」のうち、28年度までに犬塚信乃の物語である伴作住家より芳流閣の段までの復曲を行ったが、29年度は物語の前半に当たる伏姫と犬の八房の物語の発端にあたる滝田城の段の復曲を行い、復曲試演会を実施した(10/10)。

5. 大衆芸能の新作脚本募集

- ・ 平成29年度(第19回)大衆芸能脚本募集「浪曲」部門を実施、新作脚本の応募を8/1から8/31まで募集(応募総数24篇)。11/29に選考会を開催し、佳作3篇、奨励賞2篇を決定した。選考結果は2/15に公表し、2/28に贈賞式を実施した。

平成29年度(第19回)大衆芸能脚本募集「浪曲」部門

佳作「貧乏公方最後の意気地」鶴祥一郎、「歌川国芳一門 黒猫異聞」北角文月、
「取上婆 おみつ」池沼里光

奨励賞「ソメイヨシノ縁起」浦野貴子、「ラブレター」土居陽児

6. 能楽における新作及び復曲の上演

- ・ 新作の上演
12月企画公演 新作狂言「鮎」
- ・ 復曲の上演
7月企画公演 復曲能「名取ノ老女」(平成28年国立能楽堂復曲)
2月企画公演 復曲狂言「浦島」(平成11年国立能楽堂復曲)
- ・ 他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲の再演
5月企画公演 新作狂言「ふるしき」
7月企画公演 復曲能「鶉羽」
- ・ 台本及び演出の見直しによる上演
6月定例公演 狂言「伯養」
2月企画公演 復曲狂言「浦島」、能「玉井 龍宮城」

7. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演と創作舞踊大賞の作品募集

- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演
5月定期公演 組踊「二山和睦の巻」
7月定期公演 舞踊劇「村栄え」
7月普及公演 舞踊劇「浦島」
8月定期公演 組踊「微行の巻」
9月普及公演 時代舞踊歌劇「菖蒲の由来記」
2月定期公演 沖縄芝居「史劇『護佐丸と阿麻和利』」

- ・ 新作の上演・再演
 - 7月企画公演 新作組踊「初桜」
 - 8月普及公演 新作組踊「組踊版・シンデレラ」
 - 10月企画公演 喜劇「手水恋模様其ノ後ノ嘶～続・手水の縁～」
 - 12月企画公演 新作組踊「太鼓の縁」、第8回国立劇場おきなわ創作舞踊大賞受賞作等を上演
 - 3月企画公演 喜劇「ペーちゃんの恋人」
- ・ 復曲の上演
 - 2月研究公演 琉狂言「科当」「墨塗」
- ・ 創作舞踊大賞の作品募集

第8回国立劇場おきなわ創作舞踊大賞を実施、創作舞踊(琉球舞踊)を5/8から7/7まで募集(応募3件)。9/18に実演審査を実施し、奨励賞1作品、佳作1作品を決定した。受賞作品は12/9に企画公演「創作舞踊と新作組踊『太鼓の縁』」で上演した。

 - 奨励賞「綾結び」喜屋武愛香
 - 佳作「赤嶺里之子」嘉数幸雅
- ・ 創作舞踊大賞入選作品の積極的な活用

過去の国立劇場おきなわ創作舞踊大賞入選作を、組踊公演の第一部において再演した。再演の機会を設けることは、「創作舞踊大賞」制度の周知になるほか、舞踊家にとっては作品を練り直すことで、新たな創作意欲の創出に繋がるものであり、伝統芸能の継承発展の一助とすることができた。

 - 8月定期公演 組踊「微行の巻」
(「花心」作舞・平良恵子/第7回創作舞踊大賞・大賞受賞作品)

8. 創作委嘱作品の上演等

- ・ 本館6月邦楽公演において、古代楽器の唐箏(昭和62年国立劇場復元製作)、瑟(昭和63年国立劇場復元)を用いた「箏、唐箏、瑟、二十五絃箏のための過現反射音形調子」を創作した。作曲家には国内外幅広く活躍している山本和智を迎え、演奏家には気鋭の若手箏曲家を起用し、箏曲の可能性を拓く委嘱作品を上演することができた(新作委嘱初演)。
- ・ 能楽堂12月特別企画公演において、平成19年以来10年ぶりとなる新作狂言「鮎」を制作・初演した(2日4公演)。作家の池澤夏樹に台本執筆を依頼し、野村萬斎を演出・主演に起用することで、見巧者ばかりでなく、多くの初心者が来場し、専門委員からは公演の成功を高く評価された(新作委嘱初演)。
- ・ 国立劇場おきなわ2月研究公演「御冠船踊と琉狂言」では、上演記録だけが残っている御冠船踊について、二才踊「青雲」の作舞を田口博章に、女踊「思羽」の作舞を比嘉いずみに委嘱した。両者とも、過去の国立劇場おきなわ創作舞踊大賞入賞者であり、いずれも好評を得た(新作委嘱初演)。

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 歌舞伎では、四世鶴屋南北の未翻刻作品「曾我祭俠競」「鳴響御未刻太鼓」の復活上演用準備台本、国立劇場文芸研究会の補綴による「升鯉滝白旗」の上演用準備台本を作成した。舞踊では、「七重咲浪花土産」の上演台本を作成した。また公演についても、過去の台本、演出の見直しによる再演や、演出の復活等に取り組んだ。
- ・ 能楽堂では、12月特別企画公演で国立能楽堂として10年ぶりとなる新作狂言を台本執筆に作家の池澤夏樹、演出・補綴・主演に野村萬斎を起用して上演した。また過去に国立能楽堂で復曲した能「名取ノ老女」、狂言「浦島」を再演したほか、他の能楽堂で復曲・新作された優れた作品を再演、さらに台本及び演出の見直しを試みるなど、能楽界における演目の拡充に積極的に取り組んだ。
- ・ 文楽劇場では、文楽の復曲作業を順調に実施し、「花魁荅八総」のうち、29年度は物語の前半にあたる伏姫と犬の八房の物語の発端にあたる滝田城の段の復曲と復曲試演会を行い、レパートリーの拡充に繋がる取組を実施した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、組踊の様式を基に現代にも通じるテーマを扱った新作組踊「初桜」、組踊のパロディーとして遊び心満載に制作した新作喜劇「手水恋模様其ノ後ノ嘶～続・手水の縁～」等、特色豊かな新作作品を制作した。どれも観客のニーズに応え、沖縄伝統芸能の発展に寄与する作品として発信する

ことができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館 10 月歌舞伎公演「霊験亀山鉾」や初春歌舞伎公演「世界花小栗判官」は、過去の台本、演出を見直して再演した。11 月歌舞伎公演は、新歌舞伎の名作を再発見する好企画と評価された。12 月歌舞伎公演「隅田春妓女容性」は、途絶えていた演出を復活して芸の継承を図った。いずれの公演も、歌舞伎の継承とレパートリーの拡充に寄与し、国立劇場ならではの取組、功績として高い評価を受けた。
- ・ 能楽堂では、新作狂言を委嘱初演してレパートリーの拡充を推進するとともに、著名な作家に委嘱することで斯界のみならず大きな話題を提供、新たな観客層に対しても能楽をアピールできた。その他、復曲・新作作品の再演を通して、能楽界における新たな演目の定着に資する試みを積極的に推進した。
- ・ 文楽劇場では、文楽の復曲作業を順調に実施し、「花魁蒼八総」のうち、29 年度は物語の前半にあたる伏姫と犬の八房の物語の発端にあたる滝田城の段の復曲と復曲試演会を行い、レパートリーの拡充に向けた準備を進めることができた。
- ・ 国立劇場おきなわの琉球舞踊公演では、上演機会の少ない演目も取り上げ、他の公演では見られない流会派を超えた配役による打組踊の企画等により、新たな魅力を紹介することができた。7 月企画公演では、平成 28 年 1 月に初演し好評を得た嘉数道彦芸術監督作・演出の新作組踊「初桜」を、練り直しを図り、上演した。時代に翻弄される人間の儂さをテーマに、古典本来の様式を踏まえつつ、組踊の新たな可能性を探る作品として、好評を得た。10 月企画公演「ゆらていく遊ば」では、組踊「手水の縁」の後日談を内容とする新作の沖縄芝居を上演し、「琉球芸能の俳優祭」として、幕間を含めて出演者と観客が身近に交流する活気溢れる公演となった。2 月研究公演「御冠船踊と琉狂言」では、上演機会の途絶えた琉狂言 2 演目を復曲したほか、上演記録だけが残っている御冠船踊の 2 演目については、国立劇場おきなわ創作舞踊大賞入賞者に振付を委嘱して作品化を図り、いずれも好評を得た。

2-(1)-② 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

- ・ 各分野において専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催
- ・ アンケート調査の実施(77公演 86回、満足回答率 89.3%)

2. 共催、受託などによる公演

- ・ 文化庁芸術祭主催公演 6公演、協賛公演 25公演を実施
- ・ 諸団体と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施
- ・ 能楽堂が受託公演を実施(名取市文化会館開館 20周年記念事業)
- ・ 「beyond2020プログラム」に参加

3. 全国各地の文化施設等における公演

- ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演、歌舞伎鑑賞教室神奈川公演を実施
- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演に職員スタッフを派遣し、現地にて国立劇場の技術やノウハウを提供
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演を実施(1公演)

4. 国際文化交流公演等

- ・ 28年度に引き続き、歌舞伎・文楽・能楽・組踊の各ジャンルにおいて、外国人向け公演を5公演6回実施
- ・ 本館「Discover KABUKI」において、在日各国大使等の公演招待を実施
- ・ 能楽堂において、外国人向けのミニ公演を3回実施【新規】
- ・ 国立劇場おきなわにおいて、アジア・太平洋地域の芸能を紹介する企画を継続(「吹く」)
- ・ 2017年ユネスコ人類無形文化遺産海外招待公演(韓国国立無形遺産院オルスマル大公演場)において、組踊「執心鐘入」ほかを上演

《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

(1) 外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

(2) アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答 (回答数)
歌舞伎	7公演 9回	5,917人	68.4%(8,646人)	85.8%(5,077人)
文楽(本館小劇場)	3公演 3回	1,001人	72.7%(1,377人)	86.9%(870人)
文楽(文楽劇場)	5公演 6回	1,543人	54.2%(2,846人)	94.4%(1,457人)
舞踊・邦楽等	9公演 11回	4,218人	69.6%(6,059人)	89.3%(3,765人)
大衆芸能(演芸場)	13公演 13回	2,127人	61.9%(3,435人)	92.7%(1,971人)
能楽	10公演 10回	3,024人	58.1%(5,202人)	87.6%(2,648人)
小計	47公演 52回	17,830人	64.7%(27,565人)	88.5%(15,788人)
組踊等沖縄伝統芸能	30公演 34回	4,784人	61.9%(7,731人)	92.1%(4,404人)
合計	77公演 86回	22,614人	64.1%(35,296人)	89.3%(20,192人)

2. 共催、受託などによる公演

(1) 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	本館大劇場：10月歌舞伎公演 演芸場：10月特別企画公演 能楽堂：11月特別企画公演 文楽劇場：11月文楽公演、10月舞踊公演 国立劇場おきなわ：11月企画公演
協賛公演	本館大劇場：11月歌舞伎公演 本館小劇場：10月邦楽公演(2公演)、11月雅楽公演、11月舞踊公演 11月舞踊公演、10月邦楽公演(2公演)、11月雅楽公演 演芸場：10月・11月定席公演(4公演)、10月・11月国立名人会(2公演)、 11月特別企画公演 能楽堂：10月・11月定例公演(4公演)、10月普及公演、10月・11月企画公 演(2公演) 文楽劇場：11月上方演芸特選会 国立劇場おきなわ：10月定期公演(2公演※)、10月・11月企画公演(2公演)、 11月普及公演

※国立劇場おきなわ10月定期公演 組踊「大川敵討」(平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演)は、台風22号接近のため、公演を中止した。

(2) 国・地方公共団体等との後援・協力

ア 鑑賞教室等における地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等との後援・協力

- ・ 歌舞伎・能楽・文楽(本館)鑑賞教室における後援・協力等
後援：文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会
協力：公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社 JTB(平成30年1月に株式会社ジェイティービーから社名変更)、株式会社日本旅行、近畿日本ツーリスト株式会社、公益財団法人文楽協会(文楽のみ)
- ・ 社会人のための歌舞伎鑑賞教室における後援・協力等
後援：一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京青年会議所
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室期間中に実施する「親子で楽しむ歌舞伎教室」における共催・後援等
共催：東京都教育委員会
後援：文化庁、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、一般社団法人東京都小学校PTA協議会、東京都公立中学校PTA協議会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
- ・ 文楽劇場6月文楽鑑賞教室における後援・協力等
後援：文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局
協力：公益財団法人文楽協会
- ・ 組踊鑑賞教室における後援
後援：沖縄県教育委員会、一般社団法人沖縄県経営者協会、公益社団法人沖縄県工業連合会、沖縄県商工会連合会、那覇商工会議所、浦添商工会議所

イ 鑑賞教室地方公演における共催・後援等

- ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演
共催：公益財団法人静岡県文化財団、静岡県
後援：文化庁、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会
- ・ 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演
共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会(神奈川県立青少年センター内)
後援：文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会

ウ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)

エ その他の自主公演等における後援・協力等

- ・ 11月・3月歌舞伎公演における読売新聞社の協力
- ・ 12月邦楽公演「夏目漱石生誕150年記念 演奏と朗読でたどる漱石と邦楽」における株式会社岩波書店、新宿区、公益財団法人新宿未来創造財団の協力

オ 外部の公演等への後援・協力等

(本館)

- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「小学生のための歌舞伎体験教室」(7/2、8、8/2～8、本館大劇場、本館小劇場、本館稽古場、伝統芸能情報館)への協賛
- ・ よこすか市民会議(YCC)主催の「2017 よこすか市民会議まちづくり文化フェア」のうち、「よこすか芸術文化フェア 2017」の一環として開催された「伝統文化学習鑑賞会(歌舞伎学習鑑賞会)」(7/15、伝統芸能情報館レクチャー室)への協力
- ・ 文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟主催の「第28回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」(8/26～27、本館大劇場)への協賛
- ・ アーツカウンシル東京主催の「大江戸寄席と花街のおどり」(9/18、本館大劇場)への協力
- ・ 公益財団法人日本財団主催の「にっぽん文楽 in 上野の森」(10/14～17)への協力
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「第20回伝統歌舞伎保存会研修発表会」(10/21、本館大劇場)への協賛
- ・ 公益社団法人日本俳優協会、一般社団法人伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社が刊行する「ポケット版『かぶき手帖』2018年版」(1/2刊行)への協賛
- ・ 公益財団法人日本財団主催の「～震災復興支援～にっぽん文楽 in 熊本城」(3/17～20)への協力
- ・ 東京都、アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会主催の「キッズ伝統芸能体験」(5/17～3/29)への協賛
- ・ 早稲田大学坪内博士記念演芸博物館主催の演劇博物館創立90周年記念2018年度春季企画展「ニッポンのエンターテインメント―歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱」(3/23～8/5)への協力

(能楽堂)

- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「第40回納涼能」(7/21、国立能楽堂)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「さわってみよう能の世界」(8/3、国立能楽堂研修能舞台)への協力
- ・ 新作能「紅天女」再演(8/29 観世能楽堂、12/25 京都観世会館)への制作協力
- ・ 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会主催の「キッズ伝統芸能体験」開講式(9/24、国立能楽堂)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「第14回ユネスコ記念能」(10/6、国立能楽堂)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「能楽フェスティバル 2017-2020 第3回シンポジウム」(1/26、国立能楽堂)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「第58回式能」(2/18、国立能楽堂)への協力

(文楽劇場)

- ・ 大阪府立中之島図書館主催の展示「大阪四花街展」(4/3～28)への公演記録写真の貸出
- ・ 大阪市立中央図書館主催の展示(6/16～7/19)への過去の文楽公演ポスターと文楽人形首の製作工程の貸出
- ・ 阪神高速道路株式会社の阪神高速ミナミ交流プラザ(愛称 LoopA)での、文楽絵看板、文楽解説パネル等文楽関連資料の貸出(6/22～7/11、10/19～11/7)
- ・ 鶴澤藤蔵氏主催の「三回忌追善 九世竹本源太夫を偲ぶ会」(7/8、国立文楽劇場)への協力
- ・ 大阪市立大学主催「大阪市立大学文学部特別授業 上方文化講座 2017」(8/23～25)への文楽人形の特殊な仕掛けの手の貸出
- ・ 文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催(大阪市・公益財団法人文楽協会)「ムムム！文楽シリーズ」『中之島文楽』(9/29～10/1)、『春まつり文楽』(3/9～11)への協力
- ・ 大阪府立弥生文化博物館・大阪府教育委員会共催の大阪府立弥生文化博物館平成29年度冬季企画展「かけがえのない文化財を守る、伝える―大阪における歩みと展望―」(1/20～3/31)への文楽人形の貸出
- ・ 毎日放送・テレビ大阪・関西テレビ放送・ナレッジキャピタル主催の「うめだ文楽 2018」(2/2～4)への協力

(国立劇場おきなわ)

- ・ 平成29年度沖縄県文化観光戦略推進事業助成事業
国立劇場おきなわ県外公演
①「琉球舞踊と組踊」

- 12/6、1回、名古屋能楽堂
共催：CBC テレビ・中日新聞社・公益財団法人名古屋市文化振興事業団
- ・平成29年度国立劇場おきなわ普及促進事業
 - ①「男性舞踊家の会と『組踊版・スイミー』」
1/28、1回、大宜味村立大宜味小学校・大宜味中学校体育館
共催：大宜味村教育委員会・沖縄県
 - ②「男性舞踊家の会」
3/18、1回、マティダ市民劇場
共催：宮古島市教育委員会・沖縄県

(3) 「beyond2020 プログラム」への参加

29年7月「平成29年度独立行政法人日本芸術文化振興会主催公演・展示等事業」として「beyond2020プログラム」に一括で申請を行い、8月に文化庁より認証を受けた。

計193件

内訳：国立劇場35件、国立演芸場51件、国立能楽堂52件、国立文楽劇場36件

伝統芸能情報館19件

国立劇場おきなわでの公演等については、「平成29年度国立劇場おきなわ自主公演等」(38件)として、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団より申請を行った。

3. 全国各地の文化施設等における公演

- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、全国の文化施設等において公演を実施した。
 - ①6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演(共催公演)
6/26、2回、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ
共催：公益財団法人静岡県文化財団・静岡県、入場者数：1,476人(入場率93.3%)
 - ②7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演(共催公演)
7/26～27、4回、神奈川県立青少年センター
共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会、入場者数：2,071人(入場率72.9%)
 - ③名取市文化会館開館20周年記念事業 復曲能「名取ノ老女」、狂言「名取川」(受託公演)
10/1、1回、名取市文化会館
主催：名取市・公益財団法人名取市文化振興財団、入場者数：1,116人(入場率95.9%)
 - ④国立劇場おきなわ県外公演(沖縄県文化観光戦略推進事業)
 - ・「琉球舞踊と組踊」
12/6、1回、名古屋能楽堂、入場者数：488人(入場率77.5%)
 - ⑤国立劇場おきなわ普及促進事業
 - ・「男性舞踊家の会と組踊版・スイミー」
1/28、1回、大宜味村立大宜味小学校・大宜味中学校体育館、入場者数：320人(入場率100.0%)
 - ⑥国立劇場おきなわ普及促進事業
 - ・「男性舞踊家の会」
3/18、1回、宮古島市マティダ市民劇場、入場者数：732人(入場率86.1%)
- ・歌舞伎鑑賞教室の地方公演に職員スタッフを派遣し、現地の文化施設担当者との打合せから仕込み、舞台稽古、本番に至る流れの中で、国立劇場の技術やノウハウを提供した。上演に際しては、舞台機構上の制限を踏まえつつ、できる限り本館大劇場と同じ公演形態で実施した。他団体の文楽公演においても職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。

4. 国際文化交流公演等

(1) 国際文化交流公演

(本館)

- ・6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」
6/16、2回、本館大劇場
入場者数：2,650人(入場率87.2%)
アンケートの実施：【第1部】満足回答率80.1%(外国籍の満足回答率81.3%)
【第2部】満足回答率83.9%(外国籍の満足回答率86.1%)
- ・12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」

12/18、1回、本館小劇場
入場者数：554人(入場率100.2%)
アンケートの実施：満足回答率81.8%(外国籍の満足回答率85.0%)

(能楽堂)

- ・6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」
6/23、1回、能楽堂
入場者数：627人(入場率100.0%)
アンケートの実施：満足回答率89.4%(外国籍の満足回答率92.9%)
- ・2・3月外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」
2/9、3/9、3/23、3回、能楽堂研修能舞台
入場者数：258人(入場率86.0%)
アンケートの実施：満足回答率95.1%(外国籍の満足回答率96.5%)

(文楽劇場)

- ・6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」
6/17、1回、文楽劇場
入場者数：519人(入場率71.0%)
アンケートの実施：満足回答率90.5%(外国籍の満足回答率95.6%)

(国立劇場おきなわ)

- ・組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」
11/18、1回、国立劇場おきなわ大劇場
入場者数：164人(入場率28.9%)
アンケートの実施：満足回答率89.8%(外国籍の満足回答率82.4%)
- ・アジア・太平洋地域の芸能「吹く」
11/25、1回、国立劇場おきなわ大劇場
入場者数：200人(入場率35.2%)
アンケートの実施：満足回答率91.9%
- ・2017年ユネスコ人類無形文化遺産海外招待公演
8/5、1回、韓国国立無形遺産院オルスマル大公演場

(2) 海外の芸能関係者等の来場、見学等

- ・本館 7件60人
主な来場者：タイ文化省、日独青少年指導者セミナーの受入メンバー
- ・能楽堂 4件16人
主な来場者：ゲーテ・インスティトゥート総裁、日本台湾交流協会招聘者、シンガポールメディア関係者、イタリアメディア関係者
- ・文楽劇場 4件18人
主な来場者：リンカーンセンター(アメリカ ニューヨーク)ディレクター、韓国国立民俗博物館学芸員、現代美術作家(アメリカ ニューヨーク)、インドネシア バリ島 影絵芝居演者
- ・国立劇場おきなわ 1件27人
主な来場者：社団法人ソウル文化芸術会館連合会

(3) 在日各国大使等の公演招待

- ・本館「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」において各国駐日大使等大使館関係者を招待し、外国人来場者の誘致を図った(6/16、37か国61名が参加)。

【特記事項】

- ・10月歌舞伎公演で、天皇皇后両陛下の行幸啓があった(10/25)。

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演5公演及び協賛公演20公演を実施した。
- ・外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施、国・地方公共団体等との後援・協力、外部の公演や展示への協力等において目標を達成できた。
- ・28年度に引き続き、外国人向けの鑑賞教室を歌舞伎、文楽(本館及び文楽劇場)、能楽、組踊で実施し、いずれも高い評価を得た。本館では、上演に際して、大使館等への働きかけや、英語の字幕表示、音声ガイド(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語の5か国語)及びパンフレットの多言語化、さらに当日の外国人来場者の受け入れ態勢等について拡充を図った。文楽劇場では、解説等の企画に工夫を重ねるとともに、留学生関係団体・日本語学校等・空港・ホテル・観光案内所に2か国語(日本語・英語)版リーフレットを配布するなどの働きかけに努めた。
- ・能楽堂では、外国人のための能楽鑑賞教室のほか、能楽堂2階の研修能舞台でミニ公演を3回開催して外国人が気軽に能楽を鑑賞する機会を作った。【新規】
- ・国立劇場おきなわでは、沖縄県内外の自治体に働きかけ、県内では1月に大宜味村で「男性舞踊家の会」と「組踊版・スイミー」を、3月に宮古島市で「男性舞踊家の会」を、県外では12月に名古屋市で「琉球舞踊と組踊」(CBCテレビ、中日新聞社、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と共催)と題して組踊「手水の縁」と琉球舞踊を上演し、組踊をはじめとした沖縄伝統芸能を県内外に広く紹介した。「アジア・太平洋地域の芸能」は、吹きもの楽器に焦点を当て、日本・中国・韓国の各国の音楽を紹介することで、それぞれの楽器・音楽の独自性、アジア圏内における類似性を照らし出した。また、2017年ユネスコ人類無形文化遺産海外招待公演(韓国国立無形遺産院オルスマル大公演場)において、組踊「執心鐘入」他を上演し、海外に向けて沖縄伝統芸能の魅力を発信できた。
- ・国際文化交流公演等は、全体で前年度を大きく上回る入場者数を得た(前年度比104.5%)。

○ 良かった点・特色ある点

- ・能楽堂では、名取市及び公益財団法人名取市文化振興財団と協力し、27年度に国立能楽堂が復曲した能「名取ノ老女」と名取市を舞台にした狂言「名取川」を名取市文化会館にて制作・上演した。「復興と文化」という企画の中で復曲した「名取ノ老女」を東日本大震災の被災地である名取市で上演、1,000人を越える多くの地元の方々に提供できたことは大きな成果と考える。
- ・文楽劇場では、外部の公演や展示等の近年新規に催された文楽普及活動が毎年継続されて定着しつつあり、そうした催しへの各種協力が文楽公演の観客動員に繋がっている。
- ・国立劇場おきなわでは、県内2か所(大宜味村、宮古島市)のほか、県外1か所(名古屋市)で県外公演を実施し、沖縄伝統芸能を県内外に広く紹介することができた。
- ・「アジア・太平洋地域の芸能」では、例年の公演と異なり、アジア・太平洋地域に伝承される吹きもの楽器に焦点を当て、沖縄の笛・日本の雅楽・尺八、中国の笛子、韓国の大琴等を中心に紹介した。各国の演奏家の出演で、それぞれの楽器・音楽の独自性やアジア圏内における類似性を比較することができた。県内ではほとんどない企画であり、多様な音楽を一度に鑑賞・比較できる貴重な機会となった。
- ・2017年ユネスコ人類無形文化遺産海外招待公演(韓国国立無形遺産院オルスマル大公演場)を契機として、企画展「綱引きと芸能」(1~3月)において韓国国立無形遺産院の協力を得ることができた。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の公演 p.72

- オペラ p.74
- バレエ p.78
- 現代舞踊 p.81
- 演劇 p.83

現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等 p.86

2-(2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演

ア オペラ公演 名作と呼ばれる代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努め、それらをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、オペラの振興と普及を図る。年間 12 公演程度実施

イ バレエ公演 スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努め、それらをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興と普及を図る。年間 6 公演程度実施

ウ 現代舞踊公演 特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や、国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興と普及を図る。年間 4 公演程度実施

エ 演劇公演 新作上演を企画・発信するとともに、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興と普及を図る。年間 8 公演程度実施

(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 適切な鑑賞者数の目標設定

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

ウ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等

②全国各地の文化施設等における公演等

③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施

(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見の聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施

イ 我が国における現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施

①共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施

②各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施

2-(2)-① 現代舞台芸術の公演

《業務実績詳細》

1. 公演実績

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
オペラ	12 公演 オペラ劇場、中劇場	実績	53 回	53 日	78,623 人	(83.7%)	93,938 人
		計画	53 回	53 日	73,700 人	(78.5%)	93,938 人
バレエ	7 公演 オペラ劇場	実績	39 回	31 日	56,946 人	(84.4%)	67,488 人
		計画	39 回	31 日	54,000 人	(80.0%)	67,488 人
現代舞踊	4 公演 中劇場、小劇場	実績	12 回	11 日	6,461 人	(89.4%)	7,224 人
		計画	11 回	11 日	5,300 人	(81.7%)	6,484 人
演劇	8 公演 中劇場、小劇場	実績	171 回	137 日	68,826 人	(80.2%)	85,822 人
		計画	169 回	137 日	61,500 人	(76.3%)	80,654 人
総合計	31 公演	実績	275 回	232 日	210,856 人	(82.9%)	254,472 人
		計画	272 回	232 日	194,500 人	(78.2%)	248,564 人

<1> オペラ

《制作方針》

- ① 名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- ② 上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本公演 11 公演、鑑賞教室 1 公演を計画どおり実施
- ・ オペラ公演全演目で目標入場者数を達成(12 演目合計入場率 83.7%)
- ・ 「ジークフリート」「神々の黄昏」「松風」を新制作で上演
- ・ 楽劇「ニーベルングの指環」4 部作を「ジークフリート」「神々の黄昏」ともに高水準の内容で完結
- ・ 日本人作曲家による「松風」を世界各国で高い評価を得たプロダクションで新制作
- ・ 日本人歌手による「ジークフリート」ハイライトコンサートを上演

2. 営業・広報

- ・ 画像、動画を多用した HP 及び SNS (Facebook、Twitter) の活用により、興味を喚起
- ・ 2017/2018 シーズン全体を新国立劇場開場 20 周年記念シーズンとして総合的な広報活動を実施
- ・ 「松風」上演にあたり、あぜくら会との共催による特別イベントを能楽堂で開催
- ・ 定番のレパートリー作品ではレクチャー付き観劇プラン等で初心者向け団体営業を展開
- ・ 若年層向け特別優待制度 U25 優待メンバーズ等の実施により、学生及び若年層を勧誘

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全 12 公演で実施(17 回)、満足回答率 90.3%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「オテロ」	オペラ 劇場	4/9(日) ～22(土)	実績	5 回	5 日	6,453 人	(72.0%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	6,000 人	(67.0%)	8,960 人
「フィガロの結婚」		4/20(木) ～29(土・祝)	実績	4 回	4 日	6,128 人	(85.5%)	7,168 人
			計画	4 回	4 日	5,400 人	(75.3%)	7,168 人
楽劇「ニーベルングの指環」第 2 日 「ジークフリート」(新制作)		6/1(木) ～17(土)	実績	6 回	6 日	8,944 人	(83.2%)	10,752 人
			計画	6 回	6 日	8,700 人	(80.9%)	10,752 人
楽劇「ニーベルングの指環」第 3 日 「神々の黄昏」(新制作)		10/1(日) ～17(火)	実績	6 回	6 日	9,490 人	(88.3%)	10,752 人
			計画	6 回	6 日	8,700 人	(80.9%)	10,752 人
「椿姫」		11/16(木) ～28(火)	実績	5 回	5 日	8,020 人	(89.5%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	7,600 人	(84.8%)	8,960 人
「ばらの騎士」		11/30(木) ～12/9(土)	実績	4 回	4 日	6,170 人	(86.1%)	7,168 人
			計画	4 回	4 日	5,800 人	(80.9%)	7,168 人
「こうもり」		1/18(木) ～28(日)	実績	5 回	5 日	7,721 人	(86.2%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	7,600 人	(84.8%)	8,960 人

「松風」(新制作・日本初演)	オペラ 劇場	2/16(金) ～18(日)	実績	3回	3日	4,855人	(90.3%)	5,376人
			計画	3回	3日	4,000人	(74.4%)	5,376人
「ホフマン物語」		2/28(水) ～3/10(土)	実績	4回	4日	5,676人	(79.2%)	7,168人
			計画	4回	4日	5,000人	(69.8%)	7,168人
「愛の妙薬」		3/14(水) ～21(水・祝)	実績	4回	4日	5,013人	(69.9%)	7,168人
			計画	4回	4日	5,000人	(69.8%)	7,168人
「ジークフリート」ハイライトコンサート ー邦人歌手によるー	中劇場	5/17(水)	実績	1回	1日	596人	(67.3%)	886人
			計画	1回	1日	500人	(56.4%)	886人
【オペラ公演 小 計】 11 公演 (計画:11 公演)			実績	47回	47日	69,066人	(82.9%)	83,318人
			計画	47回	47日	64,300人	(77.2%)	83,318人
高校生のためのオペラ鑑賞教室 「蝶々夫人」	オペラ 劇場	7/10(月) ～15(土)	実績	6回	6日	9,557人	(90.0%)	10,620人
			計画	6回	6日	9,400人	(88.5%)	10,620人
【オペラ鑑賞教室 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	6回	6日	9,557人	(90.0%)	10,620人
			計画	6回	6日	9,400人	(88.5%)	10,620人
【オペラ 合 計】 12 公演 (計画:12 公演)			実績	53回	53日	78,623人	(83.7%)	93,938人
			計画	53回	53日	73,700人	(78.5%)	93,938人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ HP 及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画等を用いて、公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画等を掲載し、興味を喚起した。
- ・ 10 月から始まる 2017/2018 シーズン全体を新国立劇場開場 20 周年記念シーズンとしてすべての公演に 20 周年を表記し、新宿駅にジャンル横断でポスターを掲出するなどの総合的な広報活動を行った。
- ・ 「ジークフリート」「神々の黄昏」については特設サイトを開設し、より強い印象を与えるデザインと内容での公演紹介を行った。
- ・ 「ジークフリート」「神々の黄昏」では指揮を務める飯守泰次郎オペラ芸術監督による音楽講座を動画で制作し、インターネットで広く発信して作品理解に寄与した。
- ・ 「ジークフリート」「神々の黄昏」について、インターネットラジオ「OTTAVA」にて特集番組を放送した。制作スタッフのピアノ演奏による解説やトークを行い、その後 YouTube でも配信された。
- ・ 「ジークフリート」のハイライトコンサートを上演することで日本人歌手の出演機会を増やすと同時に、翌月に上演される長大な本作鑑賞の事前学習として作品に親しむ場も提供した。
- ・ 「松風」では、公演に先立ち、あぜくら会との共催により特別イベント「能とオペラ『松風』をめぐって」を能楽堂で開催、作品の基盤となった能の実演と、能とオペラ双方の関係者による座談会を行い、作品の理解と関心を高めた。
- ・ 「松風」では 2 回目公演終演後に作曲家、演出家によるアフタートークを実施し、観客の作品理解を深めた。
- ・ 「ホフマン物語」では、バレエ「ホフマン物語」との同時購入キャンペーンを実施、販促に努めた。また、U25 優待メンバーズに対しても、バレエ「ホフマン物語」との W 観劇セット券を案内し、併せて販売促進に努めた。
- ・ e メール Club (メールマガジン) 登録者に対し、発売直前に発売情報と聴きどころ見どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後に来場者の感想等を、HP や SNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ プレイガイド会員及び新国立劇場 Web ボックスオフィス登録者に対し、一般発売に先駆けた先行発売を実施した。
- ・ 音楽スタッフ等を講師に起用したオペラ初心者向けのレクチャー付きの観劇プランや食事付きの観劇プランを実施し、団体誘致を行った。
- ・ チケット購入者に対して職員によるオペラ公演の事前レクチャーを実施した。
- ・ 学校の芸術鑑賞担当先生向けに、生徒らに実施している事前レクチャーを体験いただいた上で、公演

を鑑賞する体験会を実施し、学校団体鑑賞誘致に努めた。

- ・ 芸術鑑賞を行う学校団体等(オペラ鑑賞教室含む)のニーズに対応して、鑑賞の事前学習として複数の学校を訪問し、職員によるレクチャーを実施した。
- ・ カード会社、生活協同組合等に対して団体販売を行った。また、出演者や旅行代理店、企業、高等学校、大学等に対し、積極的に営業活動を行った。
- ・ 若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」、「U39 オペラ優待メンバーズ」、「U15 ファミリー優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

4. アンケート調査

全 12 公演で実施(17 回)した。

回答数 7,925 人(配布数 21,980 人、回収率 36.1%)。回答者の 90.3%が概ね満足と答えた(7,155 人)。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念公演(2017/2018 シーズン全体)
- ・ 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭主催公演・オープニング(「神々の黄昏」)
- ・ 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭協賛公演(「椿姫」「ばらの騎士」)
- ・ 全公演において、字幕による歌詞の日本語訳を表示した。
- ・ 「松風」はNHK が収録を行い、地上波で放送された(3/18)。
- ・ 読売日本交響楽団が第 49 回(2017 年度)サントリー音楽賞を受賞した(「神々の黄昏」ほかの成果に対して)。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 78,623 人／目標 73,700 人(達成度 106.7%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 12公演(本公演11公演、鑑賞教室1公演)を計画どおり実施し、全公演で目標値を上回る入場者数を達成した。
- ・ いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た(アンケート満足率90.3%)。
- ・ 新制作のうち、「ジークフリート」「神々の黄昏」はフィンランド国立歌劇場との協力により制作した。
- ・ 日本人作曲家の作品である「松風」を海外で高い評価を得たプロダクションで新制作・日本初演した。公演に先立ち、あぜくら会との共催で特別イベントを能楽堂で実施、オペラが依拠した同名の能作品の実演と座談会により作品理解と公演への期待感醸成に努めた。
- ・ 日本人歌手による「ジークフリート」ハイライトコンサートを上演し、日本人歌手の活躍の場を提供した。
- ・ 「フィガロの結婚」「椿姫」「ばらの騎士」「こうもり」は再演を重ねているレパートリーであり、いずれも85%以上の入場率を達成した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。「ジークフリート」「神々の黄昏」はフィンランド国立歌劇場との協力により制作した。

- ・ 日本人作曲家の作品である「松風」は、海外で高い評価を得たプロダクションで新制作・日本初演した。コレオグラフィック・オペラという特色ある演出版を周知するため、広報・宣伝における映像・写真の活用のほか、あぜくら会との共催で「能とオペラ」をテーマにしたイベントを実施するなどして前評判を高め、3公演日とも高い入場率となった(入場率90.3%、達成率121.4%)。
- ・ 「ジークフリート」ハイライトコンサートでは日本人歌手の活躍の場を提供したと同時に、続いて上演される長大な本作を2時間程度の短縮版としたことで、本公演鑑賞の導きとして初心者にも親しみやすい公演となった。
- ・ 「椿姫」「こうもり」「ホフマン物語」「愛の妙薬」における、職員によるオペラ公演の事前レクチャーでは、有料老人ホームに対して劇場までの往復送迎を付加した観劇ツアーを企画して実施し、オペラファンでありながら劇場に通うことが困難な観客層を集客することができた。

<2> バレエ

《制作方針》

- ① スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- ② 上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本公演 6 公演とこどものためのバレエ劇場 1 公演を計画どおり実施
- ・ バレエ公演全体で目標入場者数を達成(7 演目合計入場率 84.4%)
- ・ 「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」「ニューイヤー・バレエ」を新国立劇場バレエ団の多彩なキャストで上演し、いずれも 92%を超える入場率
- ・ 「くるみ割り人形」を全国公演も視野に入れ新国立劇場オリジナル作品として新制作

2. 営業・広報

- ・ 画像、動画を多用した HP 及び SNS (Facebook、Twitter) の活用により、興味を喚起
- ・ 2017/2018 シーズン全体を新国立劇場開場 20 周年記念シーズンとして総合的な広報活動を実施
- ・ バレエ、現代舞踊、演劇公演を組み合わせた「こども劇場セット」を販売
- ・ 学校やバレエ教室等への団体営業、家族やジュニア層を意識した観客サービスを展開

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全 7 公演で実施(7 回)、満足回答率 96.4%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「眠れる森の美女」	オペラ 劇場	5/5(金・祝) ～13(土)	実績	5 回	5 日	8,273 人	(92.3%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	7,300 人	(81.5%)	8,960 人
「ジゼル」		6/24(土) ～7/1(土)	実績	6 回	5 日	8,355 人	(77.7%)	10,752 人
			計画	6 回	5 日	7,800 人	(72.5%)	10,752 人
「くるみ割り人形」(新制作)		10/28(土) ～11/5(日)	実績	7 回	6 日	11,799 人	(94.1%)	12,544 人
			計画	7 回	6 日	10,200 人	(81.3%)	12,544 人
「シンデレラ」		12/16(土) ～24(日)	実績	8 回	6 日	12,766 人	(89.0%)	14,336 人
			計画	8 回	6 日	11,800 人	(82.3%)	14,336 人
ニューイヤー・バレエ		1/6(土) ～7(日)	実績	2 回	2 日	3,358 人	(93.7%)	3,584 人
			計画	2 回	2 日	3,000 人	(83.7%)	3,584 人
「ホフマン物語」		2/9(金) ～11(日・祝)	実績	3 回	3 日	3,337 人	(62.1%)	5,376 人
			計画	3 回	3 日	4,400 人	(81.8%)	5,376 人
【バレエ公演 小 計】		6 公演 (計画:6 公演)	実績	31 回	27 日	47,888 人	(86.2%)	55,552 人
			計画	31 回	27 日	44,500 人	(80.1%)	55,552 人
こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」	オペラ 劇場	7/27(木) ～30(日)	実績	8 回	4 日	9,058 人	(75.9%)	11,936 人
			計画	8 回	4 日	9,500 人	(79.6%)	11,936 人

【バレエ鑑賞教室 小 計】	1 公演 (計画:1 公演)	実績	8 回	4 日	9,058 人	(75.9%)	11,936 人
		計画	8 回	4 日	9,500 人	(79.6%)	11,936 人
【バレエ 合 計】	7 公演 (計画:7 公演)	実績	39 回	31 日	56,946 人	(84.4%)	67,488 人
		計画	39 回	31 日	54,000 人	(80.0%)	67,488 人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ 「ジゼル」で公開リハーサル(18社25名)を実施した。
- ・ HP及びSNS(Facebook、Twitter)にて画像、動画等を用いて、公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画等を掲載し、興味を喚起した。
- ・ プレイガイド会員、新国立劇場Webボックスオフィス登録者及びバレエ・ダンスDM先行登録者に対し、一般発売に先駆けた先行発売を実施した。
- ・ インターネット上の動画配信企画「ワールド・バレエ・デー」に参加し、全世界に新国立劇場バレエ団とその活動をアピールした(10/5)。
- ・ 10月から始まる2017/2018シーズン全体を新国立劇場開場20周年記念シーズンとしてすべての公演に20周年を表記し、新宿駅にジャンル横断でポスターを掲出するなどの総合的な広報活動を行った。
- ・ 祝祭性の高い「ニューイヤー・バレエ」を新国立劇場開場20周年記念特別公演として実施した。
- ・ 「眠れる森の美女」「ジゼル」「くるみ割り人形」「シンデレラ」「ホフマン物語」については特設サイトを開設し、より見やすいデザインにするとともに詳しく内容を紹介した。
- ・ 「くるみ割り人形」「シンデレラ」「こどものためのバレエ劇場『しらゆき姫』」は現代舞踊、演劇公演と組み合わせて「こども劇場セット」とし、親子で楽しめる作品として特設サイト等で積極的に周知した。
- ・ 夏のこども劇場セット、冬のこども劇場セットともに、渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」公演期間中、子供向け公演のDMメンバーに登録した来場者に新国立劇場オリジナルグッズ(学習ノート)を登録特典としてプレゼントし、登録を得た。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」において、関東近郊のバレエ教室へのDM送付や、来場者に対して12月バレエ公演「シンデレラ」の販売を行うなど、子供向けバレエ公演をステップにシーズンの主催公演へと繋げる営業を展開した。
- ・ 「ホフマン物語」では、オペラ「ホフマン物語」との同時購入キャンペーンを実施、販促に努めた。また、U25優待メンバーズに対しても、オペラ「ホフマン物語」とのW観劇セット券を案内し、併せて販売促進に努めた。
- ・ 「ジゼル」「ホフマン物語」において、都内近郊のバレエ・ダンス教室に向けてDMを送付し、チケットの販売及びバレエ団のクラスレッスン見学の参加を募集し、チケットの販売促進を行うとともに、バレエ団のプロの舞台上での稽古を見学してもらうことで、新国立劇場バレエ団ファンへの醸成に繋げた。
- ・ 学校の芸術鑑賞担当先生向けに、生徒らに実施している事前レクチャーを体験いただいた上で、公演を鑑賞する体験会を実施し、学校団体鑑賞誘致に努めた。
- ・ eメールClub(メールマガジン)登録者に対しては、発売直前に発売情報と見どころ等を、バレエ/ダンスDMメンバー登録者に対しては、一般発売に先駆けた先行発売を実施し、また両登録者に対して、公演直前に舞台稽古の状況等を、それぞれHPやSNS(Facebook、Twitter)と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ 若年層向け特別優待制度「U25優待メンバーズ」、「U15ファミリー優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。
- ・ カード会社、生活協同組合等に対して団体販売を行った。また、出演者や旅行代理店、企業、高等学校、大学等に対し、積極的に営業活動を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

4. アンケート調査

全7公演で実施(7回)した。

回答数3,072人(配布数9,007人、回収率34.1%)。回答者の96.4%が概ね満足と答えた(2,960人)。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場開場20周年記念公演(2017/2018シーズン全体)
- ・ 新国立劇場開場20周年記念特別公演(「ニューイヤー・バレエ」)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(「くるみ割り人形」)
- ・ 「シンデレラ」で終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した。
- ・ 新国立劇場バレエ団プリンシパルの福岡雄大が、平成29年度(第68回)芸術選奨の舞踊部門で文部科学大臣新人賞を受賞した(「ジゼル」ほかの成果に対して)。
- ・ 大原永子舞踊芸術監督が、東京新聞制定平成29年度(第65回)舞踊芸術賞を受賞した(ダンサーの力を高め、上演作品の成果に繋がったことに対して)。
- ・ 新国立劇場バレエ団プリンシパルの井澤駿が、平成30年度中川鋭之助賞を受賞した(王子役に加え最近の演技力向上に対して)。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績56,946人/目標54,000人(達成度105.5%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 7公演(本公演6公演、こどもバレエ1公演)を計画どおり実施し、公演全体で目標値を上回った。うち3公演は92%以上の入場率を記録した。
- ・ 技術面、表現、音楽性等いずれも極めて高い水準で上演し、評論家、外部専門家、観客から高い評価を得た(アンケート満足回答率96.4%)。
- ・ クリスマスの定番として繰り返し上演でき、家族での観劇等、幅広い層が楽しめる「くるみ割り人形」を新制作した。全国公演も可能なプロダクションを、日本人デザイナーによる舞台装置、衣裳、照明で制作した。公演では、新国立劇場バレエ団が高度なテクニックを披露しつつドラマティックな舞台を作り上げ、高い評価を得た。
- ・ 新国立劇場開場20周年記念特別公演として「ニューイヤー・バレエ」を上演し、新国立劇場バレエ団のプリンシパル級が揃って出演して祝祭性を盛り上げた。
- ・ 平成29年度のシーズン全公演で主演した新国立劇場バレエ団プリンシパルの福岡雄大が、役柄の深い理解によって作品をけん引する舞台成果に対し、平成29年度(第68回)芸術選奨の舞踊部門で文部科学大臣新人賞を受賞した。
- ・ 新国立劇場バレエ団ダンサーの力量を高め、上演作品の成果に繋がったことに対し、大原永子舞踊芸術監督が、東京新聞制定平成29年度(第65回)舞踊芸術賞を受賞した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。
- ・ 新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまでいかに実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、外部専門家等からも高い評価を得た。
- ・ 定番レパートリーの上演時に積極的な営業活動により学校団体やバレエ初心者も多く誘致することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 知名度が低い現代バレエ作品も新国立劇場として取り上げていくべきであり、販売不振が予想された場合は、公演周知の強化や販売促進活動等、早い段階での対応に努めたい。

<3> 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 4公演を計画どおり実施
- ・ 「ふしぎの国のアリス」では追加公演(1回)を実施
- ・ 現代舞踊公演全演目で目標入場者数を達成(4演目合計入場率89.4%、達成度121.9%)
- ・ 「舞踏の今」2作品やメディア・アートを取り入れた「ST/LL」等、様々なスタイルを持つ優れた作品を上演

2. 営業・広報

- ・ 画像、動画等を多用したHP及びSNS(Facebook、Twitter)の活用により、興味を喚起
- ・ 2017/2018シーズン全体を新国立劇場開場20周年記念シーズンとして総合的な広報活動を実施
- ・ バレエと共同でシーズンセット券展開、及びバレエ公演と組み合わせた「こども劇場セット」を販売

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全4公演で実施(4回)、満足回答率90.3%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
小野寺修二 カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	小劇場	6/3(土) ～11(日)	実績	6回	5日	1,833人	(89.9%)	2,040人
			計画	5回	5日	1,400人	(82.4%)	1,700人
舞踏の今 その1 山海塾 「海の賑わい 陸の静寂-めぐり」	中劇場	11/25(土) ～26(日)	実績	2回	2日	1,562人	(90.6%)	1,725人
			計画	2回	2日	1,300人	(82.5%)	1,576人
高谷史郎(ダムタイプ) 「ST/LL」		2/24(土) ～25(日)	実績	2回	2日	1,607人	(90.1%)	1,783人
			計画	2回	2日	1,300人	(79.7%)	1,632人
舞踏の今 その2 大駱駝艦・天賦典式「罪と罰」	3/17(土) ～18(日)	実績	2回	2日	1,459人	(87.1%)	1,676人	
		計画	2回	2日	1,300人	(82.5%)	1,576人	
【現代舞踊 合計】	4公演 (計画:4公演)		実績	12回	11日	6,461人	(89.4%)	7,224人
			計画	11回	11日	5,300人	(81.7%)	6,484人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ 山海塾「海の賑わい陸の静寂-めぐり」制作発表会(12社13名)、大駱駝艦・天賦典式「罪と罰」記者会見(11社20名)を行った。
- ・ HP及びSNS(Facebook、Twitter)にて画像、動画等を用いて、公演前には過去の公演・リハーサル風景・

出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画等を掲載し、興味を喚起した。

- ・ プレイガイド会員、新国立劇場 Web ボックスオフィス登録者及びバレエ・ダンス DM 先行登録者に対し、一般発売に先駆けた先行発売を実施した。
- ・ 10月から始まる 2017/2018 シーズン全体を新国立劇場開場 20 周年記念シーズンとしてすべての公演に 20 周年を表記し、新宿駅にジャンル横断でポスターを掲出するなどの総合的な広報活動を行った。
- ・ 「ふしぎの国のアリス」はバレエ公演と組み合わせて「こども劇場セット」とし、親子で楽しめる作品として特設サイト等で積極的に周知した。
- ・ 「ふしぎの国のアリス」では、こども劇場セットとして渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・ e メール Club(メールマガジン)登録者に対し、発売直前に発売情報と見どころ等を、バレエ/ダンス DM メンバー登録者に対しては、一般発売に先駆けた先行発売を実施し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ 「高谷史郎(ダムタイプ)『ST/LL』」では、作品の内容に合わせ、ダンス公演のほか、演劇等の外部での公演へのチラシ折込等も積極的に実施した。
- ・ 山海塾「海の賑わい陸の静寂ーめぐり」、大駱駝艦・天賦典式「罪と罰」ではポストパフォーマンス・トークを実施し、主催公演として初めて行う舞踏公演について観客の作品理解促進に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

4. アンケート調査

全 4 公演で実施(4 回)した。

回答数 535 人(配布数 2,623 人、回収率 20.4%)。回答者の 90.3%が概ね満足と答えた(483 人)。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念公演(2017/2018 シーズン全体)
- ・ 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭協賛公演(山海塾「海の賑わい 陸の静寂ーめぐり」)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 6,461 人／目標 5,300 人(達成度 121.9%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 4公演を計画どおり実施した。入場者数については全公演で目標値を大きく上回った(達成度121.9%)。
- ・ 初めて舞踏を取り上げるなど現代舞踊の新しい切り口を提供し、各公演ともに高水準の内容に外部専門家や観客から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率90.3%)。
- ・ 大人も子供も一緒に楽しめるダンス作品の第2弾として「ふしぎの国のアリス」を制作し、追加公演(1回)を行った。
- ・ 新国立劇場の主催公演として初めて、国際的に大きな注目を浴び続ける舞踏を取り上げ、その頂点にある2つのカンパニーによる作品を上演した。新国立劇場のスタッフがカンパニーと良好な関係を築き、中劇場を効果的に使って質の高い舞台を作り上げた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。
- ・ 主催公演として初めて舞踏を取り上げ、国内外で高い評価を得ている2つのカンパニーの作品を上演したほか、家族で楽しめる作品、メディア・アートを取り入れた独特のパフォーマンスを展開する作品と、現代舞踊の多彩な魅力を紹介することができた。

<4> 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 8公演を計画どおり実施
- ・ 演劇公演全体で、目標入場者数を達成(8演目合計入場率 80.2%)
- ・ 新訳上演の2作品「君が人生の時」「怒りをこめてふり返れ」では93%以上の高い入場率を達成
- ・ 「怒りをこめてふり返れ」では追加公演(2回)を実施
- ・ 海外の話題作「プライムたちの夜」や鄭義信三部作に続く「赤道の下のマクベス」を日本初演
- ・ 昭和30年代の戯曲やフランスの名作、家族で楽しめる作品等、新国立劇場ならではの幅広い作品を上演

2. 営業・広報

- ・ 画像・動画を多用したHP及びSNS(Facebook、Twitter、Instagram)の活用により、興味を喚起
- ・ 2017/2018 シーズン全体を新国立劇場開場20周年記念シーズンとして総合的な広報活動
- ・ 若年層向け特別優待制度U25優待メンバーズ等の実施により、学生及び若年層を勧誘
- ・ 出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な営業活動を展開し勧誘
- ・ テーマや期間ごとに4種類の通し券、及びバレエ公演と組み合わせた「こども劇場セット」を販売

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全8公演で実施(16回)、満足回答率90.3%

《実績》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
かさなる視点-日本戯曲の力- Vol.2 「城塞」	小劇場	4/13(木) ~30(日)	実績	18回	16日	3,445人	(58.7%)	5,868人
			計画	18回	16日	4,400人	(75.0%)	5,868人
かさなる視点-日本戯曲の力- Vol.3 「マリアの首-幻に長崎を想う曲-」	小劇場	5/10(水) ~28(日)	実績	20回	17日	5,230人	(77.4%)	6,760人
			計画	20回	17日	4,900人	(75.2%)	6,520人
JAPAN MEETS……現代劇の系譜をひもとく-XI 「君が人生の時」(新訳上演)	中劇場	6/13(火) ~7/2(日)	実績	24回	17日	23,991人	(97.1%)	24,720人
			計画	24回	17日	16,600人	(77.4%)	21,456人
JAPAN MEETS……現代劇の系譜をひもとく-XII 「怒りをこめてふり返れ」(新訳上演)	小劇場	7/12(水) ~30(日)	実績	20回	17日	6,389人	(93.3%)	6,848人
			計画	18回	17日	4,400人	(75.0%)	5,868人
「トロイ戦争は起こらない」(新訳上演)	中劇場	10/5(木) ~22(日)	実績	21回	16日	12,501人	(65.7%)	19,026人
			計画	21回	16日	15,000人	(79.9%)	18,774人
「プライムたちの夜」(日本初演)	小劇場	11/7(火) ~26(日)	実績	24回	18日	5,047人	(61.1%)	8,256人
			計画	24回	18日	5,700人	(72.9%)	7,824人
「かがみのかなたはたなかのなかに」	小劇場	12/5(火) ~24(日)	実績	24回	18日	6,669人	(85.2%)	7,824人
			計画	24回	18日	5,900人	(75.4%)	7,824人

「赤道の下のマクベス」(日本初演)	小劇場	3/6(火)～ 25(日)	実績	20回	18日	5,554人	(85.2%)	6,520人
			計画	20回	18日	4,600人	(70.6%)	6,520人
【演劇合計】		(計画:8公演)	実績	171回	137日	68,826人	(80.2%)	85,822人
			計画	169回	137日	61,500人	(76.3%)	80,654人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、会報誌「ジ・アトレ」、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ 「君が人生の時」フォトコール・囲み取材(34社52名)、「トロイ戦争は起こらない」制作発表(26社28名)、「プライムたちの夜」制作発表(15社19名)、「赤道の下のマクベス」フォトコール(14社14名)を行った。
- ・ HP及びSNS(Facebook、Twitter)にて画像、動画等を用いて、公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画等を掲載し、興味を喚起した。
- ・ プレイガイド会員、新国立劇場Webボックスオフィス登録者及びバレエ・ダンスDM先行登録者に対し、一般発売に先駆けた先行発売を実施した。
- ・ 10月から始まる2017/2018シーズンを新国立劇場開場20周年記念シーズンとしてすべての公演に20周年を表記し、新宿駅にジャンル横断でポスターを掲出するなどの総合的な広報活動を行った。
- ・ 「かがみのかなたはたなかのなかに」はバレエ公演と組み合わせて「こども劇場セット」とし、親子で楽しめる作品として特設サイト等で積極的に周知した。
- ・ 「かがみのかなたはたなかのなかに」では、こども劇場セットとして渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・ 「怒りをこめてふり返れ」「赤道の下のマクベス」の発売にあわせ、演出家や出演者によるスペシャルトークイベントを開催した。
- ・ 朝日カルチャーセンターの企画で「怒りをこめてふり返れ」公演時に、翻訳の水谷八也、出演者の浅利陽介による関連講座を実施した。
- ・ 全国の旅行代理店の営業担当者を対象として、劇場体験キャンペーンを実施し、旅行代理店経由の団体販売の促進に努めた。
- ・ 学校の芸術鑑賞担当先生向けに、生徒らに実施している事前レクチャーを体験いただいた上で、公演を鑑賞する体験会を実施し、学校団体鑑賞誘致に努めた。
- ・ eメールClub(メールマガジン)登録者及び演劇DM登録者に対し、先行発売情報、発売直前に発売情報と見どころ等、公演直前に舞台稽古の状況等、公演開始後に来場者の感想等、またトーク等のイベント情報を、HPやFacebookと連動させつつ発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ テーマや期間ごとに各種公演をまとめた通し券「かさなる視点ー日本戯曲のカー」(28年度公演を含む)、「2017/2018シーズンオープニング2作品通し券」、「春の3作品通し券」(30年度公演を含む)を発売した。
- ・ 演劇鑑賞団体やカード会社、生活協同組合等に対して団体販売を行った。また、出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な切り口で積極的に営業活動を行った。
- ・ 若年層向け特別優待制度「U25優待メンバーズ」等を実施し、学生及び若年層の勧誘を行った。
- ・ 公演直前に空席がある場合、割引や良席等のインセンティブを付与する販売促進を実施した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

4. アンケート調査

8公演で実施(16回)した。

回答数1,433人(配布数5,428人、回収率26.4%)。回答者の90.3%が概ね満足と答えた(1,294人)。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場開場20周年記念公演(2017/2018シーズン全体)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭主催公演(「プライムたちの夜」)
- ・ 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭協賛公演(「トロイ戦争は起こらない」)

- ・ 上演作品の翻訳を担当した水谷八也が、第10回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した（「怒りをこめてふり返れ」の翻訳に対して）。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 68,826 人／目標 61,500 人(達成度 111.9%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 8公演を計画どおり実施した。演劇公演全体で目標入場者数を達成した。
- ・ 昭和30年代の戯曲に30代の気鋭の演出家が取り組むシリーズや、海外の名作の新訳上演、海外で話題となった作品の日本初演、大人と子どもが一緒に楽しめる作品、新国立劇場のために書き下ろされた鄭義信三部作に続く作品と、新国立劇場ならではの多彩かつ意欲的な企画による公演が高い水準で上演された。外部専門家や評論家、観客から高い評価を得た(アンケート満足回答率90.3%)。
- ・ 「君が人生の時」「怒りをこめてふり返れ」は、日本の近代演劇に大きな影響を与えた海外戯曲を新訳で上演するシリーズの最終2作品であり、いずれも早い段階から評判を呼び、93%を超える入場率を記録した。追加公演を2回行った「怒りをこめてふり返れ」では、新訳を担当した水谷八也が第10回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 新国立劇場として取り上げるべき作品を幅広く上演したうえで、演劇8公演全体で入場率80%以上を達成することができた。
- ・ 「かがみのかなたはたなかのなかに」は、前回の評価も相まって学校団体や家族での観劇を多く誘致できたと同時に、全国7か所のツアーを組んで東京以外での上演を実施し、広く現代舞台芸術の普及に資することができた。
- ・ 「赤道の下のマクベス」は前評判も良かったが上演が始まるとSNSや劇評で評判がさらに高まり(入場率85.2%、達成率120.7%)、新国立劇場で上演する鄭義信作品の質の高さを改めてアピールする結果となった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 知名度が低いなどのため集客の困難が見込まれる作品についても、国立の劇場としての使命に鑑み、広報宣伝に一層の工夫を凝らすなどにより、上演の維持を図りたい。

2-(2)-② 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

- ・ 各分野において専門委員に公演ごとのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用
- ・ 全 31 公演 45 回でアンケート調査を実施、満足回答率 91.7%

2. 共催、受託などによる公演

- ・ 文化庁芸術祭主催公演 3 公演、協賛公演 4 公演を実施
- ・ 地域招聘公演(オペラ 1 公演)を実施
- ・ 大学との積極的な連携、協力を実施
- ・ 「beyond2020 プログラム」に参加

3. 全国各地の文化施設等における公演

- ・ オペラ 1 公演、バレエ 2 公演、演劇 6 公演、合計 9 公演を実施
- ・ 合唱団 22、バレエ団 1 の外部公演に出演
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣するなど、連携を強化
- ・ 東京都公立文化施設協議会の研修会を開催

4. 国際文化交流公演等

- ・ 海外劇場等との情報交換や訪問受入れによる文化交流の実施
- ・ 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラムの実施

《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

(1) 外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(2) アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答 (回答数)
オペラ	12 公演 17 回	7,925 人	36.1%(21,980 人)	90.3%(7,155 人)
バレエ	7 公演 7 回	3,072 人	34.1%(9,007 人)	96.4%(2,960 人)
現代舞踊	4 公演 4 回	535 人	20.4%(2,623 人)	90.3%(483 人)
演劇	8 公演 16 回	1,433 人	26.4%(5,428 人)	90.3%(1,294 人)
合 計	31 公演 44 回	12,965 人	33.2%(39,038 人)	91.7%(11,892 人)

2. 共催、受託などによる公演

(1) 平成 29 年度(第 72 回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催 公演	オペラ劇場：オペラ「神々の黄昏」、バレエ「くるみ割り人形」 小劇場：演劇「プライムたちの夜」
協賛 公演	オペラ劇場：オペラ「椿姫」「ばらの騎士」 中劇場：現代舞踊「山海塾『海の賑わい 陸の静寂ーめぐり』」、 演劇「トロイ戦争は起こらない」

(2) 国・地方公共団体等との後援・協力

(オペラ)

- ・地域招聘公演

びわ湖ホール オペラ「ミカド」

8/26～27、2回、新国立劇場中劇場

主催：滋賀県・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール・新国立劇場

入場者数：1,189人(入場率 65.6%)

(3) 大学との連携・協力

- ・東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学と、連携・協力に関する協定を締結している。
- ・オペラ劇場の舞台において、大学声楽科学生の実習が行われた(東京藝術大学、昭和音楽大学)。
- ・オペラ研修所修了公演「イル・カンピエッロ」において、合唱に関し国立音楽大学、昭和音楽大学、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学と連携・協力した。
- ・大学からのインターンシップ生の受入れを行ったほか、大学のアートマネジメントに関する講義等に、講師として新国立劇場職員を派遣した(昭和音楽大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)ほか)。

(4) 「beyond2020プログラム」への参加

新国立劇場での公演等について、「新国立劇場 2017/2018 シーズン公演等」(24件)として、公益財団法人新国立劇場運営財団より申請を行った。

3. 全国各地の文化施設等における公演

(1) オペラ

① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「蝶々夫人」(共催公演)

10/30・11/1、2回、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

主催：京都市・公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

入場者数：2,835人(入場率 90.9%)

(2) バレエ

① こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」(受託公演)

- ・9/16、1回、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール

主催：公益財団法人豊橋文化振興財団・豊橋市

入場者数：733人(入場率 96.8%)

- ・9/23、1回、ウェスタ川越

主催：NeCST

入場者数：788人(入場率 46.7%)

② バレエ「くるみ割り人形」(受託公演)

- ・11/12、1回、サントミュージゼ上田市交流文化芸術センター大ホール

主催：上田市(上田市交流文化芸術センター)・上田市教育委員会

入場者数：770人(入場率 57.9%)

- ・11/19、1回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール

主催：滋賀県・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

入場者数：1,227人(入場率 73.3%)

(3) 演劇

① 演劇「白蟻の巣」(受託公演)

- ・4/4～5、2回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

主催：兵庫県・兵庫県立芸術文化センター

入場者数：879人(入場率 59.2%)

- ・4/8、1回、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール

主催：公益財団法人豊橋文化振興財団・豊橋市

入場者数：566人(入場率 74.7%)

② 演劇「マリアの首―幻に長崎を想う曲―」(受託公演)

- ・6/3～4、2回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

- 主催：兵庫県・兵庫県立芸術文化センター
 入場者数：758人(入場率63.8%)
- ・6/10、1回、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール
 主催：公益財団法人豊橋文化芸術財団・豊橋市
 入場者数：444人(入場率59.4%)
- ③演劇「トロイ戦争は起こらない」(受託公演)
 10/26～27、4回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
 主催：兵庫県・兵庫県立芸術文化センター
 入場者数：2,375人(入場率88.9%)
- ④演劇「プライムたちの夜」(受託公演)
 11/29、1回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
 主催：兵庫県・兵庫県立芸術文化センター
 入場者数：487人(入場率64.9%)
- ⑤演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」(受託公演)
- ・1/7～8、2回、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 劇場
 主催：新潟県・公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
 新潟県次世代の舞台芸術担い手育成事業実行委員会
 入場者数：1,213人(入場率88.7%)
 - ・1/11～14、6回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
 入場者数：2,944人(入場率66.1%)
 - ・1/16～17、3回、オーバード・ホール舞台上特設シアター
 主催：公益財団法人富山市民文化事業団・富山市
 入場者数：740人(入場率94.9%)
 - ・1/20～21、2回、iichiko 総合文化センターiichiko 音の泉ホール
 主催：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団
 入場者数：1,238人(入場率95.2%)
 - ・1/24、1回、大野城まどかぴあ大ホール
 主催：公益財団法人大野城まどかぴあ
 入場者数：667人(入場率89.3%)
 - ・1/27～28、2回、北九州芸術劇場中劇場
 主催：公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
 入場者数：1,060人(入場率88.9%)
 - ・2/1、1回、はつかいち文化ホールさくらぴあ 大ホール
 主催：公益財団法人廿日市市文化スポーツ振興事業団・テレビ新広島
 入場者数：666人(入場率82.5%)
- ⑥こころで聴く三島由紀夫VIリーディング 近代能楽集より「熊野」(受託公演)
 7/17、1回、山中湖村公民館
 主催：山中湖村教育委員会・山中湖文学の森 三島由紀夫文学館
 入場者数：63人

(4) 新国立劇場合唱団外部出演公演

- ①武蔵野市民文化会館リニューアル・オープン記念特別公演
 ベートーヴェン「交響曲第9番 ニ短調 作品125『合唱付き』」
 4/23、1回、武蔵野市民文化会館大ホール
 主催：公益財団法人武蔵野文化事業団
- ②平成29年度 長野市中学校鑑賞音楽会
 5/2～12、18回、長野市内中学校 18校体育館
 主催：長野市中学校校長会
- ③日本モーツァルト協会演奏会 モーツァルト「後宮からの誘拐」
 5/20、1回、東京文化会館小ホール
 主催：日本モーツァルト協会
- ④東京都交響楽団定期演奏会 ヴォーン・ウィリアムズ「南極交響曲」
 5/21、1回、東京芸術劇場コンサートホール
 主催：公益財団法人東京都交響楽団

- ⑤平成 29 年度文化芸術による子供の育成事業
6/12～12/1、14 回、三重県・滋賀県・大阪府・奈良県及び和歌山県の小・中学校内体育館
主催：文化庁
- ⑥東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 マーラー「交響曲第 2 番『復活』」
7/21・23、2 回、東京オペラシティコンサートホール(7/21)、Bunkamura オーチャードホール(7/23)
主催：公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団
- ⑦東京都交響楽団定期演奏会 スーク「交響詩『人生の実り』」作品 34
7/22、1 回、東京芸術劇場コンサートホール
主催：公益財団法人東京都交響楽団
- ⑧第 38 回霧島国際音楽祭 2017
7/22～25、3 回、鹿児島県
主催：鹿児島県、公益財団法人ジュスク音楽文化振興会、公益財団法人鹿児島県文化振興財団
- ⑨ヴェルディ オペラ「オテロ」(演奏会形式)
9/8・10、2 回、Bunkamura オーチャードホール
主催：Bunkamura
- ⑩東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 マーラー「交響曲第 2 番『復活』」
9/15、1 回、サントリーホール
主催：公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団
- ⑪グリーンハウス 70 周年記念特別演奏会 バッハ「カンタータ BWV70」
11/8、1 回、東京オペラシティコンサートホール
主催：グリーンハウス
- ⑫NHK 音楽祭 2017 チャイコフスキー 歌劇「エフゲーニ・オネーギン」(演奏会形式)
11/9、1 回、NHK ホール
主催：NHK、NHK プロモーション
- ⑬読売日本交響楽団演奏会 メシアン 歌劇「アッシジの聖フランチェスコ」(演奏会形式)
11/19・26、2 回、サントリーホール
主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団、びわ湖ホール
- ⑭特別公演 メシアン 歌劇「アッシジの聖フランチェスコ」(演奏会形式)
11/23、1 回、びわ湖ホール
主催：びわ湖ホール、読売日本交響楽団
- ⑮東京交響楽団演奏会 モーツァルト 歌劇「ドン・ジョヴァンニ」(演奏会形式)
12/10、1 回、ミューザ川崎シンフォニーホール
主催：川崎市、ミューザ川崎シンフォニーホール
- ⑯読売日本交響楽団演奏会 マーラー「交響曲第 3 番 ニ短調」
12/12、1 回、サントリーホール
主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
- ⑰読売日本交響楽団演奏会 ベートーヴェン「交響曲第 9 番 ニ短調 作品 125『合唱付き』」
12/17～24、6 回、東京芸術劇場(12/17・23)、サントリーホール(12/19・20)、フェスティバルホール(12/21)、横浜みなとみらいホール(12/24)
主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
- ⑱年末ジャンボ抽せん会&年末特別コンサート
ベートーヴェン「交響曲第 9 番 ニ短調 作品 125『合唱付き』」(第 4 楽章)
12/31、1 回、東京オペラシティコンサートホール
制作：電通ミュージック・アンド・エンタテインメント
- ⑲第 61 回 NHK ニューイヤーオペラコンサート
1/3、1 回、NHK ホール
主催：NHK、NHK プロモーション
- ⑳港区&サントリーホール Enjoy!Music プロジェクト
1/12、1 回、サントリーホール
主催：サントリーホール企画制作部
- ㉑NHK 交響楽団定期公演 ホルスト「組曲『惑星』」作品 32
1/27～28、2 回、NHK ホール
主催：NHK、公益財団法人 NHK 交響楽団
- ㉒バーンスタイン「ウェスト・サイド・ストーリー」(演奏会形式)
3/4・6、2 回、Bunkamura オーチャードホール
主催：Bunkamura

- (5) **新国立劇場バレエ団外部出演公演**
NHK バレエの饗宴 2017 「テーマとバリエーション」
4/8、1回、NHK ホール
主催：NHK、NHK プロモーション

(6) **地方との連携強化**

- ・ 全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。
- ・ 東京都公立文化施設協議会の研修会を新国立劇場で開催し舞台機構等の説明を行った。

4. 国際文化交流公演等

(1) **海外劇場等との交流**

- ・ 海外の劇場との情報交換に努め、また海外より新国立劇場訪問の際には劇場見学、質疑応答等、交流の進展を図った。
- ・ オペラ「ジークフリート」「神々の黄昏」は、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により制作した。

(2) **海外からの訪問受入れ**

- ・ 海外から劇場関係者等、10か国 16団体 73名の訪問受入れを行った。
主な来場者：韓国文化観光局、アルゼンチン・コロソ劇場、韓国ウーラン財団、香港西九文化区管理局、中国(南京)江蘇大劇院、韓国城南文化財団、韓国軍浦市文化財団、韓国蔚山市中区アーツセンター、香港特別行政区康樂文化事務署、カナダ・バンクーバーオペラ、チェコ・ブルノ国立歌劇場、英国スコティッシュ・バレエ団ほか

(3) **在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム**

- ・ 「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を実施し、新国立劇場が内外で高い評価を受けるオペラ専門劇場を有しており、質の高いオペラ・バレエを制作し、上演していることを国際的に発信した。また、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与した。実施公演と参加国(大使/大使館文化担当官・文化機関)は以下のとおり。
 - ① オペラ「神々の黄昏」10/14、7か国/4か国
 - ② 新国立劇場開場 20周年記念式典・「ニューイヤー・バレエ」1/8、3か国/8か国

【特記事項】

- ・ 「ジークフリート」、文化庁芸術祭主催公演「神々の黄昏」に皇太子殿下の行啓があった。

《自己点検評価》

○自己評定

B

(根拠)

- ・ 国内外の劇場等と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施した。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。

○良かった点・特色ある点

- ・ 主催公演全31公演でアンケート調査を実施し、多くの観客の声を収集することができた。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。
- ・ 地域招聘公演のプレトーク、バレエの全国公演に先立って新国立劇場バレエ団員によるワークショップ等、公演に関連したイベントの拡充を行い、現代舞台芸術の普及に努めた。
- ・ 演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」は全国7か所・計17回の公演を実施し、東京公演から続き約2か月にわたる長期公演として、新国立劇場での公演との合計で15,197人に及ぶ入場者を得て観劇機会の拡大に寄与した。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

青少年等を対象とした公演

青少年等を対象とした公演 p.91

- 伝統芸能分野 p.92
- 現代舞台芸術分野 p.100

快適な観劇環境の形成

快適な観劇環境の形成 p.104

- 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応 p.108
- 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進 p.115
- 公演内容等の理解促進のための取組 p.116
- 意見・要望等の把握と対応 p.119

広報・営業活動の充実

広報・営業活動の充実 p.121

- 効果的な広報・営業活動の展開 p.125
- 会員組織の運営、会員向けサービスの充実 p.132

劇場施設の使用効率の向上等

劇場施設の使用効率の向上等 p.136

2-(3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 青少年を対象とした伝統芸能公演を年間 6 公演程度実施
社会人や親子を対象とする入門企画の実施
各公演等の連携協力の強化
- イ 青少年を対象とした現代舞台芸術公演を年間 3 公演程度実施
各公演の連携協力の強化

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施
社会人や親子等を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施
各公演等の連携協力を強化
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫
各公演の連携協力を強化

<1> 伝統芸能分野

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は鑑賞教室で最多の7回目の上演となる「歌舞伎十八番の内 毛抜」を、7月は義太夫狂言の名作「鬼一法眼三略巻 一條大蔵譚」を取り上げ、解説を付して上演することにより歌舞伎の普及振興を図る。また、文楽鑑賞教室では、文楽の保存と振興のため、名作の上演に留まらず、上演頻度が少ない演目や場面等を積極的に取り上げている。29年度は開催月を平年の12月に戻し、近松門左衛門による著名作品「冥途の飛脚」を基にした世話物の代表作「傾城恋飛脚」を、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。さらに、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう26年度から開始した〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の4ジャンルを上演する。特に舞踊・邦楽では親子向けの企画として実施し、体験、解説、鑑賞を通じてその魅力をアピールする。

演芸場では、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能(落語、講談、マジック、紙切り、パントマイム等)を子供たちに知ってもらうため、夏休み期間中に解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい狂言「附子」、動きが多く初心者向けの能「黒塚」に、学生が体験出演する解説を付け、学生が親しみを持てるよう配慮する。8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を、8月と11月には仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、次世代、そして新たな観客層を開拓するための公演とする。

文楽劇場では、6月に文楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい演目に太夫・三味線・人形等の解説を付け、親しみが持てるように配慮する。また公演中の2回を「社会人のための文楽入門」として夜公演とし、勤め帰りに気軽に文楽鑑賞を体験できるよう工夫する。7、8月の夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、親子で楽しめる作品を上演する。今回から展示室を利用し、子供向けに文楽体験コーナーを実施する。

国立劇場おきなわでは、6月には社会人、8月には親子、11月には主に中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。第一部において、案内役による解説や、解説を交えた新作組踊を上演することで、第二部の組踊の理解を深める工夫を行う。また、7月には「琉球舞踊鑑賞教室」、9月には「沖縄芝居鑑賞教室」に、引き続き取り組む。

なお、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う文化プログラムの一環として、28年度に引き続き、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」(2回)をはじめ、文楽(本館及び文楽劇場)、能楽、組踊で、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声ガイド等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

《主要な業務実績》

1. 主に青少年を対象とした公演

- ・ 歌舞伎鑑賞教室 2 公演、文楽鑑賞教室 2 公演(本館、文楽劇場)、能楽鑑賞教室 1 公演、沖縄芝居鑑賞教室 1 公演、組踊鑑賞教室 1 公演、合計 7 公演を計画どおり実施
- ・ 6 月能楽鑑賞教室(全 10 公演)は 27・28 年度に続き全席を完売(有料入場率 100.0%)

2. 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演

(本館)

- ・ 6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室で「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を実施
- ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室では、28 年度に引き続き、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を 2 回実施し、その翌日以降、多言語による音声ガイドを有料で提供する「Multilingual Week」を実施
- ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室で「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施
- ・ 7 月伝統芸能の魅力シリーズ「親子で楽しむ日本舞踊」「親子で楽しむ邦楽」を実施

(演芸場)

- ・ 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」を実施

(能楽堂)

- ・ 6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施
- ・ 8月企画公演で「働く貴方に贈る」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」を実施
- ・ 11月企画公演で「働く貴方に贈る」を実施
- ・ 2月と3月に外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」を3回実施【新規】

(文楽劇場)

- ・ 6月文楽鑑賞教室「社会人のための文楽入門」を実施
- ・ 6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」を実施
- ・ 夏休み文楽特別公演第一部を「親子劇場」として実施し、新作文楽を再演

(国立劇場おきなわ)

- ・ 普及公演で、4月「琉球舞踊鑑賞教室」、6月「社会人のための組踊鑑賞教室」、7月「琉球舞踊鑑賞教室」、8月「親子のための組踊鑑賞教室」、9月「沖縄芝居鑑賞教室」を実施
- ・ 11月組踊鑑賞教室で「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を実施

《業務実績詳細》

1. 公演実績

(1) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「歌舞伎十八番の内 毛抜」	本館 大劇場	6/2(金) ~24(土)	実績	46回	23日	58,901人	(84.2%)	69,920人
				計画	46回	23日	54,300人	(77.7%)	69,920人
	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「鬼一法眼三略巻 一條大蔵譚」		7/3(月) ~24(月)	実績	44回	22日	65,285人	(97.6%)	66,880人
				計画	44回	22日	63,400人	(94.8%)	66,880人
文楽	12月文楽鑑賞教室 「日高川入相花王」解説「文楽の魅力」 「傾城恋飛脚」	本館 小劇場	12/7(木) ~19(火)	実績	24回	13日	13,184人	(99.3%)	13,272人
				計画	24回	13日	12,800人	(96.4%)	13,272人
文楽	6月文楽鑑賞教室 「二人禿」解説「文楽へようこそ」 「仮名手本忠臣蔵」	文楽劇場	6/9(金) ~22(木)	実績	28回	14日	19,324人	(94.4%)	20,468人
				計画	28回	14日	18,500人	(90.4%)	20,468人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「附子」、能「黒塚」	能楽堂	6/19(月) ~23(金)	実績	11回	5日	6,897人	(100.0%)	6,897人
				計画	11回	5日	6,550人	(95.0%)	6,897人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室	国立劇場 おきなわ 大劇場	9/14(木) ~16(土)	実績	3回	3日	1,091人	(63.4%)	1,722人
				計画	3回	3日	1,263人	(73.3%)	1,724人
	組踊鑑賞教室「二重敵討」		11/15(水) ~18(土)	実績	7回	4日	2,968人	(73.6%)	4,035人
				計画	7回	4日	3,114人	(77.2%)	4,033人
【伝統芸能分野 合計】 7公演 (計画:7公演)				実績	163回	84日	167,650人	(91.5%)	183,194人
				計画	163回	84日	159,927人	(87.3%)	183,194人

(2) 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演(一部再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	6/9(金)	実績	1回	1日	1,371人	(90.2%)	1,520人

歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	本館 大劇場	6/16(金)	実績	2回	1日	2,650人	(87.2%)	3,040人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」		7/7(金)・14(金)	実績	2回	2日	2,959人	(97.3%)	3,040人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」		7/17(月・祝) ・20(木)~24(月)	実績	12回	6日	18,113人	(99.3%)	18,240人
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	12/8(金)・11(月) ・15(金)	実績	3回	3日	1,640人	(98.9%)	1,659人
	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」		12/18(金)	実績	1回	1日	554人	(100.2%)	553人
	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6/13(火)・19(月)	実績	2回	2日	1,258人	(86.0%)	1,462人
6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」	6/17(土)		実績	1回	1日	519人	(71.0%)	731人	
夏休み文楽特別公演 (第一部親子劇場)	7/22(土) ~8/8(火)		実績	18回	18日	8,628人	(67.4%)	12,798人	
舞踊・邦楽等	7月 第7回伝統芸能の魅力 「大人のための雅楽入門」 「大人のための声明入門」	本館 小劇場	7/22(土)	実績	2回	1日	1,136人	(96.3%)	1,180人
	7月 第8回伝統芸能の魅力 「親子で楽しむ日本舞踊」 「親子で楽しむ邦楽」		7/23(日)	実績	2回	1日	730人	(61.9%)	1,180人
大衆芸能	【特別企画公演】 親子で楽しむ演芸会	演芸場	7/23(日)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
能楽	6月能楽鑑賞教室 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6/23(金)	実績	1回	1日	627人	(100.0%)	627人
	【企画公演】働く貴方に贈る		8/3(木)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
	【企画公演】 夏休み親子で楽しむ能の会		8/5(土)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
	【企画公演】 夏休み親子で楽しむ狂言の会		8/26(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
	【企画公演】働く貴方に贈る		11/30(木)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
組踊等	社会人のための組踊鑑賞教室 「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/24(土)	実績	1回	1日	271人	(48.1%)	563人
	琉球舞踊鑑賞教室		7/29(土)	実績	1回	1日	504人	(88.7%)	568人
	親子のための組踊鑑賞教室 「女物狂」		8/12(土)	実績	1回	1日	513人	(90.5%)	567人
	組踊鑑賞教室 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」		11/18(土)	実績	1回	1日	164人	(28.9%)	567人
【伝統芸能分野 合計】			21 企画(公演)	実績	56回	47日	44,424人	(86.9%)	51,103人

【特記事項】

- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の翌日以降、多言語による音声ガイドを有料で提供する「Multilingual Week」を実施し、外国人来場者の観劇環境の拡充を図った。
- ・ 楽しもう!能の世界(Noh Workshop for foreigners)
6/23、能楽堂研修能舞台、第1・第2稽古室、大講義室

参加者数：52人

- ・ 外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」
2/9、3/9、3/23、3回、能楽堂研修能舞台
入場者数：258人(入場率86.0%)
アンケートの実施：満足回答率95.1%(外国籍の満足回答率96.5%)
- ・ 外国人のための組踊ワークショップ
11/18、国立劇場おきなわ養成研修室
参加者数：20人

(3) 全国各地の文化施設等における公演(再掲)

- ①6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演(共催公演)
6/26、2回、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ
共催：公益財団法人静岡県文化財団、静岡県、入場者数：1,476人(入場率93.3%)
- ②7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演(共催公演)
7/26～27、4回、神奈川県立青少年センター
共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会、入場者数：2,071人(入場率72.9%)

2. 営業・広報

- ・ 本館、演芸場、能楽堂、文楽劇場が行う親子を対象とした公演について、振興会HPにそれぞれの親子企画を紹介する特設サイトを設置し、併せてトップページのバナーから誘導することにより対象者に狙いを絞った広報を行った。また、親子特別料金を設定して販売促進を図った。
- ・ 各館で、マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・各会員組織の会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図った。

(本館)

- ・ Twitterアカウント、Instagramアカウントを開設し、写真を掲載するなど、SNSを利用した広報に取り組んだ。
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方の中学校・高等学校及び首都圏の専門学校を中心にDMを送付した(3回、のべ22,094通)。
- ・ 修学旅行の内容検討の際に広く全国の学校に活用されている月刊誌「教育旅行」(発行：公益財団法人日本修学旅行協会)10月号に、本館歌舞伎・文楽鑑賞教室のカラー広告(裏表紙)を出稿し、修学旅行での利用をアピールした。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」の集客のため、1都3県の旅行代理店・観光案内所・ホテルにDMを送付し(260件)、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。また、29年度より追加されたスペイン語による音声ガイドを利用する観客の集客のため、スペイン語圏各国協会・スペイン語教室等を個別訪問した。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」において、各国駐日大使等大使館関係者、旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招待を実施した。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」及び「Multilingual Week」において、各国駐日大使等大使館関係者、旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招待を実施した。
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室内の企画「親子で楽しむ歌舞伎教室」において、専用チラシ(1,115,000枚)を東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の小中学校及び教育委員会に送付したほか、上演期間中は劇場ロビー及び伝統芸能情報館で子供向けの各種イベントを開催した。
- ・ 30年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の中学校・高等学校・専門学校等の担当者を対象に鑑賞教室の企画及び施設説明並びに鑑賞教室公演の観劇による「鑑賞教室体験会」を実施した(6月・7月歌舞伎鑑賞教室期間中に6回実施。参加者数：68校115名)。

(演芸場)

- ・ マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図り、集客に努めた。

(能楽堂)

- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では、特別チラシ(15,000枚)を作成し、渋谷区内の全小学校ほかに配布・設置して集客を図った。また、公演当日ロビーにおい

て、「能の会」では楽器のワークショップ、「狂言の会」では狂言面を着けられる体験イベントを開催した。

- ・ 11月企画公演「働く貴方に贈る」では、特別チラシを作成・配布して集客を図った。
- ・ 外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」のチラシを、東京国際交流館プラザ平成で開催された文部科学省・独立行政法人日本学生支援機構主催の「国費留学生歓迎会 2017 in 東京」にて配布し、公演の周知・集客に努めた(11/18)。
- ・ 6月能楽鑑賞教室では、特別チラシ(7,000枚)を作成し、都内・近県の学校及び過去の利用団体に配布して集客を図った。

(文楽劇場)

- ・ 近畿2府4県の大学、短期大学、高校、専門学校へ団体観劇案内のDMを送付した(計2,928校)。
- ・ 大阪市と協力し、市からの在関西各国領事館への定期便等にて「Discover BUNRAKU」のチラシ配布、団体勧誘及び公演周知を行った。
- ・ 大阪市主催の親子劇場優待事業による販売促進のために専用チラシを作成し、市内小学校・中学校ほかへ配布した。
- ・ 大阪市交通局の協力を得て、1日乗車券の提示による観劇チケットの割引を実施した。タイアップしたポスター・チラシを地下鉄各駅等に掲示・配架し双方の販売促進に努めた。また、劇場最寄りの地下鉄日本橋駅では文楽劇場のポスターコーナーを設けた。
- ・ 夏休み文楽特別公演子供向けチラシを、奈良市・生駒市・尼崎市・西宮市・守口市、東大阪市の6市の教育委員会に依頼し小・中学校へ配布を行った。
- ・ 「Discover BUNRAKU」の開催にあたって近畿2府4県の国際交流プログラム等を持つ大学へDMを発送し、団体勧誘及び公演周知を行った(126件)。
- ・ 「社会人のための文楽入門」の解説の舞台稽古を報道関係者向けに公開し(6/10)、木ノ下裕一(解説構成者)、茂山童司(解説ナビゲーター)及び出演者に対する取材の場を設けた。新聞社4社が取材。
- ・ 外国語大学・外国語専門学校、国際交流センター、韓国文化院、日本文化研究所、大阪市内図書館(外国人資料コーナー)、近隣の博物館等で「Discover BUNRAKU」チラシを配布し公演周知を行った(約50件)。
- ・ 独立行政法人日本学生支援機構の兵庫国際交流入居者イベントに参加し、「Discover BUNRAKU」公演のPR及びチラシの配布・観劇勧誘を行った。
- ・ ストーリーを紹介するダイジェスト映像を、公演初日前から千秋楽までHPに公開し公演周知に努めた。
- ・ 「Discover BUNRAKU」の開催にあたって、公演を紹介する英文サイトを作成し、ダイジェスト動画、あらすじ掲載等で演目の内容を紹介した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、英語通訳付きのワークショップの開催、多言語パンフレット及び多言語版公演チラシの作成、外国人向け情報誌への広告掲載及び外国人関係団体への公演案内、近隣ホテルへの営業等の誘客活動を展開した。
- ・ 社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布し、公演の周知を図った。
- ・ 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布し、公演の周知を図った。
- ・ 組踊鑑賞教室「二童敵討」では、チラシ1種(4,000枚)を作成し、県内全小中学校・高校・専門学校・大学へ配布し、公演の周知を図った。
- ・ 「琉球舞踊鑑賞教室」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布し、公演の周知を図った。
- ・ 「沖縄芝居鑑賞教室」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布し、公演の周知を図った。

3. アンケート調査

分野	公演	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答(回答数)
歌舞伎	歌舞伎鑑賞教室	2公演3回	3,406人	67.7%(5,030人)	85.0%(2,894人)
文楽	文楽鑑賞教室(本館)	1公演1回	325人	67.1%(484人)	81.8%(266人)

	文楽鑑賞教室(文楽劇場)	1公演2回	656人	56.1%(1,170人)	93.1%(611人)
舞踊等	伝統芸能の魅力	2公演2回	1,334人	71.3%(1,871人)	91.4%(1,219人)
大衆芸能	親子で楽しむ演芸会	1公演1回	49人	39.5%(124人)	91.8%(45人)
能楽	能楽鑑賞教室 ほか	3公演3回	588人	56.5%(1,041人)	91.2%(536人)
	Showcase	1企画2回	123人	63.7%(193人)	95.1%(117人)
小計			6,481人	65.4%(9,913人)	87.8%(5,688人)
組踊等	組踊鑑賞教室 ほか	5公演7回	968人	72.6%(1,333人)	91.9%(890人)
合計			7,449人	66.2%(11,246人)	88.3%(6,578人)

【特記事項】

- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「親子で楽しむ歌舞伎教室」「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」「琉球舞踊鑑賞教室」では、イラスト入りの初心者向けパンフレットを作成し、無料配布した。
- ・ 各館で実施した外国人向けの入門公演では、日本語のほか多言語の特別パンフレットを作成して、無料配布した。また能楽堂では、外国人向け能楽入門パンフレット(NOH & KYOGEN Guide Book、英語・中国語・韓国語版)を作成し、無料配布した。文楽劇場では、外国人向け英語版(28年度作成)文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)の中国語版(29年度作成)を作成して、無料配布した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 167,650人 / 目標 159,927人(達成度 104.8%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 各分野とも年度計画どおり公演を実施し、伝統芸能分野全体で目標入場者数を達成した。歌舞伎鑑賞教室・能楽鑑賞教室は、独法化以降最多の入場者数を記録した。
- ・ 青少年を対象とした鑑賞教室に加え、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演の各館で実施することにより、伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図る取組を継続した。
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、28年度に引き続き、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を2回実施したほか、文楽・能楽・組踊等沖縄伝統芸能の各分野においても、外国人向けの入門公演を実施し、いずれも好評を得た。実施に際しては、解説部分の構成のほか、大使館・学校等への働きかけ、字幕表示、多言語によるパンフレット配布、当日の外国人来場者の受け入れ態勢等について工夫を凝らしてサービスを向上させ、観客や外部専門家等から高く評価された。

(本館)

- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の多言語による音声ガイドにつき、従来の日本語・英語・中国語・韓国語に、スペイン語を新たに加えて、対応言語を5か国語に拡大した。さらに6月歌舞伎鑑賞教室では、外国人向け公演以外でも多言語による音声ガイドを有料で提供する「Multilingual Week」を実施し、外国人来場者の観劇環境の拡充を図った。
- ・ 〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続するとともに、新たな試みとして舞踊・邦楽は親子向けに、雅楽・声明は大人向けとして、テーマを明確に打ち出すなど企画面での充実に加え、体験コーナーを開演前にロビー及び舞台上で実施したことが体験時間の拡大と体験者の増加に繋がり、高い評価を得た。

(能楽堂)

- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」に加え、外国人のためのミニ能楽公演

「National Noh Theatre Showcase」を新規に企画して実施し、いずれも好評を博した。

(文楽劇場)

- ・ 「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」を実施し、初めての観客にも分かりやすい解説を行った。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 歌舞伎鑑賞教室は学生を中心に、親子・社会人・外国人も含めた合計で、独法化以降最多の入場者数を記録した。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室は、歌舞伎ならではの様式美を備えた歌舞伎十八番の作品を取り上げ、推理劇の要素を備えている点と内容の分かりやすさが青少年や社会人にも受け入れられ、高い評価を得た。また、「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」は、解説や英語字幕の表示を工夫し、外国人来場者の演目に対する理解に大きく貢献した。
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室は義太夫狂言の名作を取り上げたが、義太夫狂言の演技の実演やイラストによる物語の背景の紹介等、演目を分かりやすく鑑賞できるよう解説を工夫するとともに、義太夫節の詞章を字幕で表示したことにより、親子や社会人も含めて観客に広く受け入れられた。
- ・ 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」の集客のため、それぞれ専用のチラシを作成して、大学留学生センター等の外国人関係団体やホテル・観光案内所に周知を行った結果、多くの外国人来場者を得ることができた。

(演芸場)

- ・ 「親子で楽しむ演芸会」では、冒頭の落語と解説から観客の興味を引きつけることができた。アニメ声優を務めている講談師による講談、マジック、時代劇コント、ものまね、そして本格的な落語と、息つくひまなく客席から身を乗り出すようにして高座に釘付けになる子供達の視線が感じられた。中でも動物ものまねは、高座と客席とが一体となって盛り上がりを見せ、演芸への興味と関心を大いに喚起できた公演となった。
- ・ ロビーに風船や造花を飾り付けて、楽しい雰囲気を作り上げ、子供たちに喜ばれた。

(能楽堂)

- ・ 能楽鑑賞教室では、初心者にも分かりやすい内容の狂言「附子」と能「黒塚」を取り上げた。全公演が完売となり、次世代の鑑賞者の育成に貢献した。
- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではイラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕表示装置を活用して、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、観客層に合わせたきめ細かい字幕表示を行い、好評であった。
- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施し、充実した番組によって外国人観客に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は4か国語(日本語・英語・中国語・韓国語)とし、当日無料配布した解説書は6か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・フランス語・スペイン語)として、理解促進に大いに役立った。さらに外国人向けのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」を新規に実施して、外国人への能楽普及活動を強化した。

(文楽劇場)

- ・ 文楽鑑賞教室について、本年度も演者を4班に分ける形で実施し、概ね好意的に受け取られた。また、「社会人のための文楽入門」及び「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」では、解説部分の構成を外部(木ノ下歌舞伎主宰 木ノ下裕一氏)に委託し、ナビゲーターに知名度の高い狂言の茂山童司を起用して、28年度に引き続き好評を得た。
- ・ 夏休み文楽特別公演期間中「親子劇場」に関連して、文楽座芸員及びボランティアの「文楽応援団」の協力を得て、第一部開演前の時間帯に来場した子供たちが体験できるよう1階資料展示室内に模擬舞台及び床を設け、日替りで文楽の体験ワークショップを行った。太夫・三味線は床に座り肩衣を着け、声を出したり三味線を弾いたり、人形は舞台上でツメ人形を遣ったりといった体験型の展示で、文楽に親しむ機会を設けることができた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 8月の組踊鑑賞教室では、例年に続き、解説の代わりに「組踊版・シンデレラ」を上演した。ストーリー

の流れに合わせ組踊の見方や約束事を楽しく学ぶスタイルが29年度も好評であった。また、27年度から企画している「琉球舞踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」も、3年目となる本年度からは、外部演出家を起用し、それぞれ琉球舞踊、沖縄芝居の歴史や鑑賞のポイント等を分かりやすく解説する第一部と、初めての観客にも分かりやすく興味をひきつける演目の二部構成として、スムーズに鑑賞してもらうことができた。

- ・ 「組踊鑑賞教室」及び「沖縄芝居鑑賞教室」では、学校行事としての参加を促すため、公演の前年度から営業活動に取り組み、学校団体の誘客に努めた。
- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、英語通訳付きのワークショップの開催、多言語パンフレット及び多言語版公演チラシの作成、外国人向け情報誌への広告掲載及び外国人関係団体への公演案内、近隣ホテルへの営業等の誘客活動を展開した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」で導入したオーディオガイドを利用した来場者等からのご意見(「もう少し解説があっても良い」「日本語ガイドは第二部からのみ使用できる旨の説明をもっと分かりやすくしてほしい」等)を踏まえ、オーディオガイド業務委託の入札時期を早め、製作期間をより長く設けることにより、解説の内容等を工夫し、より分かりやすかつ充実させるように取り組む必要がある。

<2> 現代舞台芸術分野

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

《主要な業務実績》

1. 主に青少年を対象とした公演

- ・ オペラ鑑賞教室 1 公演、こどものためのバレエ劇場 1 公演、バレエ 2 公演、現代舞踊 1 公演、演劇 1 公演、合計 6 公演を計画どおり実施
- ・ 現代舞踊は追加公演(1 回)を実施
- ・ 家族で楽しめる作品を組み合わせたジャンル横断セット券販売(「こども劇場セット」)を夏と冬 2 企画実施
- ・ 演劇公演は全国 7 か所で計 17 回に及ぶ全国公演を実施

《業務実績詳細》

1. 公演実績

(1) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 「蝶々夫人」	オペラ 劇場	7/10(月) ～15(土)	実績	6 回	6 日	9,557 人	(90.0%)	10,620 人	
				計画	6 回	6 日	9,400 人	(88.5%)	10,620 人	
バレエ	こどものためのバレエ劇場 「しらゆき姫」		7/27(木) ～30(日)	実績	8 回	4 日	9,058 人	(75.9%)	11,936 人	
				計画	8 回	4 日	9,500 人	(79.6%)	11,936 人	
	「くるみ割り人形」(新制作)		10/28(土) ～11/5(日)	実績	7 回	6 日	11,799 人	(94.1%)	12,544 人	
				計画	7 回	6 日	10,200 人	(81.3%)	12,544 人	
「シンデレラ」	12/16(土) ～24(日)		実績	8 回	6 日	12,766 人	(89.0%)	14,336 人		
			計画	8 回	6 日	11,800 人	(82.3%)	14,336 人		
現代舞踊	小野寺修二 カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	小劇場	6/3(土) ～11(日)	実績	6 回	5 日	1,833 人	(89.9%)	2,040 人	
				計画	5 回	5 日	1,400 人	(82.4%)	1,700 人	
演劇	「かがみのかなたはたなかのなかに」		12/5(火) ～24(日)	実績	24 回	18 日	6,669 人	(85.2%)	7,824 人	
				計画	24 回	18 日	5,900 人	(75.4%)	7,824 人	
【現代舞台芸術分野 合計】 6 公演 (計画:6 公演)				実績	59 回	45 日	51,682 人	(87.2%)	59,300 人	
				計画	58 回	45 日	48,200 人	(81.8%)	58,960 人	

(2) 全国各地の文化施設等における公演(再掲)

- ① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「蝶々夫人」(共催公演)
10/30・11/1、2 回、ロームシアター京都
主催：京都市・ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
入場者数：2,835 人(入場率 90.9%)
- ② こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」(受託公演)
・ 9/16、1 回、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール

- 主催：公益財団法人豊橋文化芸術財団・豊橋市
 入場者数：733人(入場率 96.8%)
- 9/23、1回、ウェスタ川越 大ホール
 主催：NeCST
 入場者数：788人(入場率 46.7%)
- ③バレエ「くるみ割り人形」(受託公演)
- 11/12、1回、サントミュージゼ上田市交流文化芸術センター大ホール
 主催：上田市(上田市交流文化芸術センター)・上田市教育委員会
 入場者数：770人(入場率 57.9%)
 - 11/19、1回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール
 主催：滋賀県・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
 入場者数：1,227人(入場率 73.3%)
- ④演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」(受託公演)
- 1/7～8、2回、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 劇場
 主催：新潟県・公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
 新潟県次世代の舞台芸術担い手育成事業実行委員会
 入場者数：1,213人(入場率 88.7%)
 - 1/11～14、6回、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
 主催：兵庫県・兵庫県立芸術文化センター
 入場者数：2,944人(入場率 66.1%)
 - 1/16～17、3回、オーバード・ホール舞台上特設シアター
 主催：公益財団法人富山市民文化事業団・富山市
 入場者数：740人(入場率 94.9%)
 - 1/20～21、2回、iichiko 総合文化センターiichiko 音の泉ホール
 主催：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団
 入場者数：1,238人(入場率 95.2%)
 - 1/24、1回、大野城まどかぴあ大ホール
 主催：公益財団法人大野城まどかぴあ
 入場者数：667人(入場率 89.3%)
 - 1/27～28、2回、北九州芸術劇場中劇場
 主催：公益財団法人北九州市芸術文化振興事業団
 入場者数：1,060人(入場率 88.9%)
 - 2/1、1回、はつかいち文化ホールさくらぴあ 大ホール
 主催：公益財団法人廿日市市文化スポーツ振興事業団・テレビ新広島
 入場者数：666人(入場率 82.5%)
- ⑤新国立劇場合唱団外部出演公演
- 平成 29 年度 長野市中学校鑑賞音楽会
 5/2～12、18回、長野市内中学校 18校体育館
 主催：長野市中学校校長会
 - 平成 29 年度文化芸術による子供の育成事業
 6/12～12/1、14回、三重県・滋賀県・大阪府・奈良県及び和歌山県の小・中学校内体育館
 主催：文化庁

2. 営業・広報

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」では、前年度 9 月に首都圏 1,300 校に募集要項を送付したほか、電話営業、東京都私立中学・高等学校協会経由での募集要項配布も行った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」では、マスコミ各社への情報提供、ポスター、チラシ、DM、インターネット、会員会報誌等により公演の周知を図り、集客に努めた。さらに SNS(Twitter、Facebook) やメール(ジュニア公演先行 DM メンバー、U15 ファミリー優待メンバーズ、バレエ/ダンス DM メンバー) を活用し、公演の興味喚起を図った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」において、関東近郊のバレエ教室対象に、DM 送付とチケット販売を行った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」公演期間中において、12 月バレエ公演「シンデレラ」の来

場者販売を行い、子供向けバレエ公演をきっかけとして、シーズンの主催公演へのステップアップを促した。

- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」と現代舞踊「ふしぎの国のアリス」とを組み合わせた「夏のこども劇場セット」、バレエ「くるみ割り人形」「シンデレラ」と演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」を組み合わせた「冬のこども劇場セット」を企画し、セット券にこども料金を設定することで家族での観劇を促進した。
- ・ 夏のこども劇場セット、冬のこども劇場セットともに、渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・ HPの「こども・中学・高校向けの芸術鑑賞」ページを改訂し、今後予定される普及公演または学校鑑賞に適した演目をビジュアルを多用して一覧できるようにした。

3. アンケート調査

分野	公演	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答(回答数)
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室	1公演6回	3,453人	36.1%(9,557人)	87.2%(3,010人)
バレエ	こどものためのバレエ劇場ほか	3公演3回	1,006人	30.4%(3,309人)	95.6%(962人)
現代舞踊	ふしぎの国のアリス	1公演1回	73人	28.6%(255人)	93.2%(68人)
演劇	かがみのかなたはたなかのなかに	1公演2回	127人	25.5%(499人)	92.1%(117人)
合計			4,659人	34.2%(13,620人)	89.2%(4,157人)

【特記事項】

- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」公演期間中、子供向け公演のDMメンバーに登録した来場者に新国立劇場オリジナルグッズ(学習ノート)を登録特典としてプレゼントし、949件の登録を得た。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」公演期間中、オペラ劇場ホワイエに、バルーンアートやゲームコーナー、ネイルコーナー、ボディペインティングコーナー等を設置し、劇場で楽しく過ごせる雰囲気作りに努めた。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。
「オペラの扉 2017 ～ Knock the Door, Opera Exhibition ～」
9/12～11/30、ロームシアター京都「ミュージックサロン」
主催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団
共催・制作：新国立劇場、協賛：ローム株式会社

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 51,682人 / 目標 48,200人 (達成度 107.2%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 6公演を年度計画どおり実施し、入場者数も公演全体で目標を達成した。
- ・ 現代舞踊「ふしぎの国のアリス」は追加公演(1回)を実施した。
- ・ いずれの公演も青少年向け公演として観客や外部専門家から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率 89.2%)。

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演の公演会場(ロームシアター京都)にて展示を行い、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起した。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」、バレエ「くるみ割り人形」は共に全国 2 か所・2 回(計 4 か所・4 回)、演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」では全国 7 か所・計 17 回の公演を実施し、特に演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」は東京公演から続き約 2 か月にわたる長期公演として、新国立劇場での公演との合計で 15,197 人に及ぶ入場者を得て観劇機会の拡大に寄与した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」では、平成 29 年 2 月の本公演の本役・カバーから多くキャストイングをすることにより、効率良くリハーサルを行うことができた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」では、主役をはじめ、若手のアーティストにも主要な役を踊る機会を与え、経験を積ませることで、新国立劇場バレエ団の成長に繋げることができた。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示し、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起できた。
- ・ 演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」で、全国 7 か所・計 17 回の公演を実施、東京公演から続き約 2 か月にわたる長期公演となった。

2-(4) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上

- ア 高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売において、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 解説書等の作成、音声同時解説や字幕表示、公演内容の説明会等のサービスの提供
- エ アンケート調査や劇場モニターの活用等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 売店・レストラン等におけるサービスの充実、観劇時のマナーの呼びかけ
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
- イ 入場券販売における観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示の実施
鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を開催
- エ アンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握、サービス向上に活用
意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果をサービス向上に活用

《主要な業務実績》

1. 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者等への対応

- ・ 観客用設備の適切な維持管理・改善を実施
- ・ 各館の売店・レストランのサービス改善のため、アンケート調査及び委託業者との定期的な会議を実施
- ・ 観客サービス向上を図るため、場内案内請負業者との定期的な会議を実施
- ・ 職員や委託業者等による消防訓練、避難訓練等を実施するとともに、利用者の安全を確保するための設備改修等を実施
- ・ 外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等を提供
- ・ 全館で、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を開始(6月～)
- ・ その他、観客サービスの向上に繋がる取組を適宜実施

(伝統芸能分野)

- ・ 各館の外国人向け公演において、パンフレットの作成及び字幕表示等の多言語対応を実施
- ・ 快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)を作成
- ・ 振興会 HP 上の障害者相談窓口を、各種情報を加えて、「バリアフリー情報」ページとして再編

(本館)

- ・ 本館大劇場にて、四季を感じられるロビー飾り等を実施
- ・ 本館大劇場及び小劇場共通で利用できるチケットケースを作成
- ・ 本館大劇場 2 階・3 階の座席に転落防止用の手掛け棒を設置
- ・ 本館小劇場上・下手階段に手摺を増設
- ・ 本館大・小劇場観客椅子ストッパーゴムの交換、座面等縫製修理を実施

- ・ バリアフリー化への署名活動を実施した結果、半蔵門駅に地上階までのエレベーター・エスカレーターが新設(6月～)
- ・ 半蔵門駅6番出口開設に伴い本館大・小劇場受付設置の周辺地図の修正
- ・ 国立劇場通りに面した劇場倉庫に壁面提灯を設置

(演芸場)

- ・ 演芸場にて、四季を感じられるロビー飾り等を実施

(能楽堂)

- ・ 視覚障害者への対応として、能楽堂構内案内サイン、玄関広間の総合案内板に点字を整備

(文楽劇場)

- ・ 正面玄関柱巻きや、ロビー大階段の大型懸垂幕ポスター等の装飾を実施
- ・ 車椅子を従来の2台から1台追加して、文楽劇場小ホールにも常備
- ・ ロビーに設置されたAED2台に加え、事務所入口と楽屋入口にも設置

(国立劇場おきなわ)

- ・ 観客用トイレについて、和式から洋式へ改修を実施

(現代舞台芸術分野)

- ・ 客席の補修、照明器具のLED化等を実施
- ・ 新国立劇場開場20周年に因み、ウェルカムフラワーやフラッグ等の装飾や記念グッズの販売等で祝祭感を醸成
- ・ 観客参加型のより実際の避難訓練「第2回避難体験オペラコンサート」を実施
- ・ HPを改修し、各劇場の避難経路、避難場所を分かりやすく掲出
- ・ 当日券購入方法を英語チラシで案内するなど、外国人来場者への対応アイテムを追加
- ・ 開場20周年特設サイト英語版やプレスリリース発信で新国立劇場への周知を積極的展開

2. 多様なチケット購入方法の提供

(伝統芸能分野)

- ・ インターネットチケット販売において障害者割引を引き続き実施し、障害者の利便性を向上
- ・ 本館・演芸場・能楽堂における親子企画公演の親子先行発売を実施
- ・ チケットセンターHPに各館の親子企画を紹介する特設サイトを設置
- ・ 読売新聞読者(11月・3月歌舞伎公演)に対し、特別割引販売を実施
- ・ 東日本大震災被災者招待を実施
- ・ 3月歌舞伎公演において、休憩後の「梅雨小袖昔八丈一髪結新三」のみを割引料金で観劇できる特別当日券販売を実施
- ・ 文楽劇場における文楽本公演で、一幕限定で短時間・低価格で楽しめる幕見席を販売
- ・ 国立劇場おきなわにおいて、組踊「二童敵討」と同題材を扱う沖縄芝居・民俗芸能の公演のセット券販売を実施

(現代舞台芸術分野)

- ・ 若年層への普及強化のため、U25優待メンバーズ・U39オペラ優待メンバーズ向けに「フレンズキャンペーン」(通常1人1枚購入のところ2枚購入可能)を実施
- ・ シーズンセット券に他ジャンル公演購入オプションを付加し、顧客の他ジャンル観劇を促進
- ・ こども劇場セット券販売を夏・冬2回実施

3. 公演内容等の理解促進のための取組

- ・ 公演内容に適した解説書等を作成

(伝統芸能分野)

- ・ 歌舞伎・文楽公演にて音声同時解説を実施
- ・ 計108公演において字幕表示を実施
- ・ 公演内容の事前説明会を191件7,165名、施設見学会を53件1,145名、バックステージツアーを140件4,526名に対し開催
- ・ 国立劇場おきなわで、組踊ワークショップを公演鑑賞前に実施したほか、沖縄芝居・琉球舞踊のワークショップを実施(計8回159名)

(現代舞台芸術分野)

- ・ 計12公演において字幕表示を実施
- ・ 公演内容の説明会を14件5,457名、施設見学会を57件489名、バックステージツアーを16件549名に対し開催

4. 意見・要望等の把握と対応

- ・ 意見・要望等を一元的に把握し、組織内で共有
- ・ 対応状況に関し全役職員及び関係する委託業者等で情報を共有
- ・ 意見・要望等を踏まえサービス等を改善
- ・ 意見・要望等を集計・分析

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、設備等の整備やサービスの改善を適切に実施した。
- ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、親子を対象とする公演の先行販売等、チケット購入における利便を図った。
- ・ 公演内容に応じて、解説書や音声同時解説、字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。
- ・ 意見・要望等に、より迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。
- ・ 観客食堂サービス向上推進チームの活動を通じ、食堂サービスの改善に努めた。
- ・ 外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等を提供するなど、サービスの拡充を図った。
- ・ 振興会HP上の障害者相談窓口を、各館ごとのバリアフリーに関する設備の情報等を加えて、「バリアフリー情報」ページとして再編した。
- ・ 公衆無線LAN サービス(無料Wi-Fi)の開始により、特にインターネット利用環境を持たない外国人旅行者等への利便性の向上を図った。
- ・ 国立劇場おきなわの観客用トイレについて、観客からの要望に応え、和式から洋式へ改修を実施した。

現代舞台芸術分野
B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、引き続き設備の補修、改善を実施した。
- ・ 「第2回避難体験オペラコンサート」を実施するなど、観客も含めた総合的な防災対策を進めた。
- ・ 開場20周年に因んで、劇場内外の装飾、記念グッズの販売等、来場者のもてなしに努めた。
- ・ キャンペーンやセット券のオプションサービスを工夫し、観客層の増大を図った。
- ・ 観客からの意見・要望について、各部署での情報共有を行い、様々なサービス改善に繋げた。

○ 良かった点・特色ある点

(伝統芸能分野)

- ・ 親子を対象とする公演について、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の4館が合同で販売キャンペーンを実施し、「親子を対象とする伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、歌舞伎・文楽・能楽・組踊の各分野において外国人向け公演を実施し、多言語による解説書、音声同時解説、字幕表示の提供、接客サービス等を行った。
- ・ 本館大劇場の客席への転落防止用手掛け棒設置、本館小劇場ロビー階段の手摺増設を実施するなど来場者の安全・安心に配慮した。
- ・ 本館大劇場及び演芸場では、来場者が日本の四季を感じられるよう季節ごとにロビー飾りを行い、照明による効果もあり、ロビーに明るさや季節感あふれる華やかさが創出された。
- ・ HPの公演情報にタイムテーブルを掲載するようにし、観客サービスを充実させた。
- ・ 本館大劇場及び小劇場の観客椅子ストッパーゴムの交換、座面等縫製修理を行うことにより前のめりにならず、安定した姿勢で観劇ができることにより腰への負担が軽減され観客からの苦情が減った。
- ・ 新出口設置による半蔵門駅地上階までのバリアフリー化で、駅利用者の利便性が拡大し、国立劇場来

場者のアクセスも大幅に改善された。

- ・ 国立劇場通りに面した倉庫壁面提灯は国立劇場本館公演実施日に合わせて夜間点灯させ、賑わい創出への一助となったほか、来場者の安全・安心にも繋がった。
- ・ 能楽堂構内案内サイン、玄関広間の総合案内板に点字を整備し、視覚障害者の利便性を高めた。
- ・ 国立劇場おきなわの観客用トイレについて、和式から洋式へ改修を実施した。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 客席の補修、照明器具のLED化等、引き続き快適で安全な観劇環境の維持に努めた。
- ・ 「第2回避難体験オペラコンサート」を実施して、観客も含めた総合的な防災対策を進めた。
- ・ 開場20周年にあたり、シーズン全体を記念シーズンとして総合的な盛り上げを図った。ウェルカムフラワーやフラッグ、ペナント等による劇場内外の装飾、記念グッズの企画・販売を行って来場者のもてなしに努めた。
- ・ 若年層向けの特別優待制度で「フレンズキャンペーン」を実施し、若年層への普及強化を図った。
- ・ シーズンセット券に他ジャンル公演チケットのオプションメニューを付加し、顧客へ向け観劇ジャンル幅の拡大を促した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ バリアフリー化等、劇場施設の改善を引き続き検討する。
- ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

2-(4)-① 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応

《業務実績詳細》

1. 設備等の環境整備

- ・ 全館で、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を開始した(6月～)。

(本館)

- ・ 大劇場壁面に季節ごとに季節感を表す造花等の装飾を行った。(6月「若葉」、7月「笹」、10月「银杏」、11月「紅葉」、12月「寒椿」、1月「紅白梅」、3月「桜」)
- ・ バリアフリー化への署名活動を実施した結果、半蔵門駅に地上階までのエレベーター・エスカレーター及び新出口(6番出口)が新設された(6月～)。また、新出口からの劇場案内看板を新設した(1月～)。
- ・ 半蔵門駅6番出口開設に伴い本館大・小劇場受付設置の周辺地図の修正を行った。
- ・ 国立劇場通りに面した劇場倉庫壁面の提灯について、50周年ロゴマークを天女マークのデザインのみに戻し、引き続き賑わいを創出した。

(演芸場)

- ・ ポータブル照明機器を導入し、ロビー等での催しをライティングで彩り一層華やかなものにした。
- ・ 1階にワイヤレスマイク装置を設置し、開場前の観客への情報提供等の環境を整備した。

(能楽堂)

- ・ 日本語と英語のマナーチラシを作成し、観客に注意喚起した。
- ・ 子供用のクッションを購入し、親子を対象とする公演以外の公演でも随時貸出を行った。
- ・ 能楽堂の建物は能楽の幽玄な世界に相応しい建築であり、観能の興趣をさらに醸成するよう、引き続き中庭の夜間ライトアップや庭園管理に努めて景観を保持した。
- ・ 外国人利用者への対応として、日本語・英語併記の能楽堂内外の案内サインを整備した。
- ・ 視覚障害者への対応として、能楽堂構内案内サイン、玄関広間の総合案内板に点字を整備した。

(文楽劇場)

- ・ 経年劣化により性能が低下していた小ホールの客席内スピーカーを更新し、観客が聴き取りやすく改善した。
- ・ 2階楽屋及び資料展示室に防犯カメラをそれぞれ増設した。
- ・ 資料展示室にスポットライトを増設し、展示品をより見やすくなるように照度を向上させた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 劇場内の洋式トイレの増設を求める声が多かったため、観客用トイレについて、和式から洋式へ改修を行い、公演休憩時間の混雑軽減にも繋がった。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場及び中劇場の客席椅子について、観劇環境の向上及び予防保全の観点から補修・一部改修を行った。
- ・ 小劇場座席表への照明設置、2Fブリッジでのコンセント増設、3Fギャラリーでのピクチャーレールの敷設等観劇環境の利便性向上に努めた。
- ・ オペラ劇場、中劇場、小劇場の各ホワイエ及びメインエントランスから中劇場入口付近等一部照明器具を高効率 LED 照明に交換し、省エネルギー及び照度の向上を図った。

2. 観客サービスの充実

- ・ 一年の幕開けを寿ぎ、鏡開きや手拭いまき等、各館で正月のイベントを実施した。
- ・ 等級区分入りの座席表を、従来、チケットセンターHP のみに掲載していたが、振興会 HP 内の公演詳細ページにも掲載するようになった。

(本館)

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭及びプラカードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・ 保護者・子供向けのマナーチラシ・ポスターを設置した。
- ・ 難聴者用ポータブル字幕の試用、熱中症対策ミストの設置等を行った。
- ・ 観客食堂サービス向上推進チームは、28年度に引き続き観客食堂が提供する料理の品質及び接客サー

ビスの向上等を図るための活動を行った。

- ・ 10月から3月の歌舞伎公演の演目に因んだ特別メニューを観客食堂において提供した。また、HPに特別メニューの記事を掲載し、観客食堂の利用向上に努めた。
- ・ 観客食堂のメニューに英語併記を行い、外国人利用者の利便性の向上に努めた。また、観客食堂においてアンケートを実施し、観客からの意見を踏まえ、食堂業者及び担当部署との定期的な会議を行った。
- ・ 公演内容に因んで、各地の観光協会等の協力により、劇場ロビー内に特設会場を設けて物産品等を販売した。
- ・ 歌舞伎・文楽公演において託児サービスを行い、観客の利便を図った。また利用希望に応じ、その他の公演でも公演内容によって通常開設しない日にも開室し、サービスを提供した。
- ・ 本館大劇場及び小劇場共通で利用できるチケットケースを作成した。
- ・ 50周年記念の「歌舞伎名ぜりふかるた」を、多数の要望に応じて、再販売した。

(演芸場)

- ・ 「国立劇場さくらまつり」会場で、「国立演芸場ご来場者プレゼント引換券」と4月定席チラシを配布し、公演の周知を図った。
- ・ 定席公演初日の前日に、HPの公演情報で全ステージの休演・代演情報の提供を開始し、観客サービスを充実させた。
- ・ 落語芸術協会、落語協会の協力のもと、株式会社タカラトミーアーツの開発した「落語ガチャ」を演芸場2階売店で販売開始し、来場者から喜ばれ多くの購入があった。

(能楽堂)

- ・ 食堂、売店に関するアンケート調査を1月に実施し、結果について関係部署、食堂・売店業者間で意見交換を行い、一層のサービス向上に努めるよう指導した。
- ・ 能面・能装束等をデザイン化したオリジナルグッズを、能楽堂内売店及び国立劇場売店で販売した。
- ・ レストランは公演状況に応じ開場前及び終演後も営業を行い、また売店は、公演中は一般の来場者でも買物ができるようにして、利用者の利便を図った。
- ・ 観劇に際し、従来の携帯電話のみならず情報端末についても電源を切るように、アナウンスを変更した。
- ・ 8月「親子で楽しむ能の会」及び「親子で楽しむ狂言の会」では、記念撮影用にチラシ等で使用したイラストのパネルを作成し、ロビーに設置した。
- ・ 11月特別企画公演「黒川能」に因み、ロビーで山形県鶴岡市の黒川能保存会による観光案内と名産品の販売を行った。
- ・ 12月特別企画公演「新作狂言」では、特製クリアファイルを作成し来場者全員にプレゼントした。
- ・ 3月企画公演「女性能楽師による」に因み、着物で来場した女性のお客様にオリジナルスウェットポーチをプレゼントする企画を実施し、チラシ、HP等で告知し集客を図った。
- ・ 1/8まで能舞台に注連をはり、来場者に正月の雰囲気をお楽しみいただいた。

(文楽劇場)

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭及びプラカードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・ 売店に文楽上演演目に因んだグッズ類を充実させて、観劇の雰囲気を盛り上げるように努めた。
- ・ 劇場玄関前で執り行う正月イベントにおいて、来場者に使い捨てカイロをプレゼントした。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 10月企画公演「ゆらていく遊ば」において、出演者と身近にふれ合える企画として、模擬店や写真撮影、ゲームコーナー等を設けた。また、本公演ならではのグッズを製作するなど、観客サービスに努めた。
- ・ 6月より、沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。
- ・ 友の会会員限定で6公演を対象に観劇ラリーを実施し、対象公演への興味・関心を高め集客を図った。
- ・ 1月企画公演「石見神楽」において、島根県浜田市物産展や石見神楽の展示を実施した。

(新国立劇場)

- ・ メインエントランスにある売店で、オペラ劇場公演日に劇場関連グッズ及び公演プログラムのバックナンバー等を販売した。
- ・ 新国立劇場開場20周年記念グッズとして、オリジナルクリアファイル、クリアバッグ、ペーパーウェイト、ボールペン等を製作し販売した。
- ・ オペラ劇場の夜公演時に、劇場内で人数限定のbuffet「パレスサロン」を行い、飲食サービスを提供した。

- ・ オペラ劇場における公演日に、開演の 90 分前より 2 階ブリッジにてカフェの営業を行った。
- ・ オペラ劇場ホワイエに設置しているテーブルとイスを更新した。デザイン性を向上するとともに、数を充実させた。
- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念フラッグやペナントによる飾りつけを劇場各所及び近隣商店街に掲出した。
- ・ 2017/2018 シーズンのオープニングにあわせ、メインエントランスに草月流家元の勅使河原茜氏によるウェルカムフラワーを展示した。また、開場 20 周年記念特別公演である「ニューイヤー・バレエ」にあわせ、メインエントランスに同じく草月流家元の勅使河原茜氏による生花装飾を設置し、20 周年の祝祭感を醸成した。
- ・ 2016/2017 シーズンシート又はオペラ・シーズンセット券を購入したアトレ会員/賛助会員を対象に、出演者との懇親を図るイベントとして、「オペラ 2016/2017 シーズンエンディングパーティー」を行った(6/11)。当日上演のオペラ「ジークフリート」を指揮したオペラ芸術監督と主要役のゲスト歌手が参加し、トークが行われた。参加者との歓談の後、記念写真を撮影し、後日参加者に送付した。
- ・ 2016/2017 シーズンシート又はバレエ・シーズンセット券を購入したアトレ会員/賛助会員を対象に、出演者との懇談を図るイベントとして、「バレエ 2016/2017 シーズンエンディングパーティー」を行った(7/1)。舞踊芸術監督と新国立劇場バレエ団ダンサーが参加し、トーク、参加者との歓談の時間を設けた。
- ・ バレエ「シンデレラ」で公演終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した(5回)。
- ・ バレエ「シンデレラ」の公演期間中、オペラ劇場ホワイエ内にクリスマスツリーを設置し、クリスマス関連の飾りで装飾するとともに、プロムナードに子供向けにバルーンアートやネイルコーナー、ボディペインティングコーナーを設置した。
- ・ クリスマスシーズンに、メインエントランスのポスターボードにステッカー装飾を行ったほか、館内の 20 周年記念フラッグにも装飾を施した。
- ・ バレエ「ジゼル」「ホフマン物語」において、チケットを購入した一般の観客に向け、新国立劇場バレエ団のクラスレッスン見学を行った。新国立劇場バレエ団ファンへのチケット販売の促進を図るとともに、通常では見学することのできないレッスンを見学してもらうことにより、新国立劇場バレエ団への関心と理解を深め、新たなファンの獲得を図った。
- ・ 演劇公演では、劇場ホワイエにおいて、公演内容と連動した学術的な展示を実施した。
- ・ 演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」の公演期間中、チラシデザインを用いたフロア装飾のほか、クリスマス関連のフォトコーナーを設置した。

3. 安全な観劇環境の確保

(本館)

- ・ 本館大劇場 2 階・3 階の座席に転落防止用の手掛け棒を設置した。
- ・ 本館小劇場上・下手階段に手摺を増設した。
- ・ 職員、委託業者が参加する避難訓練を実施した。

(演芸場)

- ・ 1 階ロビーの音響設備について、従前は必要に応じて有線マイクを敷設しており足元等に危険性があったが、ワイヤレスマイク装置を設置し、この問題を解消することができた。

(能楽堂)

- ・ 職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を 2 回(9 月・3 月)実施した。避難誘導等の実地訓練及び模擬消火器による消火訓練を行ったほか、9 月には渋谷消防署原宿出張所隊員指導の下、AED 取扱い訓練を実施し、職員等の救急救命の意識を高めることができた。3 月には備蓄食料、非常用品の保存場所・内容等の確認を行った。
- ・ 職員、委託業者等、全職域が参加して、火災・地震等の緊急時の対応について確認・検討する能楽堂舞台運営安全会議を 6 月に実施した。

(文楽劇場)

- ・ 6 月に団体観劇の高校生と教職員(計 336 名)の協力を得た避難誘導訓練及び消火器・AED 使用訓練を実施した。3 月には、職員及び委託業者社員が消防署制作のビデオを鑑賞し消防活動について学んだあと、避難誘導訓練を実施した。
- ・ 2 階楽屋及び資料展示室に防犯カメラをそれぞれ増設した。
- ・ 2 階文楽劇場と 3 階小ホールそれぞれのロビーに既設している AED のほかに 2 台追加し、事務所入口

と楽屋入口へも設置した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を年2回実施して、避難訓練、消火器の取扱い等について実地訓練を行った。

(新国立劇場)

- ・ 「第2回避難体験オペラコンサート」を実施した(9/7、オペラ劇場、参加者約1,200人)。なお職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練も同時に行った。
- ・ HPの「劇場のご案内」ページをリニューアルして「地震対応及び災害時の避難方法」ページを新設し、各劇場の避難経路と避難場所を客席図と写真で分かりやすく解説したほか、ページ間のアクセスを改善してバリアフリー情報等がすぐ見られるようにした。
- ・ 法定電気設備点検による停電にあわせ、中劇場の非常用設備機器の動作確認を、防災ワーキンググループ構成員を中心とした各部署の代表により行った。
- ・ 日頃の消防訓練の成果を発表する場として、渋谷消防署の主催する自衛消防訓練審査会に防災センター要員が参加した。
- ・ 大規模災害時帰宅困難者受入施設としての役割を踏まえ、災害備蓄品の入替、補充を行った。

4. 外国人利用者等への対応

(本館)

- ・ 歌舞伎・文楽公演では解説書(有料)に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布した。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Multilingual Week」及び12月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、5か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語)によるイヤホンガイド(無料)を提供し、英語字幕表示を行った。また、あらすじ等を記載した5か国6言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語)によるパンフレット(無料)を配布した。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを劇場内のほか、空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・ 主に外国人旅行者を対象としている東京駅前KITTE内観光案内所において、英文の歌舞伎イメージポスターを通年掲示した。また、新たに東京駅前の観光案内所TIC TOKYOにも英文の歌舞伎イメージポスターの通年掲示を開始した。

(演芸場)

- ・ 英語、中国語(簡体字・繁体字)の施設紹介パンフレットを作成・配布し、外国人の利用環境の充実を図った。
- ・ 英語による寄席の紹介パンフレット作成・配布し、外国人の利用環境の充実を図った。
- ・ 8月特別企画「太神楽 妙技の数々」において、英文チラシ・ポスターを作成・配布。また同日実施の太神楽ワークショップでは、参加した外国人のために講師(太神楽曲芸協会員)が自ら通訳となって演技の解説を行った。

(能楽堂)

- ・ 英語のマナーチラシを作成し、外国人の観客に注意喚起した。
- ・ 英語による演目解説リーフレット、「主催公演予定表」(冊子)、施設紹介パンフレットの作成・配布、英語による案内表示、場内アナウンス等のサービスを提供し、外国人の利用環境の充実を図った。
- ・ 能楽堂の英語版HPに年間主催公演予定(スケジュール)を掲載し、外国人利用者への利便性の向上を図った。
- ・ 英語・中国語・韓国語による能楽解説書「NOH & KYOGEN Guide Book」を作成し、無料配布した。
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催公演(「蠟燭の灯りによる」を除く)で字幕(日本語・英語)

表示を実施した。

- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」において、あらすじ等を記載した 6 か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・フランス語)による解説書を作成し、無料配布した。また、4 か国語(日本語・英語・中国語・韓国語)による字幕表示を実施した。
- ・ 外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」で、2 階研修能舞台において初めて英語字幕表示を実施した。
- ・ 外国人利用者への対応として、日本語・英語併記の能楽堂内外の案内サインを整備した。

(文楽劇場)

- ・ 「社会人のための文楽入門」の解説の舞台稽古を報道関係者向けに公開し、ナビゲーター茂山童司及び解説構成者木ノ下裕一に対する「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」の内容も含めた取材の場を設けた(6/10)。新聞社 4 社が取材。
- ・ 英字新聞や英文ニュースサイトでバナー広告を行った(2 社)。
- ・ 「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」において、6 か国語 7 言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書等を作成し、当日の来場者プレゼントの意味も含め、オリジナルトートバッグに入れて配布した。また、28 年度に作成した外国人向け英語版文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)を配架し、29 年度はその中国語版を新たに作成・配架、さらに年度末には韓国語版も作成した。字幕表示装置による英語字幕の表示、2 か国語(日本語・英語)による音声同時解説の実施、外国人利用者対応スタッフの配置を行った。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 組踊公演、沖縄芝居公演(9 月「沖縄芝居鑑賞教室」、2 月史劇「護佐丸と阿麻和利」)について、外国人利用者向けにあらすじ等を英文で記したチラシを作成・配布した。
- ・ 3 か国語 4 言語(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)による自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内ほか、空港及び観光案内所等に配布した。
- ・ 多言語表記の沖縄伝統芸能紹介パンフレットを作成し、各所に配布した。
- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、29 年度より、3 か国語(英語・中国語・韓国語)表記のチラシを作成・配布した。
- ・ 外国人観客の来場時や電話での問合せに対応するため、多言語対応の電話通訳サービスを実施した。
- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、29 年度に引き続き、多言語オーディオガイド機器を導入するとともに、28 年度の 3 か国語(英語・中国語・韓国語)から日本語を追加し、4 か国語による音声同時解説及び英語通訳のある組踊ワークショップを実施し、また、チケットカウンターには英語通訳者を配置した。

(新国立劇場)

- ・ 公演プログラムに英文によるあらすじ解説を掲載した。
- ・ 英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・ 当日券の購入方法をご案内する英語チラシを作成し、劇場内で配布した。
- ・ 英語版 Web サイトを 29 年度も改修し、トップ画面のニュース見出しを写真付きにすると同時にニュース配信数を増やし、研修公演や情報センターポスター展等様々な情報を幅広く伝えた。
- ・ 新国立劇場開場 20 周年については特設サイトの英語版を通じ、劇場の 20 周年を大きくアピールした。
- ・ Web ボックスオフィスでは、研修公演を除くすべての主催公演で海外からのチケット購入サービス等を引き続き提供した。
- ・ 英語版 SNS(Facebook、Instagram)を通じて、ネイティブによる外国人ならではの視点で公演情報を発信した。
- ・ 日本政府観光局のサイトに新国立劇場及び舞台美術センターの英文情報を掲載し、外国人観光客への適切な情報提供に努めた。
- ・ シーズンガイドの英語版及びシーズン 4 か月ごとの英文公演ガイドを作成して、各国大使館並びに文化機関、ホテル、観光案内所、外国人記者協会、世界各地の国際交流基金事務所等に配布し、公演概要を広く外国人に周知した。
- ・ 英字新聞、外国人向けフリーペーパー、海外のオペラ専門誌、在日英国商業会議所発行誌等に劇場及び公演の情報を掲載し、周知に努めた。
- ・ 英語版のプレスリリースを作成し、世界各国のマスコミへの周知に努めた。
- ・ 大使鑑賞プログラムを実施したほか、同プログラム以外の主催公演でも出演者出身国の大使を招待し、楽屋訪問の様子等を HP 等に掲載した。また、大使館の HP や SNS でも周知するなど広報協力を得た。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 公衆無線LAN サービス(無料Wi-Fi)の開始により、特にインターネット利用環境を持たない外国人旅行者等への利便性の向上を図ることができた。

(本館)

- ・ 本館大劇場の客席への転落防止用手掛け棒設置、本館小劇場ロビー階段の手摺増設を実施するなど来場者の安全・安心に配慮した。
- ・ 本館大劇場では、27年度より実施している季節ごとのロビー飾りを引き続き行ったことで、ロビーに明るさや華やかさが創出された。
- ・ 新出口設置による半蔵門駅地上階までのバリアフリー化で、駅利用者の利便性が拡大し、国立劇場来場者のアクセスも大幅に改善された。
- ・ 国立劇場通りに面した倉庫壁面提灯は、国立劇場本館公演実施日に合わせて夜間点灯させ、賑わい創出への一助となったほか、来場者の安全・安心にも繋がった。

(演芸場)

- ・ 大衆芸能について、英文等のパンフレットで外国人に向けて周知を図った。
- ・ 演芸場では、1階ロビーにワイヤレスマイク装置を設置したことから、より快適で安全な観劇環境が整備された。

(能楽堂)

- ・ 能楽堂では、英語による「主催公演予定表」(冊子及びHP)や、3か国語(英語・中国語・韓国語)による能楽解説書を作成し、無料配布した。
- ・ 成田空港のインフォメーションセンター東京観光情報センター(羽田空港国際線旅客ターミナル・バスタ新宿・都庁第一庁舎・京成上野駅改札前)、東京シティエアターミナル、青山 GLOCAL・CAFÉ に、外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」と30年度の「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」のチラシを配布して周知を図った。
- ・ 外国人利用者への対応として、日本語・英語併記の能楽堂内外の案内サインを整備した。
- ・ 視覚障害者への対応として、能楽堂構内案内サイン、玄関広間の総合案内板に点字を整備した。

(文楽劇場)

- ・ 経年劣化により性能が低下していた小ホールの客席内スピーカーを更新し、観客が聴き取りやすく改善された。
- ・ 「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」において、6か国語7言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書等を作成し、当日の来場者プレゼントの意味も含めて、オリジナルトートバッグに入れて配布した。また、28年度に作成した外国人向け英語版文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)を配架し、29年度はその中国語版を新たに作成・配架、さらに年度末には韓国語版も作成した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 国立劇場おきなわでは、多言語表記の自主公演年間リーフレットや沖縄伝統芸能の紹介パンフレットを作成し、空港や観光案内所に配布した。また、外国人観客の来場時や電話での問合せに対応するため、多言語対応の電話通訳サービスを実施した。

(新国立劇場)

- ・ 新国立劇場では、メインエントランス及び3階ギャラリーの一部照明器具を高効率LED照明に交換し、省エネルギー及び照度の向上を図った。
- ・ 新国立劇場開場20周年に因み、ウェルカムフラワーやフラッグ等の装飾や記念グッズの販売等で祝祭感を醸成した。
- ・ 新国立劇場では「第2回避難体験オペラコンサート」を実施し、観客参加型のより実際的な避難訓練を行った。またHPを改修して各劇場の避難経路と避難場所を分かりやすく掲出した。
- ・ 新国立劇場では、当日券の購入方法を英語チラシで案内するなど、劇場内での外国語対応をより充実させると同時に、英語版の開場20周年特設サイトやプレスリリースの発信を通じて新国立劇場の周知に努めた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ イヤホンガイドの音漏れ防止や障害者対応のため、引き続き委託業者の対応を含め改善を検討する。

- ・ 高齢者等の観客に留意し、バリアフリー化等、引き続き劇場施設の改善を検討する。
- ・ 英語圏以外の方を含めた外国人の観客に対し、周知、勧誘、利便の向上を図るべく、引き続き検討する。
- ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

2-(4)-② 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進

《業務実績詳細》

- ・ 親子を対象とする公演のインターネット販売では、本館・演芸場・能楽堂の各公演は、会員及び一般発売に先行して発売した。文楽劇場の公演は一般発売に先行して会員発売日と同日に発売した。
- ・ チケットセンターHPに各館の親子企画を紹介する特設サイトを設置し、さらに、振興会トップページのバナーから誘導した。
 - 1) 「親子で楽しむ歌舞伎教室」(7/17、20～24)
インターネット販売は5/26に開始、電話予約は5/27に開始
予約結果：インターネット予約4,635件(13,868枚)、電話予約1,056件(3,158枚)
 - 2) 「親子で楽しむ日本舞踊・親子で楽しむ邦楽」(7/23)
インターネット販売、電話予約ともに5/11に開始
予約結果：インターネット予約148件(419枚)、電話予約33件(97枚)
 - 3) 「親子で楽しむ演芸会」(7/23)
インターネット販売は5/28に開始、電話予約は5/29に開始
予約結果：インターネット予約64件(190枚)、電話予約29件(95枚)
 - 4) 「夏休み親子のための能の会」(8/5)及び「夏休み親子のための狂言の会」(8/26)
インターネット販売は5/28に開始、電話予約は5/29に開始
予約結果：
「夏休み親子のための能の会」インターネット予約172件(463枚)、電話予約36件(103枚)
「夏休み親子のための狂言の会」インターネット予約162件(462枚)、電話予約45件(139枚)
 - 5) 「文楽親子劇場」(7/22～8/8)
インターネット販売は6/2に開始、電話予約は6/3に開始
予約結果：インターネット予約443件(1,399枚)、電話予約137件(410枚)
- ・ 11月歌舞伎公演において、東日本大震災被災者招待を全24ステージで実施した(来場者数283名)。
- ・ 3月歌舞伎公演において、東日本大震災被災者招待を全25ステージで実施した(来場者数322名)。
- ・ 演芸場12月中席公演において、東日本大震災被災者招待を全11ステージで実施した(来場者数153名)。
- ・ 28年度に引き続き、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の各公演について、インターネットチケット販売においても、障害者割引を行った。

(本館)

- ・ 11月歌舞伎公演において、読売新聞読者を対象に特別割引販売を実施し、75件109枚の購入があった。
- ・ 3月歌舞伎公演において、読売新聞読者を対象に特別割引販売を実施し、77件125枚の購入があった。
- ・ 3月歌舞伎公演において、特別当日割引券の販売を実施し、305件375枚の購入があった。

(能楽堂)

- ・ 12月特別企画公演「新作狂言」では、Webサイト&アプリ「オズモール」(スターツ出版株式会社)、フリーマガジン「メトロミニッツ」(スターツ出版株式会社)及びえらべる倶楽部会報誌(株式会社JTBベネフィット)にて、野村萬斎の取材記事を掲載し、公演のチケット委託販売を行った。
- ・ 2月、3月の各公演では、都内近隣3ホテルで能舞台体験付き宿泊パッケージプランを販売した。
- ・ 津田塾大学の「梅五輪」に参加し、能楽堂の特設ブースでチケットの出張販売を行った(3月)。

(文楽劇場)

- ・ 文楽劇場では、文楽本公演において、一幕限定で短時間・低価格で楽しめる幕見席を販売した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 組踊「二童敵討」と同題材を扱う他の2公演についてセット券を販売した。

(新国立劇場)

- ・ 若年層向けの特別優待制度であるU25優待メンバーズ、U39オペラ優待メンバーズに対し、適時「フレンズキャンペーン」を実施し、U25優待メンバーズ等の登録者が未登録の友人等を勧誘し未登録の友人等も優待価格で購入できる機会を提供した。
- ・ オペラ・バレエ・現代舞踊のシーズンセット券や演劇の2～3作品通し券を販売した。また、会員・

一般のお客様に対し、同時期に上演するオペラ「ホフマン物語」・バレエ「ホフマン物語」について、同時購入キャンペーンを実施した。さらに、U25 優待メンバーズや U39 オペラ優待メンバーズ向けのお得な「ホフマン物語」W 観劇セット券を販売した。

- ・ シーズンセット券にオプションメニューとして、他ジャンルのおすすめ公演のオプション販売を行い、顧客へ幅広いジャンルの提案を行い、販売促進に努めた。
- ・ すべての主催公演について、過去に、一般・会員問わず Web 購入登録を行い、かつ新国立劇場からの DM 送付を許可している顧客に対し、先行発売を開始した(1 公演につき対象者：約 4 万人)。
- ・ 現代舞踊公演において見切れの可能性がある席に対し、従来は窓口、電話での口頭説明による注釈付き販売のみであったが、新たに Web サイトにおいて、これらの注釈を記載することによって、Web 販売を開始し、顧客へのニーズに対応した販売を行った。
- ・ 近年増加している外国人来場者に向けて当日券の購入方法をご案内する英語版チラシを作成し、劇場内で配布した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(伝統芸能分野)

- ・ 振興会の「親子企画」として、販売に先立ちインターネット販売システムに専用ページを設け、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の 4 館が共同でインターネットを活用した販売キャンペーンを行ったことにより、多くの親子がこの企画を利用し、「親子を対象とした伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
- ・ 能楽堂では、国立能楽堂以外の能楽公演・能楽関係ワークショップ等や近隣ホテルの能楽イベントに参加し、公演チラシの配布及びチケットの出張販売を行ったことにより、より多くの集客を図ることができた。また、各種メディアでのチケット販売を通して新たな観客層を獲得することが出来た。
- ・ 文楽劇場では、一幕限定で短時間・低価格で楽しめる幕見席の販売が好評であった。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 新国立劇場では、若年層向けの特別優待制度である優待メンバーズに対し適時「フレンズキャンペーン」を実施し、若年層への普及強化を図った。
- ・ 新国立劇場では、シーズンセット券に他ジャンル公演のオプションメニューを付加して顧客へ幅広いジャンルの提案を行い、販売促進に努めた。

2-(4)-③ 公演内容等の理解促進のための取組

《業務実績詳細》

1. 解説書等の作成

- ・ 本館の各公演において解説書を作成し、公演内容等に応じて以下の工夫を行った。
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本(初心者向けガイドブック)を無料配布
 - ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、あらすじ等を記載した 5 か国語 6 言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語)によるパンフレットを無料配布
- ・ 演芸場では、出演者の顔写真や略歴を掲載した公演ガイドを毎月作成して、無料配布を行い、公演内容の理解を図った。また、8 月特別企画「太神楽 妙技の数々」、10 月特別企画「芸術祭寄席」及び 3 月特別企画「正蔵 正蔵を語る」において別途解説パンフレット(いずれも無料配布)を作成し公演内容の理解促進に努めた。
- ・ 能楽堂では、毎月の公演において解説書を作成し、公演内容に応じて特集を組み、カラー写真や図版を挿入するなど工夫を凝らした。また特別企画公演の「黒川能」と「新作狂言」については個別の解説書を作成し、より詳しい内容を掲載するように努めた。能楽鑑賞教室においては、漫画によるあらすじ解説を掲載し、公演内容の理解促進を図った。また、英語による能楽解説書「NOH & KYOGEN Guide Book」に加え中国語版・韓国語版を新たに作成した上、「Discover NOH & KYOGEN」において、あらすじ等を記

載した5か国語6言語による解説書を作成し、無料配布した。

- ・ 文楽劇場では、「上方演芸特選会」を除く各公演において解説書を作成した。文楽鑑賞教室において、来場者全員に配布する読本について、写真を多く用いたカラー版の「文楽入門」を作成し、無料配布を行った。「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」においては6か国語7言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書等を作成し、当日の来場者プレゼントの意味も含め、オリジナルトートバッグに入れて配布した。また、28年度に作成した外国人向け英語版文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)を配架し、29年度はその中国語版を新たに作成・配架、さらに年度末には韓国語版も作成した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演解説書ステージガイド「華風」(月刊)を作成した。また、「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」「琉球舞踊鑑賞教室」でイラスト入りの初心者向けのパンフレットを作成し、無料配布を行ったほか、「外国人のための組踊鑑賞教室」においてはあらすじを英訳したペーパーを無料配布した。
- ・ 新国立劇場では、すべての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。うち舞踊公演は無料配布とし、観客の関心が高いキャスト情報及び演目のあらすじに特化した解説書で広く公演内容を周知した。新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。また、公演プログラムに英文によるあらすじ解説を掲載した。

2. 音声同時解説・字幕表示の活用

(1) 音声同時解説サービスの実施

- ・ 歌舞伎・文楽の全公演で、2か国語(日本語・英語)による音声同時解説サービスを実施した(文楽鑑賞教室は日本語版のみ)。
- ・ 能楽堂を除く各館での外国人向け公演において、多言語による音声ガイドを提供した。

(2) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	2公演	6月鑑賞教室、7月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10公演	全公演
舞踊・邦楽・声明・民俗芸能・琉球芸能・特別企画公演	18公演	5月舞踊公演、8月舞踊公演、11月舞踊公演、3月舞踊公演
		6月邦楽公演、10月邦楽公演(2公演)、12月邦楽公演、1月邦楽公演、8月邦楽公演(文楽劇場)
		3月雅楽公演
		9月声明公演
		6月民俗芸能公演、1月民俗芸能公演
		3月琉球芸能公演(文楽劇場)
能楽公演(鑑賞教室含む)	50公演	6月企画公演(蠟燭能)を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	28公演	11月企画公演「人間国宝・至芸の宴」「国立劇場寄席」を除く全公演
オペラ公演	12公演	全公演

3. 公演説明会・施設見学等の実施

(1) 公演説明会の実施

区 分	件 数	参加人数
本館・演芸場	133件	5,734人
能楽堂	6件	178人
文楽劇場	51件	1,238人
国立劇場おきなわ	1件	15人
新国立劇場	14件	5,457人
合 計	205件	12,622人

(2) 施設見学の実施

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	11件	115人
能楽堂	17件	208人
文楽劇場	4件	46人
国立劇場おきなわ	21件	776人
新国立劇場	57件	489人
合計	110件	1,634人

(3) バックステージツアーの実施

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	87件	2,514人
能楽堂	50件	1,807人
文楽劇場	1件	55人
国立劇場おきなわ	2件	150人
新国立劇場	16件	549人
合計	156件	5,075人

(4) 劇場外での伝統芸能講座の実施

- ・ 文楽劇場では、大阪梅田の商業施設「グランフロント大阪」内の知的創造・交流施設「ナレッジキャピタル」が開催するイベントに人形浄瑠璃文楽として参加。「秋は親子で文楽にふれてみよう！太夫、三味線弾き、人形遣ってなんだろう」と題して技芸員による解説と体験を実施した(参加者数90名)。
- ・ 国立劇場おきなわでは、「組踊ワークショップ」を名古屋、福岡、長野で実施した。普段、組踊に触れる機会が少ない県外の方を対象に、沖縄の伝統芸能の知識を得る機会を提供した(3回、参加者数82名)。

(5) 劇場外での現代舞台芸術講座の実施

- ・ 子供の日に親子で参加するイベント「芸術体験ひろば」(5/5、主催：日本芸能実演家団体協議会、会場：芸能花伝舎)に参画した。舞台衣裳の世界を体験するコーナーを設置、オペラ「魔笛」「ラ・ボエーム」の衣裳を展示して特徴を解説、子供たちが試着して記念撮影するサービス等を実施し、舞台芸術への興味関心を育む一助とした(2回、参加者各回とも約40名)。
- ・ 共立アカデミー等、チケット購入団体に対して職員によるオペラ公演の事前レクチャーを実施した。
- ・ 有料老人ホームに対して、職員によるオペラ公演の事前レクチャー、及び劇場までの往復送迎付きの観劇ツアーを企画して実施し、オペラファンでありながら劇場に通うことが困難な観客層を集客することができた。
- ・ オペラ「松風」公演に先立ち、国立能楽堂にて「能とオペラー『松風』をめぐる」を開催した(1/10、505名)。本館営業部及び能楽堂と連携し、オペラ作品の基盤となった能の実演と、能とオペラ双方の関係者による座談会を行い、作品の理解と関心を高めた。
- ・ 朝日カルチャーセンターの企画で演劇「怒りを込めてふり返れ」公演時に、翻訳の水谷八也、出演者の浅利陽介による関連講座を実施した(1回30名)。
- ・ 芸術鑑賞を行う学校団体等(オペラ鑑賞教室含む)のニーズに対応して、鑑賞の事前学習として複数の学校に訪問して、職員によるレクチャーを実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 能楽堂では、座席字幕表示装置により、6月企画公演(蠟燭能)を除く全公演で日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を行った。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではこれに子供向けチャンネルを追加し、より分かりやすい解説を表示し、好評を得た。さらに、新規に研修能舞台で実施した外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」では、大型モニターを用いて英語字幕表示を行った。
- ・ 文楽劇場では、大阪梅田の商業施設「グランフロント大阪」内の知的創造・交流施設「ナレッジキャピタル」と連携し、劇場外での伝統芸能講座として技芸員による解説と体験ワークショップを実施し、

文楽への理解を促進した。

- ・ 国立劇場おきなわでは、公演内容等に応じて、上演に先立ち、沖縄県の補助事業等を活用してワークショップ等を開催し、鑑賞の一助とした。
- ・ 新国立劇場では、外部団体との連携協力により、公演に関連した講義やセミナーを劇場内外で実施し、現代舞台芸術に触れ、理解する機会を広く提供した。

2-(4)-④ 意見・要望等の把握と対応

《業務実績詳細》

1. 意見・要望等への対応体制

(振興会)

- ・ 各館に寄せられた観客の意見・感想・要望については、より迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知のほか、各館で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

(新国立劇場)

- ・ 全公演でアンケート調査日を設定し、入場時にアンケート用紙を配布、終演後に粗品と引換に回収する形で実施した。また、オペラを除く公演においてはアンケート用紙にQRコードを掲載し、Web上でも同内容のアンケートに回答できるようにした。アンケート調査日以外においても、劇場各所にアンケート用紙を設置した。
- ・ アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、HPに掲載した。
- ・ 意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- ・ 主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

2. 意見・要望等への対応状況

区分		受付件数	回答件数
ご意見箱	本館	58件	47件
	演芸場	15件	12件
	能楽堂	15件	6件
	文楽劇場	48件	16件
	国立劇場おきなわ	22件	0件
	合計	158件	81件
メールによるご意見	振興会	95件	74件
	国立劇場おきなわ	0件	0件
	新国立劇場	275件	138件
	合計	370件	212件

主な対応・改善例

- ・ 演芸場では、施設設備担当者の巡回時間を早朝から開場1時間前に変更した。このことにより、より適切な温度設定が行えるようになった。
- ・ 国立劇場おきなわでは、劇場内の洋式トイレの増設を求める声が多かったため、観客用トイレについて、和式から洋式へ改修を行った。
- ・ 新国立劇場では、乗り出しに対する注意が分かりにくいというご意見に対して、「周りのお客様の視界を妨げる恐れがありますので」という文言を追加し、理由を分かりやすく改善した。
- ・ 現代舞踊公演「海の賑わい 陸の静寂一めぐり」において、「外国の方が多くご来場されたのに英語アナウンスがなかった」というご意見を受け、その後の「ST/LL」「罪と罰」において英語アナウンスを追加した。
- ・ 新国立劇場中劇場のトイレ等の一部の施設について、「場所が分かりにくい」という声に対応し、

簡易サインを作成し掲出した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 意見・要望等に、より迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。
- ・ 意見・要望は関係部署間で共有、検討して、実際の様々なサービスに活かすことができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 引き続き意見・要望等の把握に努め、迅速な対応を図るとともに業務・サービス改善に活用したい。

2-(5) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

より多くの人々が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標として、次の取組により一層効果的な広報・営業活動を展開

- ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動、各種事業に関する広報の充実
- イ 観客の需要を的確に捉えた営業活動
- ウ 会員に向けた各種サービスの提供による会員の観劇機会の増加

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施
 - ②各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供
 - (a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等を分析
 - ・日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数:3,000,000件
 - ・国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数:297,000件
 - ・新国立劇場ホームページ目標アクセス件数:4,000,000件
 - (b)メールマガジン等により、公演等の情報を随時配信
 - (c)外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を強化
 - ③各種事業に関する広報誌を次のとおり発行
 - ・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)
 - ・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
 - ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)
 - ④シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンを企画・実施
 - ⑤団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携を強化
 - ⑥「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営、サービスの提供、拡充
 - ⑦全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施
- イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的にも実施
- 入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供
- アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用
- 会員向けサービスの周知による、新規会員の増加

- ①あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)
 - 会報「あぜくら」(毎月発行)、会員向けイベント(年8回程度)
 - 目標会員数 18,200人
- ②国立文楽劇場友の会
 - 「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行)、会員向けイベント(年6回程度)
 - 目標会員数 8,100人
- ③国立劇場おきなわ友の会
 - 「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)、会員向けイベント(年3回程度)
 - 目標会員数 1,900人
- ④クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)
 - 会報「ジ・アトレ」(毎月発行)、会員向けイベント(年12回程度)
 - 目標会員数 10,000人

《主要な業務実績》

1. 効果的な広報・営業活動の展開

- ・ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開
- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 公演内容に応じて各種セット券等を販売
- ・ 英語版HPの改善、公演情報の早期掲載、特設サイトの開設、SNS(Facebook、Twitter、Instagram)の活用等によりHPの内容を充実化したほか、メールマガジンを随時配信
- ・ 国立劇場おきなわ、新国立劇場の各ホームページにおいて目標アクセス件数を大幅に超えて達成
- ・ 旅行代理店・ホテル等との連携を強化
- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」、国立劇場おきなわ会報誌「華風」、新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」等の広報誌を発行
- ・ 文化プログラムへの参加を積極的に推進するため、振興会主催公演等255件を「beyond2020プログラム」に登録

(伝統芸能分野)

(本館)

- ・ 各公演の特設サイトを作成し、インターネットを積極的に利用して公演のPRを実施
- ・ Twitterアカウント、Instagramアカウントを開設し、写真を掲載するなど、SNSを利用した広報活動を実施
- ・ 外国人来場者の誘致のため、6月に「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」において各国駐日大使等大使館関係者を招待(37か国61人が参加)
- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供
- ・ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービスを提供
- ・ 全職員が積極的に観劇を勧誘する「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施

(能楽堂)

- ・ 能楽堂の「主催公演予定表」(年間スケジュール)を作成
- ・ 特別企画公演「新作狂言」では特設サイトを開設
- ・ 3月に、津田塾大学の「梅五輪」に参加(特設ブースの開設、DVDの上映、能装束の展示、能面・狂言面の体験イベント)

(文楽劇場)

- ・ HPにおいて、技芸員のインタビュー動画の公開を開始したほか、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画の作成をすべての文楽公演において実施
- ・ 文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施
- ・ 文楽本公演において、一幕限定で短時間・低価格で楽しめる幕見席を販売

(現代舞台芸術分野)

- ・ 2017/2018シーズン全体を新国立劇場開場20周年記念シーズンと位置付け、特設サイトの作成、新宿駅や羽田空港への広告掲出等、総合的な広報を実施
- ・ 公演に関連したトークや解説を劇場内外で多数実施、Webと連結して動画配信やニュース発信し広範囲に情報展開
- ・ SNS(Facebook、Twitter、Instagram)でも積極的に情報発信
- ・ 新国立劇場開場20周年の特設サイトを開設、毎週更新して劇場20年の実績と現代舞台芸術の魅力をアピール
- ・ シーズンセット券、テーマ別セット券のほか、こども劇場セット等ジャンル横断セット券も企画して新国立劇場の固定客を拡大
- ・ 英語版サイトを引き続き改修、ニュース配信頻度を高めてSNS(Facebook、Instagram)と連動
- ・ 都内ホテル、百貨店等と連携した観劇プランや学校団体向け営業を積極的実施

2. 会員組織の運営、会員向けサービスの充実

- ・ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供及び先行販売、会員向けイベント等のサービスを実施
- ・ 会員サービスの充実及び新規入会キャンペーン等による入会促進
- ・ あぜくら会、国立文楽劇場友の会、クラブ・ジ・アトレにおいて目標会員数を達成
- ・ 国立文楽劇場友の会では、大阪市主催の文楽普及事業「ムムム！文楽シリーズ中之島文楽」公演での新規入会キャンペーンを実施
- ・ 国立劇場おきなわ友の会では、文楽劇場3月特別企画公演「琉球舞踊と組踊」の際に、国立劇場おき

なわの公演広報と併せて、友の会入会の勧誘を実施

《数値目標の達成状況》

【ホームページへのアクセス状況】

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：実績 2,963,651 件／目標 3,000,000 件(達成度 98.8%)
国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：実績 360,491 件／目標 297,000 件(達成度 121.4%)
新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：実績 5,208,881 件／目標 4,000,000 件(達成度 130.2%)

【会員数】

あぜくら会：実績 19,171 人／目標 18,200 人(達成度 105.3%)
国立文楽劇場友の会：実績 8,330 人／目標 8,100 人(達成度 102.8%)
国立劇場おきなわ友の会：実績 1,636 人／目標 1,900 人(達成度 86.1%)
クラブ・ジ・アトレ：実績 10,763 人／目標 10,000 人(達成度 107.6%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 公演内容に応じた広報活動を実施し、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 各種キャンペーン等、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。
- ・ 各会員組織について、イベントの開催等、サービスの充実に努めた。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を増加させることができた。
- ・ 文楽劇場では、各種キャンペーンやHPを利用した広報等により、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。広報活動を一層強化し好結果を得た。
- ・ 国立劇場おきなわでは、旅行業者と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを実施した。

現代舞台芸術分野
A

(根拠)

- ・ HPのアクセス件数は過去最多の5,208,881件(年度計画達成度130.2%)を記録し、現代舞台芸術分野全体の入場者数が第3期中期目標期間最多を記録したことに大きく貢献した。
- ・ 2017/2018シーズン全体を新国立劇場開場20周年記念シーズンと位置付け、特設サイトの作成、新宿駅や羽田空港への広告掲出等、総合的な広報を実施した。
- ・ 新国立劇場開場20周年の特設サイトを開設、毎週更新して劇場20年の実績と現代舞台芸術の魅力をアピールした。
- ・ 公演に関連したトークや解説を劇場内外で多数実施した。Webと連結して動画配信やニュース発信し、SNS(Facebook、Twitter、Instagram)も駆使して広範な情報発信に努めた。
- ・ シーズンセット券、テーマ別セット券のほか、こども劇場セット等ジャンル横断セット券も企画して新国立劇場の固定客拡大に努めた。
- ・ 英語版サイトを引き続き改修、ニュース配信頻度を高めてSNS(Facebook、Instagram)と連動することでフォロワーの拡大維持を図った。
- ・ 都内ホテル、百貨店等と連携した観劇プランや学校団体向け営業を積極的に実施した。旅行代理店や学校鑑賞の担当者を劇場に招待して理解促進、興味喚起に努めた。
- ・ 会員向けサービスの充実に努めるとともに、ハウスカード(クレジットカード機能のないカード)の入会促進も積極的に行い、若年層の拡大を推進した。

○ 良かった点・特色ある点

(伝統芸能分野)

- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を増加させることができた。

- ・ あぜくら会においては、演目に因んだツアーや出演者による対談を実施するなど、バラエティに富んだイベントを実施し、会員増を図った。
- ・ 能楽堂では、テーマ性の強い企画公演等において、通常の月間チラシとは別に当該公演に特化した特別チラシを作成し、公演内容の一層の周知を図った。
- ・ 文楽劇場では、特にHPにおいて、芸員インタビュー動画、舞台のダイジェスト版動画、「文楽かんげき日誌」等で公演PRの内容充実を図り、トピックアクセス数を向上させ、宣伝効果を高めることができた。その他、放送局等外部とのコラボレーション等、公演内容に合わせバリエーションに富んだ公演PRを行った。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 新国立劇場開場20周年に因み、総合的な広報営業を実施して盛り上げを図ることができた。
- ・ 公演に関連したトークや解説を劇場内外で多数実施した。さらにWebと連結して動画配信やニュース発信することで広範囲に情報展開することができた。
- ・ HPを引き続き改修し、開場20周年特設サイト等魅力的なページ作りを進めた。コンテンツの更新やニュース配信の頻度を高め、SNS(Facebook、Twitter、Instagram)との連動でフォロワーを飽きさせない魅力的なサイト構成ができた。
- ・ 会員向けサービスの充実を図るとともに、クレジット機能のないハウスカードも対象とした入会キャンペーンで会員の年齢層若返りを図った。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 今後もジャンルや演目の特性を見据え、きめ細かな広報宣伝営業活動を続けたい。
- ・ 引き続き、各会員組織において入会キャンペーン等の実施により新規会員の増加を図るとともに、会員向けサービスの一層の充実に努めたい。

2-(5)-① 効果的な広報・営業活動の展開

《業務実績詳細》

1. 公演内容に応じた効果的な広報活動

- ・ 2020年東京大会に関連して行われる「beyond2020プログラム」に振興会主催公演等255件を登録し、認証を受けた。公演チラシ・ポスターやプログラム等へのロゴマーク掲出や振興会HPに告知を行った。

(本館)

- ・ 「国立劇場歌舞伎情報サイト」に、歌舞伎に関する情報やトピックスを掲載し、周知を図った。
- ・ マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)、舞台稽古の取材、ゆかりの地での取材会等を実施した。ポスター、チラシ、HP、メール、SNS(Twitter、Instagram)、あぜくら会会報、振興会ニュース等での広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 各公演の特設サイトを作成した(歌舞伎5公演、文楽3公演)。見所や取材会(記者会見)の様子等を掲載し、インターネットを積極的に利用して公演のPRを行った。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」において各国駐日大使等大使館関係者を招待し、外国人来場者の誘致を図った(37か国61人が参加)。

(演芸場)

- ・ 新聞や「東京かわら版」等への広告掲載、NTJメンバー等へのメール発信、ダイレクトメール送付を行った。
- ・ 8月特別企画「太神楽 妙技の数々」において英文チラシ、ポスターの作成やTwitterを利用した情報発信等により観客層の掘り起こしを図った。
- ・ 1公演1ステージ(満席数300)の企画公演及び若手新人公演において、完売が危ぶまれる場合、関心を喚起するためHPにトピックスを掲載し、売上を伸ばすことができた。

(能楽堂)

- ・ チラシ、ポスター、HP、あぜくら会会報、振興会ニュースによる通常の広報とともに、公演によっては企画性を周知するため、特別チラシを作成・配布したほか、HPにトピックス等を随時掲載し周知を図った。
- ・ 特別企画公演「新作狂言」では、HPに特設サイトを開設した。
- ・ 9/22、能楽堂2階研修能舞台にて、池澤夏樹(作)、野村萬斎(演出・補綴)による新作狂言「鮎」の制作発表記者会見を実施し、新聞社等28社が出席した。
- ・ 公演のテーマに応じて他ジャンルの関連雑誌等へ公演情報や広告を掲出した(8月企画公演「狂言と落語・講談」は「東京かわら版」7月号、2月<月間特集・近代絵画と能>は「芸術新潮」1月号等)。
- ・ 6月に新宿・京王プラザホテルの3階のアートロビーで、能楽堂が協力して、特別展示「国立能楽堂×京王プラザホテル 能・雅を継ぐものー一天女が舞う「羽衣」の世界展ー」が開催され、「Discover NOH & KYOGEN」等の公演宣伝を行った。
- ・ 3月に、津田塾大学の「梅五輪」に参加し、能楽堂の特設ブースを開設して広報活動を行った。

(文楽劇場)

- ・ 外部団体の協力を得て、交通広告、商店街等において宣伝活動の充実を図り、公演内容を効果的にPRすることができた。また、放送局、図書館等と連携し、様々なコラボレーションによる公演PRを実施した。
- ・ 文楽協会や大阪市営地下鉄、JR西日本、在阪私鉄各社との協力により、壁面広告や車内ステッカー広告等による公演PRを行った。
- ・ 「社会人のための文楽入門」解説の舞台稽古を報道関係者向けに公開し、木ノ下裕一(解説構成者)、茂山童司(解説ナビゲーター)及び出演者に対する取材の場を設けた。
- ・ 特に襲名披露公演においてはマスコミに積極的に働きかけて、毎日放送テレビの情報番組「ちちんぷいぷい」等のテレビ番組に芸員が出演したり、様々な取材をセッティングしたりすることで公演PRに努めた。
- ・ 株式会社サンテレビジョン「天気予報」CMに協賛し、夏休み文楽公演の周知及びチケット販売の促進を図った(7/3~31 30秒スポット、フィラー映像×20本以上が付帯された)。
- ・ ラジオCMを実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、番組内で定期的に公演紹介を行

うコーナーを設けることができた。

- ・ 大阪松竹座の協力を得て、『夏祭浪花鑑』歌舞伎(市川染五郎丈)×文楽(桐竹勘十郎)高津宮成功祈願として、高津宮にてそれぞれの公演の成功祈願を行い、マスコミ各社の取材を受けた。また、相互の劇場でチラシを配架した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 公演演目によりゆかりのある地域の公民館や関係団体等、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開した。
- ・ 近畿日本ツーリスト沖縄と提携して、「沖縄の伝統芸能『組踊』鑑賞と琉球史に触れる1日」と題した組踊鑑賞ツアーを企画し、集客に努めた(8/26参加者15名、12/16参加者4名)。
- ・ チケット購入者限定で公演前に組踊ワークショップやしまくとうば講座を開催し、集客に努めた。

(新国立劇場)

- ・ 演目の制作発表やフォトコール(報道写真撮影会)を行い、積極的な情報提供に努めた。
- ・ 演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施等、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を図った。
- ・ 演目発表後、早い段階から特設サイト等に舞台写真や動画等を掲載し、公演開始後はすみやかに初日の舞台映像を掲出するなどして観劇意欲の促進を図った。
- ・ 公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レパトリー公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。
- ・ 2017/2018 シーズン全体を新国立劇場開場20周年記念シーズンと位置付け、各種広報に努めた。
 - ・ 特設サイト制作：開場前史を含む新国立劇場20年の歩みを紹介、劇場に関わったスタッフ・出演者からのメッセージを公演記録映像を織り交ぜて動画制作、メッセージ総集編ムービー制作、20年間の主催公演記録写真をパノラマで紹介
 - ・ 広告宣伝・広報：大型新聞広告、新宿駅等への大規模ポスター出稿、羽田空港アドビジョン特別広告、プレスリリース配信と積極的な広報によるメディアへの働きかけを通じ記事掲載促進、等
- ・ オペラ「ジークフリート」「神々の黄昏」でオペラ芸術監督のピアノ演奏、解説による「音楽講座」等、動画を特設サイトに掲出し、作品への理解を深めるとともに期待感の醸成に繋げた。
- ・ オペラ「ジークフリート」(5/12)、「神々の黄昏」(9/15)について、インターネットラジオ「OTTAVA」にて特集番組を放送した。制作スタッフのピアノ演奏による解説やトークを行い、その後YouTubeで配信され多くの視聴者を得た。
- ・ オペラ「松風」公演に先立ち、本館営業部及び能楽堂と連携して特別イベント「能とオペラ『松風』をめぐって」を能楽堂で開催、作品の基盤となった能の実演と、能とオペラ双方の関係者による座談会を行い、作品の理解と関心を高めた(1/10)。
- ・ 舞踊芸術監督、及びオペラ、演劇の各次期芸術監督による2018/2019シーズンラインアップ記者発表を行った(1/11)。
- ・ オペラ次期芸術監督による次シーズンのラインアップ説明会を実施した(1/19)。
- ・ 舞踊芸術監督、及びオペラ、演劇の各次期芸術監督による次シーズンの説明動画を作成、ネット配信すると同時に劇場各所で放映して公演周知と期待感の醸成に努めた。
- ・ インターネット上の動画配信企画「ワールド・バレエ・デー」に参加、全世界に新国立劇場バレエ団とその活動をアピールした(10/5)。
- ・ 隣接する新宿区及び公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が主体となって開催している新宿区の文化イベント「新宿フィールドミュージアム」に参加した(10/1~11/30)。

2. ホームページにおける情報の内容の充実、メールマガジンの配信

(1) ホームページアクセス件数

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：2,963,651件(目標3,000,000件)

(内、1,308,689件がモバイル端末からのアクセス)

国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：360,491件(目標297,000件)

新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：5,208,881件(目標4,000,000件)

(2) ホームページの内容の充実

(振興会)

- ・ 「国立劇場歌舞伎情報サイト」に、歌舞伎に関する情報やトピックスを掲載し、周知を図った。
- ・ 各公演の特設サイトを作成した(歌舞伎5公演、文楽3公演)。見所や取材会(記者会見)の様子等を

掲載し、インターネットを積極的に利用して公演のPRを行った。

- ・ 能楽堂では、30年1月に30年度の全主催公演のラインナップをHPに掲載し、周知を図った。併せて英語版も掲載し、外国人利用者の利便性の向上を図った。
- ・ 特別企画公演「新作狂言」では、HPに特設サイトを開設した。
- ・ 文楽劇場では、引き続きHPにおいて、手作りで芸員インタビュー動画の公開や、公演記録映像を活用した公演内容を紹介する舞台のダイジェスト版動画の作成をすべての文楽公演に拡大した。また、文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努め、随時最新の情報を提供した。
- ・ 国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを活用して、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供し、ファンとのコミュニケーションを図った。

(新国立劇場)

- ・ 新国立劇場開場20周年の特設サイトを開設した。記念シーズンである2017/2018シーズン開幕前からカウントダウンで期待感を醸成し、開幕後はメッセージ、劇場史、公演記録写真の各コンテンツを毎週更新していくことで継続視聴を促した。これまで劇場に関わったスタッフ・出演者によるメッセージ動画が蓄積されたところで総集編ムービーを制作、開場以来20年を通じて現代舞台芸術の普及に努める劇場からのメッセージとして配信した。
- ・ 動画や英語ニュースを増やして英語版HPの更新頻度を向上、英語版SNS(Facebook、Instagram)とも連動して利用喚起に努めた。
- ・ 「劇場のご案内」ページをリニューアルし、「地震対応及び災害時の避難方法」ページを新設して各劇場の避難経路と避難場所を客席図と写真で分かりやすく解説したほか、ページ間のアクセスも改善して各劇場や観客サービス、バリアフリー情報等への移動を容易にした。
- ・ FacebookやTwitter等のSNSでの情報発信を継続実施した。公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信し、興味喚起に努めた。反応の状況を逐一精査することで観客の嗜好を把握し、ジャンルによってSNSの使い分けも考慮しつつニュース内容を組み立て、発信した。
- ・ 演目によって特設サイトを開設し、画像や動画の掲載をさらに充実させるとともに、コラムの連載等、より多くの情報発信を行い、一層の興味喚起を図った。
- ・ バレエ研究所制作公演「バレエ・アステラス」の常設ページを新設し、公演の企画主旨をこれまでの歩みと共に分かりやすく解説した(英語版とも)。
- ・ スマートフォン用アプリ「劇場コンシェルジュ」では、首都圏のクラシック公演について、公演チラシ画像をキービジュアルとした公演情報を引き続き配信した。新国立劇場内で案内チラシを配布し普及に努めた。

(3) メールマガジンの配信

- ・ 国立劇場メールマガジン：毎月2回、主催公演や関連イベント、その他事業等の情報を配信
30年3月末登録者数：76,315人(対前年度+7,785人)
- ・ 国立劇場おきなわメールマガジン：毎月1回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信
30年3月末登録者数：823人(対前年度+145人)
- ・ 新国立劇場eメールClub(メールマガジン)：発売直前に発売情報と見どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後に観客の感想等を、HPやSNS(Facebook、Twitter)と連動させつつ発信

3. 広報誌の発行

以下の広報誌等を作成した。

- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日本語)」(29年5月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧」(29年10月発行)
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会年報 平成28年度」(30年3月発行)
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)
- ・ 「新国立劇場2017/2018シーズンガイド」(29年6月発行)
- ・ 「新国立劇場2017/2018シーズンガイド(英語版)」(29年8月発行)

- ・ 「新国立劇場 平成 28 年度年報」(29 年 9 月発行、2 か国語(日本語・英語)表記)

4. シーズンシートやセット券等の販売

- ・ あぜくら会会員に対して、各歌舞伎公演の初日から三日目の入場券をセットにした「三日目の会」の入場券の販売を行った(10月～1月の4公演分 2,228 枚)。
- ・ あぜくら会「三日目の会」会員に対して、3月歌舞伎公演入場券の特別優待販売を行った(424 枚)。
- ・ 入場券のセット購入者に対する割引を公演形態に合わせて実施した。舞踊や邦楽等の短期の公演でも、内容の異なる2回又は3回公演の場合は同時に購入すると割引となる、セット割引を行った(6月民俗芸能公演 70 枚、7月伝統芸能の魅力(雅楽・声明)148 枚、10月舞踊公演(文楽劇場)148 枚、11月舞踊公演 18 枚、11月特別企画公演(能楽堂)94 枚、1月民俗芸能公演 208 枚、3月琉球芸能公演(文楽劇場)142 枚、3月舞踊公演 42 枚)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 1月組踊公演「二童敵討」、2月沖縄芝居公演 史劇「護佐丸と阿麻割」、3月民俗芸能公演「忠臣護佐丸」の3公演を「護佐丸と阿麻和利」関連公演セット券として、78セット(3公演セット券 17セット、2公演セット券 61セット)販売した。

(新国立劇場)

- ・ オペラ、バレエ、現代舞踊の2017/2018シーズンセット券の販売を28年度より継続して行い(2017/1/20～)、2018/2019シーズンセット券の販売を開始した(2018/1/20～)。
- ・ オペラ及び舞踊の2018/2019シーズンセット券の発売に合わせ、約1か月間にわたりオペラ劇場のロビー内にてセット券の案内カウンターを設け、担当者が申込方法等の問合せに対応するなど販売促進にあたった。
- ・ オペラとバレエで連続上演する「ホフマン物語」2作品をセット販売してオペラ・バレエそれぞれへの興味関心を喚起し、観劇を促した。
- ・ ジャンルの異なる上演時期の近い公演を組み合わせて家族で楽しめるセット券を企画した。「夏のこども劇場セット」(こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」、現代舞踊「ふしぎの国のアリス」)、「冬のこども劇場セット」(バレエ「くるみ割り人形」「シンデレラ」、演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」)、それぞれ家族での購入に際してはこども料金を適用して販売した。
- ・ 演劇公演において、芸術監督が企画するテーマに沿った演目をセットにし、28年度から続く「かさなる視点ー日本戯曲のカー」3作品セット(「白蟻の巣」から29年度「城塞」「マリアの首」)、2017/2018シーズンオープニング2作品通し券(「トロイ戦争は起こらない」「プライムたちの夜」)、春の3作品通し券(「赤道の下のマクベス」「1984」「ヘンリー五世」)をそれぞれ特別割引通し券として販売した。また、「城塞」「マリアの首」同時購入割引を実施した。

5. 団体観劇の促進、団体チケット販売システムの運用

(1) 団体観劇の促進、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(本館)

- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントを実施したほか、観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「公演プログラム付きプラン」「イヤホンガイド付きプラン」や付加価値のある「舞台見学付きプラン」「レクチャー付きプラン」「季節のお弁当付きプラン」「季節の和菓子付きプラン」等の観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。
- ・ 歌舞伎公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体並びに主要なホテル、旅行代理店等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付した(年15回、のべ18,230通)。
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方中学・高等学校、首都圏専門学校を中心にDMを送付した(年3回、のべ22,094通)。
- ・ 30年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した(6月・7月歌舞伎鑑賞教室期間中に6回、参加者数68校115名)。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Multilingual Week」及び12月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の集客のため、1都3県の旅行代理店・観光案内所・ホテルにDMを送付し(260件)、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。また、29年

度より追加されたスペイン語による音声ガイドを利用する観客の集客のため、スペイン語圏各国協会・スペイン語教室等を個別訪問した。

- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Multilingual Week」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布したほか、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」及び「Multilingual Week」並びに3月歌舞伎公演において、旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特例招待を実施した。
- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前KITTE内観光案内所(日本郵便・JTB運営)、都内主要ホテルに配布した。
- ・ 歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・ 主に外国人旅行者を対象としている東京駅前KITTE内観光案内所において、英文の歌舞伎イメージポスターを通年掲示した。また、新たに東京駅前の観光案内所TIC TOKYOにも英文の歌舞伎イメージポスターの通年掲示を開始した。

(演芸場)

- ・ 真打昇進披露公演や襲名披露公演等において、出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目ゆかりの地域と連携して団体勧誘等に努めた。

(能楽堂)

- ・ 2月、3月の各公演では、都内近隣3ホテルで能舞台体験付き宿泊パッケージプランを販売し集客に努めた。
- ・ 外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」のチラシを東京国際交流館プラザ平成で開催された文部科学省・(独)日本学生支援機構主催「国費外国人留学生歓迎会2017 in 東京」(11/18)にて配布し、公演の周知・集客に努めた。
- ・ 「事前レクチャー付きプラン」や研修能舞台を使った「能舞台体験プラン」等、観客の多彩なニーズに応える観能プランを提案して、集客を図った。

(文楽劇場)

- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベント等を実施したほか、フリーペーパー、ミニコミ誌への記事広告掲出、外部団体のメールマガジンへの公演情報掲出等、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。
- ・ 団体客に対して、芸芸員による文楽人形の実演解説や専門家による演目説明等の付帯サービスを提供し、団体客の増加に努めるとともに、作品の理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、ホテルとの連携強化を一層進めた。シェラトン都ホテル大阪では、宿泊と観劇をセットにした宿泊パックを販売し、リーガロイヤルホテル(大阪)ではコンシェルジュデスクを経由して入場券の割引販売を実施した。
- ・ 6月文楽鑑賞教室等の観劇実績がない私立中学校・高校に対し、大阪私立中学校高等学校連合会を通じて学校団体観劇勧誘として公演チラシ発送の依頼をした(126校)。
- ・ 6月文楽鑑賞教室において、大阪市立東淀川工業高校教員の協力を得て、公演参加各校の教員向けに見どころ聴きどころ等をレクチャーする事前学習会を2回実施した。
- ・ 6月文楽鑑賞教室において、大阪市主催の親子劇場優待事業による販売促進のために専用チラシを作成し、市内小学校・中学校ほかへ配布した。
- ・ 6月文楽鑑賞教室において、大阪市と協力し、市からの在関西各国領事館への定期便等にて「Discover BUNRAKU」のチラシ配布、団体勧誘及び公演周知を行った。
- ・ 二度目となる外国人向けの公演として開催した6月文楽鑑賞教室内の企画「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。
- ・ 「Discover BUNRAKU」の開催にあたって近畿2府4県の国際交流プログラム等を持つ大学へDMを発送し、団体勧誘及び公演周知を行った(126件)。
- ・ 独立行政法人日本学生支援機構の兵庫国際交流入居者イベントに参加し、「Discover BUNRAKU」公演のPR及びチラシの配布・観劇勧誘を行った。

- ・ 外国語大学・外国語専門学校、国際交流センター、韓国文化院、日本文化研究所、大阪市内図書館(外国人資料コーナー)、近隣の博物館等で「Discover BUNRAKU」チラシを配布し公演周知を行った(約50件)。
- ・ 夏休み文楽特別公演子供向けチラシを、奈良市・生駒市・尼崎市・西宮市・守口市、東大阪市の6市の教育委員会に依頼し小・中学校へ配布を行った。
- ・ 若年層の文楽へ関心喚起として、有志企業及びNPO法人人形浄瑠璃文楽座と連携し、文楽に馴染みのない大学生を中心とした30才以下の方々を対象に、低料金の解説付き観劇企画「そうだ文楽に行こう！！ワンコインで文楽U-30」を実施した(夏休み145名、11月259名、初春198名)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 沖縄県の補助金を活用した貸切バス助成事業を旅行代理店等にPRすることで、団体観劇を促進した。
- ・ 近畿日本ツーリスト沖縄と連携し、2回の組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアー(参加者計19名)及び3回の県外組踊ワークショップ(10月名古屋、2月福岡、2月長野、参加者計82名)を実施した。
- ・ 沖縄県及び一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローの主催する「沖縄修学旅行フェア2017」(大阪府で開催)に参加し、県外学校関係者及び修学旅行を担当する旅行代理店等に対し、修学旅行における団体観劇のPRを行った。
- ・ 「ツーリズムEXPOジャパン2017」(主催：公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本観光業協会、日本政府観光局)に参加し、劇場PRブースを設置するとともに、沖縄音楽体験ワークショップ、イベントスペースでの公演を行った。

(新国立劇場)

- ・ バレエ「シンデレラ」観劇とクリスマスディナーを組み合わせたプラン等、都内ホテル、百貨店、高級呉服店、自動車のオーナークラブ、社交クラブ、不動産オーナー及び外部Webサイトの会員組織等と連携した観劇プランを実施した。
- ・ 修学旅行誘致及びラインアップ発表のためのDMを全国の旅行代理店各支店宛に送付した。
- ・ 団体鑑賞の取引実績のある団体へ、ラインアップ発表後に演目の資料をDM送付した。
- ・ 学校団体の芸術鑑賞を担当する先生をお招きして、オペラ、バレエ、演劇のジャンルごと(3日間、各1回ずつ)に、生徒に向けて実施している事前レクチャーを先生方に体験いただくとともに、公演の鑑賞をしていただいた。生徒らが芸術鑑賞で体験するスキームを、先生方への体験会として実施し、学校団体の芸術鑑賞の理解促進と営業活動の推進を図った。
- ・ オペラの初心者を中心とした、カード会社・プレイガイド等の各団体取引先から誘客を行い、音楽スタッフ等のレクチャーと鑑賞を組み合わせた企画チケットを販売して、観客の裾野を拡げる営業活動を実施した(7回・7演目)。
- ・ 全国の旅行代理店の営業担当者を対象として、劇場体験キャンペーンを実施し、旅行代理店経由の団体販売の促進に努めた。
- ・ バレエ「ジゼル」「ホフマン物語」において、都内近郊バレエ・ダンス教室に向けてDMを送付し、チケットの販売及びバレエ団のクラスレッスン見学の参加を募集し、チケットの販売促進を行うとともに、バレエ団のプロの舞台上での稽古を見学していただくことにより、新国立劇場バレエ団ファンへの醸成に繋がった。
- ・ 各学校の入学式に向けて、「U25優待メンバーズ」のチラシを関東近郊の大学及び専門学校に送付した。

(2) 団体チケット販売システムの運用

- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供した。
- ・ 福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の2種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。

加入実績：21団体

6.キャンパスメンバーズサービスの提供

(1) 会員数

21校

(28年度より継続加入：18校)

大妻女子大学文学部・短期大学国文科/英文科、お茶の水女子大学、神奈川歯科大学・神奈川歯科大学短期大学部、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、国士舘大学文学部文学科日本文学・文化専攻、女子美術大学アート・デザイン表現学科アートプロデュース領域、白百合女子大学、清泉女子大学、東京海洋大学、東京学芸大学、東京藝術大学音楽学部、獨協大学、二松学舎大学、日本大学芸術学部、一橋大学、フェリス学院大学文学部日本語日本文学科、法政大学文学部日本文学科、明治学院大学(文学部芸術学科のみから全学部へ拡大)

(29年度より新規加入：3校)

学習院女子大学、昭和女子大学日本語日本文学科/歴史文化学科、津田塾大学

(2) 利用枚数

1,964枚(学生：1,705枚、教職員：259枚) ※前年度実績：1,651枚

(3) 会員限定イベントの実施

5回実施(参加者数：202名)

バックステージツアー(6月歌舞伎鑑賞教室)、Multilingual Week 外国語イヤホンガイド無料キャンペーン(6月歌舞伎鑑賞教室)、文楽レクチャー(9月文楽)、歌舞伎レクチャー(11月歌舞伎)、バックステージツアー(3月歌舞伎)

(4) サービスの拡充

- ・ 能楽堂の普及公演を対象公演に追加

7.おすすめキャンペーンの実施

- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施した(29年度実績：2,460枚)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を増加させることができた。
- ・ 公演演目に囚んだイベントや団体営業を行い、団体客の増加に努めた。
- ・ 能楽堂では早期に演目と出演者が決まるため、年間の主催公演スケジュール(日本語・英語)をHPに掲載し、また冊子(「主催公演予定表」日本語・英語)を作成し、公演の周知を図ることができた。
- ・ 文楽劇場では、特にHPにおいて、技芸員インタビュー動画、公演記録映像を活用した公演内容を紹介する舞台のダイジェスト版動画、「文楽かんげき日誌」等で公演PRの内容充実を図り、トピックスアクセス数を向上させ、宣伝効果を高めることができた。その他、放送局・デパート・地域商店街等外部とのコラボレーションにより公演PRの充実に努めた。
- ・ 文楽劇場では、若年層の文楽へ関心喚起として、有志企業及びNPO法人人形浄瑠璃文楽座と連携し、文楽に馴染みのない大学生を中心とした30才以下の方々を対象に、低料金の解説付き観劇企画「そうだ文楽に行こう！！ーワンコインで文楽U-30」を実施した(夏休み145名、11月259名、初春198名)。
- ・ 新国立劇場では、2017/2018シーズン全体を新国立劇場開場20周年記念シーズンと位置付け、総合的な広報を行うと同時に、公演に関連したトークや解説を劇場内外で多数実施した。さらにWebと連結して動画配信やニュース発信することで広範囲に情報展開することができた。SNS(Facebook、Twitter、Instagram)でも積極的に情報発信し、反応の状況を精査することで観客の嗜好を把握し、効果的なニュース配信ができた。
- ・ 新国立劇場開場20周年の特設サイトを開設した。劇場の歴史を振り返り、関係者からのメッセージ、20年間の公演写真等、コンテンツを毎週更新して継続視聴を促した。
- ・ オペラ、バレエ、現代舞踊公演のシーズンセット券、演劇公演のテーマ別セット券を販売し、こども劇場セット等のジャンル横断セット券も企画して新国立劇場の固定客拡大を図った。
- ・ 旅行代理店や各学校からの団体獲得のため、担当者を劇場に招いて実際に体験してもらうなど積極的な営業を展開した。

2-(5)-② 会員組織の運営、会員向けサービスの充実

《業務実績詳細》

1. あぜくら会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 毎年好評を得ているバックステージツアーや出演者による対談等に加え、会員同士の親睦を図るイベントとしてバスツアーや新春かるた会を実施し、好評を得た。
- ・ 新規入会キャンペーンを実施し、キャンペーン期間中の入会者にはオリジナルカードケースを進呈した(9/1～11/30、期間中入会申込者数 479 人)。
- ・ 振興会 HP 内に会員専用ページを作成した。
- ・ 会報発行日に会報を会員専用ページに掲載した。
- ・ 会報を迅速かつ確実に会員に届けるため、追跡可能な配送方法を採用した。

(2) 会報の発行(計画：毎月発行)

- ・ 「あぜくら」を毎月 25 日に発行した(計 12 回)。

(3) 会員向けイベント(計画：年 8 回程度)

①あぜくらの集い「あぜくら会会員特別バックステージツアー」

4/25、14:00～15:30

本館大劇場及び楽屋、有料、参加者 110 人(応募者 484 人、当選者 120 人)

アンケートの実施：回答数 95 人(配布数 110 人、満足回答率 95.5%)

②あぜくらの集い「文楽を支える人々ー衣裳ー」

5/17、14:00～15:30

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 136 人(応募者 354 人、当選者 165 人)

講師＝米田真由美(文楽技術室専門員)

アンケートの実施：回答数 109 人(配布数 136 人、満足回答率 97.1%)

③あぜくらの集い「歌舞伎舞踊の魅力ー関の扉をめぐるー」

5/18、14:00～15:30

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 91 人(応募者 132 人、当選者 132 人)

ゲスト＝花柳基・水木佑歌(日本舞踊家)、講師：織田紘二(振興会顧問)

アンケートの実施：回答数 69 人(配布数 91 人、満足回答率 88.3%)

④あぜくら会特別企画「復曲能『名取ノ老女』鑑賞とゆかりの地をめぐる旅」

9/30～10/1、名取市民文化会館・仙台市周辺、有料

参加者 34 人(応募者 36 人、当選者 34 人)

講師＝小林健二(国文学研究資料館教授)

⑤あぜくらの集い「立花家橘之助 襲名スペシャル」

10/15、14:00～15:30

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 123 人(応募者 284 人、当選者 161 人)

ご案内役＝吉原朝馬(落語家)、ゲスト＝三遊亭小円歌(三味線漫談家/11月に二代立花家橘之助)

アンケートの実施：回答数 94 人(配布数 123 人、満足回答率 100.0%)

⑥あぜくらの夕べ「漱石と芸能」

10/23、18:30～20:10

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 118 人(応募者 244 人、当選者 160 人)

ナビゲーター＝中島国彦(早稲田大学教授)

ゲスト＝森常好(能楽師)、都一中(一中節演奏家)

アンケートの実施：回答数 75 人(配布数 118 人、満足回答率 100.0%)

⑦あぜくらの集い「新歌舞伎と大正・昭和初期の時代」

11/1、14:00～15:30

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 120 人(応募者 120 人、当選者 141 人)

講師＝神山彰(明治大学教授)

アンケートの実施：回答数 83 人(配布数 120 人、満足回答率 97.5%)

- ⑧国立劇場あぜくら会／新国立劇場クラブ・ジ・アトレ合同企画「能とオペラー『松風』をめぐって」
1/10、14:00～16:00
能楽堂、参加者 505 人(応募者 985 人、当選者 584 人)
実演＝観世鍔之丞ほか
座談会：登壇者＝観世鍔之丞(能楽師)・細川俊夫(作曲家)・柿木伸之(広島市立大学国際学部准教授)／進行役＝宮本圭造(法政大学野上記念能楽研究所教授)
- ⑨あぜくらの集い「新春かるた会ーせりふを愉しむー」
1/19、12:30～14:00
本館大劇場お休み処、参加者 54 人(応募者 130 人、当選者 72 人)
ゲスト＝坂東彦三郎、坂東亀蔵(歌舞伎俳優)
アンケートの実施：回答数 43 人(配布数 54 人、満足回答率 100.0%)
- ⑩あぜくらの集い「吉田幸助を迎えて」
2/27、14:00～15:30
伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 113 人(応募者 274 人、当選者 141 人)
ゲスト＝吉田幸助(文楽人形遣い)、案内役＝桂吉坊(落語家)
アンケートの実施：回答数 81 人(配布数 113 人、満足回答率 98.6%)

(4) アンケート調査

- ・ 「あぜくらの集い」について毎回アンケート調査を行った(配布数 865 枚、回答数 649 枚)。
- ・ アンケート結果として、「あぜくらの集い」は好評で満足度も高かった。

(5) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
19,171 人(+477 人)	18,200 人

2. 国立文楽劇場友の会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 新規入会キャンペーンを実施した。
- ・ 既存会員へ記念品贈呈の「文楽公演観劇ラリー」を実施した。
- ・ 振興会 HP 内に会員専用ページを作成した。
- ・ 会報発行日に会報を会員専用ページに掲載した。
- ・ 大阪市主催の文楽普及事業「ムムム！文楽シリーズ」において、文楽劇場友の会の新規入会勧誘コーナーを設け、入会案内チラシ配布を依頼するなどして新規会員の獲得に努めた。

(2) 会報の発行(計画：年 6 回発行)

- ・ 文楽本公演に合わせて年 6 回発行した。

(3) 会員向けイベント(計画：年 6 回程度)

- ①第 113 回「文楽のつどい」夏休み文楽特別公演「源平布引滝」ゆかりの地バスツアー
7/6、8:30～19:00
滋賀県長浜市木ノ本町(丸三ハシモト株式会社)・長浜市街、有料
参加者 39 人(応募者 39 人、当選者 39 人)
講師＝高木浩志(文楽研究家)
- ②復曲試演会「花魁荅八総」滝田城の段
10/10、17:00～19:30
文楽劇場小ホール、参加者 152 人(応募者 171 人、当選者 171 人)
出演＝竹本千歳太夫、野澤錦糸 対談聞き手＝亀岡典子(産経新聞編集委員)
解説＝久堀裕朗(大阪市立大学准教授)
アンケートの実施：回答数 100 人(配布数 152 人、満足回答率 98.0%)
- ③第 114 回「文楽のつどい」バックステージツアー 第 2 弾！
10/25、①11:00～12:00/②14:00～15:00
文楽劇場文楽技術室、参加者 55 人(応募者 256 人、当選者 60 人)
アンケートの実施：回答数 55 人(配布数 55 人、満足回答率 100.0%)
- ④第 115 回「文楽のつどい」お話「東大寺開山良弁僧正について」、技芸員に聞く「初春文楽公演の演目にちなんで」、ミュージカル絵巻(大紙芝居)「二月堂良弁杉」

12/25、18:00～19:40

文楽劇場小ホール、参加者 127 人(応募者 211 人、当選者 161 人)

講師＝西山厚(帝塚山大学文学部教授)

出演＝吉田玉男(技芸員/人形遣い)、劇団良弁杉(奈良市音声館所属)

司会＝広瀬依子(演劇ジャーナリスト)

⑤第 116 回「文楽のつどい」茶話会「文楽の襲名(名跡を継ぐ技芸員に聞く)」

3/14、14:00～15:30

文楽劇場食堂「文楽茶寮」、有料、参加者 79 人(応募者 165 人、当選者 85 人)

出演＝吉田幸助(4 月文楽公演で五代目吉田玉助を襲名)、笑福亭生喬(落語家)

聞き手＝くまざわあかね(落語作家)

(4) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
8,330 人(+14 人)	8,100 人

3. 国立劇場おきなわ友の会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 会報誌の発行・送付、チケット購入時に押されるスタンプをためて割引券等がもらえるポイントカード制度、キャンセル待ちサービス、チケットの無料郵送、公演チラシ送付サービス、会員対象の講演会・バスツアー・公開稽古見学会を実施した。
- ・ 現会員の紹介により家族・友人等が入会した場合に双方へ自主公演 50%割引券を進呈する「ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン」を 2 月から実施し、会員獲得に努めた。
- ・ インターネットから入会した場合に自主公演 50%割引券を進呈する「Web 新規入会促進キャンペーン」を 2 月から実施し、会員獲得に努めた。

(2) 会報の発行(計画：年 4 回発行)

- ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」を 6、9、12、3 月に発行した(計 4 回)。

(3) 会員向けイベント(計画：年 3 回程度)

①2017 友の会バスツアー 組踊ゆかりの地と歌碑を巡る旅&公演鑑賞(組踊「花売の縁」)

12/16、宜野湾市・北谷町・読谷村・嘉手納町・北中城村・国立劇場おきなわ大劇場 ほか、有料参加者 39 人(先着順)

講師＝垣花武信

アンケートの実施：回答数 38 人(配布数 39 人、満足回答率 100.0%)

②2018 友の会新春講演会

1/27、国立劇場おきなわ小劇場、参加者 97 人

講師＝西江喜春、聞き手＝嘉数道彦

アンケートの実施：回答数 97 人(配布数 97 人、満足回答率 84.1%)

③新作組踊「真珠道」公開稽古見学会

3/31、国立劇場おきなわ大稽古室、参加者 30 人

出演＝(指導者)西江喜春、(出演者)東江裕吉、新垣悟ほか

アンケートの実施：回答数 29 人(配布数 30 人、満足回答率 82.8%)

(4) アンケート調査

- ・ バスツアー・新春講演会・公開稽古見学会で実施した。
満足回答率：バスツアー100.0%、新春講演会 84.1%、公開稽古見学会 82.8%

(5) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
1,636 人(△174 人)	1,900 人

4. 新国立劇場クラブ・ジ・アトレ

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 10%割引価格にて先行販売(郵送申込及びインターネット申込による「会員抽選受付」並びに電話、窓口及びインターネット申込による「先行受付」)を行った。一般発売後は 5%割引を実施した。

- ・ シーズンセット券を 10%から最大 25%の割引価格にて優先的に販売した。またバレエセット券で、購入後も会員抽選受付期間中に日程変更が可能な、会員限定の「キャストセレクトサービス」を引き続き実施した。また、オペラセット券では、全公演購入者限定のサービスとして、一定の回数まで日程変更が可能な「エクステンジサービス」を引き続き実施した。
- ・ 購入金額に応じて加算されるポイント数に応じて、ポイントアップサービスを実施した。具体的には、チケット購入時の優待サービス、各種クーポン、グッズの提供、ゲネプロ見学や公演への招待を実施した。
- ・ 入会・カード利用促進キャンペーン(ゲネプロ見学会、バックステージツアー等各種イベントへの招待)を 10 月から 2 月にかけて実施し、会員募集に努めた。前年度に引き続き三井住友 VISA カード及びゴールドカードのみならずクレジット機能のないハウスカードもキャンペーン対象とし、オペラ劇場公演にて入会促進カウンターを設けるなど、より積極的な宣伝展開を図った。
- ・ クラブ・ジ・アトレ会員サイトを更新し、会報誌がサイト上で講読できる機能を追加した。

(2) 会報の発行(計画：毎月発行)

- ・ 新国立劇場月刊会報誌「ジ・アトレ」を毎月発行した(計 12 回)。

(3) 会員向けイベント(計画：年 12 回程度)

- ・ オペラ及びバレエにおいて、会員から希望を募り、抽選でゲネプロに招待する見学会を 7 回(オペラ 2 演目、バレエ 5 演目)実施した。
- ・ 2016/2017 シーズンのオペラ、バレエでシーズンエンディングパーティーをそれぞれ開催した。
- ・ 入会・カード利用促進キャンペーンの一環として、特別バックステージツアー及びバレエリハーサル見学を実施した。
- ・ 演劇「怒りをこめてふり返れ」「赤道の下のマクベス」の発売にあわせ、演出家や出演者によるトークイベントを開催した。
- ・ あぜくら会との共催により、オペラ「松風」関連イベントとして、「能とオペラー『松風』をめぐって」を能楽堂で開催した。
- ・ バレエ「ジゼル」「ホフマン物語」の公演当日、舞台上で行われるクラスレッスンを会員向けに公開した。

(4) サービスに対する意見収集

- ・ 今後の運営に活用するため、公演会場でのアンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

(5) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数
10,763 人(+400 人)	10,000 人

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立劇場あぜくら会と新国立劇場クラブ・ジ・アトレの会員に向けた「能とオペラー『松風』をめぐって」を能楽堂で開催した(1/10)。オペラファンの観客にも能楽堂をアピールする良い機会となった。
- ・ 国立劇場おきなわ友の会では、文楽劇場 3 月特別企画公演「琉球舞踊と組踊」の際に、国立劇場おきなわの公演広報と併せて、友の会入会の勧誘を行った。
- ・ 新国立劇場クラブ・ジ・アトレでは、シーズンセット券の会員限定サービス等、会員特典を引き続き設けた。また、入会促進キャンペーンをクレジット機能のないハウスカード会員も対象とし、若年層会員の増大に努めた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 国立劇場おきなわ友の会では、新規入会キャンペーンや新たな取組として会員限定の観劇ラリーを実施するなどして会員数増加に努めたが、会員数が目標に達しなかった。今後は、新規入会キャンペーンや観劇ラリーの実施、「ご家族・ご友人紹介キャンペーン」の継続のほか、新たな取組を工夫し会員サービスの向上に努め、会員数の増加を図っていく。

2-(6) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供

利用者に対して提供するサービスの向上

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	74日	78%
本館小劇場	120日	69%
演芸場	104日	88%
能楽堂本舞台	171日	69%
文楽劇場	86日	65%
文楽劇場小ホール	106日	54%
国立劇場おきなわ大劇場	74日	43%
国立劇場おきなわ小劇場	119日	61%
(小計)	854日	67%
新国立劇場オペラ劇場	26日	40%
新国立劇場中劇場	226日	82%
新国立劇場小劇場	126日	78%
(小計)	378日	68%
(合計)	1,232日	67%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供(主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演)を行った日数の割合。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施

- ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
- ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
- ③利用希望者への説明・見学等
- ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
- ⑤他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用

《主要な業務実績》

1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

- ・ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与
- ・ 伝統芸能分野で、貸与日数・使用効率とも年度計画目標を達成
- ・ 現代舞台芸術分野で、使用効率の年度計画目標を達成

2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

- ・ 施設利用に関する情報を、HP・パンフレット・専門誌等で随時発信
- ・ サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施

《業務実績詳細》

1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

劇場	貸与日数		使用効率		(参考) 劇場稼働率
	実績	目標	実績	目標	
本館大劇場	82日	74日	78.6%	78.0%	94.6%
本館小劇場	139日	120日	75.5%	68.6%	91.8%
演芸場	106日	104日	87.8%	88.3%	94.8%
能楽堂	177日	171日	67.5%	68.7%	84.7%
文楽劇場	91日	86日	66.4%	64.6%	79.7%
文楽劇場小ホール	130日	106日	62.1%	53.7%	76.2%
小計	725日	661日	73.4%	70.9%	87.3%
国立劇場おきなわ大劇場	87日	74日	45.8%	42.7%	84.6%
国立劇場おきなわ小劇場	105日	119日	54.2%	61.0%	59.4%
小計	192日	193日	49.5%	50.8%	73.6%
伝統芸能分野 合計	917日	854日	68.4%	66.7%	84.4%
新国立劇場オペラ劇場	26日	26日	46.6%	40.3%	99.6%
新国立劇場中劇場	221日	226日	84.2%	81.9%	98.8%
新国立劇場小劇場	128日	126日	79.1%	78.3%	99.7%
現代舞台芸術分野 合計	375日	378日	71.0%	68.3%	99.3%
総合計	1,292日	1,232日	69.1%	67.2%	88.7%

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、使用効率の算出において1日と計上されるため、重複日が多い施設は、貸与日数が増加した場合でも使用効率が低下する場合がある(29年度実績では演芸場、能楽堂が該当)。

2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

(1) ホームページ、パンフレット等による広報、説明会等の実施

- ・ 施設、設備等の概要及び利用手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等をHPに掲載した。
- ・ 劇場利用パンフレットを作成して過去の利用者・利用団体・関係団体等に配布・送付した。
- ・ 施設申込受付期間の案内を、過去の劇場利用者へのDMや専門誌に掲載して広報を行った。
- ・ 施設申込受付期間や申込方法を、楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。
- ・ 舞台の保守点検日や整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。

(本館・演芸場)

- ・ 劇場利用パンフレット及び使用申込書を振興会HPに掲載し、利用者の利便を図った。
- ・ 大劇場・小劇場・演芸場とも、初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時申込手続き、利用日までの流れ等についての説明や劇場見学等の案内を行った。

(能楽堂)

- ・ 申合せの利用については、時間単位できめ細かい調整を行い、劇場利用の増加に努めた。

(文楽劇場)

- ・ 劇場内(ロビー・楽屋等)に劇場利用に関するチラシ・ポスターを掲出した。
- ・ 文楽劇場・小ホールとも、初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時劇場見学等の案内を行った。
- ・ 銀屏風や楽屋化粧台等の備品更新、2階前明かりスポットライトや3階小ホール音響出力系及びプロジェクター等の舞台技術関係設備更新を行い、貸劇場での利用に供する施設としての質を向上させた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ HPやパンフレットによる広報に加えて、国立劇場おきなわ友の会会報誌に貸劇場利用に関する情報

を掲載し、一般・会員等への広報宣伝を行った。

- ・ 沖縄観光コンベンションビューローが主催する MICE 及び修学旅行の商談会に参加し、劇場の PR を行った。

(新国立劇場)

- ・ 関係団体への郵送や HP での情報公開により使用方法や貸与可能日の状況を広く周知し、利用の促進を図った。

(2) アンケート調査の実施

(本館・演芸場)配布数 161 件、回答数 55 件(回収率 34.2%)、満足回答率 98.2%

(能楽堂) 配布数 103 件、回答数 28 件(回収率 27.2%)、満足回答率 92.9%

(文楽劇場)配布数 145 件、回答数 63 件(回収率 43.4%)、満足回答率 98.4%

(国立劇場おきなわ)配布数 117 件、回答数 50 件(回収率 42.7%)、満足回答率 94.0%

(新国立劇場)

- ・ 施設利用者にアンケート用紙を渡し、意見を集めた。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。

《数値目標の達成状況》

【劇場施設の貸与状況】

伝統芸能分野	実績68.4%/目標66.7%(達成度102.5%)
現代舞台芸術分野	実績71.0%/目標68.3%(達成度104.0%)
合計	実績69.1%/目標67.2%(達成度102.9%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 伝統芸能の保存振興等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与した。
- ・ 各劇場の貸与日数及び使用効率は、全体で年度計画の目標を達成できた。

現代舞台芸術分野
B

(根拠)

- ・ 舞台の安全と公演の質に留意しつつスケジュールを精査して貸与可能日を確保し、オペラ劇場、中劇場、小劇場とも劇場稼働率の限度まで有効活用して芸術団体等へ貸与することができた。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 31 年度の施設使用の申込を 29 年 12 月に受け付けた。26 年度分から受付期間を従来の 2 か月間から 1 か月間に短縮しているが、利用者にも広く浸透してきている。
- ・ 演芸場の施設使用の申込については、26 年度の使用分から申込受付開始を早期化している。31 年度の受付においても、館内に案内を置いたり、利用実績のある顧客に DM を送付したりすることで、この方法が利用者に定着し、申込数が安定するとともに円滑な受付ができた。
- ・ 小劇場使用日選定抽選会では会場に PC 等を設置し、受付から抽選、利用予約日の決定まで、円滑に処理した。また、会場内の配置・導線・受付手順の見直しを行うとともに、施設使用申込書・内定通知書を会場での印刷・手渡しから後日一斉発送に変更し、参加者の待ち時間を縮小することができた。
- ・ 紙媒体での配布のみならず、劇場利用パンフレット及び使用申込書を振興会 HP に掲載し、利用者の利便を図った。

(能楽堂)

- ・ 休館していた観世能楽堂が 29 年 4 月に再開場したため、利用数は例年の数に戻ったが、きめ細かな

時間調整をしながら申合せの利用を促進したことや、第3種(能楽以外の公演)の利用希望に対しても積極的に対応したことで、貸与日数の目標を上回ることができた。

- ・ 紙媒体での配布のみならず、劇場利用案内及び使用申込書を振興会 HP に掲載し、利用者の利便を図った。

(文楽劇場)

- ・ 特に小ホールの利用促進に注力し、劇場内に劇場利用に関するチラシ・ポスターを掲出した。
- ・ 団体営業と連携して観劇団体等へも劇場利用を PR した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ HP に施設利用案内パンフレットを掲載し、利用希望者の利便性を向上させた。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場、中劇場、小劇場とも、舞台の安全と公演の質に留意しつつスケジュールを精査し可能な範囲で貸与可能日を確保した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 演芸場、能楽堂、国立劇場おきなわ小劇場の使用効率が目標に届かなかった。劇場利用について一層周知に努め、利用の増加を図りたい。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能の伝承者の養成 p.140

- 養成研修の実施 p.144
- 既成者研修の実施 p.148
- 実施に当たっての留意事項 p.150

現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 p.153

- 研修の実施 p.156
- 実施に当たっての留意事項 p.159

3-1(1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 国としての支援が必要となる分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直し

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした養成研修を実施

- ①歌舞伎俳優、音楽伝承者養成：18人程度(研修期間2年間又は3年間)
- ②大衆芸能伝承者養成：8人程度(研修期間2年間又は3年間)
- ③能楽伝承者養成：基礎課程5人程度(研修期間：基礎課程3年間、専門課程3年間)
- ④文楽伝承者養成：6人程度(研修期間2年間)
- ⑤組踊伝承者養成：18人程度(研修期間3年間)

ウ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施

- ①既成者研修発表会
 - ・歌舞伎俳優既成者研修発表会(年2回程度)
 - ・歌舞伎音楽既成者研修発表会(年1回程度)
 - ・能楽既成者研修発表会(年3回程度)
 - ・文楽既成者研修発表会(年3回程度)
 - ・組踊既成者研修発表会(年1回程度)
- ②能楽研究課程(1年間)

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

ウ 伝統芸能の担い手を確保するための効果的かつ効率的な取組について検討

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施

- ①歌舞伎俳優・音楽
(歌舞伎俳優)

(a)歌舞伎俳優第23期生(研修期間2年、9名)の1年目の養成

(歌舞伎音楽)

- (b)竹本第 23 期生(研修期間 2 年、3 名)の 1 年目の養成
- (c)鳴物第 16 期生(研修期間 2 年、2 名)の 1 年目の養成
- (d)長唄第 7 期生(研修期間 3 年、2 名)の 2 年目の養成

②大衆芸能

- (a)寄席囃子第 14 期生(研修期間 2 年、4 名)の 2 年目の養成(修了)
- (b)寄席囃子第 15 期生の募集

③能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間 6 年)

- (a)第 9 期生(2 名)の 4 年目の養成
- (b)第 10 期生(3 名)の 1 年目の養成

④文楽(太夫、三味線、人形:研修期間 2 年)

- (a)第 28 期生(4 名)の 1 年目の養成

⑤組踊(立方・地方:研修期間 3 年)

- (a)第 5 期生(10 名)の 1 年目の養成

イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の通り既成者研修を実施

①既成者研修発表会

(a)歌舞伎俳優既成者研修発表会(2 公演実施)

- ・稚魚の会・歌舞伎会合同公演(本館小劇場)8 月 17 日～20 日、8 回
- ・上方歌舞伎会(文楽劇場)8 月 24 日～25 日、4 回

(b)歌舞伎音楽既成者研修発表会(1 公演実施)

- ・音の会(本館小劇場)8 月 11 日～12 日、2 回

(c)能楽既成者研修発表会(3 公演実施)

- ・若手能(京都:観世会館)7 月 8 日、1 回
- ・若手能(大阪:大槻能楽堂)1 月 20 日、1 回
- ・若手能(東京:能楽堂)2 月 3 日、1 回

(d)文楽既成者研修発表会(4 公演実施)

- ・文楽若手会(文楽劇場)6 月 24 日～25 日、2 回
- ・文楽若手会(本館小劇場)6 月 29 日～30 日、2 回
- ・若手素浄瑠璃の会(文楽劇場小ホール)8 月 25 日、1 回
- ・若手素浄瑠璃の会(文楽劇場小ホール)3 月 1 日、1 回

(e)組踊既成者研修発表会(1 公演実施)

- ・若手伝承者公演(国立劇場おきなわ大劇場)3 月 17 日、1 回

②能楽研究課程を開講、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進

ウ 各分野の充足状況等の把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等の聴取により、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証、対象とする分野、人数等について不断の見直し

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進

研修生募集について、様々な広報活動により周知

イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施

外部公演への出演等、文化普及活動への参画

ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施

エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れ、協力

《主要な業務実績》

1. 養成研修の実施

- ・ 歌舞伎俳優第23期生(研修期間2年、6名)の1年目の研修を実施
(年度当初の9名のうち2名が研修辞退、7名が9月適性審査に合格、審査後1名が研修辞退)
- ・ 竹本第23期生(研修期間2年、2名)の1年目の研修を実施
(年度当初の3名のうち3名が9月適性審査に合格、審査後1名が研修辞退)
- ・ 鳴物第16期生(研修期間2年、1名)の1年目の研修を実施
(年度当初の2名のうち1名が9月適性審査に合格)
- ・ 長唄第7期生(研修期間3年、2名)の2年目の研修を実施
- ・ 寄席囃子第14期生(研修期間2年、4名)の2年目の研修を実施、修了
- ・ 能楽第9期生(研修期間6年、2名)の4年目の研修を実施
- ・ 能楽第10期生(研修期間6年、2名)の1年目の研修を実施
(年度当初の3名のうち1名が研修辞退、2名が11月適性審査に合格)
- ・ 文楽第28期生(研修期間2年、1名)の1年目の研修を実施
(年度当初の4名のうち2名が10月適性審査に合格、審査後1名が研修辞退)
- ・ 組踊第5期生(研修期間3年、10名)の1年目の研修を実施
(年度当初の10名のうち10名が8月の適性審査に合格)
- ・ 大衆芸能(寄席囃子)研修修了発表会及び歌舞伎俳優・歌舞伎音楽(竹本・鳴物・長唄)研修発表会(合同開催、1回)、青翔会(能楽、3回)、東西合同研究発表会(能楽、1回)、文楽研修生発表会(1回)、組踊研修生発表会(2回)を実施

2. 既成者研修の実施

- ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」を実施
- ・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会「音の会」を実施
- ・ 能楽既成者研修発表会「若手能(京都公演・大阪公演・東京公演)」を実施
- ・ 文楽既成者研修発表会「文楽若手会(大阪公演・東京公演)」「若手素浄瑠璃の会(2公演)」を実施
- ・ 組踊既成者研修発表会「若手伝承者公演」を実施
- ・ 能楽研究課程を引き続き開講(受講者33名、実施回数327回)

3. 実施に当たっての留意事項

- ・ 外部の施設及び公演・イベント会場、鑑賞教室、既成者研修発表会、研修生発表会、研修修了発表会のロビー、展示室、各種媒体等で養成研修事業を周知
- ・ 五館合同特別講義では、能楽笛方藤田流十一世宗家藤田六郎兵衛(能楽(三役)研修主任講師)を招いての講演「良き舞台人となるために」とその後の研修生交流会により、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
- ・ 能楽研修修了者を中心とした若手能楽師が全国の学校・文化施設等に出向いて行うワークショップ等を26件実施

4. 外部専門家等の意見

- ・ 養成事業委員会を開催(2回)し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

《数値目標の達成状況》

【既成者研修発表会の実施状況】

達成度 100%

区分	実績	目標
歌舞伎俳優既成者研修発表会	2公演	2公演
歌舞伎音楽既成者研修発表会	1公演	1公演
能楽既成者研修発表会	3公演	3公演
文楽既成者研修発表会	4公演	4公演
組踊既成者研修発表会	1公演	1公演

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら29年度の事業を進めた。
- ・ 養成研修及び既成者研修等について、計画どおり実施した。

○ 良かった点・特色ある点

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 歌舞伎俳優研修では、研修発表会の歌舞伎「鏡山旧錦絵」當中試合の場において、外部専門家から1年目によくここまでできるようになった、各々の役の性根が掴めていたとの評価を得た。
- ・ 竹本研修では、1年次の研修生2名の技芸の向上が認められ、研修発表会の義太夫「団子売」において、それぞれ太夫・三味線のシンを務め、三味線では難易度の高い「替手」を披露することができた。
- ・ 長唄研修では、1年次と同様、研修生2名が研修発表会において立唄と立三味線それぞれを務め、1年間の研修による技芸向上の成果を舞台上で披露することができた。
- ・ 鳴物研修では、研修生1名が1年間で技芸の進歩が高く認められたため、研修発表会において3年研修のうち2年目に披露することの多い長唄「鶴亀」の太鼓を披露することができた。
- ・ 大衆芸能(寄席囃子)研修生4名が無事研修を修了するとともに、それぞれの所属先が決定し、就業の機会を確保することができた。
- ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演は、例年に比べ経験年数が浅い出演者だったが、高い入場率(94.2%)を維持するとともに、舞台成果においても外部専門家から高い評価を得た。また、音の会公演では、長唄演奏者に研修修了者以外の若手演奏者が加わり、全体的に充実した演奏を披露することができた。

(能楽)

- ・ 計画どおりに能楽研修発表会と能楽既成者研修発表会を実施し、若手能楽師が様々な役に挑戦して研鑽の成果を発表する機会を提供した。

(文楽)

- ・ 適性審査までは文楽三業の基本についての研修を、適性審査後は専攻の研修を、概ね順調に実施できた。
- ・ 通常の実技研修や講義に加え、文楽関係史跡を巡る部外研修や、各種芸能の公演見学を積極的に行い、芸能に関する理解を深めさせることができた。
- ・ 適性審査を行い、文楽の伝承者となるに相応しい研修生を合格させることができた。
- ・ 文楽研修の広報活動について、文楽研修紹介映像等を活用し、外部団体や施設と連携することで、幅広い層に対し事業を周知することができた。

(組踊)

- ・ 第5期生10名全員が適性審査に合格し、10月、3月の2回の研修発表会ほか計画どおり、1年目の研修を終えた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 一層の応募者の確保を図るため、広報活動や研修見学会等の充実に努める。
- ・ 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、文楽で、研修辞退者があった。選考試験及び適正審査において、より適性のある人材を確保するとともに、研修生の精神的なケア等に努める。
- ・ 組踊研修修了者において、芸能活動を継続的に行っていくための出演機会の創出について、各関係団体・関係機関と調整し、協力、連携していく必要がある。

3-(1)-① 養成研修の実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、大衆芸能(寄席囃子)研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽(長唄)においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。

能楽(三役)研修においては、能楽を長期的な視点に立って保存振興し、各役の伝承者を安定的に確保するため、基礎課程3年、専門課程3年の研修を実施する。

文楽(三業)研修においては、本館、文楽劇場等で開催する文楽公演における太夫・三味線・人形の後継者を育成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修においては、国立劇場おきなわ等で組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支える、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

《業務実績詳細》

1. 養成研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち 修了者	年度計画	中期計画(25～29年度)			
					修了者累計	目標		
歌舞伎 俳優・音楽	俳優 23期(1年次)	2年	6名	-	9名	21名	18名 程度	
	竹本 23期(1年次)	2年	2名	-	3名			
	鳴物 16期(1年次)	2年	1名	-	2名			
	長唄 7期(2年次)	3年	2名	-	2名			
大衆芸能	太神楽(休止)	-	-	-	-	2名	12名	8名 程度
	寄席囃子 14期(2年次)	2年	4名	4名	4名	10名		
能楽	9期(4年次)	基礎課程3年	2名	-	2名	2名	基礎課程 5名程度	
	10期(1年次)	専門課程3年	2名	-	3名			
文楽	28期(1年次)	2年	1名	-	4名	6名	6名 程度	
組踊	5期(1年次)	3年	10名	-	10名	19名	18名 程度	

2. 主な授業及び回数

区分	授業内容	
歌舞伎俳優 計 724 回	実技 計 619 回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、箏曲
	その他 計 105 回	作法、講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、あげざらい、発表会ほか
竹本 計 611 回	実技 計 421 回	義太夫(竹本)、義太夫、狂言、箏曲・胡弓
	その他 計 190 回	作法、講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
鳴物 計 437 回	実技 計 299 回	大太鼓、小鼓・太鼓、大鼓、笛、長唄、能楽(大鼓)
	その他 計 138 回	作法、講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
長唄 計 610 回	実技 計 476 回	長唄(鳥羽屋三右衛門社中・尾上菊五郎劇団音楽部)、五線譜、鳴物

	その他 計 134 回	講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、あげざらい、発表会ほか
寄席囃子 計 465 回	実技 計 339 回	寄席囃子、長唄、五線譜、清元、端唄、囃子(太鼓・小鼓)、日本舞踊
	その他 計 126 回	講義、五館合同特別講義、体操、公演見学、部外研修、あげざらい、発表会ほか
能楽 計 781 回	実技 計 615 回	シテ謡、ワキ、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
	その他 計 166 回	講義、五館合同特別講義、公演・稽古見学等、部外研修、舞台・楽屋実習その他(発表会等)
文楽 計 494 回	実技 計 216 回	義太夫、義太夫(三味線入り)、三味線、人形実技
	その他 計 278 回	箏曲・胡弓、謡・狂言、日本舞踊、作法、講義、五館合同特別講義、体操、実習、公演・稽古見学、部外研修、その他(発表会等)
組踊 計 492 回	実技 計 450 回	組踊実技、副実技、基礎実技
	その他 計 42 回	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、その他(発表会等)

3. 研修発表会等の実施

- あげざらい

第 1 回あげざらい(一般非公開)

10/17、本館大稽古場

(歌舞伎俳優)歌舞伎「寿曾我対面」工藤祐経館の場(指導＝中村時蔵・市川團蔵・市村橘太郎)

第 2 回あげざらい(一般非公開)

10/30、本館中稽古場

(長唄)「上を向いて歩こう」「少年時代」「五線譜三味線曲集 三粹集より 打合せ」

(寄席囃子)「リボンの騎士」「イパネマの娘」「エンターティナー」「くるみ割人形」、「三絃二重奏曲 太鼓の曲」(指導＝杵屋巳織)

第 3 回あげざらい(一般非公開)

3/2、第一演芸研修室

(長唄・寄席囃子)「太鼓の曲」

(長 唄)「イツアスモールワールド」「天空の城ラピュタ」

(寄席囃子)「朧月夜」「アジアの純真」「パイレーツ・オブ・カリビアン」「必殺！！」

現代曲「呼応」

- 第 14 期大衆芸能(寄席囃子)研修修了発表会、第 23 期歌舞伎俳優・第 23 期歌舞伎音楽(竹本)・第 16 期歌舞伎音楽(鳴物)・第 7 期歌舞伎音楽(長唄)研修発表会(合同)

3/15、本館小劇場、入場料：無料、入場者数：468 人

歌舞伎俳優研修生：歌舞伎「鏡山旧錦絵」当中試合の場、日本舞踊「雨の五郎」、
長唄「五郎時致」、立廻り「基本の型」

竹 本 研 修 生：義太夫「団子売」

鳴 物 研 修 生：長唄「鶴亀」

長 唄 研 修 生：長唄「正札附」、長唄「浦島」

寄席囃子研修生：落語「七段目」、端唄「梅は咲いたか」「淡海節」「づぼらん」「奴さん」
「二上り角力甚句」、清元「鳥羽絵」、長唄「正治郎連獅子」

- 能楽研修発表会

第 10 回稽古会

4/10、研修能舞台(非公開)

狂言「鐘の音」(和泉流)、舞囃子「敦盛」(喜多流)、舞囃子「天鼓」(観世流)、舞囃子「船弁慶」(宝生流)、袴能「枕慈童」(金春流)

第 13 回青翔会

6/13、能楽堂、入場料：正面 1,500 円、脇正面 1,000 円、中正面 700 円(学生：脇正面 700 円、中正面 500 円)、入場者数：555 人

舞囃子「清経」(喜多流)、舞囃子「野守」(宝生流)、舞囃子「鶉飼」(金春流)、狂言「鐘の音」(和泉流)、能「杜若」(観世流)

第11回稽古会

7/10、研修能舞台(非公開)

狂言「棒縛」(和泉流)、舞囃子「月宮殿」(喜多流)、舞囃子「富士太鼓」(金春流)、舞囃子「三輪」(観世流)、袴能「田村」(宝生流)

第14回青翔会

10/17、能楽堂、入場料：正面1,500円、脇正面1,000円、中正面700円(学生 脇正面700円、中正面500円)、入場者数：451人

舞囃子「松虫」(金春流)、舞囃子「龍田」(喜多流)、舞囃子「海土」(観世流)、狂言「昆布売」(和泉流)、能「猩々」(宝生流)

第12回稽古会

2/13、研修能舞台(非公開)

舞囃子「生田」(金春流)、舞囃子「雲林院」(喜多流)、舞囃子「融」(宝生流)、袴能「花月」(観世流)

第15回青翔会

3/13、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円(学生 脇正面700円 中正面500円)、入場者数：589人

舞囃子「弓八幡」(喜多流)、舞囃子「西王母」(宝生流)、舞囃子「桜川」(金春流)、狂言「膏薬煉」(和泉流)、能「安達原」(観世流)

第48回東西合同研究発表会

8/29、能楽堂、入場料：無料、入場者数：354人

舞囃子「加茂」、舞囃子「箆」、能「半蔀」、舞囃子「菊慈童」、狂言「土筆」、ワキ連吟「鶉飼」、狂言小舞「名取川」、狂言小舞「宇治の晒」、狂言小舞「吉の葉」、狂言小舞「景清」、独吟「田村クセ」、舞囃子「花月」、舞囃子「春栄」、舞囃子「三輪」、能「春日龍神」

・ 第28期文楽研修生発表会

1/27、文楽劇場小ホール、入場料：無料、入場者数：134人

「二人三番叟」、素浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」寺入りの段

・ 第5期組踊研修生第1回発表会

10/19、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：521人

組踊「執心鐘入」

・ 第5期組踊研修生第2回発表会

3/8、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：467人

琉球舞踊「かぎやで風」「かせかけ」、組踊「二童敵討」

4. 適性審査の実施

コース	試験日	受験者数	合格者数
歌舞伎俳優	9/21	7名	7名
歌舞伎音楽(竹本)	9/26	3名	3名
歌舞伎音楽(鳴物)	9/20	2名	1名
文楽	10/30	4名	2名
能楽	11/14	2名	2名
組踊	8/10	10名	10名

※歌舞伎俳優 10月に1名辞退、現在6名。歌舞伎音楽(竹本)2月に1名辞退、現在2名。

文楽 12月に1名辞退、現在1名。

5. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
寄席囃子	2/20	9名	9名	3名

【特記事項】

- ・ 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本・鳴物・長唄)及び大衆芸能(寄席囃子)研修生合同の部外研修として、

11/27 に上野・根津・谷中界限の史跡巡りと講師による江戸の歴史文化に関する講義を行った。

- ・ 寄席囃子研修生が、6月から11月にかけて国立演芸場、鈴木演芸場、新宿末廣亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場で舞台実習を行った。
- ・ 文楽研修生は、部外研修として、5/8に大阪道頓堀界隈の文楽関係史跡見学、6/28に滋賀県長浜の三味線系工場見学等を実施した。研修講師が同行し、現地で講習を行った。
- ・ 組踊研修生は、部外研修として、2/17に首里城、玉城朝薫・伊波晋猷の墓等の組踊史跡見学を実施した。研修講師が同行し、現地で講習を行った。
- ・ 新国立劇場研修生が朗読劇「ひめゆり」の作品理解のため、沖縄を訪問した際、国立劇場おきなわを訪れ、第5期組踊研修生と交流した。新国立劇場研修生は組踊研修を見学し、調査養成課による沖縄芸能舞台の講義を受講した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 長唄研修では、鳥羽屋三右衛門社中及び尾上菊五郎劇団音楽部の楽屋見学を実施したことによって、それぞれの社中の特徴や雰囲気を実際の仕事場で経験した上で、入門先の希望を決めることができた。
- ・ 寄席囃子研修では、国立演芸場、鈴木演芸場、新宿末廣亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場の5席亭での実習により、修了後の職場環境や人間関係について事前に経験できたことで、今後寄席に従事するための貴重な機会となった。
- ・ 中学卒業後上京した研修生に対して、食事の提供等生活のサポートが付帯する民間施設の利用を推進した結果、体調を崩した際の病院紹介や食事面でのケア等により、病状の悪化を防ぎ早期に研修復帰することができた。
- ・ 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、同(鳴物)で適性審査を実施し、11名が合格した。

(能楽)

- ・ 第9期生は、28年度に引き続き「東西合同研究発表会」に出演し、専門研修課程の1年次として充実した研修を行うことができた。
- ・ 能楽研修発表会(青翔会)は、若手能楽師を応援しようという顧客を獲得し、概ね高い水準の入場者数を維持することができた。
- ・ 適性審査を実施した結果2名が合格し、基礎研修課程1年目の研修を実施した。

(文楽)

- ・ 4月から10月まで三業の基本の研修を概ね順調に実施することができた。また、適性審査後は専攻の研修を概ね順調に実施することができた。
- ・ 振興会主催の文楽公演や歌舞伎公演、声明公演、大衆芸能公演、各種講座等に加え、外部団体主催の文楽公演、歌舞伎公演、舞踊公演等の公演見学を多数行い、各種芸能に関する知識・理解を深めさせることができた。
- ・ 適性審査を行い、文楽の伝承者となるに相応しい研修生を合格させることができた。
- ・ 研修生発表会において、若手技芸員とともに、研修生が懸命に舞台を勤めた姿は、日頃の研修の成果を感じさせ、なお一層の成長を期待させた。
- ・ 文楽関係史跡等を巡る部外研修を、研修講師による現地講習のもとで実施した。文楽の歴史や演目の背景等を身近に感じながら学習させることができ、有意義であった。
- ・ 6月文楽鑑賞教室公演、6月文楽若手会(大阪)の公演期間中及び10~12月の展示期間中に、展示室内に研修事業内容紹介ブースを設置して、研修風景映像を流すとともにチラシ・パンフレットを配架した。

(組踊)

- ・ 組踊関係史跡を巡る部外研修を実施し、組踊生誕300年を控えたこの年に、組踊の歴史や創設者の背景等を身近に感じながら学習させることができ、有意義であった。
- ・ 第5期生10名全員が適性審査に合格し、計画どおり、1年目の研修を終えた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 能楽研修発表会「第14回青翔会」の入場率及び公演満足度が高くなかったため、演目や公演時間等を分析し、できるだけ多くの観客に鑑賞してもらえるよう、今後につなげていく。
- ・ 引き続き、組踊研修第5期生10名の円滑な研修の実施に取り組んでいく。特に、高校生2名については、保護者と協力、連携して対応していきたい。

3-(1)-② 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了生の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

1. 発表会

引き続き既成者研修発表会を実施する。

歌舞伎俳優 2 公演・歌舞伎音楽 1 公演・能楽 3 公演・文楽 4 公演・組踊 1 公演

2. 能楽の研究課程の開講

能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を図る。

《業務実績詳細》

1. 既成者研修発表会の実施

区分	実績	年度計画	公演名
歌舞伎俳優既成者研修発表会	2 公演	2 公演	「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」
歌舞伎音楽既成者研修発表会	1 公演	1 公演	「音の会」
能楽既成者研修発表会	3 公演	3 公演	「若手能」(京都公演・大阪公演・東京公演)
文楽既成者研修発表会	4 公演	4 公演	「文楽若手会」(大阪公演・東京公演)「若手素浄瑠璃の会(8月・3月)」
組踊既成者研修発表会	1 公演	1 公演	「若手伝承者公演」

(1) 歌舞伎俳優既成者研修発表会

- 第 23 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演
8/16～20、5 日 5 回、本館小劇場、入場料：4,100 円(学生 2,900 円)、障害者 2 割引
入場者数：2,458 人(94.2%)
「番町皿屋敷」第一場麴町山王下の場 第二場番町青山家の場(監修・指導＝中村梅玉、中村魁春)、
「紅氍」(振付・指導＝中村梅彌)、「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場(監修・指導＝中村芝翫)
- 第 27 回上方歌舞伎会
8/24～8/25、2 日 4 回、文楽劇場、入場料：4,100 円(学生 2,900 円)
入場者数：2,186 人(入場率 80.7%)
「菅原伝授手習鑑」加茂堤の場/佐太村賀の祝の場(片岡仁左衛門・片岡秀太郎・片岡我當＝指導)、
「棒しばり」(藤間豊宏＝振付)

(2) 歌舞伎音楽既成者研修発表会

- 第 19 回音の会
8/11～12、2 日 2 回、本館小劇場、入場料：2,600 円(学生 1,800 円)、障害者 2 割引
入場者数：697 人(入場率 66.8%)
鳴物・長唄「浅妻船」、長唄「独吟三題」、長唄「助六」、義太夫・舞踊「義経千本桜 道行初音の旅」(振付：藤間勘祖)

(3) 能楽既成者研修発表会

- 第 27 回能楽若手研究会：「若手能」京都公演
7/8、1 日 1 回、京都観世会館、入場料：3,100 円(当日)、2,600 円(前売・一般)、1,500 円(学生)
入場者数：476 人(入場率 105.3%)
能「弱法師」、舞囃子「巻絹」「生田敦盛」「紅葉狩」、狂言「萩大名」、能「融」
- 第 27 回能楽若手研究会：「若手能」大阪公演
1/20、1 日 1 回、大槻能楽堂、入場料：3,100 円(当日)、2,800 円(前売・一般)、1,500 円(学生)
入場者数：450 人(入場率 89.6%)
能「菊慈童」、舞囃子「清経」、狂言「文蔵」、能「海士」
- 第 27 回能楽若手研究会：「若手能」東京公演
2/3、1 日 1 回、国立能楽堂、入場料：正面 3,100 円 脇正面 2,600 円 中正面 2,100 円(学生 脇

正面 1,800 円 中正面 1,500 円) 障害者 2 割引
入場者数 : 625 人(入場率 99.7%)
能「巴」、狂言「寝音曲」、能「車僧」

(4) 文楽既成者研修発表会

- ・ 第 17 回文楽若手会
6/24～25、2 日 2 回、文楽劇場、入場料 : 2,100 円(学生 1,400 円)
入場者数 : 1,211 人(入場率 82.8%)
「寿柱立万歳」、「菅原伝授手習鑑」車曳の段、寺入りの段、寺子屋の段
- ・ 第 5 回文楽若手会
6/29～30、2 日 2 回、本館小劇場、入場料 : 2,600 円(学生 1,800 円)
入場者数 : 1,091 人(入場率 98.6%)
「寿柱立万歳」、「菅原伝授手習鑑」車曳の段、寺入りの段、寺子屋の段
- ・ 若手素浄瑠璃の会
8/25、1 日 1 回、文楽劇場小ホール、入場料 : 1,000 円(学生 700 円)
入場者数 : 144 人(入場率 90.6%)
「絵本太功記」妙心寺の段、「祇園祭礼信仰記」鳶田の段
- ・ 若手素浄瑠璃の会
3/1、1 日 1 回、文楽劇場小ホール、入場料 : 1,000 円(学生 700 円)
入場者数 : 148 人(入場率 93.1%)
「菅原伝授手習鑑」車曳の段、「一谷嫩軍記」組討の段

(5) 組踊既成者研修発表会

- ・ 第 7 回若手伝承者公演
3/17、1 日 1 回、国立劇場おきなわ大劇場、入場料 : 2,100 円(学生 1,000 円)
入場者数 : 193 人(入場率 33.4%)
琉球舞踊「かぎやで風」、琉球古典音楽斉唱、組踊「忠臣身替の巻」

2. 能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生 33 名が受講した(実施回数 : 327 回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

3. その他の既成者研修の取組

大衆芸能(太神楽)について、歌舞伎の基本動作や笛の実習等、研修修了者の技芸向上を図るための研修を実施した(実施回数 41 回、受講者延べ 139 名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演は、芸歴 30 年以下の俳優により行うこととしているが、29 年度は他の公演と日程や演目等が重なり出演者の確保が難しく、例年に比べ経験の浅い俳優等が健闘した公演であったが、外部専門家からは基本的に忠実な丁寧な演技であったとの評価を得た。また、初めて参加する出演者が多い中で観客動員にも努力した結果、入場者数 2,458 人(入場率 94.2%)と、多くの観客に養成事業の成果を示すことができた。
- ・ 音の会では、これまで他の公演との関係から出演者・指導者の調整が難しく、俳優が加わっての上演が少なかった。今回ベテラン俳優の助演を得て大曲に挑戦することができた。他にも実際に歌舞伎公演でも上演される機会の多い演目が揃い、出演者も舞台上で活躍する演奏者が加わり、実践で鍛えた余裕を感じさせる舞台であった。入場者数は 697 人(入場率 66.8%)と、前年度の 686 人(入場率 65.7%)を上回った。
- ・ 音の会では、公演直前に出演者による動画インタビューを HP に掲載した結果、観客増に繋げることができた。
- ・ 上方歌舞伎会は、日頃舞台を脇で支える俳優達が大役を勤めることで、演目に対する理解も深まり、若手俳優の技芸向上に大きく貢献する有意義な会となった。
- ・ 大衆芸能(太神楽)では、修了者から希望する研修内容を具体的に提示してもらい、より実際の舞台に

活用できるカリキュラムを提供した。

- ・ 3 都市(京都・大阪・東京)で実施している「若手能」では、若手能楽師がベテランの能楽師の助演を受け日頃の研鑽の成果を発表することができた。また、平均 98.1%の高い有料入場率となった。
- ・ 文楽既成者研修発表会はいずれも、若手の技芸員が普段は演じることのない大役を勤めることで、技芸の向上に大きく貢献する有意義な公演となった。
- ・ 組踊既成者研修発表会は、組踊伝承者として個々に活動している研修修了者が、年に一度一堂に会して、保持者の先生方から稽古をつけてもらえる貴重な機会となっている。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 音の会については、より多くの観客に対して技芸を披露できるよう、周知方法等の工夫により、集客に努める。
- ・ 組踊既成者研修発表会の入場者が減少傾向にあるため、公演の企画、演者自身の営業意識を高めるなど効果的な集客活動を検討していく。

3-(1)-③ 実施に当たっての留意事項

《業務実績詳細》

1. 広報活動の充実、応募者増加のための活動

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 歌舞伎鑑賞教室、音の会、稚魚の会・歌舞伎会合同公演、研修発表会の会場ロビーで養成研修を紹介する DVD を映写し、事業の周知に努めた。
- ・ 「全国高校生伝統文化フェスティバルー第 1 回伝統芸能選抜公演ー」の会場において、研修生募集チラシを配布した。
- ・ 大衆芸能(寄席囃子)研修の説明と実際の研修状況を見学してもらう「研修見学会」を 2 回実施した(参加者数 12/9 : 12 名、1/20 : 34 名)。
- ・ 大衆芸能(寄席囃子)研修生の募集において、「東京かわら版」「邦楽の友」「邦楽ジャーナル」ほか新聞各紙、各種雑誌及びフリーペーパー、落語協会・落語芸術協会等の Web サイトへ募集記事又は広告の掲載を行った。

(能楽)

- ・ 能楽の振興・普及事業(ワークショップ等)で小・中・高校を回る際に、能楽全般及び研修制度についての広報を行い、養成研修事業の周知に努めた。

(文楽)

- ・ 文楽鑑賞教室、文楽若手会、研修生発表会の公演のロビー等で、文楽研修を紹介する映像を流すとともに、公演プログラムに紹介記事を掲載し、事業の周知に努めた。
- ・ 文楽劇場外での各種文楽公演や、イベント等でのチラシ配布等を実施し、事業の周知に努めた。
- ・ 近畿圏を中心とした学校への DM や広告を実施し、事業の周知に努めた。
- ・ マスコミで文楽研修を紹介いただき、事業の周知に寄与した(テレビ放送 1 件)。
- ・ 文楽研修を中心とした振興会の養成事業に関するレクチャーを実施し、事業の周知に努めた(高等学校 1 件)。

(組踊)

- ・ 国立劇場おきなわ HP、Facebook に、第 4 期組踊研修修了式及び第 5 期組踊開講式、研修生発表会、既成者研修発表会稽古の活動状況を掲載して広く活動を周知した。また、新聞、雑誌取材を受け入れ、広く研修制度、発表会の宣伝周知を行った。

2. 研修生等の実演機会の充実及び伝統芸能の振興・普及のための活動

- ・ 能楽研修修了者を中心とした若手能楽師を講師に起用し、振興・普及活動を 26 件実施した。
 - ① 「届けます。体験教室」14 件
全国の小中学校・高校へ出向いて、学生・生徒を対象とするもの。
 - ② 「楽しもう！能と狂言」7 件
全国の文化施設・ホール等と連携して、主に大人を対象とするもの。
 - ③ 「楽しもう！能の世界」5 件

国立能楽堂の研修能舞台で、自主公演の鑑賞とセットで、または能楽器等の連続講座を有料で行うもの。

- ・ 国立劇場おきなわでは、研修修了者で構成する「子の会」を起用した組踊ワークショップを県内で7回(内2回は旅行業者と提携した組踊鑑賞ツアー)、県外で3回実施した。また、「子の会」では、文化庁の補助事業として県外の小中学校(12校)で、沖縄県の補助事業として県内の高等学校(7校)で、それぞれ組踊公演を行った。

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かし、各分野の研修生が一堂に会して一流の舞台芸術家から舞台に対する心構えを学ぶとともに、交流会を開催して伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の研修生の相互交流を図った。

・ 五館合同特別講義、研修生交流会(12/1)

講義：能楽堂研修能舞台(2階)、交流会：能楽堂食堂(1階)

講師：藤田六郎兵衛(能楽笛方藤田流十一世宗家)

講義内容：「良き舞台人になるために」

参加者：研修生 58名(歌舞伎俳優 6名、竹本 3名、鳴物 1名、長唄 2名、寄席囃子 4名、能楽 4名、文楽 2名、組踊 10名、オペラ研修所第20期生 5名、バレエ研修所第14期生 6名、演劇研修所第13期生 15名)

4. 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の移動公演において、舞台職員・スタッフを派遣し、現場での打合せから仕込み、舞台稽古、本番に至る流れの中で、国立劇場のノウハウを提供した。
- ・ 公益財団法人東京都歴史文化財団主催公演(本館大劇場)に対して、29年度から「制作に関する助言」等の協力を開始した。

5. 外部専門家等の意見

- ・ 養成事業委員会を開催(2回)し、外部専門家等の意見を聴取して、事業運営への活用に努めた。主な意見は以下のとおりであった。
 - － 「音の会」では、出演者がそれぞれすでに歌舞伎公演等の大舞台で活躍中であり、全体として安定した演奏を披露した。将来の邦楽を担うに足る力量を身に付けている。
 - － 「稚魚の会・歌舞伎会」合同公演では、普段の公演では演じたことのない大役を担っての奮闘ぶりは、基本に忠実で丁寧な演技で分かりやすく、歌舞伎初心者向けの公演として有効ではないかとの意見があった。また、優れた演技者の監修・指導者からの的確な指導を得られるのは、今までの養成事業に対する信頼の表れであるとの評価を得た一方、主演俳優の師匠以外による指導には違和感があるとの意見であった。
 - － 文楽後継者育成について、養成制度のもつ意義は誰もが高く評価するところである。研修希望者数にはこれからも波はあるであろうが、文楽の将来にとって欠くべからざる制度であるという認識のもと、これまで同様、関係者一同の努力を期待したい。
 - － 「文楽若手会」では、若手太夫陣の充実、文楽の将来への確かな手応えを覚えた。三味線、人形も、平成入門世代でここまで盛り上げられたのは収穫といえよう。
 - － 「上方歌舞伎会」では、片岡仁左衛門丈、片岡秀太郎丈、片岡我當丈の指導を得て、上方歌舞伎の伝統の若手への継承が図られ、着実な成果が感じられた。
 - － 「若手素浄瑠璃の会」は、演者の熱気がこれからの文楽に期待を抱かせてくれるようで、頼もしい限りである。
- ・ 国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催し、外部有識者から組踊養成事業についての意見を聴取した(3/16)。主な意見は以下のとおりであった。また、副実技、講義の内容について意見交換がなされた。
 - － 研修生が円熟しており、優秀であること、ほとんどが辞めることなく卒業後、伝承者として貢献し、舞台を盛り上げている意義は大きい。
 - － 既成者研修発表会の集客について、演者自身の営業意識が不可欠である。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 研修見学会では、研修状況の見学に加え、DVD や資料も使用して、研修コースの内容や特徴を説明し、応募対象者だけでなく、伝統芸能に関心を持つ参加者にも養成研修の意義・必要性を伝え、事業の普及に努めた。
- ・ 大衆芸能(寄席囃子)研修生の募集活動に際し、新たな取組として駅構内のディスプレイ広告を実施するとともに、有効な広告媒体の変化に対応し、インターネット広告の規模を拡大し広報活動を強化した。
- ・ 能楽研修修了者による振興・普及活動(ワークショップ等)を通じて、養成事業及び能楽研修について、広く一般の方々への周知に努めた。
- ・ 文楽研修の広報活動について、文楽研修紹介映像等を活用し、外部団体や施設と連携することで、幅広い層に対し事業を周知することができた。
- ・ 国立劇場おきなわHP等に、研修修了式、開講式、発表会及び稽古等の活動状況を掲載して広く活動を周知した。また、新聞、雑誌取材を受け入れ、広く研修制度、発表会の宣伝周知を行った。
- ・ 五館合同特別講義では、能楽(三役)研修主任講師の藤田六郎兵衛師を招き、舞台人としての心得や芸道に取り組む姿勢について貴重な話を聞くことにより、研修生の意識を高めることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 「稚魚の会・歌舞伎会」合同公演については、希望する指導者、監修者が舞台出演の都合等により指導できない場合があるが、引き続き養成事業への協力を求めていく。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 研修実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を実施

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした研修を実施

①オペラ研修:25人程度(研修期間3年間)

②バレエ研修:30人程度(研修期間2年間)

③演劇研修:60人程度(研修期間3年間)

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施

①オペラ研修(研修期間3年)

(a)第18期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b)第19期生(5名)の2年目の研修

(c)第20期生(5名)の1年目の研修

(d)第21期生(5名程度)の募集

(e)研修発表会等(3公演実施)

・試演会(新国立劇場小劇場)6月30日～7月2日、3回

・修了公演(新国立劇場中劇場)3月9日～11日、3回

・歌唱コンサート(新国立劇場中劇場)11月14日、1回

(f)海外研修の実施(9月～10月、3月)

②バレエ研修(研修期間2年)

(a)13期生(7名)の2年目の研修(修了)

(b)第14期生(6名)の1年目の研修

(c)第15期生(6名程度)の募集

(d)バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集

- ・第8期生(2名)の2年目の研修
- ・第9期生(3名)の1年目の研修
- ・第10期生(若干名)の募集

(e)研修発表会等(3公演実施)

- ・発表公演(新国立劇場中劇場)11月18日～19日、2回
- ・修了公演(新国立劇場中劇場)3月24日～25日、2回
- ・「バレエ・アステラス2017」(新国立劇場オペラ劇場)7月22日、1回

③演劇研修(研修期間3年)

(a)第11期生(12名)の3年目の研修(修了)

(b)第12期生(11名)の2年目の研修

(c)第13期生(16名)の1年目の研修

(d)第14期生(16名程度)の募集

(e)研修発表会等(3公演実施)

- ・試演会(新国立劇場小劇場)10月27日～31日、6回(予定)
- ・修了公演(新国立劇場小劇場)2月2日～7日、6回(予定)
- ・朗読劇「ひめゆり」(新国立劇場小劇場)8月4日～6日、4回(予定)

イ グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成の実施
外部専門家等の意見の聴取、成果の検証により、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて
不断の見直し

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進
研修生募集について、様々な広報活動により周知

イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
外部公演への出演等、文化普及活動への参画

ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施

エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受
入れ、協力

《主要な業務実績》

1. 研修の実施

- ・ オペラ研修(研修期間3年)：第18期生5名の3年目の研修を実施、修了
第19期生5名の2年目の研修を実施
第20期生5名の1年目の研修を実施
- ・ バレエ研修(研修期間2年)：第13期生6名の2年目の研修を実施、修了(1名が退所)
第14期生6名の1年目の研修を実施
予科第8期生2名の2年目の研修を実施、修了
予科第9期生3名の1年目の研修を実施
- ・ 演劇研修(研修期間3年)：第11期生12名の3年目の研修を実施、修了
第12期生10名の2年目の研修を実施(1名が退所)
第13期生14名の1年目の研修を実施(2名が退所)
- ・ 研修発表会等を実施：オペラ3回(6～7月試演会、11月歌唱コンサート、3月修了公演)、バレエ3
回(7月バレエ・アステラス2017、11月第13期生・第14期生発表公演、3月修了公演)、演劇3回(8
月第11期生朗読劇、10月試演会、2月修了公演)
- ・ 各研修所において次年度入所の研修生の募集・選考を実施
- ・ オペラ研修所において、ANAスカラシップによる海外研修を実施
- ・ 研修事業委員会を開催、28年度の成果検証に基づき今後の方向性を検討

2. 実施に当たっての留意事項

- ・ HP や Facebook 等を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を随時発信
- ・ バレエ研修生が「バレエ・アステラス 2017」におけるワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー校長による公開レッスンに出演
- ・ 演劇研修所第 11 期生が東京都立葛飾盲学校を訪問し、演劇活動のアウトリーチを実施
- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用

《数値目標の達成状況》

【研修発表会の実施状況】

達成度 100%

区分	実績	目標
オペラ研修発表会等	3 公演	3 公演
バレエ研修発表会等	3 公演	3 公演
演劇研修発表会等	3 公演	3 公演

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 年度計画に基づき研修を実施し、オペラ研修生5名、バレエ研修生6名、演劇研修生12名が修了した。
- ・ 研修発表会等について、計画どおり実施した。なおオペラ研修所修了公演の本番日は計画段階では3月9日～11日の3日間だったが、3月8日、10日、11日の3日間となった。
- ・ オペラ研修所では、全日本空輸株式会社協賛の「ANA スカラシップ」により、2 年次にミラノ・スカラ座アカデミー、3 年次はバイエルン州立歌劇場附属研修所での海外研修を実施した。
- ・ 舞台技術者等の研修については、関係諸団体と協力し、新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
- ・ 研修事業委員会を引き続き開催し、外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わし、今後の方向性を検討することができた。
- ・ 研修事業について、HP や Facebook を活用した多様な広報活動により広く関心を喚起するとともに、修了生については、最新の活動状況を HP に掲載、また研修公演会場におけるパネル展示等により、その成果の周知を図ることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 研修施設等については、関係各所と相談し、引き続き見直しを検討していきたい。

3-(2)-① 研修の実施

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンをを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

《業務実績詳細》

1. 研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち 修了者	年度計画	中期計画(25～29年度)	
					修了者累計	目標
オペラ	18期(3年次)	5名	5名	5名	25名	25名程度
	19期(2年次)	5名	—	5名		
	20期(1年次)	5名	—	5名		
バレエ	13期(2年次)	6名	6名	7名	29名	30名程度
	14期(1年次)	6名	—	6名		
バレエ 予科	8期(2年次)	2名	2名	2名	14名	—
	9期(1年次)	3名	—	3名		
演劇	11期(3年次)	12名	12名	12名	49名	60名程度
	12期(2年次)	10名	—	11名		
	13期(1年次)	14名	—	16名		

2. 主な授業及び回数

区分	授業内容		
オペラ	実技	第18期 計386回 第19期 計328回 第20期 計407回	オペラ実習、身体表現
	座学	第18期 計115回 第19期 計115回 第20期 計124回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語・ドイツ語・イタリア語)
	その他	第18期 計28回 第19期 計29回 第20期 計29回	舞台実習ほか
バレエ	実技	第13期 計385回 第14期 計389回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第13期 計47回 第14期 計56回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語)ほか

	その他	第13期 計19回 第14期 計21回	舞台実習ほか
バレエ 予科	実技	第8期 計370回 第9期 計371回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第8期 計47回 第9期 計48回	特別講義(サロン)、語学(英語)ほか
	その他	第8期 計21回 第9期 計22回	舞台実習ほか
演劇	実技	第11期 計169回 第12期 計371回 第13期 計303回	実技、演劇実習、シーンスタディほか
	座学	第11期 計8回 第12期 計8回 第13期 計32回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義
	その他	第11期 計36回 第12期 計113回 第13期 計124回	観劇、スタッフ研修、見学ほか

3. 研修発表会等の実施

(1) 研修公演

(オペラ研修)

- ・ オペラ試演会「ドン・ジョヴァンニ ～石の招待客(まろうど)～」 / G. ガッツァニーガ作曲
6/30～7/2、3回、小劇場、入場者数：606人(74.8%)
- ・ 「NNTT Young Opera Singers Tomorrow 2017」
11/14、1回、中劇場、入場者数：448人(入場率74.5%)
- ・ 研修所修了公演「イル・カンピエッロ」
3/8・10～11、3回、中劇場、入場者数：1,254人(入場率46.1%)

(バレエ研修)

- ・ 「バレエ・アステラス 2017」
7/22、1回、オペラ劇場、入場者数：1,205人(入場率67.2%)
- ・ 第13期生・第14期生発表公演「オータム・コンサート 2017」
11/18～19、2回、中劇場、入場者数：1,152人(入場率57.7%)
- ・ 「エトワールへの道程 2018 新国立劇場バレエ研修所の成果」
3/24～25、2回、中劇場、入場者数：1,305人(入場率72.0%)

(演劇研修)

- ・ 朗読劇「ひめゆり」
8/4～6、4回、小劇場、入場者数：859人(入場率85.1%)
- ・ 試演会「ある階段の物語」
10/28～31、6回、小劇場、入場者数：939人(入場率63.3%)
- ・ 修了公演「美しい日々」
2/2～7、6回、小劇場、入場者数：1,285人(入場率79.3%)

(2) その他出演

- ・ バレエ研修生が「バレエ・アステラス 2017」におけるワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー校長による公開レッスンに出演した。
7/19、1回、オペラ劇場
- ・ 演劇研修所第11期生が東京都立葛飾盲学校を訪問し、演劇活動のアウトリーチを実施した(6/26)。

(3) 海外研修

- ・ オペラ研修所では、全日本空輸株式会社協賛の「ANA スカラシップ」により、第19期生4名(1名は自己都合により不参加)がミラノ・スカラ座アカデミーで海外研修を行った(9/11～29)。これに加え、前年度ミラノで学んだ第18期生5名がバイエルン州立歌劇場付属研修所にて一層の研鑽を積んだ

(3/13～23)。

4. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
オペラ	12/1～7	54名	53名	5名
バレエ	1/14～27	43名	40名	6名
バレエ予科	12/2～3	33名	32名	3名
演劇	1/17～21	84名	74名	16名

5. 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・ 研修事業委員会を開催し、28年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った(5/15)。
- ・ 研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・ 各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

【特記事項】

- ・ 演劇研修所をノルウェー・シアター・アカデミーの学生が訪問し、クラスや舞台稽古見学の後、研修生とワークショップや意見交換を行い、交流を深めた(8/2、9/19、20、29)。
- ・ 演劇研修所をプリンストン大学講師・学生が訪問し、クラスや試演会見学の後、研修生とワークショップや意見交換を行い、交流を深めた(10/30～11/3)。
- ・ 演劇研修所をカーネギーメロン大学演劇学校の教授2人から個別に訪問を受け、朗読劇リハーサル見学、授業見学、研修生への授業、講師との交歓等を行い、今後も発展できる交流を行った(7/13、3/12～18)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(オペラ研修)

- ・ 個々の研修生のアリア技量の向上を目指すだけでなく、オペラの舞台で必須となるアンサンブル稽古の充実や、身体訓練等の新規授業により、成果を挙げることができた。
- ・ 「ANA スカラシップ」により29年度もイタリア最高峰といえるミラノ・スカラ座アカデミーへ2年次生(第19期生)を派遣し、3年次生(第18期生)をバイエルン州立歌劇場附属研修所へ派遣、2年にわたり海外研修を行った。現地講師による充実した指導に加え、研修生にプロとしての自覚、将来の目標、世界の舞台を意識させる貴重な機会となった。
- ・ 研修公演においては、研修生はそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演ができた。アンケート調査においても非常に高い満足度を得ることができた。

(バレエ研修)

- ・ 「バレエ・アステラス2017」に参加し、海外で活躍する日本人ダンサー及びワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミーの生徒との交流を深め、同じ舞台に立ったことは、研修生にとって貴重な機会となった。
- ・ 9月下旬から10月上旬にかけ、海外招聘講師としてサンフランシスコバレエ学校校長パトリック・アルマン氏にクラシカル・バレエの指導を依頼した。アルマン氏のきめ細かい指導を吸収した研修生の成長は著しく、研修公演における良い成果に繋がった。
- ・ 研修公演においては、クラシカル・バレエでは古典作品からの抜粋やパ・ド・ドゥを取り上げ、研修生がそれぞれの持ち味を活かした役を演じ、日々の研修の成果を発揮することができた。
- ・ コンテンポラリーダンスや演劇の授業を実施し、ダンスの幅を広げることができた。演劇の授業では、演劇研修所との合同授業も実施したことで、成果の向上に繋がった。

(演劇研修)

- ・ 朗読劇「ひめゆり」上演にあたり第11期生は自主的に沖縄を訪問、作品理解に努めるとともに国立劇場おきなわの組踊研修生とも交流を深めることができた。
- ・ 第11期生の朗読劇、試演会、修了公演とも多くの観客に研修の成果を披露することができたと同時に、マネジメント事務所への積極的な働きかけが奏功して関係者が多数来場し、修了生の進路選定に寄

与した。

- ・ 第12期生、第13期生も研修公演において舞台裏や表周りのスタッフとして参加し、公演創作について多くのことを学ぶ貴重な機会となった。
- ・ 27年度からの研修制度の見直しに伴い、1年次を終了する第13期生に対し、より優れた人材の育成を図るための評価会を実施し、研修生の将来に向けた個別指導を徹底するとともに、2年次の進級審査を行った。
- ・ ノルウェー・シアター・アカデミーやプリンストン大学の学生と交流し、意見交換を行ったことで、海外の演劇事情等の認識を深める良い経験を得た。また、プリンストン大学の講師、カーネギーメロン大学演劇学校教授との交流によって、研修内容の充実度を客観視できるとともに、研修生だけでなく、講師、スタッフにとっても有意義な機会となった。

3-(2)-② 実施に当たっての留意事項

《業務実績詳細》

1. 広報活動の充実

- ・ HP や Facebook を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等を随時発信した。また、その内容を主催公演の Twitter アカウントと共有することで、幅広い層の目に留まるよう努めた。
- ・ 修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果を HP に掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・ HP に「バレエ・アステラス」についての常設ページを新設し、公演概要と過去の出演者記録を分かりやすくまとめた。海外で活躍するダンサーの出演を募るという主旨に照らし、英語サイトも同様に改修した。
- ・ 「ANA スカラシップ」によるオペラ研修所の取組について、協賛の全日本空輸株式会社により機内誌や機内映像で紹介され、広く周知が図られた。
- ・ 研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、バレエ研修所では8月に夏期特別講習会を実施した。演劇研修所では8月と11月にオープンスクールを実施したほか、9～12月に説明会を毎月開催した。なお11月の説明会は関西での開催だった。

2. 研修生等の実演機会の充実及び現代舞台芸術の振興・普及のための活動

(バレエ研修)

- ・ バレエ研修生が「バレエ・アステラス 2017」におけるワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー校長による公開レッスンに出演した(7/19、1回、オペラ劇場)。

(演劇研修)

- ・ 演劇研修所第11期生が東京都立葛飾盲学校を訪問し、演劇活動のアウトリーチを実施した(6/26)。
- ・ 演劇研修所をノルウェー・シアター・アカデミーの学生が訪問し、クラスや舞台稽古見学の後、研修生とワークショップや意見交換を行い、交流を深めた(8/2、9/19、20、29)。
- ・ 演劇研修所をプリンストン大学講師・学生が訪問し、クラスや試演会見学の後、研修生とワークショップや意見交換を行い、交流を深めた(10/30～11/3)。
- ・ 演劇研修所をカーネギーメロン大学演劇学校の教授2人から個別に訪問を受け、朗読劇リハーサル見学、授業見学、研修生への授業、講師との交歓等を行い、今後も発展できる交流を行った(7/13、3/12～18)。

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会(12/1)
講義：能楽堂研修能舞台(2階)、交流会：能楽堂食堂(1階)
講師：藤田六郎兵衛(能楽笛方藤田流十一世宗家)
講義内容：「良き舞台人になるために」
参加者：研修生58名(歌舞伎俳優6名、竹本3名、鳴物1名、長唄2名、寄席囃子4名、能楽4名、文楽2名、組踊10名、オペラ研修所第20期生5名、バレエ研修所第14期生6名、演劇研

4. 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力

- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、東京都公立文化施設協議会の研修会「新国立劇場視察」を実施したほか、公共劇場舞台芸術者連絡会、日本照明家協会セミナー、公益社団法人劇場演出空間技術協会への職員の派遣、開館を控えた札幌文化芸術劇場への協力、連携協定大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 研修事業について、HP や SNS を活用して継続的に情報を発信した。併せて国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く知らしめることができた。
- ・ 「ANA スカラシップ」によるオペラ研修所の取組について、協賛の全日本空輸株式会社により広く周知することができた。
- ・ 講習会・オープンスクールや説明会を開催し研修の内容をなるべく具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。
- ・ 「バレエ・アステラス」を契機としたロシアのバレエ学校との交流をはじめ国内外の学校等と交流することで研修生が実演機会を得ることができた。
- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会等を通じ、伝統芸能分野との相互交流を進めることができた。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.161

- 伝統芸能の調査研究 p.163
- 伝統芸能の資料の収集・活用 p.166
 - 資料の収集と公開 p.167
 - 収集資料の活用 p.168
 - 文化デジタルライブラリー等の整備と公開 p.168
 - 展示公開 p.169
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.174
 - 公演記録の作成・活用 p.174
 - 公開講座等、普及活動の実施 p.175

現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.179

- 現代舞台芸術の調査研究 p.180
- 現代舞台芸術の資料の収集・活用 p.183
 - 資料の収集と公開 p.183
 - 展示公開 p.184
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.186
 - 公演記録の作成・活用 p.186
 - 公開講座等、普及活動の実施 p.187

4-1(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料の収集、並びに研究者や国民一般への成果の提供

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ①上演資料集の作成
- ②日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録の調査研究、組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究
- ③伝統芸能に関する古文献等についての調査研究、復刻・刊行等

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ①伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理、閲覧、図録等の作成、博物館施設等への貸与等
- ②収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実

ウ 収集した資料等の展示公開

- ・伝統芸能情報館資料展示室 年3企画程度
- ・演芸資料館資料展示室 年3企画程度
- ・能楽堂資料展示室 年4企画程度
- ・文楽劇場資料展示室 年4企画程度
- ・国立劇場おきなわ資料展示室 年4企画程度

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等の開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ①歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
- ②日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究調査研究を次のとおり実施
 - (a)「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十二巻の刊行及び第十三巻の刊行準備
 - (b)「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行及び第五巻の刊行準備
 - (c)「琉球・沖縄芸能史年表」第十二集の刊行準備
- ③伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を実施

- (a)演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第一冊の刊行
- (b)未翻刻戯曲集第二十四巻の刊行
- (c)正本写合巻集(2冊)の刊行

イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ①図書・資料の収集及び分類整理、閲覧のための提供
 - 伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主に各館の公開分野に関する図書・資料を収集
開架図書の充実、一般利用の促進
- ②収集した資料等を活用し、次のとおり刊行
 - また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与
 - (a)特別展示図録(能楽堂)
- ③収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実及びインターネットによる公開
 - (a)図書、資料及び公演記録等について、次の情報のデータベース化を実施
 - ・図書(本館筋書)
 - ・錦絵
 - ・プロマイド
 - ・公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)
 - (b)デジタルコンテンツの作成
 - ・文化デジタルライブラリーユネスコ無形文化遺産コンテンツ「能楽への誘い」多言語版
 - ・舞台芸術教材「歌舞伎事典」英語版
 - (c)文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数:620,000件
- ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開
- (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施
 - ア 演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供
 - イ 公演記録映像を公演記録鑑賞会、講座・レクチャー等で活用
 - ウ 公開講座等、普及活動の実施
 - ①公開講座等を別表9のとおり実施
 - 広報活動を十分に実施
 - アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上
 - ②公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開
 - ③教員免許更新制における免許状更新講習を実施
 - ④組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動を充実

4-(1)-① 伝統芸能の調査研究

《方針》

- ・ 日本各地の歌舞伎を中心とした演劇興行についての年表・資料である「近代歌舞伎年表」を作成する。すでに刊行した「大阪篇」全九巻十冊、「京都篇」全十巻十一冊に続き、29年度は「名古屋篇」第十二巻の刊行及び第十三巻刊行に向けての基礎調査、原稿準備を行う。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行に向けた準備、資料収集を行い、刊行する。

《主要な業務実績》

- ・ 伝統芸能に関する調査研究を実施し、その成果として以下の刊行及び刊行準備を計画どおり実施
上演資料集(歌舞伎7冊、文楽5冊、組踊2冊)
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十二巻(刊行)、同第十三巻以降(刊行準備・資料収集)
「義太夫年表 昭和篇」第四巻(刊行)、同第五巻以降(刊行準備・資料調査)
「琉球・沖縄芸能史年表」第十二集(刊行準備・資料収集)
- ・ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施し、その成果として以下の復刻・刊行等及び刊行準備を計画どおり実施
演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第一冊(刊行)
未翻刻戯曲集・24「花埜嵯峨猫魔稿」(刊行)、同25(古文献調査)
正本写合巻集・20「月見曠名画一軸」(刊行)、同21「小袖曾我薊色縫」(刊行)、同22(古文献調査)、同23(古文献調査)
その他古文献調査
- ・ 外部専門家等の意見聴取
調査事業委員会を開催(2回)し、外部専門家等より意見を聴取して、事業運営への活用に努めた。
- ・ アンケート調査を実施
満足度：上演資料集(歌舞伎・文楽・組踊)89.4%、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十二巻95.1%、「義太夫年表 昭和篇」第四巻97.4%

《業務実績詳細》

1. 刊行実績

事項	実績
上演資料集	歌舞伎7冊、文楽5冊、組踊2冊 合計14冊
近代歌舞伎年表 義太夫年表	刊行：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十二巻(30年3月) 「義太夫年表 昭和篇」第四巻(29年9月) 刊行準備：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十三巻のデータ集積、一部原稿作成 「義太夫年表 昭和篇」第五巻の刊行準備 「琉球・沖縄芸能史年表」第十二巻の刊行準備・資料収集 調査作業：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十三巻以降の資料調査 「義太夫年表 昭和篇」第五巻以降の資料調査
古文献の復刻等	刊行：「御屋舗番組控」第一冊〈演芸資料選書・12〉(29年12月) 「花埜嵯峨猫魔稿」〈未翻刻戯曲集・24〉(30年3月) 「月見曠名画一軸」〈正本写合巻集・20〉(30年2月) 「小袖曾我薊色縫」〈正本写合巻集・21〉(30年3月) 刊行準備：〈未翻刻戯曲集25〉の古文献調査 〈正本写合巻集〉2冊の古文献調査及び原稿準備 〈演芸資料選書12〉の古文献調査

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以

下の通り。

- ・ 上演資料集は、研究において使用しないということは考えにくい。学術論文などに引用、参考文献に用いられている。その活用の実態を見えるようにしてはどうか。
- ・ 貴重な調査研究の成果物(刊行物)の周知について、インターネット等を今以上に活用し努めてほしい。

(2) アンケート調査

① 「上演資料集」

- ・ 歌舞伎 No. 619 :
回答者数 51 人(配布数 119 人、回答率 42. 9%)、94. 1%の回答者から満足との回答を得た(48 人)。
- ・ 文楽 No. 625 :
回答者数 46 人(配布数 107 人、回答率 43. 0%)、97. 8%の回答者から満足との回答を得た(45 人)。
- ・ 組踊 No. 43 :
回答者数 35 人(配布数 67 人、回収率 52. 2%)、71. 4%の回答者から満足との回答を得た(25 人)。

② 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十二巻 :

回答者数 41 人(配布数 110 人、回答率 37. 2%)、95. 1%の回答者から満足との回答を得た(39 人)。

③ 「演芸資料選書 12 御屋舗番組控 一」

《主な意見・感想等》

- ・ 江戸武家屋敷に長唄がいかにかに享受されていたかが明瞭に示される貴重な史料であり、歴史史料としても重要。影印、翻刻、注解は大変ありがたい。
- ・ 長唄に関する資料は少なく、とりわけ現場にかかわる資料は目にする事が少なく、その様相を知る資料はありがたい。
- ・ 本書の如き資料は、歌舞伎とはほとんど関わりのない資料で、閲覧が困難なので、このような刊行は大変ありがたい。今後もこのような資料の刊行をお願いしたい。
- ・ 影印の翻刻に加えて、曲目や演奏者への注解は専門外の者にとってはありがたい。こうした注解によって資料活用の方が広がる。
- ・ 長年にわたる地道な研究の成果が、このような形で刊行されることは誠にすばらしい。商業ベースにのりにくい。しかし貴重な資料の紹介と研究成果。本書のようなものこそ国立劇場の事業としてふさわしい。

④ 「義太夫年表 昭和篇」第四巻 :

回答者数 39 人(配布数 77 人、回答率 50. 6%)、97. 4%の回答者から満足との回答を得た(38 人)。

【特記事項】

- ・ 外部出版社に資料提供し 28 年度に刊行された「歌舞伎の型 仮名手本忠臣蔵」(昭和 47 年度、芸能調査室発行)が、電子出版された。
- ・ 外部専門家の意見を受け、調査研究成果の積極的な発信のため、ドイツ・フランス・韓国の計 5 か所の研究機関等へ刊行物を寄贈した。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 計画どおり上演資料集、近代歌舞伎年表、古文書の復刻等を行った。
- ・ 演芸資料選書 12「御屋舗番組控」の影印・翻刻・注解版の第一冊目(全 4 冊+別冊)を出版した。歌舞伎音楽から離れた長唄の資料としては現時点では最も古いもので大変貴重であるが、それだけでなく、大木屋敷や料亭で演奏された長唄の当時の実態を知る上で非常に有効な資料として高く評価されるとともに、今後様々な研究等への活用が期待できる。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第四巻を刊行し、アンケートでは研究者等から「貴重だが一般的読者が多くない仕事は国立文楽劇場ならでの成果として高く評価されるべきものである」「このような資料は研究の基盤であるので、文楽劇場の仕事として確実に完結していただきたい」といった評価を得た。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」の刊行では、名古屋女子大学「総合科学研究」第 11 号、「近代名古屋

における児童演劇教育についての一考察」(著 遠山佳治)において、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第1、9、10、11巻が参考文献として利用され、大正・昭和期にかけての演劇活動の全貌を把握する貴重な手がかりとなることが紹介された。

- ・ 演芸資料選書12「御屋舗番組控」の刊行では、長唄の貴重資料の翻刻出版にとどまらず、江戸風俗・文化等、多様な研究分野からのアプローチが可能であり、第157回舞踊公演「素踊りの会」プログラムの解説文に参考文献として引用されるなど、今後の活用が期待される。
- ・ 外部出版社に資料提供し28年度刊行された「歌舞伎の型 仮名手本忠臣蔵」(昭和47年度、芸能調査室発行)の復刊が、29年には電子出版(Kindle版)され、更なる研究成果の普及に繋がった。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第四巻では、昭和30年から35年までの公演プログラム、チラシのほか、出版物及び新聞記事や個人所有の記録類等の調査により、第三巻に引き続き文楽座の二派分裂時期の活動を詳細に収録した。ラジオ・テレビ等の出演についても別ページを立てるなど、社会情勢を反映した編集を行い、アンケートでは「戦後の放送関係の記録も貴重」等、評価を得た。
- ・ 「国立劇場おきなわ上演資料集」では、第42集「大川敵討」で尚家文書二八四「丙寅冊封諸宴演戯故事」(国宝指定、那覇市所有)より「婦人設計救君討敵」(忠孝婦人)(※大川敵討の別名)部分を抜粋した影印を掲載した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 研究成果の普及について、刊行情報については、HP、振興会出版物、関係専門誌、刊行チラシ等で周知しているが、若い世代へのアピールとして、インターネットを中心に、より効果的な周知方法を検討する。

4-(1)-② 伝統芸能の資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、今後増加が見込まれる海外からの観光客や観劇客の理解と興味を深めるため、デジタルコンテンツの多言語化を進める。

能楽堂では主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、収集資料の貸与等、文楽をはじめとする伝統芸能に対する理解の促進に努める。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

《主要な業務実績》

1. 資料の収集と公開

- ・ 伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施

2. 収集資料の活用

- ・ 整理した資料等を、展示、閲覧、講座、公演記録鑑賞会等で活用
- ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架
- ・ 能楽堂特別展図録『備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション』の作成
- ・ 外部展示への資料の貸出
 - ・ 三井記念美術館、龍谷大学龍谷ミュージアムにおいて、NHK プロモーション主催による「地獄絵ワンダーランド」展に錦絵を貸出
 - ・ さいたま大宮盆栽美術館の展示「三代目尾上菊五郎改メ、植木屋松五郎!？」展に錦絵を貸出
 - ・ 板橋区立美術館の展示「池袋モンパルナスとニシムイ美術村」展に絵画1点を貸出
 - ・ 京王プラザホテル「能 雅を継ぐもの 一天女が舞う「羽衣」の世界展」に能面、能装束、絵画等を貸出
 - ・ 群馬県立日本絹の里 第39回企画展「能装束でみる群馬の能」に展示用作り物を貸出
 - ・ 松戸市博物館 平成29年度企画展「本土寺と戦国の社会」に絵画を貸出
 - ・ 茨城県立歴史館 平成29年度特別展一橋徳川家記念室開設三十周年記念「一橋徳川家の200年」に模型を貸出
 - ・ 大阪府立中之島図書館主催の展示「大阪四花街展」への公演記録写真の貸出
 - ・ 阪神高速道路株式会社の阪神高速ミナミ交流プラザ(愛称 LoopA)での、文楽絵看板、文楽解説パネル等文楽関連資料の貸出
 - ・ 大阪市立中央図書館主催の展示への過去の文楽公演ポスターと文楽人形首の製作工程の貸出
 - ・ 大阪市立大学主催「大阪市立大学文学部特別授業 上方文化講座 2017」への文楽人形の特殊な仕掛けの手の貸出
 - ・ 大阪府立弥生文化博物館・大阪府教育委員会共催の大阪府立弥生文化博物館平成29年度冬季企画展「かけがえのない文化財を守る、伝えるー大阪における歩みと展望ー」への文楽人形の貸出
 - ・ 沖縄県平和祈念資料館主催の「第18回特別企画展『戦世と沖縄芝居一夢に見る沖縄 元姿やしが一』」への沖縄芝居台本(戦時中の軍検閲入り原本)、写真(データ)等の貸出

3. 文化デジタルライブラリー等の整備と公開

- ・ 錦絵150点、ブロマイド260点ほかのデータベース化、登録、公開等、デジタルコンテンツを充実
- ・ 舞台芸術教材「雅楽」英語版を公開
- ・ 舞台芸術教材「歌舞伎事典」英語版を作成

- ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「能楽への誘い」多言語版(8言語)を作成

4. 展示公開

- ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19 企画で入場者数 237,838 人(目標 193,067 人 達成度 123.2%)
- ・ 伝統芸能情報館情報展示室及び演芸場資料展示室では、伝統芸能・大衆芸能に興味と理解を深めることを目的に展示を実施
- ・ 各展示室において、利用者の利便性向上のため、展示解説文の多言語化を実施
- ・ 能楽堂では、「入門展」、初展示資料を用いた「収蔵資料展」、未知の「野崎家能楽コレクション」を紹介した「特別展」、「能の作り物」の実物もまじえた企画展を実施
- ・ 文楽劇場では、文化プログラム事業の一環として外国人向け小冊子「Introduction To BUNRAKU」中国語版を作成して展示室にて配架、さらに年度末に韓国語版も作成
- ・ 文楽劇場展示室内映像モニターにおいて、企画展示の都度、展示内容に因んだ過去の公演記録映像を活用し、10～20 分程度に編集して上映
- ・ 国立劇場おきなわでは、自主公演と関連付けて企画展を実施

5. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

- ・ 調査事業委員会を開催(2回)し、外部専門家等の意見を聴取して、事業運営への活用に努めた。
- ・ アンケート調査を実施
満足度：図書閲覧室(全館)88.0%、資料展示室(全館)91.1%

《業務実績詳細》

<1> 資料の収集と公開

1. 収集・公開実績

区分	収集	公開
伝統芸能情報館	収集図書：2,629 冊 収集資料：1,545 点	閲覧室利用者数：4,596 人(開室 257 日) 写真複製使用件数：356 件 博物資料閲覧 6 件、視聴利用 1,036 件
能楽堂	収集図書：729 冊 収集資料：6,882 点	閲覧室利用者数：3,584 人(開室 237 日) 写真複製使用 94 件 博物資料閲覧 1 件、視聴利用 2,284 件
文楽劇場	収集図書：1,102 冊 収集資料：333 点	閲覧室利用者数：1,156 人(開室 245 日) 写真複製使用 38 件、視聴利用 717 件
国立劇場おきなわ	収集図書：463 冊 収集資料：475 点	レファレンスルーム利用者数：2,444 人(開室 236 日) 写真複製使用 12 件、視聴利用 1,008 件

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

- ・ 多くの専門書を有する貴重な図書館であるので、もっと利用が増えるよう外部に向けて宣伝してほしい。

(2) アンケート調査

- ・ 伝統芸能資料館図書閲覧室(2/11～3/27)
回答者数 46 人。回答者の 93.5%が概ね満足と答えた(43 人)。
- ・ 能楽堂図書閲覧室(2/15～3/28)
回答者数 61 人(配布数 71 人、回収率 85.9%)、回答者の 88.5%が概ね満足と答えた(54 人)。
- ・ 文楽劇場図書閲覧室(7/3～11/29)
回答者数 60 人(配布数 60 人、回収率 100.0%)、回答者の 83.3%が概ね満足と答えた(50 人)。

【特記事項】

- ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架した。
- ・ 伝統芸能情報館情報展示室は、社会人のための歌舞伎鑑賞教室・文楽鑑賞教室の公演日において、来

場者の利用に配慮して開演時間まで開室時間を延長した。

<2> 収集資料の活用

1. 活用実績

(本館)

- ・ 三井記念美術館、龍谷大学龍谷ミュージアムにおいて、NHK プロモーション主催による「地獄絵ワ
ンダーランド」展(7/15～11/12)に錦絵を貸出
- ・ さいたま大宮盆栽美術館の展示「三代目尾上菊五郎改メ、植木屋松五郎!？」展(10/7～11/29)に錦
絵を貸出
- ・ 板橋区立美術館の展示「池袋モンパルナスとニシムイ美術村」展(2/24～4/15)に絵画1点を貸出
- ・ 東京国立近代美術館フィルムセンターの上映企画「ドキュメンタリー作家 羽田澄子 Part2」に
おいて、国立劇場が企画・監修した記録映画「歌舞伎の魅力 菅丞相 片岡仁左衛門-義太夫狂言の
演技-」「歌舞伎の魅力 音楽 おさん 茂兵衛 大経師昔暦にみる」「歌舞伎の魅力 新歌舞伎」を
上映(11/9～19)

(能楽堂)

- ・ 京王プラザホテル「能 雅を継ぐもの -天女が舞う「羽衣」の世界展-」貸出(6/1～29)に能面、
能装束、絵画等を貸出
- ・ 群馬県立日本絹の里 第39回企画展「能装束でみる群馬の能」(6/3～7/10)に展示用作り物を貸出
- ・ 松戸市博物館 平成29年度企画展「本土寺と戦国の社会」(9/23～11/12)に絵画を貸出
- ・ 茨城県立歴史館 平成29年度特別展「橋徳川家記念室開設三十周年記念「一橋徳川家の200年」
(2/10～3/21)に模型を貸出

(文楽劇場)

- ・ 大阪府立中之島図書館主催の展示「大阪四花街展」(4/3～28)への公演記録写真の貸出
- ・ 大阪市立中央図書館主催の展示(6/16～7/19)への過去の文楽公演ポスターと文楽人形首の製作工程
の貸出
- ・ 阪神高速道路株式会社の阪神高速ミナミ交流プラザ(愛称 LoopA)での、文楽絵看板、文楽解説パネ
ル等文楽関連資料の貸出(6/22～7/11、10/19～11/7)
- ・ 大阪市立大学主催「大阪市立大学文学部特別授業 上方文化講座2017」(8/24～25)への文楽人形の
特殊な仕掛けの手の貸出
- ・ 大阪府立弥生文化博物館・大阪府教育委員会共催の大阪府立弥生文化博物館平成29年度冬季企画
展「かけがえのない文化財を守る、伝える-大阪における歩みと展望-」(1/20～3/31)への文楽人形
の貸出

(国立劇場おきなわ)

- ・ 沖縄県平和祈念資料館主催の「第18回特別企画展『戦世と沖縄芝居-夢に見る沖縄 元姿やししが-』
(10/5～2/22)への沖縄芝居台本(戦時中の軍検閲入り原本)、写真(データ)等の貸出

<3> 文化デジタルライブラリー等の整備と公開

1. 実績

(1) データベース化

事 項	実 施 内 容
図 書	逐次刊行物等 4,000 件 本館所蔵の他劇場の公演プログラム 4,000 件を、図書管理システム・国立情報学研究所のデータベースに登録した。
資 料	錦絵 150 点、ブロマイド 260 点 新たに考証・整理が終了した錦絵(芝居版画等)150 点、ブロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優)260 点を、文化デジタルライブラリーに追加登録した。
上演情報	144 公演 歌舞伎 9 公演、文楽 14 公演、舞踊・邦楽 13 公演、雅楽・声明 1 公演、民俗芸能 3 公演、特別企画 4 公演、能・狂言 42 公演、大衆芸能 58 公演の公演情報を、文化デジタルライブラリーに登録した。
公演記録	28,158 点

写真	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で29年11月までに撮影した全ジャンルの公演記録写真28,158点を文化デジタルライブラリーに登録した。
扮装図鑑	8公演 国立劇場で25年1月から29年7月に上演された歌舞伎公演(鑑賞教室含む)・文楽公演(鑑賞教室含む)に上演された公演の「扮装図鑑」を、文化デジタルライブラリーに登録した。

(2) デジタルコンテンツの作成

- ・ 舞台芸術教材「雅楽」英語版を公開
- ・ 舞台芸術教材「歌舞伎事典」英語版を作成
- ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「能楽への誘い」多言語版(8言語)を作成

(3) 文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数

1,318,745件(計画:620,000件)

(4) 文化デジタルライブラリーシステムの改修

- ・ 現在公開中の舞台芸術教材において、スマートフォンやタブレットPCでは視聴できない部分の改修方法を調査し、仕様書を作成するとともに、舞台芸術教材「寄席」の改修を行った。

<4> 展示公開

1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
伝統芸能情報館 情報展示室	4回	311日	72,787人	45,717人
演芸場 資料展示室	3回	282日	44,030人	39,480人
能楽堂 資料展示室	4回	216日	35,552人	28,080人
文楽劇場 資料展示室	4回	265日	73,189人	67,790人
国立劇場おきなわ 資料展示室	4回	281日	12,280人	12,000人
総計	19回(計画19回)		237,838人	193,067人

(伝統芸能情報館)

- ・ 「かぶき入門」では、主にこれから歌舞伎を観てみたいという初心者や、歌舞伎鑑賞教室の来場者を対象に、上演演目に因んだ衣裳、鬘、小道具や錦絵を展示し分かりやすく解説した。また、歌舞伎の効果音の波の音を出すことができる体験コーナーを設置した。
- ・ 「親子で楽しむ歌舞伎教室」期間中営業部と協力して、来場する親子等に対し、伝統芸能情報館を含む国立劇場敷地内でのスタンプラリーに併せて展示を鑑賞してもらう企画を実施した。
- ・ 「弾く、吹く、打つー日本の伝統音楽の魅力ー」では、日本の伝統音楽を演奏する楽器に焦点を当て、音楽の基本的な演奏形式である「弾く」「吹く」「打つ」という演奏方法に分けて楽器や楽譜等の資料を展示し、その多様性と魅力を紹介した。
- ・ 「おどりの衣裳」では、「京鹿子娘道成寺」や「藤娘」等の歌舞伎舞踊の代表的な演目について、所蔵する衣裳を中心に小道具や公演記録写真を展示し、舞踊とその衣裳の魅力を紹介した。
- ・ 「役者絵の世界ー文化・文政期の名優たちー」では、所蔵する歌舞伎の役者絵の中から、初代歌川豊国とその後継者の歌川国貞の作品を中心に、文化・文政期という、歌舞伎の大きな隆盛期にスポットを当て、役者絵から読み取れるその時代の歌舞伎の諸相と名優たちの姿を展示した。

(演芸場)

- ・ 「落語だよ。ー江戸・上方落語入門ー」では、新たな落語ファンを対象に、落語の歴史をはじめ、江戸落語と上方落語を比較し分かりやすく解説した。また、演芸場の楽屋を写真パネルで紹介するなど、すでに落語に親しんでいる方にも楽しんでもらえるよう工夫した。
- ・ 「太神楽曲芸協会創立80周年記念ー太神楽の世界ー」では、太神楽曲芸協会の協力により、太神楽の歴史とその魅力を様々な実演道具や舞台写真、錦絵等で紹介した。
- ・ 「演芸家のあの手この手ー粋な筆跡ー」では、演芸家の直筆による色紙や書、原稿、台本等を展示し、高座とはひと味違う演芸家の一面を紹介した。

(能楽堂)

- ・ 「収蔵資料展」では、前期を「狂言資料展」、後期を「能面・能装束展」とし、これまで展示したことのない資料を積極的に展示紹介し、解説には新たな知見も盛り込んだ。

- ・ 入門展「能楽入門」では、日本語、英語、中国語、韓国語による解説を付したパンフレット及び出品目録を作成して無料配布した。
- ・ 特別展「備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション」では、公益財団法人竜王会館(野崎家塩業歴史館)が所蔵する能楽資料を展示した。これまでその存在が知られていなかった資料で、今回初めて本格的な調査が行われた。中でも木彫能人形は全国的にも類例がない資料で注目を集めた。特別展図録『備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション』を作成し、頒布した。
- ・ 企画展「能の作り物」では、最古の作り物図とされる安土桃山時代の下間少進筆「炭蓮江間日記」から近代の文献絵画に至るまで、作り物に関する資料や美術工芸品を展示した。特に前年度の企画展「能絵の世界」で注目を集めた緞通(だんつう)を敷いた一畳台については、同展をきっかけに江戸期の一畳台の「緞通」が初めて発見され、本展で展示することができた。また、展示資料に関するパンフレットを作成し、無料配布した。

(文楽劇場)

- ・ 企画展示「豊竹呂太夫一代々の魅力」(4~6月)では、豊竹英太夫の六代目豊竹呂太夫襲名に因み、新呂太夫が所蔵する祖父・三代呂太夫(後の豊竹若太夫 人間国宝)ゆかりの品々(床本・見台等)をはじめ、新呂太夫や歴代の呂太夫関連資料を展示し、呂太夫の系譜とその魅力を紹介した。また、歴代呂太夫の写真や音声・公演記録映像等を展示室モニターにて紹介した。
- ・ 常設展示「文楽入門」(6~9月)では、企画コーナーを前期(6月)と後期(7~9月)に分けて展示した。前期の企画コーナー「忠臣蔵を知る」では、6月鑑賞教室の主な観客層(生徒、学生)にも理解を深めてもらえるよう、6月文楽鑑賞教室の上演演目に因み、「仮名手本忠臣蔵」関連の資料を展示し、文楽を構成する三業(太夫・三味線・人形)の基本的内容を分かりやすく紹介した。また、「Discover BUNRAKU」に合わせて、28年度の英語版に続き、外国人向け小冊子「文楽鑑賞の手引」中国語版を作成し、展示室等にて配架した。展示室モニターでは、28年度に制作した文楽養成事業普及映像「伝統芸能伝承者養成事業 文楽研修」を上映した。後期の企画コーナー「親子劇場を楽しむ」では、夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」の「金太郎の大ぐも退治」と「赤い陣羽織」のあらすじ解説を中心に紹介した。夏休み文楽特別公演の期間中は、展示室内に「体験ステージ」(床・人形)を設置し、文楽座技芸員及びボランティアグループ「文楽応援団」の協力のもと、親子劇場来場の子供たちが日替りで太夫・三味線・人形遣いの体験ができるコーナーを実施し、体験型の展示で文楽に親しんでいただいた。また、「親子劇場」の時間帯に、ボランティアグループ「文楽応援団」スタッフが折紙で作ったキャラクターを、展示室内で子供たちにプレゼントした。
- ・ 常設展示「文楽入門」(10~12月)では、企画コーナー「心中宵庚申にちなんで」では、11月文楽公演「心中宵庚申」に因み、昭和40年の復活上演時の舞台写真を中心に、公演プログラム、絵看板等を紹介した。展示室モニターでは、23年度に作成した文楽普及映像「人形浄瑠璃 文楽」及び、28年度に制作した文楽養成事業普及映像「伝統芸能伝承者養成事業 文楽研修」を上映した。
- ・ 企画展示「八代目竹本綱太夫・六代目竹本織太夫」(1~3月)では、昭和を代表する名人、八代目綱太夫ゆかりの品々(写真・レコード・見台等)と、綱太夫の前名を襲名する六代目織太夫の関連資料(襲名配り物の扇子や手ぬぐい・楽屋のれん等)を紹介した。また、八代目綱太夫の写真や音声・公演記録映像等を展示室モニターにて紹介した。あわせて、書籍(八代目竹本綱太夫著『でんでん虫』昭和39年刊行)付録のソノシートの音源をデジタル化し、展示室モニターで紹介した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 5月三線音楽公演「島唄の響き」、6月研究公演「山内盛彬・音楽の世界」に因み、企画展「琉球・沖縄の音楽」(4~6月)を行った。宮廷で発展した古典音楽や、御座楽等の中国伝来の音楽、民衆の間で長く歌い継がれてきた民謡等、琉球王国時代から現代に至るまでの音楽の歴史を、楽器や映像などの資料により紹介した。また、沖縄音楽の研究者であり伝承者でもあった山内盛彬氏の、研究と人となりを紹介した。
- ・ 8月普及公演「親子のための組踊鑑賞教室『女物狂』」に因み、企画展「組踊の子どもたち」(7~9月)を行った。組踊に登場する子供たちの衣装・髪結い・小道具等を紹介した。合わせて組踊マンガの原画や琉球・沖縄の伝統玩具等を展示し、子供たちも身近に感じられる内容で組踊や琉球・沖縄の伝統文化を紹介した。
- ・ 10月琉球舞踊公演「男性舞踊家の会」、12月企画公演「創作舞踊と新作組踊『太鼓の縁』」に因み、企画展「琉球舞踊のい・ろ・は」(10~12月)を行った。国内外の観光客や琉球舞踊を初めて観覧する方にも分かりやすいよう、琉球舞踊をテーマ別に解説し、衣装や小道具等を紹介した。また、多言語(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)による解説リーフレットを設置・無料配布し、琉球舞踊の

魅力を紹介した。

- ・ 企画展「綱引きと芸能」(1～3月)では、沖縄県内の綱引きや関連する芸能について、写真・衣装や楽器等を展示し、各地域の綱引きを彩る豊かな芸能を中心に紹介した。また、沖縄と多く共通点が見られる韓国の綱引きについても、韓国国立無形遺産院及び機池市綱引き博物館の協力により、現地で使われている衣装や楽器、綱引きの様子がかがえる模型などを展示し、綱引きにまつわる芸能の魅力を紹介した。

2. 目録等刊行物の実績

- (能楽堂) 出品目録「収蔵資料展」、「能楽入門展」(日本語・英語・中国語・韓国語)、「備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション」、「企画展 能の作り物」
パンフレット「能楽入門」(日本語・英語・中国語・韓国語)、「企画展 能の作り物」
特別展図録『備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション』

3. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以下の通り。

- ・ 能楽堂の展示はいつもクオリティーが高い。図録も能面の面裏の写真を全て掲載するなど工夫がみられる。地方でしか紹介されない貴重な資料を東京で紹介し、きちんとした図録として残すことはとても意味がある。展示監修者の選定も、各分野の第一人者に委嘱していることが窺える。

(2) アンケート調査

(伝統芸能情報館)

- ・ 「かぶき入門」(4/22～7/27)期間中に実施。回答数 135 人。回答者の 88.1%が概ね満足と答えた(119人)。
- ・ 「弾く・吹く・打つー日本の伝統音楽の魅力ー」(8/5～10/27)期間中に実施。回答数 56 人。回答者の 91.1%が概ね満足と答えた(51人)。
- ・ 「おどりの衣裳」前期(11/3～1/28)期間中に実施。回答数 75 人。回答者の 93.3%が概ね満足と答えた(70人)。
- ・ 「役者絵の世界ー文化・文政期の名優たちー」(2/10～3/31)期間中に実施。回答数 32 人。回答者の 87.5%が概ね満足と答えた(28人)。

(演芸場)

- ・ 「落語だよ。ー江戸・上方落語入門ー」(4/1～7/23)期間中に実施。回答数 62 人。回答者の 98.4%が概ね満足と答えた(61人)。
- ・ 「太神楽曲芸協会創立 80 周年記念ー太神楽の世界ー」(7/29～11/26)期間中に実施。回答数 58 人。回答者の 93.1%が概ね満足と答えた(54人)。
- ・ 「演芸家のあの手この手ー粋な筆跡ー」(12/1～3/24)期間中に実施。回答数 47 人。回答者の 91.5%が概ね満足と答えた(43人)。

(能楽堂)

- ・ 特別展「備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション」(10/4～12/15)期間中に実施。回答数 164 人。回答者の 96.3%が概ね満足と答えた(158人)。

(文楽劇場)

- ・ 企画展示「八代目竹本綱太夫・六代目竹本織太夫」(同時開催「文楽入門」)(1/3～3/11)期間中の 1/23 に実施。回答者数 143 人。回答者の 86.7%が概ね満足と答えた(124人)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 全展示期間中に実施。回答数 72 人。84.7%が概ね満足と答えた(61人)

【特記事項】

(本館)

- ・ 企画展示「役者絵の世界ー文化・文政期の名優たちー」開催に因み、伝統芸能サロン「役者絵を読み解く」を実施し、監修者である主席芸能調査役が展示資料とその歴史的背景を解説した。
- ・ 演芸資料展の監修者(瀧口雅仁氏)を講師として、伝統芸能サロン「演芸資料展あの手この手ー平成

29年の展示を振り返る」を開催し、平成29年度の演芸資料展を振り返る講座を実施した。

- ・ 新たに半蔵門駅構内のポスターボードに開催中の展示のポスターを掲出するなど、広報の充実を図った。
- ・ 国立劇場敷地内に配置する伝統芸情報館案内看板を更新するとともに、より適切な観客誘導のため設置場所の見直しを行った。
- ・ 新たに、伝統芸能に関する資料の収集、整理及び活用に関する業務研修を実施した。入職後3年目から10年目の常勤職員を対象に募集し、受講希望者5名に対して、国立劇場が保有する芝居版画等に関する知識の習得と展示業務の実習を目的とした研修を行った。
- ・ デジタルコンテンツの充実等により、アクセス件数は大幅に増加した(前年度比46.8%増)。

《文楽劇場》

- ・ 夏休み文楽特別公演の期間中は、展示室内に「体験ステージ」(床・人形)を設置し、文楽座芸員及びボランティアグループ「文楽応援団」の協力のもと、親子劇場来場のお子様の日替わりで太夫・三味線・人形遣いの体験が出来るコーナーを実施し、体験型の展示で文楽に親しんでいただいた。

《能楽堂》

- ・ 特別展「備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション」では、監修者(外部研究者4名)による「監修者会議」を開催し、最新の調査・研究成果を展示と特別展示図録によって公開した。

《国立劇場おきなわ》

- ・ 国立劇場おきなわ離島公演(3/18、宮古島市)に合わせて、宮古島市役所平良庁舎(2/5～2/9)で組踊・琉球舞踊のパネル展示を行った。また、公演当日は会場の宮古島市マティダ市民劇場で組踊・琉球舞踊の衣装・小道具等の展示を行った。

《数値目標の達成状況》

【文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス状況】

年間アクセス件数：実績1,318,745件／目標620,000件(達成度212.7%)

【展示公開の実施状況】 実績19回／目標19回(達成度100.0%)

【展示公開の来場者数】 実績237,838人／目標193,067人(達成度123.2%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 舞台芸術教材「雅楽」英語版、舞台芸術教材「歌舞伎事典」英語版、及びユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「能楽への誘い」多言語版(8言語)を作成した。また、デジタルコンテンツの充実等により、アクセス件数は大幅に増加した(対前年度実績146.8%)。
- ・ 計画どおり収集資料のデータベース化、文化デジタルライブラリーへの登録、公開を行った。
- ・ 計画どおり資料の収集を行い、閲覧・展示・貸出等に活用した。
- ・ 展示公開の来場者数は合計237,838人であり、年度計画目標の達成度は123.2%に至った。
- ・ 能楽堂の特別展「備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション」では「監修者会議」を開催して、最新の調査・研究成果を取り入れた展示を行うことができた。来場者数も11,817人と目標入場者数9,700人を大きく上回り(121.8%)、アンケートにおいても96.3%という高い満足度を得た。
- ・ 能楽堂の特別展「備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション」では、公益財団法人竜王会館 野崎家塩業歴史館が所蔵する能楽資料を展示した。これまでその存在を知られていなかった資料で、今回初めて本格的な調査が行われた。中でも木彫能人形は全国的にも類例がない資料で注目を集めた。また、図録を作成し、頒布した。
- ・ 能楽堂の企画展「能の作り物」では、最古の作り物図とされる安土桃山時代の下間少進筆「炭蓮江間日記」から近代の文献絵画に至るまで、作り物に関する資料や美術工芸品を展示した。特に前年度の企画展「能絵の世界」で注目を集めた緞通(だんつう)を敷いた一畳台について、同展をきっかけに江戸期の一畳台の「緞通」が初めて発見され、本展で展示することができた。また、展示資料に関するパンフレットを作成し、無料配布した。

- ・ 能楽堂の企画展「能の作り物」は公開講座(1～3月)とも連動して、効率的かつ効果的に行うことができ、来場者数 9,270 人と目標入場者数 7,000 人を大きく上回り、高い入場率(132.4%)を得た。
- ・ 文楽劇場の企画展示及び企画コーナーでは、文楽公演の演目に連動した展示を開催し、来場者の文楽に関する興味や理解の促進に努めた。

○ 良かった点・特色ある点

(伝統芸能情報館・演芸場)

- ・ 伝統芸能情報館の展示と関連した講座の実施により、伝統芸能とその関係資料に対する理解と興味を促した結果、来場者数は目標を大幅に上回るとともに、高い満足度を得た。
- ・ 「演芸資料展あの手この手ー平成29年の展示を振り返るー」と「役者絵を読み解く」では、監修者の解説により、展示内容の理解が深まった。

(能楽堂)

- ・ すべての展示で来場者数が目標の120%を超えた(目標達成度：126.6%)。
- ・ 京王プラザホテルのロビー展示に制作協力し、「能 雅を継ぐもの ー天女が舞う「羽衣」の世界展ー」に能面、能装束、絵画等 11 点を展示して、外国人を含む多くの宿泊客やホテル利用者に能楽を PR することができた。

(文楽劇場)

- ・ 文楽劇場展示室では、企画展示の都度、展示に因んだ過去の公演記録映像を活用し、10～20 分程度に編集して上映し、来場者からも好評であった。
- ・ 文楽公演期間中は、ボランティアグループ「文楽応援団」が展示室内にて解説を行い、来場者から「ボランティアの方の説明で興味がわいた」「人形を動かすことができよかった」等、好評を得た。
- ・ 外部専門家からは公演と展示の連動を評価する意見があった。
- ・ 夏休み文楽特別公演の期間中は、展示室内に「体験ステージ」(床・人形)を設置し、文楽座技芸員及びボランティアグループ「文楽応援団」の協力のもと、親子劇場来場のお子様の日替わりで太夫・三味線・人形遣いの体験ができるコーナーを実施し、体験型の展示で文楽に親しんでいただいた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 企画展「琉球舞踊のい・ろ・は」で作成した外国人向けの沖縄伝統芸能紹介パンフレット及び展示解説リーフレットは、3 か国語 4 言語(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)の多言語表記にし、各方面からの外国人来場者に対応した。
- ・ 国立劇場おきなわ離島公演(3/18、宮古島市)に合わせて、宮古島市役所平良市庁舎(2/5～9)で組踊・琉球舞踊のパネル展示を行った。また、公演当日(3/18)は会場の宮古島市マティダ市民劇場で組踊・琉球舞踊の衣装・小道具等の展示を行い、組踊と琉球舞踊についての普及を図った。公演前後に、多くの来場者が展示コーナーに足を運び、好評であった。

4-(1)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

《方針》

(公演記録の作成・活用)

- ・ 主催公演を中心に記録された録画・録音・写真等を適切に作成し、今後の伝統芸能の振興・普及に活用するため、閲覧・視聴に供する。

(公開講座等、普及活動の実施)

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録鑑賞会及び公演や展示に合わせた関連講座等を適宜実施する。また、教員免許状更新講習も前年度に引き続き実施する。

《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演について、映像・写真等による記録を作成
本館・演芸場63公演、能楽堂51公演、文楽劇場15公演、国立劇場おきなわ30公演
- ・ 各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供

2. 公開講座等、普及活動の実施

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録映像を活用した以下の鑑賞会等を開催
「公演記録鑑賞会」伝統芸能情報館 12 回、文楽劇場 12 回、国立劇場おきなわ 4 回
「能楽鑑賞講座」能楽堂 12 回
- ・ その他講座等普及活動の実施
伝統芸能サロン(伝統芸能情報館、6 回)、能楽特別講座(能楽堂、1 回)、伝統芸能講座(文楽劇場、1 回)、沖縄伝統芸能講座(国立劇場おきなわ、4 回)
- ・ 鑑賞会、講座等の普及活動は計 52 回で参加者数 6,755 人(目標 5,900 人 達成度 114.5%)
- ・ 教員免許状更新講習を引き続き実施
- ・ 外国人のためのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」を新規に実施

《業務実績詳細》

<1> 公演記録の作成・活用

1. 作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 63 公演、衣装図鑑 7 公演、文楽人形等 5 公演
能楽堂	映像・音声・写真 51 公演
文楽劇場	映像・音声・写真 15 公演、文楽人形等 5 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 30 公演、小道具写真 2 公演

- ・ 公演内容に応じて、衣装図鑑・下座の附帳・文楽人形・小道具等の写真による記録を作成した。

2. 公演記録映像・音声の活用

- ・ 出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。

(文楽劇場)

- ・ 企画展示の都度、展示室内において、展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分～20 分程度に編集して上映し、公演記録映像を活用した。
- ・ 今後の記録媒体の変化・移行に対応しつつ公演記録映像・音声を活用するため、文楽劇場での公演記録のオリジナル映像について、16 年度から 26 年度までの文楽公演(鑑賞教室、若手会含む)及び舞踊・邦楽公演等の HDCAM テープをデジタルデータファイルに変換した。

- 映像を展示室内 4K モニターや劇場内外で上映し文楽の普及に努めるため、通常の公演記録映像とは別に撮影した映像により、文楽の普及映像「文楽を楽しむ」を作成した。
- 公演記録映像の一般視聴については、これまで事務室エリア内の VTR 室で対応していたが、29 年 4 月より図書閲覧室内に新たに視聴ブースを設けて利便性を向上し、会報等で広く周知した。

3. 活用実績

(1) 視聴(映像資料及び音声資料)利用件数総計：件(時間)

区分	一般	関係者(出演者等)	合計
本館	648 件(1,715 時間)	388 件(467 時間)	1,036 件(2,182 時間)
能楽堂	1,550 件(3,018 時間)	734 件(1,004 時間)	2,284 件(4,022 時間)
文楽劇場	107 件(223 時間)	610 件(662 時間)	717 件(885 時間)
国立劇場おきなわ	278 件(295 時間)	730 件(869 時間)	1,008 件(1,164 時間)

(2) 複製(映像資料及び音声資料)

区分	関係者(出演者等)
本館	288 件(483 時間)
能楽堂	183 件(238 時間)
文楽劇場	178 件(463 時間)
国立劇場おきなわ	45 件(82 時間)

※ 複製は出演者等に対してのみ実施。

※ 時間は項目ごとに切上げまたは切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

<2> 公開講座等、普及活動の実施

1. 伝統芸能に関する公開講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
伝統芸能 情報館	伝統芸能サロン	実績	6 回	747 人	91.3%
		計画	6 回	570 人	
能楽堂	公演記録鑑賞会	実績	12 回	1,479 人	93.6%
		計画	12 回	1,200 人	
能楽堂	能楽鑑賞講座	実績	12 回	1,824 人	87.2%
		計画	12 回	1,800 人	
能楽堂	能楽特別講座	実績	1 回	155 人	91.2%
		計画	1 回	100 人	
文楽劇場	公演記録鑑賞会	実績	12 回	1,642 人	90.3%
		計画	12 回	1,500 人	
文楽劇場	伝統芸能講座	実績	1 回	152 人	92.9%
		計画	1 回	70 人	
国立劇場 おきなわ	公演記録鑑賞会	実績	4 回	494 人	75.4%
		計画	4 回	480 人	
国立劇場 おきなわ	沖縄伝統芸能公開講座	実績	4 回	262 人	81.1%
		計画	4 回	180 人	
合計		実績	52 回	6,755 人	89.1%
		計画	52 回	5,900 人	80%以上

(伝統芸能情報館)

- 伝統芸能サロンは6回開催し、伝統芸能の普及に努めた。実演家・研究者を講師に招き、鑑賞入門として4回(5月、7月、9月、12月)、開催中の展示をテーマに2回(2月、3月)実施した。

(能楽堂)

- 公開講座として、「能楽鑑賞講座」を12回(各月1回)、特別展示と連携した「能楽特別講座」を1回(11月)開催した。
- 「能楽鑑賞講座」は、公演や展示と関連したテーマとし、そのほかに国立能楽堂建設をテーマとした「インターナショナル・スタイルから和風モダンへー大江宏と国立能楽堂」を設定した。この講座の

後半では、国立能楽堂の能舞台、見所、ロビー、玄関において、実地で受講者への解説を行い、好評だった。

- ・ 「能楽特別講座」は、特別展「備前池田家伝来 野崎家能楽コレクション」と連携して、野崎泰彦(公益財団法人竜王会館理事長)・山内麻衣子(金沢能楽美術館学芸員・主査)を講師として、野崎家と製塩業、同家の能楽資料についての講演を行った。

(文楽劇場)

- ・ 公演記録鑑賞会は、半期を通したテーマを設定し、アンケートでリクエストの多かった作品・出演者を中心に選定した。上半期は文楽、歌舞伎については「復活狂言によるレパトリーの拡大の成果」をテーマとして、各周年の年史に復活の代表例として記載されている演目を取り上げ上映した。下半期は遊女や傾城等に関連する演目より選定し、色里に関わった女性の様々な姿を取り上げ上映した。
- ・ 伝統芸能講座「『冥途の飛脚 淡路町の段』と大坂のまち」では、大坂の船場・中之島を舞台とした「冥途の飛脚」をはじめとする作品当時の大坂の街や生活等について、人形浄瑠璃文楽座の豊竹咲太夫氏、鶴澤燕三氏、老舗「神宗」の八代目であり文楽にも造詣が深い尾寄彰廣氏により、鼎談形式の解説及び実演を行った。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 公演記録鑑賞会では国立劇場の特別企画公演、国立演芸場の寄席、国立劇場おきなわの自主公演記録により、年4回(5月、9月、11月、2月)開催した。
- ・ 沖縄伝統芸能公開講座では、6月に国立劇場おきなわの茂木仁史調査養成課長及び沖縄県立芸術大学教授の森達也氏が講師を務めた「1719年、玉城朝薫の舞台ー『琉球全図』の著書と解析ー」、8月には実演家の知花小百合氏及び神谷武史氏を講師として「親子のための組踊鑑賞教室」の上演に合わせ、「子ども体験教室 かざぐるまをつくろう!かざぐるままでおどろう!」、10月には、11月公演の「アジア・太平洋地域の芸能『吹く』」に因み、国立劇場おきなわの茂木仁史調査養成課長及び沖縄県立芸術大学非常勤講師の長嶺亮子氏による「吹くー笛や笙、箏箏など、中国と日本の吹く楽器」、2月には企画展「綱引きと芸能」に合わせて、宜野湾市立博物館学芸係長の平敷兼哉氏及び与那原町綱曳資料館館長の上原正己氏を講師に招き「綱引きと芸能」の計4回開催した。

2. 公演の実施にあわせた関連講座等

名称	会場	日程	回数	参加者数
文楽劇場4月文楽公演イベント 「六代豊竹呂太夫襲名前夜祭」	文楽劇場	4/7	1回	483人
あぜくらの集い 歌舞伎舞踊の魅力ー関の扉をめぐるー	伝統芸能情報館 レクチャー室	5/18	1回	91人
第113回「文楽のつどい」 夏休み文楽特別公演 「源平布引滝」ゆかりの地バスツアー	滋賀県長浜市木ノ 本町(丸三ハシモト 株)・長浜市街	7/6	1回	39人
太神楽体験ワークショップ	演芸場 1・2階ロビー	8/26	1回	37人
あぜくら会特別企画 復曲能「名取ノ老女」鑑賞とゆかりの地をめぐる旅 初代尾上辰之助(三代目尾上松緑)没後30年によせて 「尾上松緑 役を受け継ぐー紀尾井町三代ー」	名取市民文化会館 ・仙台市周辺	9/30 ~10/1	1回	34人
あぜくらの集い 立花家橘之助 襲名スペシャル	伝統芸能情報館 レクチャー室	10/15	1回	123人
あぜくらの集い 漱石と芸能	伝統芸能情報館 レクチャー室	10/23	1回	118人
あぜくらの集い 新歌舞伎と大正・昭和初期の時代	伝統芸能情報館 レクチャー室	11/1	1回	120人
第115回「文楽のつどい」 ・お話「東大寺開山良弁僧正について」 ・技芸員に聞く「初春文楽公演の演目にちなんで」 ・ミュージカル絵巻(大紙芝居)「二月堂良弁杉」	文楽劇場 小ホール	12/25	1回	127人
国立劇場あぜくら会/新国立劇場クラブ・ジ・アトレ	能楽堂	1/10	1回	505人

合同企画 能とオペラー「松風」をめぐってー 文楽劇場 3 月特別企画(琉球芸能)公演関連プレ講座 「組踊をたのしむ」(ワークショップ・講座)	文楽劇場	2/3	2 回	17 人 90 人
第 116 回「文楽のつどい」(五代目吉田玉助襲名披露 4 月文楽公演にちなんで) 茶話会「文楽の襲名(名跡を継ぐ芸員に聞く)」	文楽劇場内 レストラン	3/14	1 回	79 人
新作組踊「真珠道」公開稽古見学会	国立劇場おきなわ 大稽古室	3/31	1 回	30 人

3. 教員免許状更新講習

7/21～24、本館において、学校教育の現場における伝統芸能普及の裾野を広げることを目的として、教員免許状更新講習を実施した。体系的に伝統芸能の知識を身につけることができるよう、全 18 時間の講習を、各種芸能に関する講義・公演見学(歌舞伎鑑賞教室)・舞台見学・邦楽(鳴物)の実演体験等で構成し、免許の更新期限を迎える現職教員 58 名が受講した(定員 80 名)。講習の実施に当たっては、講座内容、講師等を見直し、その充実を図った。

4. 外国人を対象とした能楽の普及活動

2～3 月、外国人への能楽普及活動を強化するため、外国人向けのミニ能楽公演「National Noh Theatre Showcase」を新規に実施した。大型モニターを用いて英語字幕表示を行うなど、外国人の理解を促進する取組を行い、好評を得た。

2/9、3/9、3/23、3 回、能楽堂研修能舞台

入場者数：258 人(入場率 86.0%)

アンケートの実施：満足回答率 95.1%(外国籍の満足回答率 96.5%)

《数値目標の達成状況》

【講座等の実施状況】 実績52回／目標52回(達成度100.0%)

【講座等の参加者数】 実績6,755人／目標5,900人(達成度114.5%)

【講座等の満足度】 実績89.1%／目標80%(達成度111.4%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 公演記録の作成について、計画どおり実施した。
- ・ 公開講座等は、いずれも計画どおりの回数実施し、全館で目標参加者数を達成した。またアンケートにおいても有意義回答の割合が目標を達成した。能楽特別講座及び文楽劇場の伝統芸能講座では、参加者数が目標を大幅に上回った(155.0%、217.1%)。能楽鑑賞講座は、すべての回で定員を大幅に上回る応募があった(年間応募数：定員の1.4倍)。
- ・ 伝統芸能サロン等において、通常は触れることのできない研究者・出演者の解説等が聞ける講座を開催し、公演の鑑賞意欲を高め、内容の理解を深めることができた。
- ・ 教員免許状更新講習を計画どおり実施した。また講習の実施に当たっては、講座内容、講師等を見直し、その充実を図った。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 伝統芸能サロン「思い出の師匠」と「八代目竹本綱太夫を偲ぶ 一五十回忌に寄せてー」では、襲名・追善公演に因んで開催し、いずれも昭和の文楽を支えた名人について貴重なお話により、公演の鑑賞意欲が高まった。「声明のい・ろ・は」と「一懐かしの無声映画ー活動弁士の語り芸」では、出演者による公

演の事前解説により、公演内容の理解が深まった。

- ・ 公演記録鑑賞会では、アンケートで希望が多かった作品・出演者を取り上げ、来場者の期待に応えることができた。特に落語「名流二人会」では、目標を大きく上回り、アンケートも好評であった。

(文楽劇場)

- ・ 公演記録映像の一般視聴については、これまで事務室エリア内のVTR室で対応していたが、29年4月より図書閲覧室内に新たに視聴ブースを設けたことにより、一般視聴利用が大幅に増加した(28年度一般利用実績：40件 116時間、29年度一般利用実績：107件 223時間)。また、図書閲覧室内にて視聴することにより、公演記録映像と公演プログラム等を合わせて利用することが可能となり、利用者サービスの向上に繋がった。
- ・ 公演記録鑑賞会は、アンケートでリクエストの多かった作品・出演者を取り上げ、来場者の期待に応える工夫をした。大衆芸能公演(浪曲)を28年ぶりに上映し、目標には満たなかったものの、アンケートの満足度91.7%と好評を得た。
- ・ 伝統芸能講座は、浄瑠璃作品に登場する上方の当時の街並みや商家を中心とした大坂の庶民文化に焦点を当て、大坂の船場・中之島を舞台とした「冥途の飛脚 淡路町の段」の解説・実演を鼎談形式で行った。浄瑠璃作品の舞台となった大阪に建つ文楽劇場ならではの講座を実施することにより、アンケートでも「このような機会により文楽、浄瑠璃が身近に感じられる」との意見があるなど、参加者の文楽に対する興味・理解促進への一助とすることができた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 第4回企画展示「綱引きと芸能」(1/14～3/18)に合わせ、綱引きとそれにまつわる芸能に関する公演記録鑑賞会及び公開講座を実施した。企画展示においては、韓国国立無形遺産院の協力を得ることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 公演記録鑑賞会のアンケートで記録映像に関する解説を望む声が多く、講座と公演記録鑑賞会を統合した企画の実施のため検討を行う。
- ・ 外部専門家等から、講座の内容について、より公演や展示内容等に直結した国立劇場ならではの企画が望ましいとの意見があり、「伝統芸能サロン」の名称、あり方等について検討を行う。

4-1(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料収集、研究者や国民一般への成果の提供

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

- ア 上演作品等についての資料調査
- イ 図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧、貸与
- ウ 収集した資料等の展示公開

- ・ 新国立劇場内 年2企画程度
- ・ 舞台美術センター資料館 年1企画程度

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等の開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

- ① 現代舞台芸術に関する調査を実施、調査結果の活用
- ② 海外の劇場等の情報を収集・活用、公開
- ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、整理・保存
- ④ 日本の現代舞台芸術に関する年表を作成、パネル展示等で紹介

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧のために提供、他の劇場施設等への貸与

- ① 開架図書の充実、一般利用の促進
- ② 図書等の情報のデータベース化
- ③ 過去の寄贈資料や公演関連資料のデータベース化

ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開

舞台美術センター資料館の活用方法を検討、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を実施

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供

イ 公演記録映像を鑑賞会、講座・レクチャー等で活用

ウ 公開講座等、普及活動の実施

- ① 公開講座等を別表9のとおり実施
広報活動を十分に実施
アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上
- ② 公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開
- ⑤ オンラインコンテンツの充実

4-(2)-① 現代舞台芸術の調査研究

《方針》

- ・ 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。
- ・ 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会やリーディング公演を実施する。
- ・ 海外の主要劇場や演劇都市等の情報を引き続き収集して、公演の充実等に活用するとともに、公演プログラム等を通じ公開する。
- ・ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について、引き続き、整理・保存を行う。

《主要な業務実績》

- ・ 現代舞台芸術に関する調査を行い、その成果として、「マンスリー・プロジェクト」を12講座開催
- ・ 民間出版社と連携し、戯曲を刊行
- ・ 海外の演劇都市の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載
- ・ 主催公演に関する資料等について整理・保存及び活用
- ・ 公演記録映像の公開
- ・ 主催公演の出演者やスタッフのデータベースの整理公開作業を進行
- ・ 現代舞台芸術の歴史、及び開場20年に因み新国立劇場の歴史を作成

《業務実績詳細》

1. 現代舞台芸術に関する調査研究・活用

宮田慶子演劇芸術監督及び3名の企画サポート委員による「企画サポート会議」を定期的に開催した。その成果として、下表のとおり、演劇へ多角的にアプローチするイベント「マンスリー・プロジェクト」を開催した。

このうち新国立劇場開場20周年特別企画「20年間の全175作品を振り返る」では、公演記録写真を使いながら演劇公演の20年を回顧したほか、上演リストをまとめた資料を作成し、来場者に配布して理解の助けとした。

日程	内容	参加者数
4/14・15	演劇講座 シリーズ「日本の劇」IX「リアルとリアリズムの間で	70人 63人
5/13	トークセッション「かさなる視点ー日本戯曲の力ー」	230人
6/23・25	リーディング公演 「おーい、救けてくれ！」ウィリアム・サローヤン作	205人 250人
7/15	演劇講座「ジョン・オズボーンの魅力」	154人
8/26	ワークショップ「戯曲分析をやってみよう！」	25人
9/24	開場20周年特別企画「20年間の全175作品を振り返る」	154人
10/15	演劇講座「ジャン・ジロドゥの世界」	175人
11/19・21	リーディング公演「やとわれ仕事」	158人 128人
12/2	ワークショップ「こどものための演劇ワークショップ」	13人 4人
1/14	スペシャル対談「宮田慶子×小川絵梨子」	189人
2/10	ワークショップ「リーディングをやってみる？」	29人
3/21	演劇講座「鄭義信の台詞の世界」	222人

	12 講座	2,069 人
--	-------	---------

(目標参加者数：1,800 人)

2. 出版物の刊行

- ・ 民間出版社と連携して下記戯曲を刊行した。
 - ・ 7 月演劇「怒りをこめてふり返れ」（早川書房刊「悲劇喜劇」平成 29 年 7 月号）
 - ・ 10 月演劇「トロイ戦争は起こらない」（ハヤカワ演劇文庫「ジャン・ジロドゥ I トロイ戦争は起こらない」平成 29 年 9 月）
 - ・ 3 月演劇「赤道の下のマクベス」（早川書房刊「悲劇喜劇」平成 30 年 3 月号）
- ・ 現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として掲載する下記公演プログラムを作成した。
 - ・ オペラ 10 冊
 - ・ バレエ 7 冊（バレエ団ガイドを含む）
 - ・ 演劇 8 冊
 このうち演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」では戯曲全編をプログラムに掲載した。

3. 海外の劇場等の情報収集・活用

- ・ 「企画サポート会議」の協議の結果、演劇都市としての 6 都市（ハンブルク、ベルリン、パリ、ロンドン、ニューヨーク、ソウル）について調査研究した成果を、7 回にわたり演劇公演プログラム(7 冊)に掲載した。
- ・ 国内外の劇場の組織、職員数、公演入場率、財政等について、劇場の HP や年報等の情報を基に調査・比較を行った。

4. 公演記録の整理・保存

- ・ 主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録、公開した。
- ・ 新国立劇場が実施する公演の上演資料の整理を進め、劇場内外の利用に供するよう、資料の保存及び公開の方法について引き続き検討を進めた。
- ・ 主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進め、公式サイトで公開、検索できるようにした。

5. 「日本の現代舞台芸術」年表作成

- ・ 文化プログラムの一環として行う特別展示「日本の現代舞台芸術」を実施。「明治150年」の取組として、明治元年から新国立劇場開場(1997年)までの年表を作成し、展示掲出した。

6. 開場20周年関連事業

- ・ 新国立劇場開場20周年にあたり、特設サイトにて開場準備から開場、通常シーズン開始へと至る「STORIES 劇場にまつわる物語」を連載し、公開した。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ マンスリー・プロジェクトにおいて、主催公演と連動した演劇講座やトークセッション、リーディング公演やワークショップ等、多角的に演劇にアプローチする企画を実施し目標(1,800人)を大きく上回る参加者を得た(参加者2,069人、達成度114.9%)。
- ・ 特に新国立劇場開場20周年に因み20年間の演劇公演全175作品を振り返った特別企画は、これまでを総括して未来へと繋げる、劇場・参加者双方にとって充実したトークイベントとなった。
- ・ 世界の演劇都市の現地レポート(7件)についての調査研究の成果を、演劇公演プログラム(7冊)に掲載した。
- ・ 主催公演の出演者やスタッフ等の情報のデータベースの作成作業を行い、その一部を公開した。

- ・ 文化プログラムと開場20周年関連事業で現代舞台芸術の歴史を紐解く特別企画を実施した。

○ **良かった点・特色ある点**

- ・ 主催公演と連動した効果的な題材を取り上げ、一般が参加しやすい企画を実施できた。
- ・ 新国立劇場開場 20 周年に因み、トークイベントや特設サイト上の「劇場にまつわる物語」等の特別企画、また現代舞台芸術年表や主催公演データベースの作成等、長期的視野に立った事業が行えた。

○ **見直し又は改善を要する点**

- ・ 次期中期目標期間については、マンスリー・プロジェクトの成果等を踏まえ、オペラ、舞踊、演劇全般について新たな方策を構築していく。

4-(2)-② 現代舞台芸術の資料の収集・活用

《方針》

- ・ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。
- ・ 情報センターについて、閲覧室の開架図書を充実させるとともに、HP で所蔵資料検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。
- ・ 図書資料管理システムについて、引き続き図書等の情報のデータベース化を行う。
- ・ 所蔵品管理システムについて、引き続き過去の寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。
- ・ 収集した資料等を展示公開する。実施に当たっては、引き続き、舞台美術センター資料館の活用方法について検討するとともに、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

《主要な業務実績》

1. 資料の収集と公開

- ・ 現代舞台芸術に関する図書資料・視聴覚資料等を収集、分類整理
- ・ 図書資料管理システムを 30 年 3 月より国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場のシステムと統合

2. 展示公開

- ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において展示公開を実施
- ・ 文化プログラムの一環として行う特別展示「日本の現代舞台芸術」を実施。「明治 150 年」の取組として、明治元年から新国立劇場開場(1997 年)までの年表を作成し、展示掲出
- ・ 新国立劇場開場 20 周年を記念し、所蔵する主催公演ポスターで開場から 20 年の歩みを振り返る特別展示を実施
- ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に衣裳、舞台模型を提供

《業務実績詳細》

<1> 資料の収集と公開

1. 収集・閲覧等

区 分	収 集	活 用
新国立劇場情報センター	収集図書：2,446 冊 収集視聴覚資料：739 件	閲覧室利用者数：24,610 人(開室 210 日) うち、ビデオブース利用者数：1,485 人 タブレット利用者数：285 人 ビデオシアター利用者数：2,916 人 図書貸出件数：616 件
舞台美術センター資料館	—	利用者数：830 人(開室 260 日) うち、AV コーナー利用者数：278 人

2. 情報センター等の利用促進

- ・ HP の情報センターページ内に、公演記録データベースを構築し、一般に公開している公演記録映像のリストと公演情報を連動させた。
- ・ 7 月、閲覧室に夏休みキッズコーナーを設け、こども向け書籍を中心に劇場や舞台芸術に親しめるような資料を用意した(7/27～30、期間中の入室者数 928 人)。
- ・ 上演される公演にあわせて、関連書籍、過去の公演のプログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。

3. 図書資料管理システムのデータベースの充実

- ・ 単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収集情報を HP で公開した。
- ・ 図書管理システムの統合により、3 月から新国立劇場だけでなく国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇

場の所蔵図書・資料も一緒に検索できるようになり、利用者の利便性向上に寄与した。

4. 所蔵品管理システムへの登録

- ・ 公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等、135 件)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報を HP で公開した。

<2> 展示公開

1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
舞台美術センター	2回	260日	830人	800人
新国立劇場内	5回	358日	—	—

- ・ 舞台美術センターでは、舞台衣裳の展示のほか企画展「舞台のデザイン～模型で見る新国立劇場のオペラ・バレエ～」を実施した。
- ・ 新国立劇場内では、ギャラリーでの舞台衣裳、公演記録写真の展示(12月まで)のほか、閲覧室でバレエ公演の舞台美術模型の展示を行った。
- ・ 上記の他に、演劇「城塞」「マリアの首」現代舞踊「ふしぎの国のアリス」や演劇研修公演等の公演関連展示(舞台模型、関連書籍、関連公演プログラム等)を会場ホワイエ等で行った。また、情報センターでは演劇公演のシリーズ「Japan Meets……現代劇の系譜をひもとく」12作品企画コーナーを演劇の同シリーズ「君が人生の時」「怒りをこめてふり返れ」公演に合わせて実施、さらに「夏のこどもシアター」開催時にはキッズコーナーを設けて若年層向けのバレエ、オペラの関連書籍を開架とし、併せて衣裳の展示を行った。
- ・ 文化プログラムの一環として特別展示「日本の現代舞台芸術」を実施した。28年度作成した明治元年から昭和20年までに続き、新国立劇場開場(1997年)までの年表を完成させ、劇場3階ギャラリーにパネル展示するとともに、タブレット端末で年表中の人物・団体について詳細が見られるようにした。
- ・ 新国立劇場開場20周年を記念した特別展示として1997年開場から20年の歩みを主催公演ポスターで振り返るポスター展「イメージの記憶」を実施、ギャラリー、ブリッジに展示した(平成30年1月～7月末まで継続予定)

2. その他の展示

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。(「オペラの扉2017 ～Knock the Door, Opera Exhibition～」、9/12～11/30、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)
- ・ バレエ「ホフマン物語」に合わせ、チャコット渋谷本店にて2015年初演時の公演記録写真を展示した(1/29～2/19)。

《数値目標の達成状況》

【展示公開の実施状況(舞台美術センター)】 実績 2 回／目標 2 回(達成度 100.0%)

【展示公開の来場者数(舞台美術センター)】 実績 830 人／目標 800 人(達成度 103.8%)

【展示公開の実施状況(新国立劇場内)】 実績 5 回／目標 5 回(達成度 100.0%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 新国立劇場開場20周年に因み、特別展示ポスター展「イメージの記憶」を実施した。
- ・ 特別展示「日本の現代舞台芸術」の年表を完成、引き続き展示した。

- ・ 演劇公演等、主催公演に関連した各種展示を行った。
- ・ ロームシアター京都において、新国立劇場オペラ公演に関する展示を実施した。

○ **良かった点・特色ある点**

- ・ 新国立劇場開場 20 周年及び文化プログラムの一環として、劇場内公開空地エリアに 2 つの特別展示を実施した。

○ **見直し又は改善を要する点**

- ・ 舞台美術センターの展示については引き続き見直しを進める。第 4 期中期目標期間については、新国立劇場内での展示と併せ新しい考え方のもとで展示全体を企画・実施していきたい。

4-(2)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

《方針》

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成し、閲覧・視聴に供する。
- ・ 公演記録映像については、鑑賞会を開催するとともに、講座・レクチャー等で活用する。また、著作権処理や違法コピー対策等を行った上で、常時来場者に向けて公開する。
- ・ 現代舞台芸術に関する公開講座を実施する。また、公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてHPで公開する。
- ・ オンラインコンテンツを充実させ、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成
- ・ 主催公演の公演記録映像のデータベース化を実施
- ・ 公演記録映像を利用して、HPの公演特設サイト等で関連動画が視聴できるようにし、広く公演内容の理解を促進
- ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に公演記録写真を提供
- ・ 新国立劇場HPにて、開場以降ほぼすべての公演に関して、公演記録写真及び公演情報等を公開、開場20周年特設サイトでは開場記念公演以降20年間の主催公演写真をパノラマ構成で紹介
- ・ バレエ公演に合わせた外部展示に公演記録写真を提供

2. 公開講座等、普及活動の実施

- ・ 舞台美術センター資料館において現代舞台芸術講座として舞台美術センターコンサートを実施(1日2回、参加者数280人)
- ・ 舞台美術センター資料館においてDVD現代舞台芸術鑑賞会を実施(12回、参加者数154人)
- ・ 新国立劇場において現代舞台芸術講座として「マンスリー・プロジェクト」を実施(12講座16回、参加者数2,069人)
- ・ 情報センターにおいて現代舞台芸術鑑賞会として月例の「情報センター上映会」に加え、「夏のこども劇場」の一環として「夏のこどもシアター」を実施(6企画4日間16回、参加者数353人)
- ・ 公演内容に対する理解の促進を図るため、上演に合わせて説明会、シアタートーク等を実施(16件、参加者数5,724人)
- ・ 団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演記録映像を利用した公演観劇前のレクチャーや、劇場施設紹介映像によるオンラインツアーを、情報センター内ビデオシアターで実施(10件320名)

3. 現代舞台芸術の普及のための公演関連映像の公開等

- ・ インターネットコンテンツ「新国立劇場の1日」を引き続き公開
- ・ 新国立劇場開場20周年特設サイトでは20年間に劇場に関わったスタッフ、出演者等のメッセージ動画を毎週配信、総集編映像を作成し追加公開

《業務実績詳細》

<1>公演記録の作成・活用

1. 公演記録の作成

主催公演の録音・録画・写真等による記録を作成した(31公演)。

2. 公演記録の活用

- ・ 記録映像
主催公演の公演記録映像を情報センター閲覧室にて追加公開した(一般公開14件)。
- ・ 記録写真
HPの「舞台写真・公演記録」ページにて主催公演の公演記録写真を追加公開した(31公演)。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。(「オペラの扉2017～Knock the D

oor, Opera Exhibition ～」、9/12～11/30、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)

- ・ 新国立劇場開場20周年を記念する特設サイトにおいて、開場記念公演から現在までの主催公演の公演記録写真を特別編集し、パノラマ形式で劇場の20年を振り返った。
- ・ 公演記録写真、映像を雑誌社、放送局等へ貸出した(14件)。

<2>公開講座等、普及活動の実施

1. 現代舞台芸術に関する公開講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
舞台美術 センター	現代舞台芸術入門講座	実績	2回	280人	99.5%
		計画	1回	150人	
	現代舞台芸術鑑賞会	実績	12回	154人	—
		計画	12回	70人	
新国立 劇場	現代舞台芸術講座 ※マンスリー・プロジェクトとして既出	実績	16回	2,069人	92.9%
		計画	16回	1,800人	
	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会)	実績	28回	663人	96.7%
		計画	12回	420人	
合 計		実績	58回	3,166人	94.8%
		計画	41回	2,440人	

- ・ 現代舞台芸術講座(舞台美術センター資料館)
現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るために、現代舞台芸術の関連展示に加えて、舞台美術センター資料館においてオペラコンサートを実施した。
舞台美術センター オペラコンサート「銚子!?!のいい仲間たち」
10/3、11:30(一般)・14:15(銚子第七中学校貸切)
新国立劇場舞台美術センター資料館 1F展示ホール
参加者数：280人
アンケートによる有意義回答率：99.5%
- ・ 現代舞台芸術鑑賞会(新国立劇場情報センター)
月例の情報センター上映会に加え、「夏のこども劇場」の一環として、こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」公演期間中に「夏のこどもシアター」を実施した。併せて、閲覧室をファミリー層向けにしつらえて、舞台芸術の関連の入門図書を開架するとともに大型モニターで新国立劇場紹介ビデオを上映した。
情報センター「夏のこどもシアター」
7/27～30、新国立劇場情報センターシアター
バレエ「シンデレラ」(抜粋)、バレエ「ドン・キホーテ」(抜粋)、こどものためのバレエ「白鳥の湖」、バレエ「コッペリア」、バレエ「アラジン」(抜粋)、バレエ「くるみ割り人形」(抜粋)をシアターで上映。
参加者数：353人
アンケートによる有意義回答率：100.0%

2. 公演の実施にあわせた関連講座等

内 容	名 称	回数	参加者数
オペラ関連	2018/2019 シーズンオペラ演目説明会、プレトーク(地域招聘オペラ「ミカド」)、関連イベント(「松風」)、アフタートーク(「松風」)	4回	1,522人
バレエ・現代舞踊関連	ポストパフォーマンストーク(「山海塾『海の賑わい 陸の静寂一めぐり』、「大駱駝艦・天賦典式『罪と罰』」)	2回	1,230人
演劇関連	シアタートーク(「城塞」「マリアの首」「君が人生の時」「怒りをこめてふり返れ」「トロイ戦争は起こらない」「プライムたちの夜」「かがみのかなたはたなかのなかに」「赤道の下の	10回	2,972人

	マクベス」) スペシャルトークイベント(「怒りをこめてふり返れ」「赤道 の下のマクベス」)		
--	---	--	--

- ・ 公演記録映像を利用して、団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演観劇前のレクチャー等を情報センター・ビデオシアターで実施した(10件 320名)。
- ・ 上記の他に、オペラ「松風」日本初演にあたり、あぜくら会との共催で特別イベント「能とオペラー『松風』をめぐってー」(1/10、国立能楽堂)を開催、本作の基盤となった能「松風」の実演と、能とオペラ双方の関係者による座談会により、双方の「松風」の魅力を探る講座を実施した。

3. 現代舞台芸術の普及のための公演関連映像の公開等

- ・ 映像で分かりやすく伝える劇場施設紹介コンテンツ「劇場をあるく」と、オペラ、バレエ、演劇の舞台ができるまでを各ジャンルの特性に沿って紹介したコンテンツに加え、3劇場で公演が同時に上演されている新国立劇場を「劇場の1日」という視点から紹介するコンテンツをHPに引き続き公開した。
- ・ 新国立劇場開場20周年を記念する特設サイトのために、これまで劇場に関わったスタッフ、出演者からのメッセージを動画撮影し公演記録映像も織り交ぜて、毎週配信した。さらに、集まった動画を再編集してムービーを作成し、新国立劇場の歩みを通じて現代舞台芸術の魅力を訴える劇場からのメッセージとして広範に発信した。
- ・ その他、インターネット上の動画配信企画「ワールド・バレエ・デー」(10/5)主要参加団体の一つであるオーストラリア・バレエとの30年度バレエ共同制作が契機となり、新国立劇場バレエ団も公演記録映像と特別映像を編集した動画で同企画に参加、全世界にバレエ団とその活動をアピールした。
- ・ 舞踊芸術監督による2018/2019シーズン紹介動画、2018/2019シーズンよりオペラ及び演劇芸術監督となる現芸術参与による来シーズンに向けたメッセージ動画を作成、ネット配信や劇場ホワイエ等で上映し、周知に努めた。

《数値目標の達成状況》

【講座等の実施状況】 実績 58 回／目標 41 回(達成度 141.5%)

【講座等の参加者数】 実績 3,166 人／目標 2,440 人(達成度 129.8%)

【講座等の満足度】 実績 94.8%／目標 80%(達成度 118.5%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 公演記録の作成を計画どおり実施した。
- ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に公演記録写真を提供することで、新国立劇場の取組を周知し、現代舞台芸術の一層の普及を図った。
- ・ 公開講座のうち、マンスリー・プロジェクト(現代舞台芸術講座)においては、公演や開場20周年に関連した適切なテーマと内容を工夫したことにより、多数の参加者を得た。
- ・ 現代舞台芸術鑑賞会では、「こどものためのバレエ劇場」の公演期間中に、公演と連動して「夏のこどもシアター」を企画・実施し、多数の参加者を得た。
- ・ オンラインコンテンツに加え、新国立劇場開場20周年や「ワールド・バレエ・デー」等の機会を捉えて、公演記録映像を多用した魅力的な動画を制作・配信した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 新国立劇場開場20周年の機会等を活かして公演記録映像を多く取り入れた動画を効果的に制作し配信することで、新国立劇場における現代舞台芸術をアピールできた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、権利処理や収録の方法について検討を続けたい。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 p.189

- 効率化に関する取組 p.191
 - 情報システムの活用 p.191
 - 事務手続きの簡素化 p.192
 - 省エネルギー、リサイクルの推進 p.192
 - 組織機構の在り方の検討 p.193
 - 保有資産の有効利用 p.195
 - 内部統制の充実・強化 p.196
 - 効率化に関する目標の達成状況 p.198
- 給与水準の適正化 p.200
- 契約の適正化 p.201

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 サービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業を改善

(1) 一般管理費等の削減

運営費交付金を充当して行う業務について、平成24年度予算を基準として中期目標期間中に、退職手当、特殊要因経費を除き、一般管理費などの事務的経費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上効率化

(2) 効率化に関する取組

ア 効率的な情報システムの整備による各事業の効果的・効率的な運営の支援

イ 手続きの簡素化等による業務運営の効率化及び利用者の利便性の向上

ウ 国立劇場等の管理運営業務について、外部委託の範囲拡大による経費削減

エ 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等の推進

(3) 給与水準の適正化等

役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を実施、適正化に関する検証結果や取組状況について公表

(4) 契約の適正化

原則として一般競争入札等によることとし、次の取組により、契約の適正化を推進

監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請

ア 「調達等合理化計画」に基づく取組を着実に実施、取組状況を公表

イ 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、競争性、公正性及び透明性が十分確保される方法により実施

(5) 組織機構の在り方の検討

組織機構の在り方について検討を行い、必要な措置を実施

(6) 保有資産の有効利用

保有する劇場施設等の資産の一層の有効利用に資するための方策を検討・実施

金融資産の適切な管理・運用

(7) 内部統制の充実・強化

ア 評価委員会において、組織、運営、事業などについて評価、評価結果の公表と組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映

イ 人員・劇場等施設及び運営費交付金等を有効に活用し、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、検討結果の逐次活用

ウ 国民の理解が得られるよう分かりやすく説明する意識を徹底、情報開示を推進

法令等に基づき適切に情報を開示、適切な情報セキュリティ対策を推進

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を実施

(1) 効率化に関する取組

ア 情報システムの活用

①業務システムの安定稼働

②情報システムの更新に際し、外部サービスの活用等により情報セキュリティの強化

③情報セキュリティ対策に関して、各職員の自己点検及び専門家による研修に加え、実践型訓練等を実施

イ 事務手続きの簡素化

事務手続きの効率化、決裁事務の簡素化

ウ 契約の適正化

①「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化、取組状況の公表

②契約監視委員会による契約の点検、その結果を踏まえた見直しの実施

③電子入札を一部の案件で実施

④他機関との共同調達を実施

エ 省エネルギー、リサイクルの推進

①二酸化炭素(CO2)の削減を推進

②光熱水量の節減

③廃棄物の減量化

④ペーパーレス化

⑤環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進

(2) 給与水準の適正化

役職員の給与について、国家公務員給与制度の総合的見直し等の動向を見つつ、必要な措置を実施

適正化に関する検証結果や取組状況について公表

(3) 組織機構の在り方の検討

人員配置など組織機構の再編について検討、必要な措置を実施

(4) 保有資産の有効利用

施設の適切な管理・運用

各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加を図る取組

金融資産の適切な管理・運用

(5) 内部統制の充実・強化

ア 平成28年度の事業の実施結果について、自己点検評価及び外部専門家からの意見聴取を実施

イ 上記の自己点検評価をもとに、評価委員会による業務の実績に関する評価を実施

評価結果の公表、事業の見直し及び事務の改善等に反映

ウ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を整備、監事及び監事監

査に係る機能を充実・強化

エ 情報開示を推進、分かりやすく説明する意識を徹底

II-1 効率化に関する取組

《主要な業務実績》

1. 情報システムの活用

- ・ 業務システムの整備による業務の効率化
- ・ クラウドサービスの活用による業務の効率化
- ・ 監査、研修・訓練等による情報セキュリティ対策の実施

2. 事務手続きの簡素化

- ・ 軽易な収受文書の供閲手続きの簡素化

3. 省エネルギー、リサイクルの推進

- ・ 光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施
- ・ 廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底
- ・ ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施

4. 組織機構の在り方の検討

- ・ 文化庁から移管を受ける事業の実施体制を整備するため、担当部課の再編を実施

5. 保有資産の有効利用

- ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」等に沿って、実物資産を適切に管理運営し、廃止した宿舎の国庫返納手続きを実施
- ・ 各種金融資産について、適切に管理・運用を実施

6. 内部統制の充実・強化

- ・ 内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映
- ・ 国立劇場等大規模改修懇談会を開催
- ・ 国立劇場等大規模改修事業者選定委員会を開催
- ・ 内部統制委員会を定期開催

7. 効率化に関する目標の達成状況

- ・ 一般管理費は、基準となる平成24年度予算額に対し1%増となったが、前年度からの繰越執行及び組織見直しに伴う人件費増等の特殊な支出を除くと、9%の効率化を達成
- ・ 事業費は、基準となる平成28年度予算額に対し2%の効率化を達成

《業務実績詳細》

<1>情報システムの活用

1. 業務システムの整備

- ・ 給与規程改正等への対応を随時実施し、業務の効率化を図った。
- ・ 施設利用システムを後継パッケージに更新し、業務の効率化を図った。

2. クラウドサービスの活用

- ・ 図書(蔵書)システム、グループウェアシステム、メールシステム、ネットワーク基盤機器、振興会HPサーバーについて、クラウドサービスを活用に変更し業務の効率化を図った。

3. 情報セキュリティへの対応

- ・ 入退管理システムについてセキュリティ監査を実施し、指摘事項を改善し、情報セキュリティに対応した。
- ・ 情報セキュリティについての意識向上を図るため、情報セキュリティ対策の自己点検に加え、専門家を招いた情報セキュリティ研修を実施した。
- ・ 標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的に、訓練用の標的型攻撃メールの受信体験を通じて同攻撃への適切な対処を職員に身につけさせることを意図した「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施した。
- ・ 公表された脆弱性情報に対して随時振興会内の全情報システムを調査して脆弱性対策を行い、情報セキ

セキュリティを確保した。

- ・ IT資産管理ソフトウェアを導入し、USBポート利用の管理を強化するなど、セキュリティの強化を図った。
- ・ 能楽堂及び文楽劇場の複合機の更新を行い、カード認証による出力方式を導入するなど、情報セキュリティの強化を図った。

<2>事務手続きの簡素化

- ・ マニュアル化、館内LANを介しての一斉通知等により、引き続き事務手続きの効率化に努めた。
- ・ 軽易な収受文書の供閲手続きについて、効率化の観点から見直しを行った。

<3>省エネルギー、リサイクルの推進

1. 光熱水量の節減 ※ 光熱水量は、食堂・売店等テナントの使用量を除く。

事項	区分	使用量	対前年度増減
電気	本館・演芸場	5,006,709kwh	△ 1.3%
	能楽堂	802,810kwh	△ 0.5%
	文楽劇場	1,272,091kwh	4.0%
	合計	7,081,610kwh	△ 0.3%
ガス	本館・演芸場	184,181 m ³	4.4%
	能楽堂	77,614 m ³	△ 9.4%
	文楽劇場	111,274 m ³	7.0%
	合計	373,069 m ³	1.9%
水道	本館・演芸場	35,525 m ³	△ 0.7%
	能楽堂	6,774 m ³	△ 16.4%
	文楽劇場	12,915 m ³	1.2%
	合計	55,214 m ³	△ 2.5%

- ・ 引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
 - ・ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
 - ・ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制(夏季ピーク時の制限、設定温度の制限)を実施した。
- ・ 能楽堂では、水道使用量が増加していたが、土中配管からの漏水が原因と特定できたため、29年2月に配管工事を行った。その後、水道使用量は例年並みに戻ったため、29年度は前年度比で減少した。

2. 廃棄物の減量化

事項	区分	処理量	対前年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場	52,087kg	△ 1.4%
	能楽堂	4,932kg	△ 1.0%
	文楽劇場	14,431kg	△ 14.1%
	合計	71,450kg	△ 4.3%
再利用廃棄物	本館・演芸場	46,873kg	△ 15.0%
	能楽堂	6,503kg	△ 0.9%
	文楽劇場	15,120kg	8.5%
	合計	68,496kg	△ 9.3%
産業廃棄物	本館・演芸場	4,347kg	△ 7.0%
	能楽堂	1,146kg	△ 4.7%
	文楽劇場	15,705kg	2.9%
	合計	21,198kg	0.3%

- ・ 引き続き廃棄物の減量化に努めた。

- ・ 本館・演芸場では、リサイクル意識の向上に努めたことにより、再利用廃棄物が減少した。
- ・ 機器及び機材等の整理を進め、特に経年劣化や不要と判断される物の廃棄に努めたことにより産業廃棄物の処理量が減少した。
- ・ 文楽劇場では、ゴミの分別の見直し及び団体客が多く多量の廃棄物が発生する貸劇場公演が29年度は無かったため一般廃棄物が減少した。

3. ペーパーレス化

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
コピー枚数	本館・演芸場	1,138,500 枚	1.1%
	事務棟	1,910,615 枚	9.4%
	伝統芸能情報館	288,030 枚	△ 1.8%
	能楽堂	309,623 枚	△ 1.5%
	文楽劇場	315,920 枚	△ 6.7%
	合 計	3,968,985 枚	3.8%
	うち管理部門	1,108,268 枚	△ 6.1%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務 棟・伝統芸能情報館	3,176,000 枚	△ 5.5%
	能楽堂	383,000 枚	14.8%
	文楽劇場	405,500 枚	△ 7.2%
	合 計	3,964,500 枚	△ 4.1%

- ・ 29年度は、基金部において業務の拡大があったことから、事務棟におけるコピー枚数が増加した。引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努める。

4. グリーン購入法に基づく調達

事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

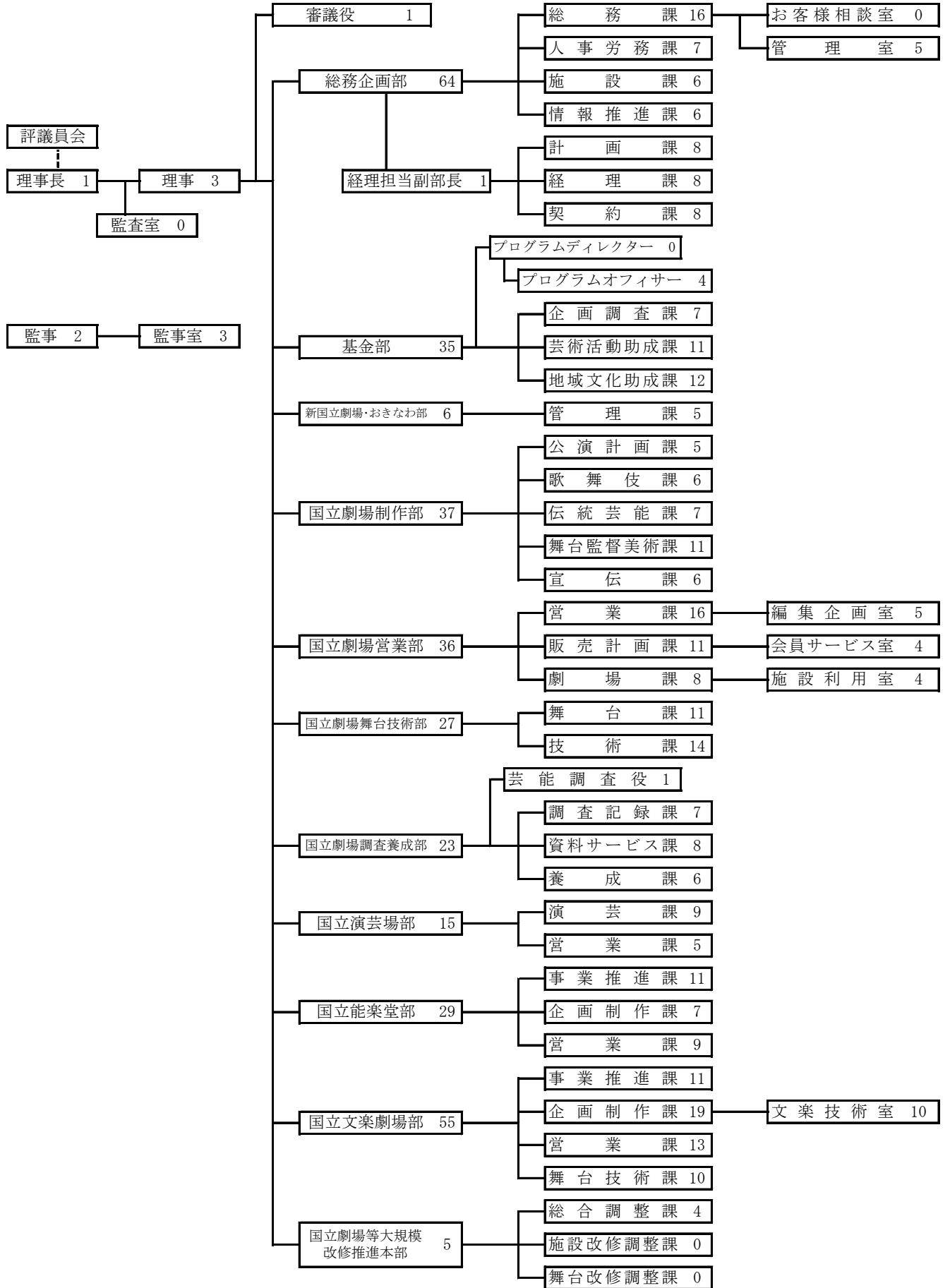
<4>組織機構の在り方の検討

1. 人員配置等組織機構の再編の検討

29年4月に以下の組織改正を実施した。

- ・ 基金部地域文化助成課の改組
文化庁から移管される「劇場・音楽堂等活性化事業」の実施体制を整備するため、基金部地域文化助成課の改組と同事業を担当する係の新設を内容とする組織再編を実施した。

[組織図]※ 数字は役員及び常勤職員数(30年4月1日現在)



<5> 保有資産の有効利用

1. 実物資産の保有状況等

(1) 資産の概要と保有目的・利用状況

施設名(数)	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場 本館・演芸場(1)	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 29年度の稼働率の実績：P. 137 参照
国立能楽堂(1)	東京都渋谷区		
国立文楽劇場(1)	大阪市中央区		
国立劇場おきなわ(1)	沖縄県浦添市		
新国立劇場(1)	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 29年度の稼働率の実績：P. 137 参照
新国立劇場舞台美術センター(1)	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパトリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎(6)	東京地区(5) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。なお借上げ宿舎については23年度に6戸、24年度に3戸、25年度に1戸廃止した。保有宿舎については26年度に14戸廃止した。 保有宿舎全 39 戸(廃止宿舎、廃止予定宿舎を除く)、入居率は56.4%(30年4月末現在)。その他、借上宿舎が1施設(1戸)あり、入居率は100%。

- ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」(24年4月3日行政改革実行本部決定)及び「独立行政法人の職員宿舎の見直しに関する実施計画」(24年12月14日行政改革担当大臣)に沿った見直しを進めている。23年度に6戸の借上げ宿舎を廃止したことに続き、24年度には東京地区の借上げ宿舎3戸、25年度には大阪地区の借上げ宿舎1戸、26年度には東京地区の保有宿舎14戸を廃止した。引き続き、宿舎の適切な管理運営に努める。宿舎の利用状況(30年4月末時点)は、全体(保有及び借上)で57.5%の入居率となっている。
- ・ 廃止が決定している宿舎のうち、船橋第1職員宿舎・同第2職員宿舎については、文部科学省及び財務省の担当部局と連絡・調整のうえ、国庫返納の手続きが完了した。
- ・ 一部の宿舎については、研修生への貸与を実施している。
- ・ 29年度決算において、廃止を決定した宿舎13戸に関して減損を認識した。

2. 金融資産の保有状況

(1) 金融資産の名称と内容、規模

- ・ 定期預金 100,000,000 円
- ・ 有価証券 500,000,000 円
- ・ 投資有価証券 77,277,358,389 円

(2) 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行う

こととしている。

- (3) 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況
該当する金融資産はない。

3. 資金運用の実績

主な資金である芸術文化振興基金の運用実績はP. 14を参照。

<6>内部統制の充実・強化

1. 自己点検評価の実施、外部専門家等からの意見聴取

- (1) 28年度の業務実績に関する自己点検評価について
29年2月～3月 各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
29年3月～4月 各部において自己点検評価を実施
29年4月～5月 総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
29年5月8日 理事長により自己点検評価を決定
29年6月27日 評議員会において、28年度の業務の実績に関する評価を審議・決定
- (2) 29年度の業務の実績に関する自己点検評価について
自己点検評価は膨大な作業量となるため、毎月の業務実施状況について定期的に役員会で報告するとともに、公演事業については四半期ごとに自己点検評価を実施して、作成業務の効率化と内容の充実を図った。

2. 外部評価委員会における検討・評価、評価結果の公表・事業への反映

- (1) 評議員会の開催
第41回(6/27)、第42回(10/26)、第43回(3/28)の3回開催した。
議題等：28年度評価及び28年度決算についての審議、28年度評価結果についての報告、29年度計画実施状況の報告、第4期中期目標及び中期計画についての審議、30年度計画についての審議、国立劇場等大規模改修に係る審議等
- (2) 評価委員会の開催
28年度第2回(5/18)、第3回(6/9)、第4回(6/20)、29年度第1回(10/18)の4回開催した。
議題等：28年度評価の実施、29年度評価についての審議等
- (3) 公演専門委員会、事業委員会、芸術文化振興基金運営委員会の開催
- ・ 公演専門委員会
議題等：29年度公演状況の報告、30年度公演計画の説明、30年度公演計画についての意見聴取等
歌舞伎公演専門委員会 2回開催(6/22・3/20)
文楽公演専門委員会(本館) 2回開催(6/7・3/14)
舞踊公演専門委員会 2回開催(6/14・3/27)
邦楽公演専門委員会 2回開催(6/21・3/20)
雅楽・声明公演専門委員会 2回開催(6/14・3/20)
民俗芸能公演専門委員会 2回開催(6/8・3/26)
大衆芸能公演専門委員会 2回開催(6/21・3/22)
能楽公演専門委員会 2回開催(2/7・3/7)
文楽公演専門委員会(文楽劇場) 2回開催(5/30・3/7)
文楽劇場短期公演等専門委員会 2回開催(5/30・3/16)
 - ・ 事業委員会
議題等：28年度評価結果の報告、29年度の事業実施状況、30年度事業計画についての意見聴取等
養成事業委員会 2回開催(6/21・2/26)
調査事業委員会 2回開催(6/6・2/26)
 - ・ 芸術文化振興基金運営委員会 3回開催(9/15・1/26・3/23)
議題等：28年度事後評価結果の決定、30年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、30年度助成金の分野別配分予算案の決定、30年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等

- (4) 国立劇場等大規模改修事業に係る委員会等の開催
- ・ 国立劇場等大規模改修事業者選定委員会 1回開催(4/11)
議題等：実施方針(案)・要求水準書(案)の報告等
 - ・ 国立劇場等大規模改修懇談会 2回開催(11/30・3/8)
議題等：国立劇場等大規模改修事業の見直し検討案・整備方針案についての意見聴取等

3. 内部統制の充実・強化

(1) 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

① 役員会の開催

- ・ 役員会を開催し、振興会の業務に係る重要事項を審議した(開催回数：22回)。

【役員会における目標管理の状況】

- ・ 中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- ・ 状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- ・ 各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

② 情報伝達

- ・ 理事長の経営方針等を、館内 LAN 等を介して全職員に周知した。
- ・ 全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を行った。
- ・ 部長・副部長による部長会を開催し、各部相互における情報共有を行った(開催回数：14回)。
- ・ 事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。
- ・ 利用者から寄せられた要望・苦情、それに対する回答内容を、月ごとに集約して役員に報告するとともに、館内 LAN を介して全職員に周知した。

③ 内部統制委員会の定期開催

- ・ 理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を四半期ごとに開催し、内部統制の整備に係る取組等を審議した。(開催回数：4回)

(2) 監査

① 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

<定期監査(平成 28 事業年度決算監査及び平成 29 事業年度業務監査)>

- ・ 監事と理事長、理事とのディスカッション(6/27、7/12、7/18、11/20、12/18)
- ・ 監事と会計監査人とのディスカッション(6/13、6/16、11/20)
- ・ 監事監査計画提出(5/8 提出先：理事長)
- ・ 監査実施(5～6月)
- ・ 監査報告書提出(6/16 提出先：理事長)
- ・ 意見書「平成 28 事業年度監事監査(期末監査)結果に基づく検討希望事項」提出(11/6 提出先：理事長)及び「平成 29 事業年度監事監査(期中監査)結果に基づく監事の意見」提出(3/5)

(検討希望事項 8件)

- ・ 役員の連携の強化
- ・ 会議において PDCA サイクルを踏まえた実質的な審議を行う体制の整備
- ・ 経営資源(予算及び人員等)の縮減に伴う業務の効率化及び業務運営の合理化
- ・ 国立劇場等大規模改修事業に係る法人全体の取組の強化
- ・ 人材の要件及び人材の育成
- ・ 基金事業の拡大に伴う対応
- ・ 国立劇場等大規模改修事業の見直しに関する経緯
- ・ 国立劇場等大規模改修事業に関する法人全体の取組の強化 その 2

<監事の意見書への対応>

- 意見の内容を検討し、必要な措置を講じる。

② 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

- ・ 内部監査計画の作成(11/30 同日監事に通知)
- ・ 監査実施(1~2月)
- ・ 監査事項
 - ・ 勤務時間の管理状況(29年度分)
 - ・ 旅行命令、旅費の状況(29年度分)
 - ・ 法人文書の管理状況(28年度分)
 - ・ 物品・役務等、調達手続きの状況(28年度分)
 - ・ 物品の管理状況(28年度分)
 - ・ 現金取扱細則の運用状況
 - ・ 切手、はがき、乗車 IC カード(Suica 等)の管理状況
 - ・ その他必要な事項
- ・ 監査報告書提出(3/16 提出先：理事長 3/19 監事に写しを送付)
- ・ 意見書「平成 29 年度独立行政法人日本芸術文化振興会内部監査結果に基づく事務処理の適正化及び改善を要する事項について」提出(監査報告書に添付)

③ 監事の機能を強化する組織体制の整備

引き続き、監事室において監事の職務の遂行を補佐した。

(3) 情報開示の推進

- ・ HP の情報掲載に当たっては、迅速な発信とともに、表現、掲載位置等を工夫し、より確実に情報が伝わるよう努めた。
- ・ 情報開示請求等に適切に対応するため、情報公開・個人情報保護制度の運用等に関する研修に職員を参加させた。

<7> 効率化に関する目標の達成状況

1. 一般管理費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

増減比率：(B-A)÷A

A：平成 24 年度の一般管理費予算額(退職手当及び特殊要因を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の一般管理費決算額(退職手当及び特殊要因を除く)

(単位：百万円、%)

区分	種別	29 年度
基準額(A)	一般管理費	513
	人件費	537
	計	1,050
金額(B)	一般管理費	291
	人件費	765
	計	1,056
増減比率		1%

※ 基準となる平成24年度予算額に対し1%増となったが、前年度からの繰越執行及び組織見直しに伴う人件費増等の特殊な支出(注)を除くと、9%の効率化を達成した。

(注)特殊な支出の内訳

1. 施設整備費の前年度からの繰越執行41百万円
2. 組織見直しに伴う人件費増57百万円

2. 事業費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

増減比率：(B-A)÷A

A：前年度の事業費予算額(退職手当及び特殊要因を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の事業費決算額(退職手当及び特殊要因を除く)

(単位：百万円、%)

区分	種別	29年度
基準額(A)	事業費	6,467
	人件費	1,759
	計	8,226
金額(B)	事業費	6,120
	人件費	1,976
	計	8,095
増減比率		△2%

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 情報システムの活用につき、計画どおり必要な措置を講じた。
- ・ 省エネルギー、リサイクルの推進に引き続き取り組んだ。
- ・ 内部統制委員会において、内部統制システムの整備に係る情報を共有し、必要な措置につき審議することができた。
- ・ 内部統制の充実・強化を図り、外部意見や評価結果等を事業に反映させた。評議員会、評価委員会、公演専門委員会、事業委員会(調査、養成)、芸術文化振興基金運営委員会を計画どおり適切に開催した。また監事監査、内部監査を引き続き実施した。
- ・ 一般管理費は、基準となる平成24年度予算額に対し1%増となったが、前年度からの繰越執行及び組織見直しに伴う人件費増等の特殊な支出を除くと、9%の効率化を達成した。
- ・ 事業費は、基準となる平成28年度予算額に対し2%の効率化を達成した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ OSやソフトウェアの脆弱性対策を迅速に実施することにより、情報セキュリティを確保した。
- ・ 情報セキュリティ維持に関する訓練として標的型メール攻撃訓練を実施し、標的型メール攻撃に対する職員の意識啓発に一定の効果を上げることができた。
- ・ ペーパーレス化促進について、両面コピー、グループウェアの活用等に努めた。
- ・ 外部専門家による各委員会等を開催し、意見等を事業に反映するよう努めた。
- ・ 前年度開催されなかった内部統制委員会について、四半期ごとに定期開催することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 本年度開催されなかったリスク管理委員会について、定期開催するよう改善に努める。

II-2 給与水準の適正化

《主要な業務実績》

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い、給与の改定を実施
- ・ 俸給表の改定に当たっては、世代間の給与配分の観点から若年層に重点を置きながら水準を引き上げ
- ・ 前年度の給与水準に関する検証結果や取組状況について公表
- ・ 前年度の給与水準に対する文部科学大臣の検証結果は適正

《業務実績詳細》

1. 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・ 引き続き、国家公務員との給与の比較を行い、HP に「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(28年度ベース)。
- ・ ラスパイレス指数(※)は、106.3(地域・学歴勘案=92.7)であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
- ・ また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.7(地域・学歴勘案=100.9)であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

(※)ラスパイレス指数=国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 76.7%

(国からの財政支出額 15,259 百万円/支出予算の総額 19,893 百万円(28年度予算))

2. 効率的な事業遂行のための職員配置及び採用

人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

3. 人事・給与制度の検討

(1) 国家公務員の給与改定に準じた役職員の給与改定

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い若年層に重点を置きながら俸給表の水準を引き上げた(平均改定率0.2%)。
- ・ 賞与の支給月数を引き上げた(年間支給月数:4.24か月→4.34か月)。引き上げ分は、勤務実績に応じた評価による給与支給の推進のため、勤勉手当に配分した。
- ・ 55歳を超える課長補佐級以上の職員に実施していた減額支給措置(△1.5%)及び平成27年4月からの給与制度の総合的見直しにおける俸給水準の引下げの際の経過措置を、30年3月31日をもって廃止した。
- ・ 30年4月1日において37歳に満たない職員の号俸を同日に1号俸上位に調整し、27年1月1日に抑制された昇給を回復する。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 役職員給与について、国家公務員給与の改定に倣い、給与の改定を実施した。
- ・ 前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 東京、大阪の大都市に事務所があることや大学卒以上の職員の比率が高いことから、地域と学歴を勘案した対国家公務員比較指標は92.7であり、適正であると考えられる。

II-3 契約の適正化

《主要な業務実績》

- ・ 「調達等合理化計画」に基づく一般競争入札の取組状況に関し、「日本芸術文化振興会契約監視委員会」において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出
- ・ 入札参加の機会の拡大を図るため、HP 上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室 HP へ入札情報を掲載するとともに、電子入札を実施
- ・ 一者応札・応募事案の事後点検体制として要因分析を実施
- ・ 振興会と独立行政法人日本スポーツ振興センター及び独立行政法人国立美術館との間で共同調達に関する協定を締結し、コピー用紙の共同調達を実施

《業務実績詳細》

1. 契約監視委員会の開催、「調達等合理化計画」に関する取組

- ・ 外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」（第17回、第18回）において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・ 第17回契約監視委員会を開催し、競争性のない随意契約、多数回入札となった案件を中心に点検審議を行い、高落札率の改善について検討した(6/13)。
- ・ 第18回契約監視委員会を開催し、連続一者応札・応募等事案について点検を行い、一者応札・応募の改善等について検討した(12/5)。
- ・ 公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、29年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、随意契約の検収に際し調達原課以外の職員による立会いを行うなど、相互牽制の体制を整備した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、経理担当副部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、経理関係業務研修会及び施設担当職員研修会を開催した。

2. 契約内容及び入札方法の見直し等外部委託の推進

案件ごとに業務内容を精査し、以下のとおり契約方法を見直して、より効率的な外部委託を推進した。

(29年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成 29・30 年度国立劇場及び国立能楽堂構内清掃業務 一式」（一般競争入札(最低価格落札方式)から一般競争入札(総合評価落札方式)に移行)
- ・ 「平成 29・30 年国立劇場チケット電話予約受付等業務及び会員事務局業務の委託」（一般競争入札(最低価格落札方式)から一般競争入札(総合評価落札方式)に移行)
- ・ 「平成 29・30 年度国立劇場大・小劇場及び国立演芸場における案内等業務の委託」（一般競争入札(最低価格落札方式)から一般競争入札(総合評価落札方式)に移行)
- ・ 「平成 29 年度国立能楽堂公演記録映像・音声収録等業務委託(平成 29 年 7 月～平成 30 年 3 月)」（本館・演芸場と能楽堂の仕様を業務の性質に応じて分割し、契約形態を労働者派遣契約から業務委託契約に移行)
- ・ 「平成 29～34 年度国立文楽劇場ガス厨房機器の賃貸借(平成 29 年 8 月から 60 ヶ月間)(調達内容を包括化し、随意契約(少額随契)から一般競争に移行)

(30年度契約に向けて見直しを行った業務)

- ・ 「平成 30 年度コピー用紙の調達」（3 法人間の協定書に基づき、共同調達を実施)

- ・ 「平成 30 年度国立能楽堂映像資料複製業務委託」（「国立能楽堂映像、舞台音響、舞台照明等技術業務」から「映像技術業務」を切り離し、一般競争入札を実施）

また、業務の質的な面での特殊性を検証した上で適正な契約方法を検討し、以下のように実施した。

(29 年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成 29・30 年度国立劇場本館等舞台及び楽屋業務の委託」（一般競争から随意契約に移行）
- ・ 「平成 29 年度国立能楽堂座席字幕表示装置運用及び定期保守業務」（一般競争から随意契約に移行）

(30 年度契約に向けて見直しを行った業務)

- ・ 「平成 30 年度メール便(角形 2 号サイズ)請負業務」（公募から一般競争に移行）

3. 入札機会の拡大

(1) 一者応札・応募をリストアップし、以下の見直しを行った。

- ① 仕様書の内容の見直し
 - ・ 特定の業者しか参加することができない条件を見直す。
- ② 公告期間の見直し
 - ・ 一般競争入札について、10 日以上としている公告期間を 10 営業日以上確保する。
 - ・ 公募については、20 日以上としている公告期間を 20 営業日以上確保する。
- ③ 入札参加要件の緩和
 - ・ 過去の請負実績等の条件を緩和する。

(2) 契約情報提供の充実

- ・ 入札公告等を劇場敷地内に掲示するとともに、入札参加の機会拡大を図るため、HP 上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載した。
- ・ 入札参加の機会拡大を図るため、年間の調達予定を一覧にまとめ、公告前に、劇場敷地内及び HP 上で公表した。
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室 HP へ入札情報を掲載するとともに、電子入札を導入している。

(3) 一者応札・応募事案の事後点検体制

仕様書を取り寄せる等調達に関心を示したが、応札を行わなかった業者に対してその理由を聴き取るなど、一者応札・応募となった要因分析を行い、一者応札・応募の改善を図った。

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 確実な取組と不断の見直しを行い契約の適正化を推進した。
- ・ 契約の適正化に係る制度に基づき、調達等合理化計画を策定し、公表した。また、契約監視委員会を開催して契約の点検を行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「調達等合理化計画」について職員への周知を図るとともに、計画に基づき、引き続き競争性のある契約への移行を推進した。
- ・ 入札情報入手の利便性向上を図るため、HP(調達情報)に掲載する情報を公示するだけでなく、仕様書等も掲載すること等により、一層充実させることができた。新規参入も含めた入札参加者の増加を図るため、23 年から引き続き工事及び設計コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室 HP へ入札情報の掲載を行っている。
- ・ 入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務に

ついて電子入札を導入している。

- ・ 振興会と独立行政法人日本スポーツ振興センター及び独立行政法人国立美術館との間で共同調達に関する協定を締結し、コピー用紙の共同調達を行い経費の節減に努めた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 業務効率の向上、事務作業の軽減、経費の削減効果を得られることが見込まれる契約については、複数案件の包括契約や複数年での契約締結について引き続き検討していく。
- ・ 入札辞退の理由について確認する体制に関し、仕様書・入札説明書等情報を入手後又は入札参加申請書提出後に参加を辞退する場合、辞退届の提出を求める等、できる限り理由を調査することを継続して行い、さらに広く参加者を募るための参考とする。

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

財務内容の改善に関する事項 p.204

- 財務状況 p.204
- 剰余金 p.206
- 運営費交付金債務 p.207
- 外部資金の獲得状況 p.207
- 短期借入金 p.207

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

その他主務省令で定める業務運営に関する事項 p.208

- 人事に関する計画 p.209
- 施設及び設備に関する計画 p.211
- 積立金の使途 p.213
- その他振興会の業務運営に関し必要な事項（運営委託） p.214

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

《中期計画》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画および資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画により運営各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営

Ⅳ 短期借入金の限度額: 10 億円

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分: 計画なし

Ⅵ 重要な財産の処分等: 計画なし

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充当

- 1 助成事業の充実
- 2 公演事業の充実
- 3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実
- 4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実
- 5 研修器具、芸能資料等の購入・修理
- 6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を図る。

《業務実績詳細》

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

1. 財務状況

(1) 予算

(単位: 千円)

区分	計画額	実績額	増△減
収入			
運営費交付金	10,000,094	10,000,094	0
文化芸術振興費補助金	3,690,232	3,672,412	△ 17,820
施設整備費補助金(注1)	343,473	519,799	176,326
助成事業収入	1,148,200	1,202,032	53,832
公演事業収入	2,850,576	2,739,415	△ 111,161
研修事業収入	32,973	33,731	758
調査研究事業収入	9,584	10,347	763
国立劇場おきなわ事業収入	5,553	5,707	154
新国立劇場事業収入(注2)	236,361	356,140	119,779
受託事業収入	6,000	6,000	0
一般管理収入	7,144	7,524	380
計	18,330,190	18,553,201	223,011
支出			
文化芸術振興費	3,690,232	3,591,946	98,286
施設整備費(注1)	343,473	454,422	△ 110,949
助成事業費	1,505,618	1,484,134	21,484

公演事業費	5,902,935	5,791,503	111,432
研修事業費	345,822	338,953	6,869
調査研究事業費	661,850	661,297	553
国立劇場おきなわ事業費	722,929	721,997	932
新国立劇場事業費	4,130,152	4,246,995	△ 116,843
受託事業費(注3)	6,000	4,809	1,191
一般管理費	1,292,415	1,285,665	6,750
計	18,601,426	18,581,722	19,704

主な増減理由

(注1) 平成28年度補正予算事業の翌年度繰越による増

(注2) 平成28年度新国立劇場公演事業委託費の精算等による増

(注3) 受託事業における公演費の減

(2) 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
基金助成事業費(注1)	5,196,000	5,039,415	△ 156,585
公演事業費	5,555,000	5,494,423	△ 60,577
研修事業費	287,000	333,944	46,944
調査研究事業費	559,000	612,311	53,311
国立劇場おきなわ公演等事業費	691,000	661,575	△ 29,425
受託事業費	6,000	4,809	△ 1,191
新国立劇場公演等事業費(注2)	3,823,000	3,961,872	138,872
一般管理費	1,165,000	1,172,452	7,452
減価償却費	819,000	885,254	66,254
固定資産除却損	0	1,422	1,422
計	18,102,000	18,167,476	65,476
収益の部			
基金助成事業収入(注3)	5,138,000	5,060,902	△ 77,098
公演事業収入	5,555,000	5,624,107	69,107
研修事業収入	287,000	341,828	54,828
調査研究事業収入	559,000	643,557	84,557
国立劇場おきなわ公演等事業収入	691,000	660,221	△ 30,779
受託事業収入	6,000	6,000	0
新国立劇場公演等事業収入(注4)	3,823,000	4,021,887	198,887
一般管理収入	1,165,000	1,236,554	71,554
資産見返運営費交付金戻入(注5)	819,000	575,288	△ 243,712
資産見返寄附金戻入	0	52,182	52,182
計	18,045,000	18,222,524	177,524
純利益	△58,000	55,049	113,049
積立金取崩額	58,000	96,368	38,368
総利益	0	151,417	151,417

主な増減理由

(注1) 文化芸術振興費補助金による助成費の減

(注2) 新国立劇場公演等委託費の増

(注3) 文化芸術振興費補助金収益の減

(注4) 平成28年度新国立劇場公演等委託費の精算による増

(注5) 取得資産の減少等

(3) 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	27,008,000	29,267,231	2,259,231
業務活動による支出(注1)	18,883,000	20,105,106	1,222,106
投資活動による支出	1,618,000	1,923,699	305,699
財務活動による支出(注2)	0	255,914	255,914
翌年度への繰越金	6,506,000	6,982,511	476,511
資金収入	27,008,000	29,267,231	2,259,231
業務活動による収入	19,787,000	20,217,577	430,577
運営費交付金による収入	10,000,000	10,000,094	94
文化芸術振興費補助金による収入	3,690,000	3,672,412	△ 17,588
公演事業による収入	3,069,000	2,815,159	△ 253,841
受託事業による収入	6,000	21,016	15,016
基金運用による収入	1,135,000	1,135,448	448
その他の収入(注3)	1,886,000	2,573,449	687,449
投資活動による収入	643,000	1,057,028	414,028
施設整備費補助金による収入(注4)	343,000	757,028	414,028
その他の収入	300,000	300,000	0
財務活動による収入	0	809,147	809,147
民間出えん金受入れによる収入	0	809,147	809,147
前年度よりの繰越金	6,578,000	7,183,480	605,480

主な増減理由

(注1) 投資有価証券の取得による支出増

(注2) リース債務の返済による支出

(注3) 長期性預金の払戻による収入増

(注4) 前年度未収であった施設整備費補助金の入金

2. 剰余金

(1) 損益計算の結果、29 事業年度の当期総利益は 151,417 千円である。

(2) 利益が生じた主な理由

[収入支出決算]

- ① 助成事業収入が、年度計画予算に対し 53,832 千円増加した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 寄附金収入の増 52,213 千円
- ② 助成事業費が、年度計画予算に対し 21,484 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 助成調査研究寄附金に係る業務経費の減 22,723 千円
 - ・ 運営費交付金を財源とする旅費交通費の減 5,776 千円
- ③ 研修事業費が、年度計画予算に対し 6,869 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 養成研修発表会公演費（文芸費、出演費、舞台費、宣伝費）の減 6,419 千円
- ④ 一般管理費が、年度計画予算に対し 6,750 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 人件費の減 36,127 千円
 - ・ 業務経費の減 5,665 千円
 - ・ 施設維持管理費の減 3,528 千円
 - ・ 前年度からの繰越執行による宿舍関係費の増 40,847 千円

[損益計算]

- ⑤ 厚生年金基金の代行返上により 52,083 千円の収益増が生じた。
- ⑥ 通則法 44 条 3 項積立金の取崩により 96,368 千円の収益増が生じた。

3. 運営費交付金債務

30年3月31日現在における運営費交付金債務残高は0円である。

(単位：千円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額				期末残高
	運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金	
10,064,409	9,578,673	483,937	961	837	0

4. 外部資金の獲得状況(19件、1,031,525千円)

- ・ 名取市文化会館開館20周年記念「名取ノ老女」「名取川」名取公演の受託事業収入(1件、6,000千円)
- ・ 文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入(6件、16,307千円)
- ・ 芸術文化復興支援基金への募金(2件、72千円)
- ・ 助成調査研究への寄附(1件、200,000千円)
- ・ 芸術文化復興基金に対する民間出せん金(9件、809,147千円)

5. 短期借入金

なし

《参考情報》

【目的積立金等の状況】

(単位：百万円、%)

	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末
前期中期目標期間繰越積立金	798	798	798	798	798
目的積立金	0	80	149	134	4
積立金	0	370	391	288	348
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0	0	0	0
運営費交付金債務	301	213	474	64	0
当期の運営費交付金交付額 (a)	9,433	9,434	9,781	10,053	10,000
うち年度末残高 (b)	301	61	301	64	0
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	3%	1%	3%	1%	0%

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 管理業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定及び執行管理を行った。
- ・ 運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 助成事業において、寄附金収入の増加等により、年度計画予算に対し収入額が増加した。
- ・ 助成事業において、助成調査研究寄附金に係る業務経費の節減等により、年度計画予算に対し支出額が減少した。
- ・ 研修事業において、養成研修発表会公演費の節減等により、年度計画予算に対し支出額が減少した。
- ・ 一般管理費において、前年度からの繰越執行により宿舍関係費が増加したが、人件費の減、業務経費の減等により、年度計画予算に対し支出額が減少した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 入場料収入の安定や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

《中期計画の概要》

Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 方針

- ア 職員の計画的、適正な配置、効果的な人事交流を実施
- イ 次の取組により、事務能率の維持、増進
 - ①職員に対する実務研修等の充実
 - ②適切な労務管理の実施

(2) 人員に係る指標

常勤職員について人件費を抑制

2 施設及び設備に関する計画

各劇場等施設の長期的な視野に立った整備計画を策定、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進
国立劇場本館が開場以来50年を経過することに鑑み、整備の実施計画を策定し、改修工事に着手

3 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、文部科学大臣の承認を受け、必要な費用に充当

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

- (1) 国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託
新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託
委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化

《年度計画の概要》

V その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

- (1) 職員の計画的、適正な配置、外部機関との人事交流、多様な人材を確保・育成
- (2) 各種研修による各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革、適切な労務管理を実施
 - ア 公演業務、営業業務等の内部研修の実施
 - イ 会計、人事関係業務等の外部研修の活用
 - ウ 職員の心身の健康の保持増進

2 施設・設備に関する計画

- (1) 施設・設備の老朽化対応、劇場利用者の安全確保及び利便性向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進
「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」及び「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえ、「個別施設計画」の策定に着手、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施
国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の改修について、国立劇場等大規模改修基本計画を踏まえ、具体的な調査研究を実施
PFI事業の実施に向けた手続きを実施

(2) 整備内容の検討及び実施

3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団及び公益財団法人新国立劇場運営財団への運営委託
収支構造の改善等への取組、契約内容の検証

IV-1 人事に関する計画

《主要な業務実績》

- ・ 国の機関、国立大学法人、公益財団法人千葉県文化振興財団、公益財団法人さいたま市文化振興事業団、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団との人事交流を実施
- ・ 内部研修や外部研修を積極的に導入
- ・ 産業医、外部機関と連携し、職員のメンタル不全対策を実施
- ・ 新卒採用職員を振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、メンター制度を実施

《業務実績詳細》

1. 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- ・ 29年度は、新規採用の一般事務職員、中途採用の58歳以上を対象とした高齢者雇用制度による一般事務職員及び任期付きの事務員を採用した。
- ・ 国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・ 国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

(受入)

- 国の機関及び国立大学法人から出向者の受入(13人)
- 公益財団法人千葉県文化振興財団から出向者の受入(1人)
- 公益財団法人さいたま市文化振興事業団から出向者の受入(1人)
- 北九州市からの実務研修者の受入(1人)

(派遣)

- 国の機関への職員の派遣(2人)
- 国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣(3人)
- 新国立劇場運営財団への職員の派遣(10人)

2. 研修の実施による職員の能力開発、職員の専門性の確保、適切な労務管理の実施

(1) 職員研修の実施

- ・ 新規採用職員を対象としたビジネスマナー研修、ビジネス文書研修及びコミュニケーション研修等を行い、職員の能力を向上させるとともに、顧客サービスの充実を図った。
- ・ 採用後2年以内の職員を対象とした公演研修、採用後3年以内の職員を対象とした営業研修及び入社3年目から10年目までの職員を対象とした調査研究業務研修を行い、専門的知識の習得と意識の向上を図った。併せて、採用後3年以内の職員を対象として、各部課長を講師とした業務研修を行い、振興会の業務全体の理解を促した。
- ・ 情報セキュリティの向上を図るため、全職員を対象として、振興会情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティ研修を実施した。また、全職員を対象としてパソコン研修を実施し、事務作業に必要な知識、技術の習得を図った。
- ・ 施設整備研修を実施し、技術的諸課題及び予算、契約等の事務執行について、共通の理解を深めるとともに効率的な業務実施を図った。
- ・ 経理部門所属職員が講師となり、各課の経理業務を担当している職員に対して、経理業務・契約業務・予算等についての経理関係業務研修を実施し、知識の習得に努めた。
- ・ 文楽劇場に所属し特に専門性が求められる文楽技術室では、勤務する非常勤も含めた若手職員を東京での文楽公演等に同行させ、他劇場公演における業務法等も各技術継承のためのOJT研修の一環として実施した。
- ・ その他、内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、業務に必要な専門的知識の習得に努めた。
- ・ 若手職員のメンタル不全を予防するため、メンタルヘルス研修を実施した。
- ・ メンター制度をより充実したものにすするため、メンター研修を実施した。メンターである職員は、演習を通じてメンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。

(2) 職員の専門性の確保

- ・ 職員の専門性の確保を図るため、新規採用職員に対し、20年度より実施している公演研修を29年度も行き、伝統芸能の公演制作過程の実習を行うとともに観劇レポートの提出を課題とする新人研修を実施した。
- ・ 採用2年次の職員についても能楽や舞踊、邦楽等の公演に関する事前レクチャーと観劇及びレポート作成を義務付け、加えて28年度に引き続き振興会が行う教員免許状更新講習の「伝統芸能にみる日本のこころ」を聴講させた。
- ・ 入職3年目から10年目の受講希望職員を対象に調査研究業務研修として、展示業務研修を実施し、振興会が保有する豊富な芝居版面等に関する知識の習得と展示業務の実習を通して、職員の資質の向上及び専門性の確保を図った。

(3) 適切な労務管理の実施

- ・ 引き続き、メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にとりながら電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を整えた。
- ・ 産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、相談業務を実施した。
- ・ 職員のストレスチェックを実施するとともに、入職1、3年目の職員及び過去に対象となったにもかかわらず受けることができなかった9、11年目の職員に対して専門のカウンセラーによる個別面談を実施し、若年層職員のメンタルヘルスの維持・向上を図った。
- ・ 新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した。メンターである職員は、メンター研修により、メンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 新規採用の一般事務職員、中途採用の任期付職員及び58歳以上を対象とした一般事務職員を採用するとともに、国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施することにより、多様な人材の確保、育成を実施した。
- ・ 内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、各職員の能力開発を実施した。
- ・ 若手の一般事務職員については、公演研修及び営業研修により専門性の確保及び意識の向上を図った。若手の舞台技術職員については、業務を通じての教育、技術の継承に加え、外部の研修会に参加させることで、専門性の確保を図った。
- ・ 心の健康に関する相談窓口の設置、メンタルヘルスを専門とする産業医による面談、ストレスチェックの実施及びその結果を受けての専門のカウンセラーによる個別面談、メンター制度の実施により、適切な労務管理を実施した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 公演研修、営業研修に加え、調査研究業務研修の実施をすることにより、調査研究部門における専門性の確保を目指した。
- ・ 外部研修の積極的な導入を図り、業務に必要な専門知識を集中的に学ぶ機会を持った。
- ・ 産業医と連携し、休職者の復職支援に注力し、円滑な職場復帰を進めることができた。
- ・ ストレスチェックを実施するとともに、その結果を受け、専門のカウンセラーによる職員の個別面談を実施し、ストレスの軽減を図り良好な職場環境を目指した。
- ・ メンター制度を実施し、新卒採用職員が振興会に支障なく定着できることを目指した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 29年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理に活用するとともに、研修内容や産業医との面談、専門のカウンセラーとの面談について検討を行い、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

IV-2 施設及び設備に関する計画

《主要な業務実績》

- ・ 国立劇場等大規模改修事業に係る整備方針案策定支援業務を実施
- ・ 新国立劇場（ホワイエ等）照明制御盤改修工事を実施
- ・ 国立文楽劇場舞台吊物機構の更新工事を実施
- ・ 国立劇場おきなわ小劇場調光操作卓設備整備を実施
- ・ 国立能楽堂空調等設備更新工事を実施

《業務実績詳細》

1. 施設整備費補助金による施設・設備の整備等

- ・ 国立劇場等大規模改修事業に係るコンサルタント業務(平成 29 年度) 4,752 千円
- ・ 国立劇場等大規模改修事業に係る整備方針案策定支援業務 10,152 千円
- ・ 国立劇場本館特定天井調査 4,158 千円
- ・ 国立劇場における民間収益施設導入に係る調査整理業務 994 千円
- ・ 国立能楽堂空調等設備更新工事 44,194 千円
- ・ 国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事第 4 期 97,524 千円
- ・ 国立文楽劇場袖幕及び中割幕の調達 2,959 千円
- ・ 国立劇場おきなわ小劇場調光操作卓設備整備 46,154 千円
- ・ 新国立劇場(小劇場)舞台機構設備整備工事 32,172 千円
- ・ 新国立劇場(ホワイエ等)照明制御盤改修工事 157,904 千円
- ・ 新国立劇場空調設備端末伝送装置改修工事 53,460 千円

2. 運営費交付金による施設・設備の整備等

- ・ 日本芸術文化振興会小金井宿舍改修工事 40,415 千円
- ・ 国立劇場小劇場舞台吊物装置ワイヤロープ更新工事 16,038 千円
- ・ 国立劇場大劇場及び小劇場ワイヤレスインターカム設備整備 13,932 千円
- ・ 国立劇場大小劇場ハログゲン電球用ストリップライトの購入 10,584 千円
- ・ 国立劇場本館他蓄電池設備改修工事 6,480 千円
- ・ 国立劇場大劇場及び小劇場 舞台監督卓監視カメラ整備 5,940 千円
- ・ 国立能楽堂案内サインの製造、設置及び改修 6,156 千円
- ・ 国立文楽劇場前明かりスポットライト更新 16,740 千円
- ・ 国立文楽劇場小ホール音響出力系設備整備 16,200 千円
- ・ 国立文楽劇場光カメラ回線設備工事 10,260 千円
- ・ 国立文楽劇場小ホールプロジェクター設備整備 5,125 千円
- ・ 国立劇場おきなわ防犯用監視カメラ設備改修工事 26,460 千円
- ・ 国立劇場おきなわ衛生設備改修工事 11,880 千円
- ・ 新国立劇場(オペラ劇場)舞台機構設備吊物機構用エンコーダーユニット購入 7,776 千円

3. 長期的な視野に立った整備方針の検討

- ・ 本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、大規模改修までの期間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。
- ・ 施設・設備の維持管理及び整備等については、長寿命化に向け「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」及び「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえ、「同(個別施設計画)」の策定に着手した。
- ・ 国立劇場等大規模改修における PFI 事業方式での実施に向けた手続きとして、国立劇場等大規模改修事業者選定委員会(第 2 回)を開催した(4/11)。
- ・ 国の方針によりこれまで進めてきた事業を見直すこととなり、外部有識者の意見等を踏まえて新たに複数の整備方針案を策定し、役員会において決定した(3/19)。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 小金井宿舎の改修により、施設設備の老朽化が解消されるとともに、現在の生活スタイルに合った居住性が向上した。
- ・ 国立劇場本館他蓄電池設備の改修により、停電時の非常用設備に送電し、観客及び職員の安全が確保できた。
- ・ 国の方針によりこれまで進めてきた事業を見直すこととなり、外部有識者の意見等を踏まえて新たに複数の整備方針案を策定した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 複数の整備方針案について、文化芸術の振興、経済活性化、都市開発、費用対効果等様々な観点から比較検討を行い、早急に策定することができた。
- ・ 能楽堂では、耐用年数を超えた設備の更新・改修を行った。玄関、歩廊、広間、見所、展示室の空調機(ユニット型空調和機)を更新し、良好な観劇・鑑賞環境の提供を継続することが可能となった。また、案内サインを新設、改修し、能楽堂利用者の利便性を向上させた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 隼町地区の施設・設備の更新・改修工事に当たっては、公演日程との調整及び更新機器の搬入等計画について早期検討が必要である。
- ・ 国立劇場等大規模改修事業に係る整備方針に基づき、早急に基本計画を策定する必要がある。
- ・ 能楽堂のエレベーターの設置及びユニバーサルデザイン化は早期に対応が必要である。

IV-3 積立金の使途

《業務実績詳細》

(単位：千円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
通則法 44 条 1 項積立金	288,042	60,171	0	348,213
通則法 44 条 3 項積立金				
基金助成事業積立金	57,796	0	57,795	1
公演事業等整備積立金	76,046	0	74,223	1,824
公演環境整備事業積立金	0	78,305	76,151	2,154
前中期目標期間繰越積立金	797,501	0	0	797,501
計	1,219,384	138,476	208,169	1,149,692

※ 公演環境整備事業積立金の当期増加額は、前年度の未処分利益 138,476 千円の一部について主務大臣の承認を受けて振り替えたものであり、それを除いた 60,171 千円を通則法 44 条 1 項積立金に振り替えています。基金助成事業積立金の当期減少額 57,975 千円は、芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務に必要な費用に充てたもの、公演事業等整備積立金の当期減少額 74,223 千円及び公演環境整備事業積立金の当期減少額 76,151 千円は、施設・整備の充実のための経費及び固定資産を取得したものです。

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 中期計画に定められた剰余金の使途に則って積立金を使用した。

IV-4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項（運営委託）

《主要な業務実績》

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託を適切に実施

《業務実績詳細》

1. 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

(1) 委託契約の状況

29年4月1日付けで、29年4月1日から30年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について656,552,000円を限度として締結。委託費の確定額は656,320,141円である。

(2) 委託内容

- ① 沖縄伝統芸能等の公演
- ② 組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③ 沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 前各号の業務に附帯する業務

(3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託に関係する規程の改正等を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

(4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

- ・ 運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

(5) 効率化状況等

① 効率化状況等

- ・ 委託費の状況

(単位：千円)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
金額	617,897	600,319	598,521	652,203	656,320
前年度比	101.3%	97.2%	99.7%	109.0%	100.6%

② 委託先における業務の効率化等

ア 効率化に関する取組

a. 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

b. 事務手続きの簡素化

振興会に提出する業務実績報告書類の提出頻度の見直しとフォーマットの簡素化を図った。固定資産の管理委託について、マニュアルを作成し、効率化を図った。

c. 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

d. 省エネルギー、リサイクルの推進

劇場客席やホワイエ等、電力消費量の削減と空調の効率化が見込める箇所の照明機器をLED化した。

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	2,273,255kwh	△ 1.0%
	ガス使用量	41,818 m ³	△ 3.5%
	水道使用量	4,330 m ³	5.7%
廃棄物	一般廃棄物	830kg	22.1%
	産業廃棄物	128kg	45.5%
ペーパーレス化	コピー枚数	559,256枚	6.9%
	用紙購入枚数	569,500枚	△ 8.1%

- ・ 一般廃棄物は、舞台大道具製作の廃材が増加したことによる増。
- ・ 産業廃棄物は、過年度の廃棄物をまとめて処分したことによる増。

イ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

2. 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

(1) 委託契約の状況

29年4月1日付けで29年4月1日から30年3月31日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について4,097,362,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、29年6月1日付けで4,111,554,000円に、29年10月1日付けで4,221,851,000円に、30年2月19日付けで4,228,851,000円に変更した。委託費の確定額は4,228,851,000円である。

(2) 委託内容

- ① 現代舞台芸術の公演
- ② 現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③ 現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 附帯する業務

(3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

(4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

(5) 効率化状況等

① 効率化状況等

- ・ 委託費の状況

(単位：千円)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
金額	3,778,596	3,826,811	3,735,077	3,996,273	4,228,851
前年度比	95.0%	101.3%	97.6%	107.0%	105.8%

② 委託先における業務の効率化等

ア 効率化に関する取組

a. 情報システムの活用

- ・ パソコン全台をノート化することにより館内にてモバイルネットワークの利用がしやすくなり、会議等における資料のデジタル共有が活発化し、ペーパーレス化が促進された。

b. 事務手続きの簡素化

- ・ 宅配便送り状をPC・プリンターで記入できるシステムや、各公演で使用する楽曲のJASRAC登録をネットでできるシステムを登録・導入し、事務作業の効率化を図った。

c. 随意契約の見直し及び外部委託の推進

29年度の外部委託契約59件のうち、委託業務37件(うち複数年契約28件)、物品の製造販売工事等14件の合計51件について一般競争入札を行っている。このうち、業務の効率化を目的として振興会と共同で入札を行った契約が2件ある。

29年度に行った入札及び公募は30件(うち複数年契約7件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが21件となっている。振興会との共同での入札は2件行い、財団担当の1件がここに含まれている。

d. 省エネルギー、リサイクルの推進

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	6,519,723kwh	△1.5%
	ガス使用量	5,624 m ³	26.8%
	水道使用量	11,837 m ³	△16.1%
廃棄物	一般廃棄物	36,567kg	9.0%
	再利用廃棄物	28,454kg	△15.8%
	産業廃棄物	16,026kg	△38.9%
ペーパーレス化	コピー枚数	995,234枚	△1.0%
	用紙購入枚数	2,799,000枚	1.4%

ガスはすべて楽屋食堂の使用であり、使用量の増加は楽屋食堂の利用客が増えたことによる。

トイレ等の雑用水は雨水を利用して製造しているが、水槽の水位調整を行い貯留が増加したため、水道水からの給水が減った。

再利用廃棄物は、全体的な節減努力により前年度より少なかった。産業廃棄物については、業者変更で従来不燃(産廃)扱いだったごみ類が可燃(一般)ごみに転じたことにより減少した。

なお、地球温暖化対策においても、省エネルギー対策を実施し、光熱水量については、大きなウェイトを占める地域冷熱(冷水、蒸気)を含め、使用量の節減に努めている。

また、会議資料の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー印刷を実施し、ペーパーレス化を促進している。

イ 給与水準の適正化等

- ・ 新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・ 人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

ウ 情報開示の推進

- ・ 公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運

営した。

- ・ 両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 引き続き、一般競争入札等の推進により外部委託の効率化を図り、仕様や公示方法の見直しを行い、競争を活性化させたい。また一部調達につき、日本芸術文化振興会との共同購入の検討を行い、調達の効率化を試みた。
- ・ 光熱水量については、各部署において節約に努めた。また地球温暖化対策計画において、省エネルギー対策目標を達成できた。
- ・ 情報システムの有効活用により、業務の効率化を図ることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 一般競争入札等による効率的な外部委託を推進しているが、業務内容の変化への対応等、業務の質を担保した入札とするのは困難な場合もある。これに対応するため、引き続き、企画提案型の導入等、調達方法の多様化を進めていきたい。
- ・ 省エネルギー、リサイクルの推進については、引き続き職員への啓発活動や協力要請を重ねて行う。
- ・ 情報セキュリティポリシーをより深く浸透させ、情報基盤の整備及び情報の活用におけるセキュリティ確保をより強化していきたい。

独立行政法人日本芸術文化振興会

平成 29 事業年度業務実績報告書

平成 30 年 6 月 29 日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：総務企画部計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町 4 番 1 号

TEL：03-3265-7411（代表）／FAX：03-3265-8782

<http://www.ntj.jac.go.jp/>